



B-Class

取扱説明書



Mercedes-Benz

表記と記載内容について

マーク	内容
	警告 重大事故や命にかかわるけがを未然に防ぐために必ず守っていただきたいことです。
	環境 環境保護のためのアドバイスや守っていただきたいことです。
	注意 けがや事故、車の損傷を未然に防ぐため、必ず守っていただきたいことです。
	知識 知っていると便利なことや、知っておいていただきたいことです。
	操作手順などを示しています。
(▷ ページ)	関連する内容が他のページにもあることを示しています。

お客様へ

このたびはメルセデス・ベンツ車をお買い上げいただき、ありがとうございます。

この取扱説明書は、車の取り扱い方法をはじめ、機能を十分に発揮させるための情報や、危険な状況を回避するための情報、万一のときの処置などを記載しています。

車をご使用になる前に、本書を必ずお読みください。

- 取扱説明書は、いつでも読めるように必ず車内に保管してください。
- この取扱説明書には、日本仕様とは異なる記述やイラスト、操作方法などが含まれている場合があります。
- 表紙の画像はイメージであり、日本仕様とは異なる場合があります。
- この取扱説明書には、日本仕様には設定されない装備の記述が含まれている場合があります。
- この取扱説明書のイラストは主に左ハンドル車のものを使用しています。右ハンドル車では、車両の部品の配置や位置、そして操作方法が異なる場合がありますので、ご注意ください。
- この取扱説明書には、走行速度が100km/hを超えたときの車両機能や状態についての記述がありますが、公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。
- 装備や仕様の違いなどにより、一部の記述やイラストが、お買い上げいただいた車とは異なることがあります。
- スイッチなどの形状や装備、操作方法などは予告なく変更されることがあります。
- オーディオやナビゲーションに関しては、別冊の「COMANDシステム取扱説明書」をご覧ください。
- 車を次のオーナーにお譲りになる場合は、車と一緒にすべての取扱説明書と整備手帳をお渡しください。
- ご不明な点は、お買い上げの販売店またはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

i メルセデス・ベンツ日本(株) 公式サイト
<http://www.mercedes-benz.co.jp/>

メルセデス・ベンツ日本株式会社

さくいん……………	4	各部の名称……………	21
はじめに……………	11	安全装備……………	31
		オープン / クローズ ……	77
		シート / ステアリング / ミラー…	95
		ライト / ワイパー ……	109
		エアコンディショナーシステム…	131
		走行と停車……………	145
		マルチファンクションディスプレイ	215
		収納 / 室内装備 ……	267
		メンテナンス / 手入れ ……	291
		万一のとき……………	307
		ホイールとタイヤ……………	331
		テクニカルデータ……………	351

ア

- アクティブパーキングガイドランス…………… 197
- アシストメニュー…………… 228
- アダプティブハイビームアシスト…………… 116
- アダプティブブレーキ…………… 73
- アダプティブブレーキライト…………… 70
- アテンションアシスト…………… 206
- 安全のために…………… 11
 - オートマチック車の取り扱い…………… 15
 - 寒冷時の取り扱い…………… 17
 - 警告ラベル…………… 13
 - 子供を乗せるとき…………… 15
 - こんなことにも注意…………… 19
 - 診断ソケット…………… 12
 - 全体的な注意事項…………… 11
 - 走行する前に…………… 14
 - 保証の適用…………… 13
 - メルセデス・ベンツ指定サービス工場…………… 13
- イモビライザー…………… 73
- インストルメントパネル…………… 22
- インテリジェントライトシステム…………… 114
- ウィンタータイヤ…………… 335、347
- ウォッシャー液…………… 358
- 運転席の適切な位置…………… 96
- エアコンディショナーシステムの概要…………… 132
 - エアコンディショナー使用時の注意…………… 133
 - エアコンディショナーの
 - コントロールパネル…………… 133
 - クライメートコントロール(左右独立調整)
 - 使用時の注意…………… 134
 - クライメートコントロール(左右独立調整)
 - のコントロールパネル…………… 134
 - 重要な安全上の注意…………… 132
- エアコンディショナーシステムの操作…………… 135
 - AC モードの作動 / 解除…………… 135
 - ウインドウの曇り取り…………… 139
 - エアコンディショナーシステムの
 - 作動 / 停止…………… 135
 - エアコンディショナーシステムを
 - オートモードに設定する…………… 136
 - 温度の調整…………… 136
- 送風配分の設定…………… 137
- 送風量の設定…………… 138
- ゾーン機能の作動 / 解除…………… 138
- 内気循環スイッチを使用しての
 - コンビニエンスオープニング /
 - クロージング機能…………… 140
 - 内気循環モードの作動 / 解除…………… 140
 - フロントウインドウのデフロスター…………… 138
 - 余熱ヒーター機能の作動 / 解除…………… 141
 - リアデフォッガー…………… 139
- エアバッグ…………… 35
 - ウインドウバッグ…………… 39
 - 運転席 / 助手席エアバッグ…………… 37
 - 運転席ニーバッグ…………… 38
 - サイドバッグ…………… 38
 - 重要な安全上の注意…………… 35
- エンジンオイル…………… 356
- エンジンの始動…………… 148
- エンジンの停止…………… 167
- エンジン番号…………… 354
- エンジンルーム…………… 292
 - エンジンオイル…………… 294
 - エンジンオイル量に関する注意…………… 294
 - エンジンオイルレベルゲージを
 - 使用してのオイル量の点検…………… 294
 - エンジンオイルを補給する…………… 294
 - 他のサービス用品の点検と補給…………… 295
 - フロントウインドウウォッシャー /
 - ヘッドライトウォッシャーの補給…………… 296
 - 冷却水の量の点検…………… 295
 - ボンネット…………… 292
- エンジン冷却水温度計…………… 217
- 応急用スペアタイヤ…………… 348
 - 応急用スペアタイヤを取り出す…………… 348
 - サービスデータ…………… 349
 - 重要な安全上の注意…………… 348
 - 注意点…………… 348
- オーディオメニュー…………… 225
- オートマチック車の取り扱い…………… 15
- オートマチックトランスミッション…………… 155
 - DIRECT SELECT レバー…………… 156
 - 運転のヒント…………… 158
 - オートマチックギアシフト…………… 160

オートマチックトランスミッションの トラブル	163
ギアシフト操作	158
シフトポジション	158
重要な安全上の注意	155
走行モード	159
パドルシフト	159
マニュアルギアシフト	160

カ

外気温度表示	218
カップホルダー	282
可変スピードリミッター	177
環境保護のために	11
寒冷時の取り扱い	17
キー	78
エマーゼンシーキー	79
キーの機能	78
キーの電池	80
キーのトラブル	82
工場出荷時の設定に復元する	79
重要な安全上の注意	78
ロッキングシステムの設定の変更	79
救急セット	308
クルーズコントロール	173
警告ラベル	13
けん引およびけん引始動	322
けん引始動（緊急エンジン始動）	324
けん引フックの取り付け / 取り外し	323
車両を運搬する	324
重要な安全上の注意	322
フロントアクスルを上げて 車両をけん引する	323
両アクスルを接地させて車両をけん引する	324
子供を乗せるとき	15、45
チャイルドセーフティシート	45
チャイルドブルーフロック	64
小物入れ	269
コンビネーションスイッチ	113

サ

車載工具	309
サービスプロダクトと容量	354
ウォッシュャー液	358
エンジンオイル	356
重要な安全上の注意	354
燃料	355
ブレーキ液	357
冷却水	358
サイドウインドウ	87
コンビニエンスオープニング機能	88
コンビニエンスクローズ機能	89
サイドウインドウの開閉	88
サイドウインドウのトラブル	90
サイドウインドウのリセット	89
重要な安全上の注意	87
サンバイザー	284
シート	97
シートの手動調整	99
シートの電動調整	99
シートヒーター	101
電動ランバーサポートの調整	101
ヘッドレストの調整	99
シートヒーター	101
シートベルト	40
運転席と助手席のシートベルト着用警告	43
後席シートベルトの状況表示	43
シートベルト調整機能	42
シートベルトテンショナー / ベルトフォースリミッター	44
シートベルトの高さ調整	42
シートベルトを着用する	42
シートベルトを外す	43
重要な安全上の注意	40
室内装備	282
12V 電源ソケット	286
運転席側フロアマット	288
カップホルダー	282
携帯電話	287
サンバイザー	284
灰皿	285
反射防止フィルムの装着	289

ライター	285	ラゲッジフロアボード下の小物入れ	280
自動防眩機能	105	ラゲッジルームカバー	277
車外ライト	110	ラゲッジルームの拡大	273
アダプティブハイビームアシスト	116	EASY-VARIO PLUS	
インテリジェントライトシステム	114	(バックレスト折りたたみ角度調整、	
コンビネーションスイッチ	113	後席シートスライド機構) 装備車	274
非常点滅灯	113	EASY-VARIO PLUS 非装備車	273
ヘッドライトの内側が曇るとき	117	重要な安全上の注意	273
ライトスイッチ	110	ルーフキャリア	281
車載品の収納場所	308	乗員安全装備	32
救急セット	308	PRE-SAFE®	39
車載工具	309	SRS (乗員保護補助装置)	33
全体的な注意事項	309	エアバッグ	35
タイヤ交換工具キット装備車	309	シートベルト	40
タイヤフィット	309	重要な安全上の注意	32
停止表示板	308	チャイルドブルーロック	64
車両装備	11	上方の操作部	29
車両データ	359	診断ソケット	12
車両に保存されるデータ	20	ステアコントロール	73
故障データ	20	ステアリング	102
データが保存されるその他の装備	20	ステアリングの調整	102
車両の電子機器	353	スノーチェーン	335
電子制御部品の改造	353	スピードメーター	218
車輪の交換	339	スピードリミットアシスト	208
回転方向	340	積載のガイドライン	268
車輪の入れ替え	339	設定メニュー	231
車輪の清掃	340	センターコンソール	27
車輪の装着	340	下部センターコンソール	28
車輪の保管	340	上部センターコンソール	27
パンクしたとき	339	走行	147
ジャンプスタート	319	ECO スタート / ストップ機能	150
収納エリア	269	イグニッション位置	147
可倒式助手席バックレスト	272	エンジンの始動	148
小物入れ	269	エンジンのトラブル	153
後席の小物入れ	271	寒冷時の走行	172
重要な安全上の注意	269	重要な安全上の注意	147
前席の小物入れ	269	発進	148
収納ネット	271	走行安全装備	65
スルーローディング	272	ABS (アンチロック・ブレーキング・	
セーフティネット	279	システム)	66
荷物の固定	276	BAS	67
荷物固定用リング	276	CPA (衝突警告システム)	67
バッグフック	277		

EBD・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 72
 ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）・・・・・・・・・・・・・・・・ 70
 アダプティブブレーキ・・・・・・・・・・・・ 73
 アダプティブブレーキライト・・・・・・・・ 70
 重要な安全上の注意・・・・・・・・・・・・ 65
 ステアコントロール・・・・・・・・・・・・ 73
 走行安全装備の概要・・・・・・・・・・・・ 65

走行時の注意・・・・・・・・・・・・・・・・ 169
 全体的な走行時の注意・・・・・・・・・・・・ 169
 タイヤのグリップについて・・・・・・・・ 172
 濡れた路面での走行・・・・・・・・・・・・ 172
 ブレーキ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 170

走行する前に・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

走行装備・・・・・・・・・・・・・・・・ 173
 アクティブパーキングガイダンス・・・・ 197
 アテンションアシスト・・・・・・・・・・・・ 206
 可変スピードリミッター・・・・・・・・・・・・ 177
 クルーズコントロール・・・・・・・・・・・・ 173
 スピードリミットアシスト・・・・・・・・ 208
 ディストロニック・プラス・・・・・・・・ 180
 パーキングアシストリアビューカメラ 202
 パークトロニック・・・・・・・・・・・・ 193
 ホールド機能・・・・・・・・・・・・ 191
 レントラッキングパッケージ・・・・ 209

送風口の調整・・・・・・・・・・・・ 142
 サイド送風口の調整・・・・・・・・・・・・ 142
 中央送風口の調整・・・・・・・・・・・・ 142
 リア送風口の調整・・・・・・・・・・・・ 143

タ

タイヤ / ホイールの使用・・・・・・・・ 332
 MoExtended
 （ランフラット特性を持つタイヤ）・・・ 334
 走行時の注意・・・・・・・・・・・・・・・・ 332
 タイヤトレッド・・・・・・・・・・・・ 334
 タイヤの選択、装着と交換・・・・・・・・ 334
 ホイールおよびタイヤの定期的な点検 333

タイヤ空気圧・・・・・・・・・・・・ 336
 指定のタイヤ空気圧・・・・・・・・・・・・ 336
 タイヤ空気圧警告システム・・・・・・・・ 338

タイヤの回転方向・・・・・・・・・・・・ 340

タコメーター・・・・・・・・・・・・ 217

チャイルドセーフティシート・・・・・・・・ 45
 ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート
 固定装置・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
 インテグレートッドチャイルドシート
 (ICS)・・・・・・・・・・・・・・・・ 53
 インテグレートッドチャイルドシート用
 サイドヘッドレスト・・・・・・・・・・・・ 58
 インテグレートッドチャイルドシート用
 パッド付きテーブル・・・・・・・・・・・・ 56
 重要な安全上の注意・・・・・・・・・・・・ 45
 助手席へのチャイルドセーフティシートの
 装着・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
 推奨チャイルドセーフティシート・・・・ 62
 チャイルドセーフティシート検知システム
 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
 チャイルドセーフティシート検知システム
 のトラブル・・・・・・・・・・・・ 53
 チャイルドセーフティシートの
 適切な装着位置・・・・・・・・・・・・ 60
 テザーアンカー・・・・・・・・・・・・ 51
 パッド付きテーブルとサイドヘッドレスト
 の収納・・・・・・・・・・・・ 59

チャイルドブルーロック・・・・・・・・ 64
 重要な安全上の注意・・・・・・・・・・・・ 64
 リアドアウィンドウのチャイルドブルー
 ロックを設定する・・・・・・・・・・・・ 64
 リアドアのチャイルドブルーロックを
 設定する・・・・・・・・・・・・ 64

駐車・・・・・・・・・・・・・・・・ 167
 エンジンの停止・・・・・・・・・・・・ 167
 重要な安全上の注意・・・・・・・・・・・・ 167
 長期間駐車するとき・・・・・・・・・・・・ 169
 電気式パーキングブレーキ・・・・・・・・ 168

長期間駐車するとき・・・・・・・・ 169

停止表示板・・・・・・・・・・・・ 308

ディストロニック・プラス・・・・・・・・ 180
 クルーズコントロールレバー・・・・・・・・ 182
 車間距離の設定・・・・・・・・・・・・ 188
 重要な安全上の注意・・・・・・・・・・・・ 180
 全体的な注意事項・・・・・・・・・・・・ 181
 速度の設定・・・・・・・・・・・・ 187
 ディストロニック・プラスで
 走行するときのヒント・・・・・・・・ 190
 ディストロニック・プラスの解除・・・・ 188

ディストロニック・プラスの 設定、記憶、維持、速度の呼び出し	183	車両の施錠	85
ディスプレイと操作	217	重要な安全上の注意	83
エンジン冷却水温度計	217	ドアの操作部	30
外気温度表示	218	ドアミラー	103
スピードメーター	218	冬季の使用	335
タコメーター	217	ウィンタータイヤ	335
マルチファンクションディスプレイの操作	218	スノーチェーン	335
メニューリスト	220	標準タイヤでの走行	335
ディスプレイメッセージ	237	盗難防止システム	73
安全装備	238	イモビライザー	73
エンジン	249	けん引防止機能	74
キー	257	室内センサー	75
車両	255	盗難防止警報システム	73
走行装備	250	トリップメニュー	222
タイヤ	254		
ディスプレイメッセージを非表示にする	237		
はじめに	237		
メッセージメモリー	237		
ライト	246		
テールゲートの開口部寸法	360		
テクニカルデータに関する注意事項	352		
電気式パーキングブレーキ	168		
緊急ブレーキ	169		
自動解除	168		
自動作動	168		
手動での作動 / 解除	168		
全体的な注意事項	168		
電球の交換	119		
重要な安全上の注意	119		
電球交換の概要	120		
フロントバルブの交換	121		
リアバルブの交換	123		
電動ランバーサポート	101		
ドア	83		
内側から集中して車両を施錠および 解錠する	83		
内側からドアを解錠して開く	83		
運転席ドアの解錠 (エマージェンシーキー)	84		
車速感応ドアロック	84		
		ナ	
		ナビメニュー	223
		慣らし運転	146
		最初の約 1,500km まで	146
		重要な安全上の注意	146
		日常の手入れ	298
		外装の手入れ	299
		内装の手入れ	304
		手入れに関する注意事項	298
		荷物の固定	276
		燃料	355
		燃料の給油	164
		重要な安全上の注意	164
		燃料と燃料タンクのトラブル	166
		燃料を給油する	164
		ハ	
		パーキングアシストリアビューカメラ	202
		パークトロニック	193
		灰皿	285
		バッテリー	316
		重要な安全上の注意	316
		バッテリーの充電	318
		パノラミックスライディングルーフ	
		重要な安全上の注意	90

パノラミックスライディングルーフの操作
 …… 91

パノラミックスライディングルーフの
 電動サンシェードの操作 …… 92

パノラミックスライディングルーフの
 トラブル …… 93

パンクしたとき …… 310、339

MOExtended タイヤ
 (ランフラット特性を持つタイヤ) … 310

車両の準備 …… 310

タイヤフィット …… 311

ビークルプレート …… 353

エンジン番号 …… 354

車台番号 …… 354

車台番号やカラーコードが記載された
 ビークルプレート …… 353

ヒューズ …… 325

エンジンルームのヒューズボックス … 325

重要な安全上の注意 …… 325

助手席足元のヒューズボックス …… 326

ヒューズ一覧 …… 327

ヒューズを交換する前に …… 325

標準タイヤ …… 346

ホイールとタイヤの組み合わせ …… 345

ウィンタータイヤ …… 347

全体的な注意事項 …… 345

標準タイヤ …… 346

ホールド機能 …… 191

保証の適用 …… 13

ボンネット …… 292

マ

マニュアルギアシフト …… 160

マルチファンクションステアリング …… 26

ミラー …… 103

自動防眩機能 …… 105

ドアミラー …… 103

パーキングヘルプ機能 …… 105

ルームミラー …… 103

メインメニューとサブメニュー …… 221

TEL メニュー …… 226

アシストメニュー …… 228

オーディオメニュー …… 225

設定メニュー …… 231

トリップメニュー …… 222

ナビメニュー …… 223

メニューの概要 …… 221

メンテナンスメニュー …… 231

メーターパネル …… 24

表示灯 / 警告灯 …… 25

メーターパネル …… 24

メーターパネルの表示灯 / 警告灯 …… 258

安全装備 …… 259

エンジン …… 263

シートベルト …… 258

走行安全装備 …… 265

メモリー機能 …… 106

シート位置の呼び出し …… 107

設定の記憶 …… 106

メルセデス・ベンツ指定サービス工場 …… 13

メルセデス・ベンツ純正部品 …… 352

メンテナンス …… 297

メンテナンスインジケーター …… 297

メンテナンスメニュー …… 231

ラ

ライター …… 285

ライトスイッチ …… 110

ラゲッジルーム …… 85

重要な安全上の注意 …… 85

外側からの開閉 …… 86

テールゲートの非常解除 …… 86

ルームライト …… 117

緊急時点灯機能 …… 118

ルームライトの概要 …… 117

ルームライトの操作 …… 118

冷却水 …… 358

レーントラッキングパッケージ …… 209

全体的な注意事項 …… 209

ブラインドスポットアシスト …… 210

レーンキーピングアシスト …… 212

ワ

ワイパー	127
フロントウインドウワイパーの 作動 / 停止の切り替え	127
リアウインドウワイパーの 作動 / 停止の切り替え	128
ワイパーのトラブル	130
ワイパーブレードの交換	128

A

ABS (アンチロック・ブレーキング・システム)	66
--------------------------	----

B

BAS	67
-----	----

C

CPA (衝突警告システム)	67
アダプティブブレーキアシスト	69
車間距離警告	67
全体的な注意事項	67

D

DIRECT SELECT レバー	156
-------------------	-----

E

EBD	72
ECO スタート / ストップ機能	150
ECO スタート / ストップ機能の 解除 / 作動	150
エンジンの自動再始動	152
エンジンの自動停止	151
重要な安全上の注意	150
全体的な注意事項	150
ESP® (エレクトロニック・スタビリティ・プログラム)	70
ESP® の機能の設定 / 解除	71
重要な安全上の注意	70
トラクションコントロール	71

M

MoExtended (ランフラットタイヤ)	334
------------------------	-----

P

PRE-SAFE®	39
-----------	----

S

SRS (乗員保護補助装置)	33
----------------	----

T

TEL メニュー	226
----------	-----

数字

12V 電源ソケット	286
------------	-----

環境保護のために

Daimler AG では、大気汚染の抑制、資源の有効利用をはじめとする環境保護対策に取り組んでいます。環境保護のため、お車をご使用になるときは以下の点にご協力ください。

- 短距離短時間の走行を控えることで、燃料の余分な消費が抑えられます。
- タイヤの空気圧が適正であることを確認してください。
- 停車したままの暖機運転は必要ありません。
- 急発進や急加速は避けてください。
- エンジン回転数がその車の許容限度の 2/3（許容限度が 6,000 回転のときは約 4,000 回転）を超えないように運転してください。
- 不必要な荷物を車に載せたままにしないでください。
- スキーラックやルーフラックが必要でないときは、車から取り外してください。
- 長時間の停車時は、エンジンを停止してください。
- メルセデス・ベンツ指定サービス工場で適切な時期に点検整備を受けてください。
- エンジン始動時は、アクセルペダルを踏み込まないでください。
- 慎重に運転をし、前車との車間距離を適切に保ってください。

🌱 環境

Daimler AG は、資源を有効活用するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

車両装備

この取扱説明書では、本書の発行時点で車両に装着可能な、すべての標準およびオプション装備について記載しています。ただし、国により仕様が異なるため、本書に記載されているすべての機能が、お客様の車両に当てはまらない場合があることにご留意ください。このことは、安全に関する装備や機能にも当てはまります。そのため、記載されている記述やイラストが、お客様の装備と異なる場合があります。

オプション装備および日本仕様の車両に装着されない装備については、別冊の「取扱説明書に記載されている装備について」をご覧ください。装備や操作について不明点があるときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

安全のために

全体的な注意事項

警告

車両へのあらゆる作業、特に安全や安全に関連したシステムに関する作業は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場では、車両の作業に必要な専門知識と専用工具を有しています。この目的のため、メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検整備を行なうことをお勧めします。

 **警告**

いくつかの安全システムはエンジンがかかっているときにのみ機能します。そのため、走行しているときはエンジンを停止しないでください。さもないと、車両の安全システムが適切に機能しなくなり、その結果、想定したように運転者や他の方を保護できなくなります。さらに、車両のコントロールを失い、事故の原因になる危険性があります。

 **警告**

不適切に行なわれた作業、またはカバー内のケーブルの再配線などの車両への変更は、車両の安全システムが適切に作動しなくなる原因になります。安全システムは、想定したように運転者や他の方を保護しなくなります。さらに、車両のコントロールを失い、事故の原因になる危険性があります。

装着や改造など、車両へのあらゆる作業や変更は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

 **警告**

電気装備やそのソフトウェアへの作業が不適切に行なわれたときは、これらの装備が作動しなくなるおそれがあります。

電気装備は、車両インターフェースを通じてネットワークされています。電気装備の変更は、改造を施していないシステムの誤作動の原因になります。これらの誤作動は、車両の安全な操作、さらに運転者自身の安全を著しく損なうおそれがあります。

そのため、電気構成部品へのあらゆる作業や改造は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

診断ソケット **警告**

診断ソケットに機器を接続すると、車両システムの作動に影響を及ぼすおそれがあります。これにより、車両の安全性が損なわれます。事故の危険性があります。

診断ソケットには、いかなる機器も接続しないでください。

警告

診断機器や機器のケーブルを診断ソケットに接続すると、ペダル操作の障害になります。突然のブレーキ操作やアクセル操作の際に機器やケーブルがペダルの間に挟まることがあります。その結果、ペダルの動きが妨げられ、事故を起こすおそれがあります。

運転席の足元にはいかなる機器やケーブルも接続しないでください。

! エンジンが停止している状態で診断ソケットに機器を接続すると、バッテリーを消耗します。

診断ソケットはメルセデス・ベンツ指定サービス工場での診断機器の接続のために装備されています。

診断ソケットに機器を接続すると、排出ガスのモニター情報がリセットされるおそれがあります。これにより、次の車両検査時に排出ガス基準に適合しなくなることがあります。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場

メルセデス・ベンツ指定サービス工場には、車両に適切な作業を行なうために必要な専門知識と専用工具、ならびに設備が備わっています。上記の内容は、特に安全に関わる作業について重要です。

以下の作業については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

- 安全に関わる作業
- 点検および整備
- 修理作業
- 装備などの変更や装着、加工作業
- 電気装備に関わる作業

メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検整備を行なうことをお勧めします。

警告ラベル

車両には警告ラベルが貼付されています。警告ラベルには危険な状況を回避するための情報や、車を安全に使用するための情報などが記されています。警告ラベルは絶対にはがさないでください。

保証の適用

車両の操作を行なうときや車両に損傷が発生したときは、必ず本書に記載されている指示に従ってください。指示に従わないで発生した車両の損傷については、保証の対象外になります。

走行する前に

点検と整備

日常点検や定期点検は、使用者自身の責任において実施することが法律で義務付けられています。これらの点検項目については、別冊の「整備手帳」をご覧ください。

夏季の取り扱い

- 夏を迎える前にエアコンディショナーの冷媒に不足がないか、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
- オーバーヒートの予防策として、いつもより頻繁に冷却水量を点検してください。

日ごとの状態と異なるとき

エンジンをかけたとき、いつもと異なる音やにおいを感じたり、駐車していた場所に水やオイルの跡が残っているときは、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ドアを開くと

ドアを開くと、一部の装置が自動的に動き始め、作動音などが聞こえることがあります。異常ではありません。

タイヤの点検

タイヤの空気圧や溝の深さが十分あり、タイヤに損傷や異常な摩耗がないことを点検してください。タイヤの空気圧が低かったり、損傷したタイヤで走行すると、タイヤが破裂したり、火災が発生するなど、事故を起こすおそれがあります。

運転席足元に注意

- 運転席の足元には、物を置かないでください。ペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。
- フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

シートベルトは必ず着用

走行を開始する前に、すべての乗員がシートベルトを着用してください。

車庫内では

車庫などの換気の悪い場所ではエンジンを停止してください。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こしたり、死亡するおそれがあります。

一酸化炭素は、無色無臭のため気が付かないうちに吸い込んでいるおそれがあります。

ウォーミングアップ（暖機運転）

エンジンが冷えているときでも、停車したままでの暖機運転は必要ありません。エンジンの始動後は、急加速を避けて車をウォーミングアップしてください。

荷物を積むとき

- 荷物はできるだけラゲッジルームに積んでください。
- 車内に荷物を積むときは、動かないように確実に固定してください。急ブレーキ時などに荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

- 鋭い角のあるものは、角の部分に必ずカバーをしてください。
- 荷物をシートのバックレストよりも、高く積み上げないでください。

燃えるものは積まない

燃料を入れた容器や可燃性のスプレー缶などを積まないでください。万一のときに引火や爆発のおそれがあります。

子供を乗せるとき

子供にも必ずシートベルトを着用

- 子供であっても、シートベルトを正しく着用し、シートやヘッドレストが正しい位置になっていることを大人が確認してください。正しくシートベルトが着用できない小さな子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。
- 乳児や子供を抱いたり、ひざの上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や事故のとき、大人と車の間に挟まれて重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。

小さな子供にはチャイルドセーフティシート

- 6歳未満の子供にはチャイルドセーフティシート（▷45 ページ）を使用することが法律で義務付けられています。
- 子供を助手席に座らせるときは、助手席シートをもっとも後ろの位置にしてください。エアバッグの作動時に大きな衝撃を受けるおそれがあります。

子供には操作させない

- ドアやサイドウインドウ、パノラミックスライディングルーフなどは大人が開閉してください。子供が操作すると、身体を挟んだり、けがをするおそれがあります。

サイドウインドウやパノラミックスライディングルーフの開口部から身体を出さない

子供がサイドウインドウやパノラミックスライディングルーフの開口部から身体を出さないように注意してください。けがをするおそれがあります。

車から離れるとき

子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

また、炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

オートマチック車の取り扱い

運転する前に、オートマチック車の特性や操作上の注意を理解し、正しく操作してください。

オートマチック車の特性

クリーブ現象：エンジンがかかっているとき、トランスミッションがポジション P、N 以外になっていると、動力が繋がった状態になり、アクセルペダルを踏み込まなくても車がゆっくり動き出します。これをクリーブ現象といいます。

キックダウン：走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

エンジンの始動前

- ブレーキペダルは必ず右足で操作してください。不慣れな左足で操作すると、事故を起こすおそれがあります。
- ブレーキペダルを踏み込んだときに、ペダルが一定のところまで停止することやペダルの踏みしろの量を確認してください。

エンジンの始動

トランスミッションがポジション **P** になっていることを確認して、ブレーキペダルを確実に踏んでエンジンを始動します。アクセルペダルを踏む必要はありません。

発進

- エンジンが適正なアイドリング回転数になっていることを確認してください。
- トランスミッションをポジション **D**、**R** にシフトするときは、必ずブレーキペダルを十分に踏み込んでください。
- アクセルペダルを踏んだまま、DIRECT SELECT レバーを動かさないでください。車が急発進するおそれがあります。

- 急な上り坂で発進するときは、電気式パーキングブレーキを効かせたままアクセルペダルを静かに踏み込んで発進してください。

また、坂道で発進するときは、ヒルスタートアシストも作動します (▷149 ページ)。

走行中

- 走行中はトランスミッションをポジション **N** にシフトしないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため事故につながったり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- 滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなったり、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。また、安全装備が作動しなくなるおそれがあります。

停車

- 停車中はエンジンの空ぶかしをしないでください。万一、トランスミッションのポジションが走行位置になると、車が急発進して事故を起こすおそれがあります。
- 急な上り坂などでは、アクセルペダルの踏み加減によって停止状態を保たないでください。トランスミッションに負担がかかり、過熱や故障の原因になります。

- 完全に停車する前に、トランスミッションをポジション **P** にシフトしないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

駐車

- 駐車時や車から離れるときは、必ずトランスミッションをポジション **P** にシフトして、電気式パーキングブレーキを効かせて、エンジンを停止してください。
- 後退したあとは、すぐにトランスミッションをポジション **P** か **N** にするように心がけてください。 **R** になっていることを忘れてアクセルペダルを踏み込み、車が後退して事故を起こすおそれがあります。

寒冷時の取り扱い

寒冷時には、通常とは異なった取り扱いが必要です。必ず以下の注意事項を守ってください。

冷却水 / バッテリー

メルセデス・ベンツ指定サービス工場
で、冷却水の不凍液の濃度が適正であることや、バッテリーの液量や充電状態に不足がないことを点検してください。

エンジンオイル

車を使用する場所の外気温度に合わせたグレードと粘度のエンジンオイルを使用してください。

ウォッシャー液

ウォッシャー液には、夏用と冬用があります。冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

冬季の手入れ

凍結防止剤がまかれた道路を走行したときは、早めに下回りの洗車をしてください。凍結防止剤が付着したまま放置すると、腐食の原因になります。凍結防止用の塩類をまく地域の場合、少なくとも1年に一度ボディ下回りの防錆処理をすることをお勧めします。

積雪

ボディやウインドウに雪が積もったときはすべて取り除いてください。走行中に雪が落ちて視界を妨げるおそれがあります。

ドアやテールゲートの凍結

ドアやテールゲートが凍結しているときは以下のような方法で走行する前に解凍するか、氷を取り除いてください。

- 氷を取り除くときは、樹脂製のへらなどを使用し、ボディやウインドウを損傷しないように注意してください。
- ドアやテールゲートが凍結して開かないときは、開口部周囲にぬるま湯をかけ、解凍してから開いてください。また、キーシリンダーにはぬるま湯がかからないようにしてください。
- 再凍結を防止するため、余分な水分はきれいに拭き取ってください。

- 凍結したまま無理にドアやテールゲートを開こうとすると、周囲の防水シールやウエザーストリップを損傷するおそれがあります。

ボディ下側の着氷

- 走行前にボディ下部やフェンダーの内側を点検してください。ブレーキ関連部品やステアリング関連部品、サスペンションなどに雪や氷塊が付着していたり凍結していると、ボディを損傷したり、ステアリング操作ができなくなり、事故を起こすおそれがあります。
- 雪や氷塊が付着しているときは、ぬるま湯をかけるなどして、部品やボディを損傷しないように注意しながら、雪や氷塊を取り除いてください。
- 走行中にも、はね上げた雪や水しぶきが凍結し、氷となってボディ下部やフェンダーの内側に付着し、ステアリング操作ができなくなるおそれがあります。休憩時などにこまめに点検し、雪や氷塊が付着しているときは、大きくなる前に取り除いてください。

ワイパーなどの凍結

ワイパーやドアミラー、ウインドウなどが凍結しているときに、無理に動かすとモーターを損傷するおそれがあります。

周囲にぬるま湯をかけるなどして、必ず解凍してから操作してください。

乗車前に

靴底などに付着した雪や氷を落としてから乗車してください。ペダルを操作するときに滑ったり、車内の湿度が高くなってウインドウの内側が曇りやすくなります。

雪道で動けないとき

雪道で動けなくなったときは、先にマフラー（排気ガスの出口）と車の周囲から雪を取り除いてください。排気ガスが車内に侵入してくるおそれがあります。

警告

マフラーなどが雪に埋もれた状態でエンジンを始動すると、排気ガスが車内に入り、一酸化炭素中毒を起したり、中毒死するおそれがあります。

駐車するとき

寒冷時や積雪地での駐車時は以下の点に注意してください。

- 電気式パーキングブレーキが凍結するおそれがある場合は、電気式パーキングブレーキを使用せず、トランスミッションをポジション **P** にシフトして、確実に輪止めをしてください。
- できるだけ風下や建物の壁、日光の当たる方向にエンジンルームを向けて駐車し、エンジンが冷えすぎないようにしてください。
- 軒下や樹木の陰には駐車しないでください。雪やつららが落ちてきてボディを損傷するおそれがあります。

- エンジンを毛布でカバーしたり、フロントグリルの内側にダンボールや新聞紙などを挟まないでください。放置したままエンジンを始動すると、火災や故障の原因になります。
- ライターをグローブボックスや小物入れなどに入れたままにしたり、車内に落としたままにしないでください。

荷物を押し込んだときやシートを操作したときにライターの操作部に触れてライターが誤作動し、火災が発生するおそれがあります。

こんなことにも注意

運転するときの注意事項

- 服用後の運転が禁止されている薬や、酒類を飲んだ後は絶対に運転しないでください。
- ペダル操作の妨げになるような靴（厚底靴など）やサンダル履きで運転しないでください。

日射に関する注意事項

- ウインドウなどに吸盤を貼り付けないでください。吸盤がレンズの働きをして、火災が発生するおそれがあります。
- メガネやサングラスを車内に放置しないでください。炎天下では車内が高温になるため、レンズやフレームが変形したり、ひび割れるおそれがあります。

ライターに関する注意事項

- ライターを車内に放置しないでください。炎天下の車内は非常に高温になるため、ライターが発火したり爆発するおそれがあります。

給油に関する注意事項

給油が自動的に停止したら、それ以上は給油しないでください。燃料漏れのおそれや、エンジンが不調になったり停止するおそれがあります。

違法改造はしない

- 違法改造はしないでください。違法改造や純正でない部品の使用は、保証の適用外になるだけでなく、事故の原因になります。
- 定期交換部品などは純正品だけを使用し、燃料や油脂類などは指定品を使用してください。
- エンジンオイルには添加剤を入れしないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。
- 燃料の添加剤は、純正品または承認されている製品のみを使用してください。エンジン内部の摩耗が進んだり、エンジンを損傷するおそれがあります。故障が発生したときは、保証の対象外になります。
- 無線機やオーディオなどの電装品を取り付けたり取り外すときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

自動車電話、携帯電話の使用

運転者は、走行中に自動車電話や携帯電話を使用しないでください。道路交通法違反になります。なお、ハンズフリー機能は使用できますが、注意力が散漫になり事故の原因になります。安全な場所に停車してから使用してください。

COMAND システムの操作

COMAND システムの操作は、できるだけ走行中を避け、安全な場所に停車してから操作してください。走行中に COMAND ディスプレイを見るときは、必要最小限（約 1 秒以内）にとどめてください。

きびしい条件下での運転

発進、停止を繰り返す市街地走行、山間部や路面の悪い道路などきびしい条件下での走行が多いときは、タイヤやエアクリナー、エンジンオイル、エンジンオイルフィルター類の点検整備や交換を、定期的な交換時期よりも早く行なうことが必要になります。

車両に保存されるデータ

故障データ

車両には、故障時や異常時のデータを保存する機能があります。

保存されたデータは、安全装備などが作動するとき、または故障や異常の原因の特定、車両開発などに使用されます。データを使用して、車両の過去の移動経路を調べることはできません。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場、故障診断機によって読み取られたデータは、使用後に消去されます。

データが保存されるその他の装備

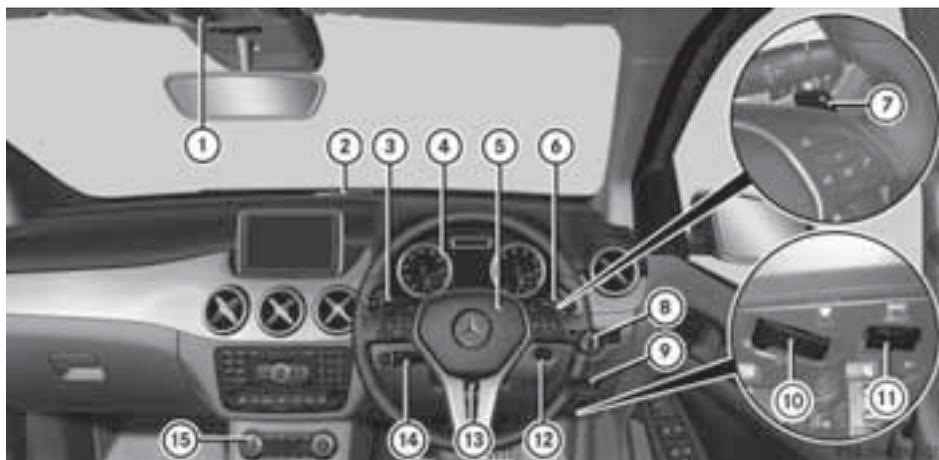
COMAND システムでは、ナビゲーションや電話などでデータを保存したり、編集することができます。詳しくは、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

インストルメントパネル	22
メーターパネル	24
マルチファンクションステアリング	
.....	26
センターコンソール	27
上方の操作部	29
ドアの操作部	30

インストルメントパネル



名称	ページ	名称	ページ
① パドルシフト	159	⑨ エンジンスイッチ	147
② コンビネーションスイッチ	113	⑩ ステアリング調整ロック解除レバー	102
③ メーターパネル	24	⑪ クルーズコントロールレバー	174
④ ホーン		⑫ 電気式パーキングブレーキ	168
⑤ DIRECT SELECT レバー	156	⑬ ライトスイッチ	110
⑥ パークトロンニック警告ディスプレイ	195	⑭ 診断ソケット	12
⑦ 上方の操作部	29	⑮ ボンネットロック解除レバー	293
⑧ エアコンディショナーコントロールパネル	132		



名称	ページ	名称	ページ
① 上方の操作部	29	⑩ ボンネットロック解除レバー	293
② パークトロンニック警告ディスプレイ	195	⑪ 診断ソケット	12
③ コンビネーションスイッチ	113	⑫ エンジンスイッチ	147
④ メーターパネル	24	⑬ ステアリング調整ロック解除レバー	102
⑤ ホーン		⑭ クルーズコントロールレバー	174
⑥ DIRECT SELECT レバー	156	⑮ エアコンディショナーコントロールパネル	132
⑦ パドルシフト	159		
⑧ ライトスイッチ	110		
⑨ 電気式パーキングブレーキ	168		

メーターパネル

メーターパネル



名称	ページ
① セグメント付きスピードメーター	218
② マルチファンクションディスプレイ	218
③ タコメーター	217
④ エンジン冷却水温度計	217
⑤ 燃料計	

名称	ページ
⑥ メーターパネル照度調整ノブ：時計回りまたは反時計回りにまわす	

表示灯 / 警告灯



PS4.32-8956-31

	名称	ページ		名称	ページ
①	 ヘッドライト表示灯	110	⑪	 エンジン冷却水警告灯	264
②	 ESP® 表示灯	261	⑫	 リアフォグランプ表示灯	112
③	 ハイビーム表示灯	113	⑬	 フロントフォグランプ表示灯	111
④	 パーキングブレーキ表示灯 (赤色)	263	⑭	 エンジン警告灯	263
⑤	 パーキングブレーキ警告灯 (黄色)	263	⑮	 燃料残量警告灯	263
⑥	 車間距離警告灯	265	⑯	 ESP® オフ表示灯	261
⑦	 方向指示表示灯	113	⑰	 ABS 警告灯	259
⑧	 SRS 警告灯	263	⑱	 ブレーキ警告灯	259
⑨	 シートベルト警告灯	258			
⑩	日本仕様車には装備されません				

マルチファンクションステアリング



	名称	ページ
①	マルチファンクションディスプレイ	218
②	ディスプレイ	別冊
③	 音声認識スイッチ：別冊の取扱説明書をご覧ください。	別冊
④	 受話終了または通話拒否 電話帳 / リダイヤル履歴の終了	226
	 発信または受話 通話履歴の表示	226
	 音量の調整	219
	 消音	219

	名称	ページ
⑤	 メインメニューの選択	219
	 サブメニューの選択またはリストのスクロール	219
	 選択の確定 ディスプレイメッセージの消去	237
⑥	 戻る 音声認識の解除：別冊の取扱説明書をご覧ください。	219

センターコンソール

上部センターコンソール



	名称	ページ
①	コントロールパネル	別冊
②	 シートヒータースイッチ	101
③	 パークトロンニックオフスイッチ	195
④	 ECO スタート / ストップスイッチ	150

	名称	ページ
⑤	 非常点滅灯スイッチ	113
⑥	 助手席エアバッグオフ表示灯	49
⑦	 走行モード選択スイッチ	159

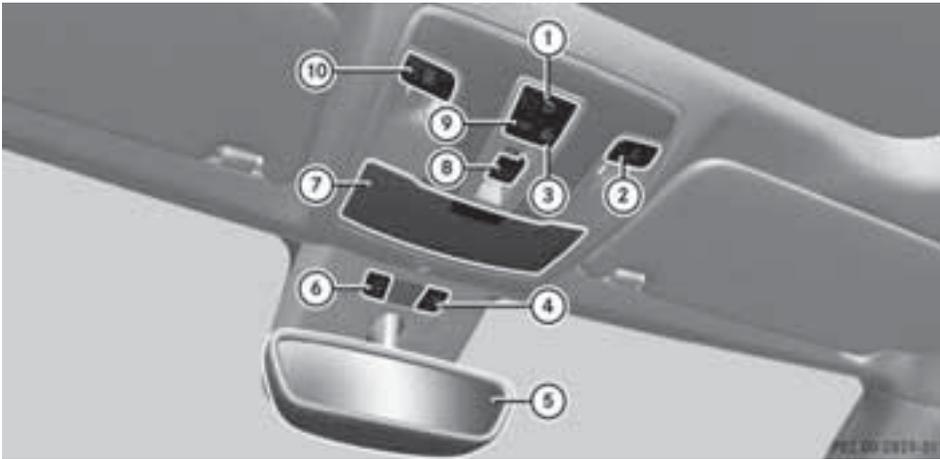
下部センターコンソール



	名称	ページ
⑧	灰皿	285
	ライター	285
	12 電源ソケット	286
	小物入れ	270
⑨	小物入れ	270

	名称	ページ
⑩	カップホルダー	283
⑪	小物入れ	270
⑫	コントローラー：別冊の取扱説明書をご覧ください。	

上方の操作部



	名称	ページ
①	 リアルームライトのオン / オフスイッチ	117
②	 右側フロント読書灯のオン / オフスイッチ	117
③	 フロントルームライト / ルームライトオート制御の解除スイッチ	117
④	 けん引防止機能解除スイッチ	74
⑤	ルームミラー	103

	名称	ページ
⑥	 室内センサー解除スイッチ	75
⑦	サングラスケース	269
⑧	 パノラミックスライディングルーフスイッチ	91
⑨	 フロントルームライトのオン / オフスイッチ	117
⑩	 左側フロント読書灯のオン / オフスイッチ	117

ドアの操作部



	名称	ページ
①	ドアレバー	83
②	  集中解錠スイッチ / 集中施錠スイッチ	83
③	   	107
	シートおよびドアミラー設定のメモリー / ポジションスイッチ	
④	電動シートの調整スイッチ	99

	名称	ページ
⑤	   	103
	ドアミラーの調整および格納 / 展開スイッチ	104
⑥	 サイドウインドウの開閉スイッチ	88
⑦	 リアサイドウインドウのチャイルドブローフロックスイッチ	64

役に立つ情報	32
乗員安全装備	32
子供を乗せるとき	45
走行安全装備	65
盗難防止システム	73

役に立つ情報

i この取扱説明書では、本書の発行時点で車両に装着可能な、すべての標準およびオプション装備について記載しています。ただし、国により仕様が異なるため、本書に記載されているすべての機能が、お客様の車両に当てはまらない場合があることにご留意ください。このことは、安全に関する装備や機能にも当てはまります。

乗員安全装備

重要な安全上の注意

 警告

整備作業が適切に行なわれていない場合は、車両の走行安全性が損なわれるおそれがあります。その結果、車両のコントロールを失い、事故を起こす原因になります。また、安全装備が本来の機能を発揮しなくなり、お客様や他の方を保護することができなくなるおそれがあります。

点検整備や修理などは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

 警告

乗員保護装置の以下の構成部品を改造したり、不適切な作業を行なわないでください。正常に作動しなくなるおそれがあります。

- シートベルトとベルトアンカー、シートベルトテンショナー、ベルトフォースリミッター、エアバッグを含む乗員保護装置
- 配線
- 車載ネットワークで接続された電子制御部品

衝突の際に車両の減速度がシステムを作動させるのに十分な高いレベルに達しても、エアバッグやシートベルトテンショナーが正常に作動しなくなったり、誤作動するおそれがあります。この理由により、決して乗員保護装置を改造しないでください。そのため、決して車の電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。

シートベルトや SRS（乗員保護補助装置）は相互に補完し、連動して作動する乗員保護装置です（▷35 ページ）。これらは、想定される事故の状況において、乗員が負傷する危険性を軽減して安全性を高めます。ただし、シートベルトとエアバッグは、物が外部から車内に入り込んだときの衝撃から乗員を保護する効果はありません。

乗員保護装置の機能を十分に発揮させるため、以下のことに注意してください。

- シートやヘッドレストは正しい位置に調整してください（▷96 ページ）。

- シートベルトを正しく着用してください (▷42 ページ)。
- エアバッグの作動が妨げられていないことを確認してください (▷35 ページ)。
- ステアリングを正しい位置に調整してください。
- 乗員保護装置を改造しないでください。

エアバッグは、シートベルトを着用した乗員の保護機能を高めます。しかしながら、エアバッグはシートベルトの効果を補助する乗員保護装置で、シートベルトの代わりになるものではありません。車両にエアバッグが装備されていても、乗員全員が常に正しくシートベルトを着用しなければなりません。エアバッグは、あらゆる種類の事故で作動するわけではありません。たとえば、エアバッグの作動が正しく着用したシートベルトの保護効果を高めると判断されない場合、エアバッグは作動しません。

エアバッグはシートベルトを正しく着用している場合にのみ、シートベルトの保護機能を高めることができます。第一に、シートベルトを着用することで、乗員とエアバッグの間に適切な距離を保つことができます。第二に、たとえば正面衝突の際に、シートベルトは乗員が衝撃を受けた方向に投げ出されるのを防ぐことができます。

SRS (乗員保護補助装置)

はじめに

SRS は以下により構成されます。

- SRS 警告灯 
- エアバッグ
- エアバッグコントロールユニット (クラッシュセンサーを含む)
- 前席および後席左右のシートベルトテンショナー
- 前席のベルトフォースリミッター

SRS は、事故の際に乗員が車室内の部品にぶつかる危険性を低減します。また事故の際に乗員が受ける衝撃を緩和させます。

SRS 警告灯

警告

SRS に異常が発生すると、各システムが不意に作動したり、減速度の大きい事故が起きても正常に作動しなくなるおそれがあります。

以下のときは異常が発生しています。

- イグニッション位置を **1** か **2** にしたときに SRS 警告灯  が点灯しないとき
- エンジンを始動してから数秒間経過しても SRS 警告灯  が消灯しないとき
- エンジンがかかっているときに SRS 警告灯  が再度点灯したとき

このような場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場 で SRS の点検を受けてください。

SRS の機能は、イグニッション位置が **1** か **2** のとき、またエンジンがかかっているときに定期的に診断されます。そのため、異常が発生した場合は適時検出されます。

メーターパネルの SRS 警告灯  は、イグニッション位置を **1** か **2** にすると点灯します。エンジンを始動してから数秒後に消灯します。

シートベルトテンショナー、ベルトフォースリミッターとエアバッグの作動

衝突の最初の段階において、エアバッグコントロールユニットは、車両の減速度または加速度に関連する以下の重要な物理的データの評価を行いません。

- 持続時間
- 方向
- 強さ

このデータの評価に基づいて、エアバッグは初期の段階で最初にシートベルトテンショナーを作動させます。

- i** 前席のシートベルトテンショナーは、前席のシートベルトの先端がシートベルトバックルに正しく差し込まれているときのみ作動します。

前後方向にさらに高い度合いの車両の減速度または加速度があるときは、運転席 / 助手席エアバッグが作動します。

車両には、衝撃の大きさに応じて展開力を 2 段階に制御する、2 ステージ式の運転席 / 助手席エアバッグが装備されています。衝突の際に、エアバッグコントロールユニットは車両の減速度または加速度の評価を行いません。作動の最初の段階で、運転席 / 助手席エアバッグには負傷の危険性を軽減させるための火薬ガスが充填されます。1000 分の数秒の間に 2 度目の作動のための規定値を超えたとき、運転席 / 助手席エアバッグは完全に作動します。

シートベルトテンショナーおよびエアバッグの作動規定値は、車両の減速度または加速度に応じて適切に設定されます。この作動は本来予防措置です。作動は衝突の開始から適切なタイミングで行なわれます。

- i** エアバッグはすべての種類の事故で作動するわけではありません。それぞれのエアバッグシステムは独立して作動します。

エアバッグシステムの作動内容は、検知された衝突の強さ、特に車両の減速度または加速度、および以下のような事故の形態により決定されます。

- 前方からの衝突
- 側面からの衝突

車両の減速度または加速度、および衝撃の方向は基本的に以下の要素により決定されます。

- 事故の間の衝撃の配分
- 衝撃の角度
- 車両の変形特性
- 車両に衝突した障害物の特性

衝突の後に発生し、測定された衝撃は、エアバッグの作動に決定的な役割を行なわないだけでなく、エアバッグの作動に指示を与えるものでもありません。

ボンネットやフェンダーなどの車体は、エアバッグが作動することなく著しく変形することがあります。これは、比較的容易に変形するパーツのみで、影響や減速度合いが高くならない場合です。対照的に、車両がほんの少しの変形を受けた場合のみでもエアバッグが作動することもあります。これは、縦方向のボディメンバーなどの非常にかたい車両部分がぶつかり、結果として高い減速度が発生した場合です。

エアバッグ

重要な安全上の注意

警告

エアバッグは補助的な乗員保護装置で、シートベルトの代わりになるものではありません。

エアバッグの作動により重大な、または致命的なけがをする危険性を軽減するため、以下の注意事項を守ってください。

- 乗員全員がシートベルトを正しく着用し、バックレストをできるだけ垂直の位置にして、シートに深く腰かけてください。ヘッドレストは、目の高さで後頭部が支えられるように調整してください。
- 妊娠中の女性は、医師に相談の上、シートベルトを着用してください。

- 身長 150cm 未満または 12 歳未満の子供は、適切なチャイルドセーフティシートにより確実に身体を固定してください。
- すべての乗員は、できるだけエアバッグから離れた位置にシートを調整してください。運転席シートは安全に車を操作できる位置に調整してください。運転者の胸を運転席エアバッグ収納部の中央からできるだけ遠ざけてください。
- 助手席シートはできるだけ後方に動かしてください。特に子供を乗せたチャイルドセーフティシートを助手席シートに装着しているときは重要です。
- 子供を含めて、乗員はサイドバッグやウィンドウバッグが作動するウィンドウ周辺に頭部を寄りかけないでください。
- 助手席エアバッグが無効になっている場合を除いて、助手席シートには後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを装着しないでください。チャイルドセーフティシート検知システム装備車の助手席シートにチャイルドシート検知システム用トランスポンダーを内蔵したチャイルドセーフティシートを装着したときは、助手席エアバッグは作動しません。助手席エアバッグオフ表示灯  が点灯し続けます。

チャイルドセーフティシート検知システムが装備されていない場合、または後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートにチャイルドシート検知システム用トランスポンダーが内蔵されていない場合は、子供を乗せたチャイルドセーフティシートを後席の適切な位置に装着してください。前向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを助手席シートに装着する場合は、助手席シートをできるだけ後方に動かしてください。

- 衣服のポケットなどに重い物や鋭利な物が入っていないことを確認してください。
- 特に走行中は、運転席 / 助手席エアバッグ収納部の上に寄りかからないでください。
- ダッシュボードに足をのせないでください。
- ステアリングは必ず外側のみを握ってください。これにより、エアバッグは完全に展開します。ステアリングの内側を握った状態でエアバッグが作動すると、けがをすおそれがあります。
- ドアなどの内張りに寄りかからないでください。
- エアバッグ作動範囲と乗員の間、人やペットまたは荷物がいないことを確認してください。
- バックレストとドアの間に物を置かないでください。
- アシストグリップやコートフックには、コートハンガーなどのかたい物をかけないでください。

- カップホルダーなどのアクセサリをドアに取り付けしないでください。

エアバッグは瞬時に作動するため、エアバッグによるけがの危険性を避けることはできません。

警告

エアバッグは、以下の部分が覆われていない状態で、バッジやステッカーなどが貼付されていないときにのみ、確実に機能します。

- ステアリングパッド部
- ステアリングコラム下部のニーバッグ収納部
- 助手席エアバッグ収納部
- フロントシートのバックレスト外側
- リアシートのバックレスト左右端部
- 前席の A ピラーから後席の C ピラー間のルーフフレーム収納部

警告

エアバッグの作動時にわずかに白煙が発生することがあります。この白煙を吸い込むと、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがあります。

呼吸障害を防ぐため、安全を確認のうえすみやかに車外へ出てください。サイドウィンドウを開き、新鮮な空気で車内を換気することもできます。この白煙は人体への影響はありません。また、車両火災の心配もありません。

⚠ 警告

エアバッグが作動した直後は、エアバッグの構成部品が熱くなっています。火傷をするおそれがあるため、エアバッグの構成部品には触れないでください。

エアバッグはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換しなければなりません。さもないと、次に事故が起こった際にエアバッグで乗員を保護できません。

エアバッグが作動すると、シートベルトによる保護を補完して、乗員の身体の動きをゆるやかにして拘束します。

エアバッグが作動したときは、作動音が聞こえ、白煙が発生します。ごくまれに作動音が聴力に影響することがあります。発生した白煙は人体への影響はありません。SRS 警告灯  が点灯します。

エアバッグの収納部には、AIRBAG のマークがあります。

運転席 / 助手席エアバッグ

! 助手席に重い荷物を置かないでください。システムが助手席に乗員がいると判断し、事故のときに助手席エアバッグが作動することがあります。作動したエアバッグは交換しなければなりません。

運転席 / 助手席エアバッグは、運転席乗員および助手席乗員の頭部および胸部の保護を行いません。



運転席エアバッグ①はステアリング前部で、助手席エアバッグ②はグローブボックス前部および上部で作動します。

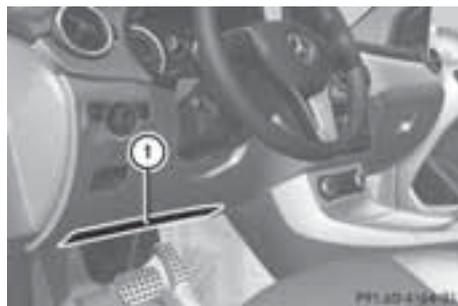
運転席 / 助手席エアバッグは、以下のように作動します。

- 衝突の初期段階で車両の縦方向に高い度合いの車両の減速度または加速度を伴うとき
- 運転席 / 助手席エアバッグの作動が、シートベルトによる保護機能を高めるとシステムが判断したとき
- シートベルトの着用の有無に応じて作動
- 他のエアバッグとは独立して作動

車両が横転したときは、車両の縦方向に一定以上の減速度を検知しない限り、運転席 / 助手席エアバッグは基本的に作動しません。

助手席エアバッグ②は、助手席に乗車しているとシステムが判断したときにのみ作動します。センターコンソールの助手席エアバッグオフ表示灯は消灯しています（▶49 ページ）。これにより、チャイルドセーフティシート検知システムに対応していないチャイルドセーフティシートが助手席シートに装着されているか、あるいはチャイルドセーフティシート検知システムに対応したチャイルドセーフティシートが不適切な方法で装着されていないかを確認できます。

運転席ニーバッグ



運転席ニーバッグ①は、運転席エアバッグに連動してステアリングの下方で作動します。

運転席ニーバッグ①は、運転者の以下のような傷害を軽減します。

- 膝のけが
- 大腿部のけが
- 下肢のけが

サイドバッグ

警告

シートカバーを使用したい場合は、安全上の理由により、メルセデス・ベンツ車のために承認されたシートカバーのみ使用することをお勧めします。

シートカバーは、サイドバッグのために裂けることができる縫い目を備えた専用品でなければなりません。さもないと、サイドバッグが適切に作動できなくなり、事故のときに本来の保護効果を発揮することができません。適切なシートカバーは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場などで入手できます。

サイドバッグが作動すると、衝撃が発生した側の乗員の胸部に対する保護を高めます。ただし、以下の部分は保護しません。

- 頭部
- 頸部
- 腕部



フロントサイドバッグ①とリアシートサイドバッグ②は、シートバック外側で作動します。

サイドバッグは以下のように作動します。

- 衝撃が発生した側で作動
- 側面衝突のように、衝突の初期段階で車両の横方向に高い度合いの車両の減速度または加速度を伴うとき
- シートベルトの着用とは独立して作動
- 運転席 / 助手席エアバッグとは独立して作動
- シートベルトテンショナーとは独立して作動

ウインドウバッグ

ウインドウバッグは、衝撃が発生した側の乗員の、胸部または腕部ではなく、頭部の保護レベルを高めます。

ウインドウバッグはルーフレーム側部に内蔵されており、AピラーからCピラーの範囲で作動します。



ウインドウバッグ ① は以下のように作動します。

- 衝撃が発生した側で作動
- 側面衝突のように、衝突の初期段階で車両の横方向に高い度合いの車両の減速度または加速度を伴うとき

- 助手席乗員の乗車とは関係なく作動
- シートベルトの着用とは独立して作動
- 運転席 / 助手席エアバッグとは独立して作動

PRE-SAFE® (予防乗員保護)

! シートを動かすときは、足元やシートの後方に物が無いことを確認してください。シートや物を損傷するおそれがあります。

PRE-SAFE® は、車が危険な状態にあることを察知して、乗員保護を高める機能をもたらします。

PRE-SAFE® は、以下のときに作動します。

- BAS が作動するような急ブレーキを効かせたとき。または、ディストロニック・プラス装備車ではアダプティブブレーキアシストが強力に作動したとき
- レーダーセンサーシステムが差し迫った衝突の危険性がある特定の状況を検知したとき（ディストロニック・プラス装備車）
- 物理的な限界を超え、強いアンダーステア状態やオーバーステア状態になるような危惧的な状況のとき

PRE-SAFE® は、検知した危険な状況に応じて以下のように作動します。

- 前席シートベルトを引き込みます。
- 事故のときに助手席シートが不適切な位置にある場合は、適正な位置に調整します。

- 車が横滑りをすると、パノラミックスライディングルーフとサイドウィンドウが少し開いた状態まで自動的に閉じます。

事故が起こることなく車が危険な状態から脱したときは、PRE-SAFE®によりシートベルトの張力が緩みます。PRE-SAFE®により変更されたすべての設定が元に戻ります。

シートベルトの張力が緩まないとき：

- ▶ 停車しているときに、バックレストやシートを少し後方に動かします。

シートベルトの張力が緩み、ロック機構が解除されます。

シートベルトの調整と PRE-SAFE® に組み込まれたコンビニエンス機能に関する情報は、"シートベルト調整機能"をご覧ください (▷42 ページ)。

シートベルト

重要な安全上の注意

警告

シートベルトを正しく着用していなかったり、シートベルトがバックルに確実に差し込まれていないと、本来の保護効果を発揮することができません。そのような状況では、事故のときに重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。

そのため、乗員全員が常にシートベルトを正しく着用していることを確認してください。

- 妊娠中の女性は、医師に相談の上、シートベルトを着用してください。
- シートベルトは身体に密着させて、ねじれないように着用してください。そのため、コートなどの厚手の衣類は着用しないでください。肩を通るベルトは肩の中央にかけてください。絶対に首や脇の下には通さないでください。そして、シートベルトを引き上げて上半身に密着させてください。腰を通るベルトは腰骨のできるだけ低い位置にかけてください。腹部にはかけないでください。必要であれば、ベルトを少し押し下げてから引き戻して、たるみを取ってください。
- シートベルトが鋭利な物やこわれやすい物にかからないようにしてください。特に眼鏡やペン、キーなどがその位置にあったり、衣服のポケットに入っていないことを確認してください。事故のときにシートベルトが損傷して裂け、お客様や他の方がけがをするおそれがあります。
- それぞれのシートベルトは必ず1人だけが使用してください。子供は決して他の乗員のひざの上に座らせて走行しないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに子供を保護することができません。その結果、子供と他の方が重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。

- 身長 150cm 未満の乗員はシートベルトを正しく着用することができません。この理由により、身長 150cm 未満の乗員は、体格に合った専用の乗員保護装置を使用してください。
- 身長 150cm 未満かつ 12 歳未満の子供は、シートベルトを正しく着用することができません。この理由により、子供の体格に合ったチャイルドセーフティシートを適切なシートに装着して、子供を固定してください。追加の情報は "安全装備" 章にある "子供を乗せるとき" (▷45 ページ) をご覧ください。チャイルドセーフティシートを装着するときは、製品に付属の取扱説明書の指示に従ってください。
- 乗員が使用しているシートベルトで荷物を固定しないでください。

警告

バックレストをできるだけ垂直に近い位置にしないと、シートベルトは本来の効果を発揮することができません。そのような状況では、事故のときに重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。

走行する前に、シートが正しい位置に調整され、バックレストができるだけ垂直に近い位置にあることを確認してください。

警告

汚れたり損傷したシートベルトや、改造または事故により衝撃を受けたシートベルトは、本来の保護効果を発揮することができません。そのような状況では、事故のときに重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。

この理由により、シートベルトに汚れや損傷がないか定期的にチェックしてください。

損傷したシートベルトや事故により衝撃を受けたシートベルトは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

安全上の理由により、車両のためにメルセデス・ベンツにより承認されたシートベルトのみを使用することをお勧めします。

シートベルトは、事故のときに乗員の身体の移動を最も効果的に抑えることができる拘束装置です。乗員を拘束することにより、乗員が車内の部品にぶつかる危険性を軽減させます。

シートベルトを着用する



- ▶ シートを調整し、バックレストをできるだけ垂直に近い角度にします (▷103 ページ)。
- ▶ シートベルトをベルトアンカー ① からゆっくりと引き出します。
- ▶ シートベルトにねじれがないことを確認して、肩を通るベルトが肩の中央に、腰を通るベルトが骨盤のできるだけ低い位置にかかるようにします。
- ▶ プレート ② の先端をバックル ③ に差し込みます。
シートベルト調整機能：必要に応じて、運転席と助手席のシートベルトが上半身に密着するように自動調整されます。
- ▶ 必要であれば、シートベルトの高さを調整します。
- ▶ 必要であれば、肩を通るベルトを上方に引いて、シートベルトを身体に密着させます。

解除ボタン ④ でシートベルトを外す方法については、"シートベルトを外す"の記載事項をご覧ください (▷43 ページ)。

シートベルト調整機能

シートベルト調整機能では、運転席と助手席のシートベルトが乗員の上半身に密着するように調整されます。

シートベルトは、以下のときに少し引き込まれます。

- プレートの先端をバックルに差し込み、イグニッション位置を **2** にしたとき
- イグニッション位置が **2** のときに、プレートの先端をバックルに差し込んだとき

シートベルト調整機能は、乗員とシートベルトの間のたるみを検知すると、それらを密着させるように作動します。マルチファンクションディスプレイにより、シートベルト調整機能の設定と解除ができます (▷236 ページ)。

シートベルト調整機能は、PRE-SAFE® のコンビニエンス機能に組み込まれています。PRE-SAFE® に関する詳しい情報は、"PRE-SAFE® (予防乗員保護)" をご覧ください (▷39 ページ)。

シートベルトの高さ調整

運転席シートと助手席シートのシートベルトは、高さを調整することができます。

肩にかかるシートベルトが肩の中央を通るように高さを調整してください。



- ▶ **上げる**：ベルトアンカーを上をスライドさせます。
ベルトアンカーが好みの位置に固定されます。
- ▶ **下げる**：ベルトアンカーのロック解除ボタン①を押して保持します。
- ▶ そのままベルトアンカーを下をスライドさせます。
- ▶ ロック解除ボタン①から指を放し、ベルトアンカーがロックされていることを確認します。

シートベルトを外す

- ❗ シートベルトが完全に巻き取られていることを確認してください。さもないと、シートベルトやプレートがドアやシートに挟まれるおそれがあります。ドアや内張り、シートベルトを損傷するおそれがあります。損傷したシートベルトは乗員保護効果を十分に発揮できないため、交換しなければなりません。メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。
- ▶ バックルの解除ボタン④を押し、プレート②をベルトアンカー①のほうに巻き取らせます。

運転席と助手席のシートベルト着用警告

メーターパネルのシートベルト警告灯  は、すべての乗員にシートベルトの着用を促します。警告灯は点灯し続けるか点滅します。また、警告音が鳴る場合もあります。

運転者と助手席乗員がシートベルトを着用すると、シートベルト警告灯  が消灯し、警告音が鳴り止みます。

特定の国のみ：運転者と助手席乗員のシートベルトの着用に関わらず、エンジンを始動するとシートベルト警告灯  が約 6 秒間点灯します。運転者と助手席乗員がシートベルトを着用すると、警告灯が消灯します。

i シートベルト警告灯  について、詳しくは、"メーターパネルの表示灯 / 警告灯" をご覧ください (>258 ページ)。

後席シートベルトの状況表示

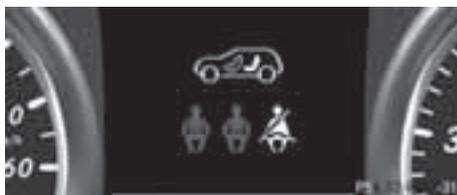
後席シートベルトの状況表示は、後席の乗員がシートベルトを着用していることを運転者に知らせます。

後席シートベルトの状況表示は、リアシートベルトの着用を示します。ディスプレイの  マークは、着用されたシートベルトを示します。

以下のときは、マルチファンクションディスプレイに後席シートベルトの状況表示が約 30 秒間表示されます。

- 走行を開始して速度が約 10km/h に達したとき
- 走行中に後席の乗員がシートベルトを着用したか、外したとき

- 誰かが車に乗車したか降車し、再度走行を開始したとき



左側リアシートベルトを着用した乗員の例

以下のときは、後席シートベルトの状況表示をただちに消すことができます。

- ▶ ステアリングの **OK** または **↔** スイッチを押します。

- i** 後席シートベルトの状況表示は、特定の国にのみ装備されます。

シートベルトテンショナー / ベルトフォースリミッター

⚠ 警告

シートベルトテンショナーが作動したときは、他の事故が発生したときに追加の保護効果を発揮することができません。そのため、作動したシートベルトテンショナーはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

シートベルトテンショナーを廃棄するときは、廃棄規則を守ってください。この規則について、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

- !** 助手席に乗車していないときは、シートベルトのプレートバックルに差し込まないでください。さもないと、事故のときに、シートベルトテンショナーが作動することがあります。

フロントシートベルトにはシートベルトテンショナーとベルトフォースリミッターが装備されています。後席左右のシートベルトにはシートベルトテンショナーが装備されています。

シートベルトテンショナーは、事故のときにシートベルトを引き込み、乗員の身体を密着させます。

シートベルトテンショナーは、不適切なシート位置や、正しく着用されていないシートベルトを補正することはできません。

シートベルトテンショナーは、バックレストに乗員の身体を引き寄せるためのものではありません。

ベルトフォースリミッターが作動すると、衝突時に巻き上げたベルトの拘束力を緩め、乗員の身体を加わる負担を軽減します。

フロントのベルトフォースリミッターは、フロントエアバッグと連動し、減速力の一部を吸収します。乗員の身体にかかる力を広い範囲に分散させます。

シートベルトテンショナーは、以下のときに作動します。

- イグニッション位置が **2** のとき
- SRS に異常がないとき (▷33 ページ)

- フロントのシートベルトテンショナーは、それぞれのシートベルトがバックルに正しく差し込まれているとき

後席左右のシートベルトテンショナーは、シートベルトの着用とは独立して作動します。

シートベルトテンショナーは、事故の状況や衝撃の強さが以下のようなときに作動します。

- 前方または後方からの衝突の際に、衝突の初期段階で車両の縦方向に高い度合いの車両の減速度または加速度を伴うとき
- 側面衝突の際に、衝突の初期段階で車両の横方向に高い度合いの車両の減速度または加速度を伴うとき

エアバッグが作動したときは、作動音が聞こえ、白煙が発生します。ごくまめに作動音が聴力に影響することがあります。発生した白煙は人体への影響はありません。SRS 警告灯  が点灯します。

子供を乗せるとき

チャイルドセーフティシート

重要な安全上の注意

警告

急な進路変更時や急ブレーキ時、衝突時などに、子供が重大な、または致命的なけがをすることを防ぐため、以下の点に注意してください。

- 身長 150cm 未満かつ 12 歳未満の子供は、常に適切なシートに装着したチャイルドセーフティシートに乗せて身体を固定してください。シートベルトは子供向けに設計されていないため、チャイルドセーフティシートが必要です。
- 身長 150cm 未満かつ 12 歳未満の子供は、助手席に乗車させないでください。ただし、助手席シートにチャイルドセーフティシート検知システムを装備している車両で、チャイルドシート検知システム用トランスポンダーを内蔵したチャイルドセーフティシートに子供の身体を固定している場合を除きます。
- 助手席にチャイルドセーフティシートを装着するときは、助手席シートをできるだけ後方に動かしてください。
- 絶対に子供を他の乗員のひざの上に乗せて走行しないでください。急な進路変更時や急ブレーキ時、衝突時などに子供を保護することができません。子供が車内の部品にぶつかり重大な、または致命的なけがをされるおそれがあります。

 警告

チャイルドセーフティシートは、適切なシートに正しく装着しないと、保護機能を発揮できません。衝突時や急ブレーキ時、急な進路変更時に子供の身体が保護されません。子供が重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。この理由により、チャイルドセーフティシートを装着するときは、製品に付属の取扱説明書の指示およびチャイルドセーフティシートの正しい使用方法に従ってください。

チャイルドセーフティシートは後席に装着してください。子供の安全性が高くなります。

チャイルドセーフティシートの底面全体がシートクッションに接していなければなりません。そのため、チャイルドセーフティシートの下にクッションなどを置かないでください。

チャイルドセーフティシートのクッションカバーは、このシートの専用のみを使用してください。損傷したカバーは、メルセデス・ベンツ純正品のみと交換してください。

車両のためにメルセデス・ベンツにより承認されたチャイルドセーフティシートのみを使用することをお勧めします。

 警告

子供をチャイルドセーフティシートに乗車させている場合でも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。車内の部品でけがをするおそれがあります。また、車内が高温または低温になると重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。

チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。炎天下では車内に置いたチャイルドセーフティシートが高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。

子供が誤ってドアを開くと、子供や周りの人がけがをするおそれがあります。子供が車外に出てけがをしたり、車にはねられるおそれがあります。

ホールド機能の注意事項にも従ってください。関連情報はさくいんで見つけることができます。

 警告

固定されていないかたたり適切な位置に置かれていない荷物は、以下のような場合に子供と他の乗員すべてがけがをする危険性を増加させます。

- 事故のとき
- 急ブレーキ時
- 急な進路変更時

確実に固定できない限り、車内には重い物や硬い物は積まないでください。詳しい情報は、さくいんの "積載のガイドライン" で見つけることができます。

子供を乗車させるときは、子供の体格や年齢、体重に合ったメルセデス・ベンツ純正チャイルドセーフティシートを使用して、身体を固定してください。チャイルドセーフティシートは後席の適切な位置に装着してください。インテグレートッドチャイルドシートにより子供の身体を固定することもできます (▷53 ページ)。走行している間は、子供の身体がチャイルドセーフティシートに固定されていることを確認してください。

メルセデス・ベンツでは、一覧表に示されたチャイルドセーフティシートのみを使用することをお勧めします (▷62 ページ)。

適切なチャイルドセーフティシートについての詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

i チャイルドセーフティシートの清掃は、メルセデス・ベンツ純正カーケア用品の使用をお勧めします。これに関する詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

助手席へのチャイルドセーフティシートの装着

警告

助手席エアバッグが無効にならない場合。

- 助手席エアバッグが作動すると、助手席に装着したチャイルドセーフティシートに乗車した子供が重大な、または致命的なけがをすることがあります。これは子供が助手席エアバッグの近くに着座して作動した場合に特に危険性が高まります。
- 絶対に後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを助手席に装着して、子供を乗車させないでください。後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートは、後席の適切な位置にのみ装着してください。
- 前向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを助手席に装着して、子供を乗車させるときは、必ず助手席シートを最後方の位置にしてください。

以下の場合、助手席エアバッグが無効になりません。

- 助手席シートにチャイルドセーフティシート検知システムを装備していない車両の場合
- 助手席シートにチャイルドセーフティシート検知システムを装備している車両では、チャイルドシート検知システム用トランスポンダーを内蔵していないチャイルドセーフティシートを助手席シートに装着した場合

- 助手席シートにチャイルドセーフティシート検知システムを装備している車両では、助手席エアバッグオフ表示灯  が点灯しない場合

チャイルドセーフティシートに関する注意事項を記載したステッカーが、ダッシュボードと助手席側サンバイザーの両面に貼付されています。

推奨されたチャイルドセーフティシートについての情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。



助手席サンバイザーに貼付された警告ステッカー



チャイルドセーフティシートを後ろ向きに装着することを禁止する警告ステッカー

後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを、助手席シートに装着して使用しないでください。

チャイルドセーフティシート検知システム

警告

チャイルドセーフティシート検知システムに対応したチャイルドセーフティシートを装着しても、助手席エアバッグオフ表示灯  が点灯しないときは、助手席エアバッグは無効になりません。助手席エアバッグが作動すると、子供が重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。

以下に注意してください。

- 後ろ向きで使用するタイプのチャイルドセーフティシートを助手席シートに装着しないでください。
- 後ろ向きで使用するタイプのチャイルドセーフティシートは後席の適切な位置に装着してください。

または

- 前向きで使用するタイプのチャイルドセーフティシートを助手席シートに装着し、助手席シートを最後方の位置に動かしてください。
- メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、チャイルドセーフティシート検知システムの点検を受けてください。

チャイルドセーフティシート検知システムの機能と信号の送受信が正しく行なわれるように、チャイルドセーフティシートの下にクッションなどを置かないでください。チャイルドセーフティシートの底面全体がシートクッションに接するようにしてください。不適切に装着されたチャイルドセーフティシートでは、事故のときに保護機能を発揮することができなくなり、けがをするおそれがあります。

⚠ 警告

助手席シートには、以下のような電子機器を置かないでください。

- 電源の入ったノートパソコン
- 携帯電話
- 磁気カードやICカード

電子機器からの信号がチャイルドセーフティシート検知システムに干渉することがあります。これはシステムの誤作動につながります。これにより、チャイルドセーフティシート検知システム用のトランスポンダーを装備したチャイルドセーフティシートを装着していない状態で助手席エアバッグオフ表示灯  が点灯することがあります。事故のときに助手席エアバッグが作動しません。また、イグニッション位置を **2** にしたときに、SRS 警告灯  が点灯するか、SRS 警告灯  が点灯し、助手席エアバッグオフ表示灯  が短時間点灯しないことがあります。



助手席シートにチャイルドセーフティシート検知システム¹が装備されていない場合は、専用のステッカーにより確認できます。ステッカーは、助手席側ダッシュボードの側面に貼付されています。助手席ドアを開くと、このステッカーが確認できます。



助手席に装備されたチャイルドセーフティシート検知システムは、チャイルドシート検知システム用トランスポンダーを内蔵したチャイルドセーフティシートが助手席に装着されているか検知します。この場合は、助手席エアバッグオフ表示灯  ① が点灯します。助手席エアバッグが無効になります。

1: チャイルドセーフティシート検知システム非装備車：イグニッション位置を **2** にすると、助手席エアバッグオフ表示灯  が短時間点灯しますが、機能はありません。助手席シートにチャイルドセーフティシート検知システム対応のシートが装着されていることを示していません。

i チャイルドセーフティシート検知システムにより助手席エアバッグが無効になっていても、助手席の以下の装置は作動します。

- サイドバッグ
- ウインドウバッグ
- シートベルトテンショナー

ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置

警告

ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置を使用してチャイルドセーフティシートを装着した場合、体重約 22kg 以上の子供には十分な保護機能を発揮することができません。この理由により、体重約 22kg 以上の子供は、ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置で装着されたチャイルドセーフティシートには乗車させないでください。体重約 22kg 以上の子供を乗車させるときは、チャイルドセーフティシートを 3 点式シートベルトで装着してください。

警告

チャイルドセーフティシートは、適切なシートに正しく装着しないと、保護機能を発揮できません。衝突時や急ブレーキ時、急な進路変更時に子供の身体が保護されません。子供が重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。この理由により、チャイルドセーフティシートを装着するときは、製品に付属の取扱説明書の指示およびチャイルドセーフティシートの正しい使用方法に従ってください。

安全上の理由により、チャイルドセーフティシートは必ず後席の ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートに装着してください。

メルセデス・ベンツ向けに推奨された ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートの使用をお勧めします。

正しく装着されていないチャイルドセーフティシートは外れるおそれがあり、子供や他の方が重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。チャイルドセーフティシートを装着したときは、必ず左右の固定装置に確実に装着されていることを確認してください。

⚠ 警告

チャイルドセーフティシートや固定装置が事故で損傷したり強い負荷を受けた場合は、保護機能を発揮できなくなるおそれがあります。その結果、衝突時や急ブレーキ時、急な進路変更時に子供が重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。

この理由により、事故で損傷したり強い負荷を受けたチャイルドセーフティシートや固定装置は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! チャイルドセーフティシートを装着するときは、中央後席のシートベルトを挟み込んでいないことを確認してください。さもないと、シートベルトを損傷するおそれがあります。

ISOFIX は、専用のチャイルドセーフティシートを後席に装着するための標準規格化された固定方式です。左右の後席には、ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート用を装着できる 2 組の固定装置が装備されています。



① ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置

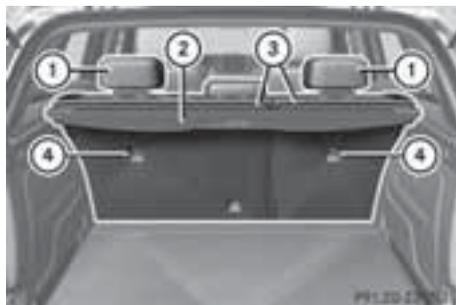
▶ ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートを装着します。ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートを装着するときは、製品に付属の取扱説明書の指示に従ってください。

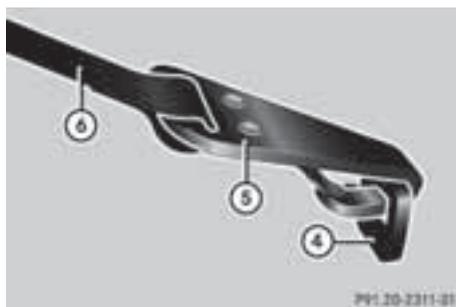
テザーアンカー**⚠ 警告**

後席のバックレストが完全にロックされていることを確認してください。左右のロックインジケータが見えないときは、後席のバックレストはロックされています。後席のバックレストがロックされていないと、事故のときにラゲッジルームの荷物が前方に投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

テザーアンカーは、ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートと後席を接続するための補助的な固定装置です。この装置は、けがの危険性をさらに低減します。

テザーアンカーは後席バックレストの背面にあります。





- ▶ ヘッドレスト ① を上げます。
- ▶ 後席バックレスト ③ のロックを解除し、前方に倒します。
- ▶ テザーベルト ⑥ をヘッドレスト ① の2本の支柱の間に通します。
- ▶ テザーベルト ⑥ のフック ⑤ をテザーアンカー ④ にかけます。

以下のことを確認してください。

- 図のように、フック ⑤ がテザーアンカー ④ にかかっていること
 - テザーベルト ⑥ がねじれていないこと
 - ラゲッジルームカバー ② が取り付けられているときは、テザーベルト ⑥ がバックレスト ③ とラゲッジルームカバー ② の間を通っていること
- ▶ 後席バックレスト ③ を後方に押しつけてロックします。
- ロックインジケータが見えなくなります。
- ▶ 必要であれば、ヘッドレスト ① を少し下げます。テザーベルト ⑥ の動きを妨げていないことを確認します。

- ▶ テザーアンカーを使用して、ISOFIX対応チャイルドセーフティシートを装着します。装着時はチャイルドセーフティシートに付属の取扱説明書の指示に従ってください。テザーベルト ⑥ に緩みがないことを確認します。

チャイルドセーフティシート検知システムのトラブル

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
<p>センターコンソールの助手席エアバッグオフ表示灯  が点灯している。</p>	<p>助手席にチャイルドシート検知システム用トランスポンダーを内蔵した純正チャイルドセーフティシートが装着されているため、助手席エアバッグが解除されている。</p> <p>⚠ けがのおそれがあります</p> <p>助手席にチャイルドセーフティシートが装着されていない場合は、チャイルドセーフティシート検知システムが故障している。</p> <p>このときは、イグニッション位置を 2 にしたときに、SRS 警告灯  が点灯したり、SRS 警告灯  が点灯し、助手席エアバッグオフ表示灯  が短時間点灯しない。</p> <p>▶ 助手席シートに以下のものを置いているときは取り除いてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ノートパソコン • 携帯電話 • 磁気カードや IC カード <p>助手席エアバッグオフ表示灯  が点灯し続けているとき：</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場 で点検を受けてください。</p>

インテグレートッドチャイルドシート (ICS)

重要な安全上の注意

警告

急な進路変更時やブレーキ時、衝突時などに子供が致命的なけがををするのを防ぐため、以下の点に注意してください。

- インテグレートッドチャイルドシート (ICS) パッド付きプレイテールおよびサイドヘッドレストを装着するとき、およびシートベルトを着用するとき、チャイルドセーフティシートのメーカーの装着指示に従ってください。

- インテグレートッドチャイルドシート、ICS パッド付きプレイテールまたはサイドヘッドレストを改造しないでください。保護カバーを使用しないでください。
- ICS パッド付きプレイテールおよびサイドヘッドレストが挟まったり、または損傷していないことを確認してください。これは以下のときに発生します。
 - ドアを閉じるとき
 - シートの調整時
 - ICS パッド入りサポートテーブルやサイドヘッドレストを収納するとき
 - 重い荷物を積んでいるとき

- 損傷したり、事故の間に大きな負荷を受けた場合は、インテグレートッドチャイルドシート、パッド付きプレイテーブルおよびサイドヘッドレストを交換してください。
- 体重約 12.5kg 未満の子供には他のチャイルドセーフティシートが必要であることにご注意ください。他のチャイルドセーフティシートに関する情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。
- 車両の後席バックレストは正しい位置に固定してください。

インテグレートッドチャイルドシートは、右側および左側のリアシートクッションに内蔵されています。以下の表に挙げられている構成部品と組み合わせ、これらは法的要件 ECE R 44.04 に適合しています。

適応体重	インテグレートッドチャイルドシート	ICS パッド入りサポートテーブル	サイドヘッドレスト
グループ I: 12.5 ~ 18 kg	引き出し式	必須	必須
グループ II: 15 ~ 25kg	引き出し式	装着できません	必須
グループ III: 22 ~ 36 kg	引き出し式	装着できません	オプション

約 12.5 ~ 36kg の間の体重の子供には、インテグレートッドチャイルドシートの使用をお勧めします。

約 12.5kg ~ 18kg の間の体重の子供は、インテグレートッドチャイルドシートのために特別に承認された ICS パッド付きプレイテーブルおよびサイドヘッドレストも必ず使用してください。



- ① サイドヘッドレスト
- ② ベルトガイド
- ③ インテグレートッドチャイルドシート
- ④ リリースハンドル

チャイルドシートの引き出し

- ▶ リリースハンドル ④ を手前に引きます。
- ▶ インテグレートッドチャイルドシート ③ を持ち上げ、押し下げてロックさせます。

子供へのシートベルトの着用

警告

急な進路変更時やブレーキ時、衝突時などに子供が重大な、または致命的なけがをする危険性を軽減するため、以下の点に注意してください。

- 肩を通るベルトは子供の肩の中央にかけ、絶対に子供の首や子供の脇の下には通さないでください。腰を通るベルトは子供の骨盤のできるだけ低い位置にかけ、腹部にはかけないでください。さらにベルトを引いて子供の身体に密着させてください。必要であれば、ベルトを再度締め付けてください。
- 1つのチャイルドセーフティシートに同時に2人以上の子供を固定しないでください。
- シートベルトにねじれやひっかかりがなく、鋭利なものに接触しないようにしてください。
- サイドヘッドレストを装着していない場合、子供をインテグレートッドチャイルドシートに座らせて走行するときは、必ずヘッドレストを正しい位置に調整してください。ヘッドレストの中央が目の高さになるように調整すると、後頭部をヘッドレスト中央部で正しく保護することができます。

ICS パッド付きサポートテーブルの装着指示と追加の警告、傷害の危険性に関する情報に従ってください。

- ▶ アンカーからシートベルトを引き出します。
- ▶ シートベルトのプレートをバックルに差し込みます。
- ▶ ICS パッド付きプレイテーブルがない状態でインテグレートッドチャイルドシート③を使用しているときは、シートベルトが以下になっていることを確認してください。
 - 腰ベルトは腰骨のできるだけ低い位置にかけます。
 - 肩ベルトを引き下げて、太腿部分まで斜めにかけます。
 - ベルトを子供の肩の中央にぴったり密着させます。
 - ねじれがなく、子供の首元または子供の腕の下を通過していない
- ▶ 必要であれば、ヘッドレストを調整します (▷99 ページ)。

チャイルドシートの格納



- ▶ リリースハンドル①を手前に引き出します。
- ▶ インテグレートッドチャイルドシートの中央部を手前に引いて押し下げ②、ロックさせます。

インテグレートッドチャイルドシート 用パッド付きテーブル

重要な安全上の注意

警告

ICS パッド付きプレイテーブルを取り付けずにインテグレートッドチャイルドシートを正しく使用しているときは、十分な保護機能が発揮されません。衝突時や急ブレーキ時、急な進路変更時に子供を保護できず、子供が重大な、または致命的なけがをすることがあります。この理由により、ICS パッド付きサポートテーブルを装着するときは、以下の記載を守ってください。

ICS パッド付きサポートテーブルは、インテグレートッドチャイルドシートを引き出した状態で正しく使用できます。

リアシートには、必ずメルセデス・ベンツ車のために推奨されたICSパッド付きサポートテーブルを使用してください。

正しく装着されていないICSパッド付きサポートテーブルは外れるおそれがあり、子供や他の乗員が重大な、または致命的なけがをすることがあります。ICSパッド付きサポートテーブルを装着した後は、確実に固定されているか確認してください。

警告

ICSパッド付きサポートテーブルやインテグレートッドチャイルドシート、またはシートベルトを改造しないでください。ICSパッド付きサポートテーブルのカバーを外して使用しないでください。カバーをICSパッド付きサポートテーブルから取り外したり、他社製のカバーと交換しないでください。さもないと、正式な認証が無効になり、パッド入りサポートテーブルの保護機能が妨げられるおそれがあります。

チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。チャイルドセーフティシートが高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。

警告

急な進路変更時やブレーキ時、衝突時などに子供が致命的なけがをすることを防ぐため、以下の点に注意してください。

- ICSパッド付きプレイテーブルを装着するときは、以下の記載に従ってください。
- ICSパッド付きプレイテーブルを改造しないでください。
- 子供がチャイルドシートに乗車するときは、ヘッドレストの中央が目の高さであり、後頭部がヘッドレスト中央部で正しく保護されるように調整してください。
- 損傷したり、事故の間に大きな負荷を受けたICSパッド付きサポートテーブルは、交換してください。

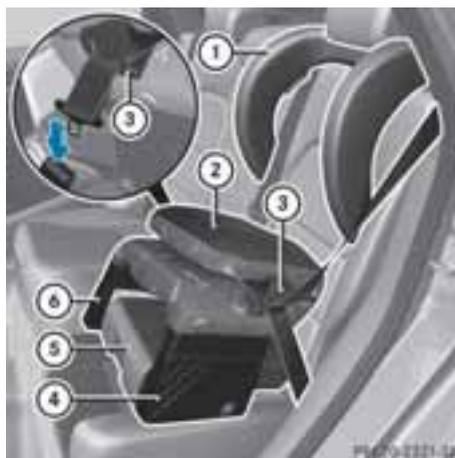
- 2歳未満の子供または体重約12.5kg未満の子供には他のチャイルドセーフティシートが必要であることにご注意ください。他のチャイルドセーフティシートに関する情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! 以下のときは、ICS パッド付きサポートテーブルが挟まったり損傷がないことを確認してください。

- ドアを閉じるとき
- シート調整時
- ICS パッド付きサポートテーブルを収納するとき、または重い荷物を積んでいるとき

ICS パッド付きサポートテーブルを使用するときは、「インテグレートッドチャイルドシート」に記載されている指示に従ってください。

体重約10kgまでの乳児向けベビーシートにICSパッド付きサポートテーブルを直接取り付けられた状態で、インテグレートッドチャイルドシートを使用しないでください。



- ① サイドヘッドレスト
- ② ICS パッド付きサポートテーブル
- ③ シートベルトガイドポイント
- ④ 左側レッグ
- ⑤ インテグレートッドチャイルドシート
- ⑥ 右側レッグ

ICS 付きパッドテーブルの取り付け

- ▶ インテグレートッドチャイルドシート⑤を引き出します(▷54ページ)。
- ▶ 子供をインテグレートッドチャイルドシート⑤に座らせます。
- ▶ 両方のレッグ④および⑥を下方に倒します。
- ▶ ICS パッド付きプレイテーブル②をインテグレートッドチャイルドシート⑤の上に置きます。

⚠ 警告

以下を確認してください。

- ベルトを以下のように着用させます。
- シートベルトにねじれがない
- ICS パッド付きサポートテーブルが、子供の身体の適切な位置に接している
- シートベルトにねじれやひっかかりがなく、鋭利なものに接触していない

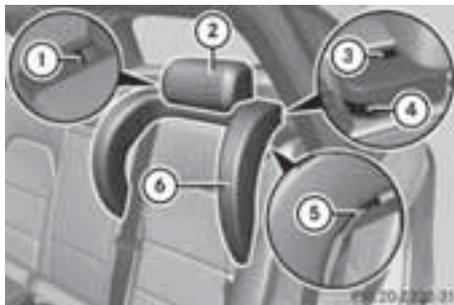
さもないと、事故のときや急ブレーキ時、急な車線変更時に子供を保護できなくなり、子供が重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。

- ▶ アンカーからシートベルトを引き出します。
- ▶ ベルトの下部と上部を左のシートベルトガイドポイント③に取り付けます。
- ▶ ベルトの両部分を右のシートベルトガイドポイント③に沿わせて、取り付けます。
- ▶ シートベルトのプレートをバックルに確実に差し込みます。
- ▶ ICS パッド付きプレイテーブル②を子供の身体に近づけます。
- ▶ シートベルトの両側を引っ張り、密着させます。シートベルトがねじれていないことを確認します。
- ▶ 必要であれば、ヘッドレストを調整します (▷99 ページ)。

インテグレートッドチャイルドシート用サイドヘッドレスト

サイドヘッドレストを使用するときは、取り扱い指示に従ってください (▷53 ページ)。

- ⓘ もう一方のインテグレートッドチャイルドシートにもサイドヘッドレストが必要になった場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。



⚠ 警告

サイドヘッドレストは、専用の固定ポイントに装着しないと、十分な保護機能を発揮することができなくなります。その結果、衝突時、急ブレーキ時、急な進路変更時に子供を保護することができず、子供が重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。

サイドヘッドレストをリアヘッドレストの専用の固定ポイント以外に装着しないでください。

安全上の理由により、車両のためにメルセデス・ベンツにより承認されたサイドヘッドレストのみを使用することをお勧めします。

サイドヘッドレストの取り付け

▶ ヘッドレスト②を引き上げ、垂直にします。

▶ 固定するまで、サイドヘッドレスト⑥を両方のヘッドレストバーの前面から中央部にスライドさせます。

右側のロック確認インジケーター①および左側のロック確認インジケーター③が押し込まれていなければなりません。赤い面が見えなくなります。

▶ サイドヘッドレスト⑥が両方のヘッドレストバーに固定されていることを確認します。

▶ ヘッドレスト②を押し下げ（▷99ページ）、サイドヘッドレスト⑥の上端に載せます。

▶ シートベルトをサイドヘッドレスト⑥のドア側にあるシートベルトガイド⑤に通します。

▶ 子供の身体を固定します（▷55ページ）。

i インテグレートッドチャイルドシートをICSパッド付きサポートテーブルと一緒に使用するときは、シートベルトをサイドヘッドレストのシートベルトガイドに通さないでください。

サイドヘッドレストの取り外し

▶ シートベルトをシートベルトガイド⑤から外します。

▶ ヘッドレスト②を引き上げます。

▶ 左または右の解除ボタン④を押し、サイドヘッドレスト⑥を前方に引いて取り外します。

右側のロック確認インジケーター①および左側のロック確認インジケーター③が少し出ます。

▶ ヘッドレスト②を調整します（▷99ページ）。

パッド付きテーブルとサイドヘッドレストの収納

警告

ICSパッド付きサポートテーブルとサイドヘッドレストは指示通りに確実に固定してください。さもないと、外れるおそれがあります。衝突時や急ブレーキ時、急な進路変更時に、乗員がけがをしたり、車両が損傷する原因になります。

ICSパッド付きサポートテーブルやサイドヘッドレストを使用しないときは、ラゲッジルームなどの適切な場所に収納してください。

タイヤフィット装備車では、サイドヘッドレストをラゲッジフロアボード下の収納スペースに保管することができます（▷280ページ）。

チャイルドセーフティシートの適切な装着位置

下表の記号説明：

- X このカテゴリー（適応体重）の子供には適切でないシート
- U この体重カテゴリーでの使用が承認されたユニバーサルカテゴリーのチャイルドセーフティシートに適合
- UF このカテゴリー（適応体重）に適合する "ユニバーサル" の前向きチャイルドセーフティシートに適合
- L 推奨しているようなチャイルドセーフティシートに適合。以下の表 "推奨チャイルドセーフティシート"（▷62 ページ）をご覧ください。

カテゴリー（適応体重）	シート位置			
	助手席シート	リアシート		
	助手席エアバッグが解除されていない	助手席フロントエアバッグが解除されている ²	左、右	中央
グループ 0： ～ 10kg	X	U ³ , L ³	U, L	U, L
グループ 0+： ～ 13kg	X	U ³ , L ³	U, L	U, L
グループ I： 9 ～ 18kg	U ³ , L ³	U ³ , L ³	U, L	U, L
グループ II： 15 ～ 25kg	U ³ , L ³	U ³ , L ³	U, L	U, L
グループ III： 22 ～ 36kg	U ³ , L ³	U ³ , L ³	U, L	U, L

"ユニバーサル" のチャイルドセーフティシートは、オレンジ色の認証ラベルが目印です。

- 2: チャイルドセーフティシート検知システム装備車：助手席エアバッグが作動しない場合、チャイルドセーフティシート自動検知用トランスポンダー付きの "ユニバーサル" カテゴリーのチャイルドセーフティシートを装着しなければなりません。助手席エアバッグオフ表示灯  が点灯していません。
- 3: 助手席シートを最も後方および最も高い位置に移動し、バックレストをほぼ直角の位置にして、ベルトの高さを最も低い位置に調整します。

* 上記の内容は本国仕様のもので、日本仕様とは異なる場合があります。適切なチャイルドセーフティシートについては、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。



純正チャイルドセーフティシートの認証ラベルの例

下表の記号説明：

- X この体重やサイズのカテゴリーで ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートに適さない ISOFIX のポジション
- IUF この体重カテゴリーでの使用が承認された "ユニバーサル" カテゴリーに属している ISOFIX 対応前向きチャイルドセーフティシートに適合
- IL 推奨しているような ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートに適合。以下の表 "推奨チャイルドセーフティシート" (▷62 ページ) をご覧ください。

ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートの装着のための後席の適合性

カテゴリー (適応体重)	サイズ等級	装着器具タイプ	左右リアシート
キャリーコット	F	ISO/L1	X
	G	ISO/L2	X
0 : ~ 10kg 生後約 6 カ月位まで	E	ISO/R1	IL
0+ : ~ 13kg 生後約 15 カ月位まで	E	ISO/R1	IL
	D	ISO/R2	IL
	C	ISO/R3	IL
I : 9 ~ 18kg 生後約 9 カ月 ~ 4 歳位	D	ISO/R2	IL
	C	ISO/R3	IL
	B	ISO/F2	IUF
	B1	ISO/F2X	IUF
	A	ISO/F3	IUF

* 上記の内容は本国仕様のもので、日本仕様とは異なる場合があります。適切なチャイルドセーフティシートについては、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

推奨チャイルドセーフティシート

チャイルドシート検知システム用トランスポンダーを内蔵しないチャイルドセーフティシートが助手席シートに装着されている場合：

▶ 助手席シートを最後方の位置に動かします。

カテゴリー (適応体重)	メーカー	タイプ	認証番号 (E1 ...)	注文番号 (A 000 ...)	チャイルド セーフティ シート検知 システム
グループ 0： ～ 10kg 生後約 6 カ月 位まで	Britax Römer	ベビーセー フプラス	03 301146 04 301146	970 10 00	対応
グループ 0+： ～ 13kg 生後約 15 カ 月位まで	Britax Römer	ベビーセー フプラス	03 301146 04 301146	970 10 00	対応
グループ I： 9 ～ 18kg 生後約 9 カ月 ～ 4 歳位	Britax Römer	デュオ プラス	03 301133 04 301133	970 11 00	対応
				970 16 00	非対応
グループ II/III： 15 ～ 36kg 約 4 歳～ 12 歳位	Britax Römer	キッド フィックス	04 301198	970 18 00	対応
				970 19 00	非対応

* 上記の内容は本国仕様のもので、日本仕様とは異なる場合があります。適切なチャイルドセーフティシートについては、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

推奨 "ユニバーサル" ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート：

カテゴリー (適応体重)	サイズ 等級	メーカー	タイプ	認証番号 (E1 ...)	注文番号	チャイルド セーフティ シート検知 システム
キャリー コット	F					—
	G					—
グループ 0： ～ 10kg	E					—
グループ 0+： ～ 13kg	E	Britax Römer	ベビー セーフ ISOFIX プラス	04 301146	B6 6 86 8224	非対応
	D					—
	C					—
グループ I： 9 ～ 18kg	D					—
	C					—
	B					
	B1	Britax Römer	デュオ プラス	04 301133	A000 970 11 00	対応
					A000 970 16 00	非対応
A						—

* 上記の内容は本国仕様のもので、日本仕様とは異なる場合があります。適切なチャイルドセーフティシートについては、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

チャイルドブルーロック

重要な安全上の注意

⚠ 警告

子供が後席に乗車するときは、リアドアとリアサイドウィンドウのチャイルドブルーロックを設定してください。さもないと、走行中に子供がリアドアやリアサイドウィンドウを開き、彼らや他の方がけがをするおそれがあります。

⚠ 警告

子供をチャイルドセーフティシートに乗車させている場合でも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。車内の各部に触れてけがをするおそれがあります。車内が高温または低温になると重大な、または致命的な症状を起こすおそれがあります。

チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。炎天下では車内に置いたチャイルドセーフティシートが高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。

子供が誤ってドアを開くと、子供や他の方がけがをするおそれがあります。子供が車外に出ると、けがをしたり、車にはねられるおそれがあります。

ホールド機能についての注意事項を守ってください。関連事項はさくいんで見つけることができます。

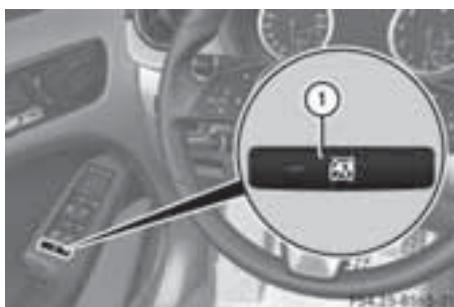
リアドアのチャイルドブルーロックを設定する

リアドアのチャイルドブルーロックは左右独立して設定できます。チャイルドブルーロックが設定されたリアドアは、車内からは開かなくなります。車が解錠されているときは、ドアは車外から開くことができます。



- ▶ **設定する**：レバーを矢印①の方向に上げます。
- ▶ チャイルドブルーロックが確実に設定されていることを確認します。
- ▶ **解除する**：レバーを矢印②の方向に下げます。

リアサイドウィンドウのチャイルドブルーロックを設定する



- ▶ **設定 / 解除する**：スイッチ ① を押します。スイッチ ① の表示灯が点灯 / 消灯します。スイッチの表示灯が点灯しているときは、リアサイドウインドウの操作はできません。操作は運転席ドアのスイッチでのみ可能になります。

走行安全装備

走行安全装備の概要

この章では、以下の走行安全装備に関する情報を記載しています。

- ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）
- BAS（ブレーキアシスト）
- CPA（衝突警告システム）
- アダプティブブレーキライト
- ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）
- EBD（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）
- ステアコントロール

重要な安全上の注意

警告

スピードの出しすぎなどの無謀な運転をすると、事故の危険性が非常に高まります。カーブを走行するときや、濡れた路面または滑りやすい路面を走行するとき、先行車への車間距離が短すぎるときなどは、特に危険です。

本書に記載されている走行安全装備は事故の危険性を低減するものではありません。また、各システムの機能には物理的な限界があります。

この理由により、運転者は常に実際の道路や天候状況に適するように運転スタイルを合わせてください。周囲の交通状況に注意しながら、先行車との十分な車間距離を確保してください。

運転スタイルを合わせなかったり、注意が散漫になると、走行安全装備は事故の危険性を低減できず、物理的法則の限界を超えることもできません。走行安全装備は、運転の補助のために設計された支援のみを行なうシステムです。先行車との距離や車両の速度、適切なブレーキ操作の責任は運転者にあります。常に実際の道路や天候状況に適するように運転スタイルを合わせ、先行車との安全な距離を保ってください。注意して運転してください。

i 走行安全装備は、タイヤが路面を十分にグリップしているときにのみ最大限に効果を発揮します。"ホイールとタイヤ" (▷331 ページ) に記載されている、タイヤや推奨されるタイヤの残り溝の最小値などの注意事項に特に注意してください。

冬の走行状況では、必ずウィンタータイヤ (M+S タイヤ) を装着し、必要であればスノーチェーンを使用してください。このようにすることによってのみ、本書に記載されている走行安全装備の効果を十分に発揮させることができます。

ABS (アンチロック・ブレーキング・システム)

重要な安全上の注意

警告

ABS に異常があるときは、ブレーキ時に車輪がロックすることがあります。これにより、ステアリングでの操縦性およびブレーキ性能が著しく損なわれ、制動距離が長くなります。

故障により ABS が解除されたときは、BAS と ESP® も解除されます。特定の状況で横滑りや事故を起こす危険性が高まります。

運転者は常に実際の道路や天候状況に適するように運転スタイルを合わせてください。

ABS は、ブレーキ圧をコントロールすることによりブレーキ時の車輪のロックを防ぐ装置です。これにより、ブレーキを効かせながら、ステアリング操作を続けることができます。

ABS は路面の状況に関わらず、走行速度が約 8km/h を超えると作動可能になります。滑りやすい路面では、軽くブレーキペダルを踏み込んだだけでも ABS は作動します。

イグニッション位置を 1 か 2 にすると、ABS 警告灯  が点灯します。エンジンを始動すると消灯します。

i "重要な安全上の注意" をご覧ください (▷65 ページ)

ブレーキ操作をする

警告

ブレーキ操作をするときは、ポンピングブレーキを行なわないでください。ポンピングブレーキを行なうと、制動距離が長くなります。車を停止しきれなくなり、事故を起こすおそれがあります。ブレーキペダルはスムーズにしっかりと踏み込んでください。

- ▶ **ABS が作動したとき**：必要なだけ、そのままブレーキペダルを踏み続けてください。
- ▶ **強い制動力が必要なとき**：ブレーキペダルをいっぱいまで踏み込んでください。

ABS が作動すると、ブレーキペダルに脈動を感じることがあります。

ブレーキペダルの振動は路面状況が危険であることを知らせるものであり、より慎重に運転することを促す機能を果たします。

BAS

 警告

BASに異常があるときでも、ブレーキシステムは最大限の制動能力を確保します。しかしながら、緊急ブレーキ時には自動的に制動力を高められないため、制動距離が長くなるおそれがあります。

- ▶ 緊急ブレーキの状況が解消されるまで、ブレーキペダルをいっぱいまで踏み込みます。ABSが車輪のロックを防ぎます。

BAS（ブレーキアシスト）は、緊急ブレーキ時に作動します。ブレーキペダルを素早く踏み込むと、BASは自動的に制動力を高めて制動距離を短縮します。

ブレーキペダルから足を放すと、ブレーキは通常の状態に戻ります。BASの機能は解除されます。

- **i** "重要な安全上の注意" をご覧ください (▷65 ページ)

CPA（衝突警告システム）

全体的な注意事項

CPA（衝突警告システム）は、アダプティブブレーキアシストと車間距離警告から構成され、以下のような特徴があります。

車間距離警告

 警告

車間距離警告は常に障害物と複雑な交通状況を明確に認識できるわけではありません。

このようなとき、車間距離警告は以下のようになります。

- 不必要な警告を行なう場合があります
- 警告を行なわない場合があります

事故の危険性があります。常に交通状況に注意して、特に車間距離警告が警告を行なったときは、いつでもブレーキ操作が行なえるようにしてください。

 警告

車間距離警告は以下のものには反応しません。

- 人間や動物
- 対向車
- 横切る車
- カーブを走行しているとき

車間距離警告は、危険な状況をすべて検知することはできません。事故の危険性があります。常に交通状況に注意を払い、いつでもブレーキ操作が行なえるようにしてください。

- ▶ **システムを設定する / 解除する** : マルチファンクションディスプレイにより、車間距離警告の設定と解除を行ないます (▷229 ページ)。

車間距離警告を設定すると、ホールド機能を作動させていないときは、マルチファンクションディスプレイにが表示されます。アクティブパーキングアシスト装備車では、シフトポジションがPになっているか、約35km/h以上の速度で走行しているときにが表示されます。

車間距離警告は、車両前方における追突の危険性を減少させたり、衝突時の衝撃を軽減する働きをします。車間距離警告が衝突の危険を検知したときは、視覚的および聴覚的な警告が行なわれます。車間距離警告は、運転者の操作がなければ衝突を防ぐことはできません。

車間距離警告は、約30km/h以上の速度で走行しているとき、または以下のときに警告を行ないます。

- 前方を走行している車両との車間距離が走行速度に対して非常に短い状態で数秒間走行したとき。メーターパネルの車間距離警告灯が点灯します。
- 前方を走行している車両に急速に接近しているとき。断続的な警告音が鳴り、メーターパネルの車間距離警告灯が点灯します。
- ▶ 前方の車両との車間距離を増やすため、ただちにブレーキを効かせてください。

または

- ▶ 安全な状況であれば、回避操作を行なってください。

走行中に車間距離警告が警告を行なえるよう、マルチファンクションディスプレイ（▶229ページ）でこの機能を常に設定し、作動させておいてください。

システムの動作環境により、システムが運転状況に不必要な警告を行なうことがあります。レーダーセンサーシステムの補助により、車間距離警告は、一定時間自車の前方にある障害物を検知することができます。

約70km/hまでの速度では、車間距離警告は停車または駐車している車両など、静止している障害物も検知できます。

障害物に急激に接近していて、車間距離警告が衝突の危険性を検知したときは、システムは視覚的および聴覚的な警告を両方行ないます。

以下のときは、障害物の検知が行なわれないことがあります。

- センサーが汚れているとき、またはセンサーが付着物により覆われているとき
- 雪や激しい雨が降っているとき
- 他の電波の発生源と干渉しているとき
- 自走式タワー駐車場の内部など、電波の強い反射が起きているとき
- オートバイなどの幅の狭い車両が前方を走っているとき
- 前方を走行している車両の位置が右または左にずれているとき

車の前後を損傷したときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で初期設定とレーダーセンサーの作動の点検を行なってください。低速で衝突し、車の前部に外観上の損傷がないときも、このことに該当します。

i "重要な安全上の注意" をご覧ください (▷65 ページ)

アダプティブブレーキアシスト

警告

アダプティブブレーキアシストは、常に障害物と複雑な交通状況を明確に認識できるわけではありません。このようなとき、アダプティブブレーキアシストは作動しない場合があります。

事故の危険性があります。常に交通状況に注意して、いつでもブレーキ操作が行なえるようにしてください。

警告

アダプティブブレーキアシストは以下のものには反応しません。

- 人間や動物
- 対向車
- 横切る車
- 静止した障害物
- カーブを走行しているとき

結果として、アダプティブブレーキアシストは危険な状況をすべて検知することはできません。事故の危険性があります。常に交通状況に注意して、いつでもブレーキ操作が行なえるようにしてください。

アダプティブブレーキアシストは、レーダーセンサーシステムを使用して交通状況を評価し、約 30km/h 以上の速度で危険な状況が起きたときにブレーキ操作を援助します。

アダプティブブレーキアシストの補助により、車間距離警告は、一定時間自車の前方にある障害物を検知することができます。

障害物に接近していて、アダプティブブレーキアシストが衝突の危険を検知したとき、アダプティブブレーキアシストは追突を防ぐために必要な制動力を算出します。ブレーキを強く効かせたときは、アダプティブブレーキアシストは交通状況に合わせて自動的に制動圧力を上げます。

▶ 緊急ブレーキの必要性がなくなるまでブレーキペダルを踏み続けます。

ABS が車輪のロックを防ぎます。

以下のときは、ブレーキは再度通常通り作動するようになります。

- ブレーキペダルから足を放したとき
- 追突の危険性がなくなったとき
- 車両前方に障害物が検知されなくなったとき

その後、アダプティブブレーキアシストは解除されます。

PRE-SAFE® 装備車：アダプティブブレーキアシストが特に高いブレーキ圧を必要とする場合は、PRE-SAFE® が同時に待機状態になります。

約 250km/h の走行速度までは、アダプティブブレーキアシストはモニターしている間に少なくとも一回以上認識された動く障害物に反応することができます。アダプティブブレーキアシストは、静止した障害物には反応しません。

レーダーセンサーシステムの故障によりアダプティブブレーキアシストが作動しないときも、ブレーキシステムは最大限の制動能力を確保し、BAS も作動します。

以下のときは、障害物の検知が行なわれないことがあります。

- センサーが汚れているとき、またはセンサーが付着物により覆われているとき
- 雪や激しい雨が降っているとき
- 他の電波の発生源と干渉しているとき
- 自走式タワー駐車場の内部など、電波の強い反射が起きているとき
- オートバイなどの幅の狭い車両が前方を走っているとき
- 前方を走行している車両の位置が右または左にずれているとき

車の前後を損傷したときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にて初期設定とレーダーセンサーの作動の点検を行なってください。低速で衝突し、車の前部に外観上の損傷がないときも、このことに該当します。

i "重要な安全上の注意" をご覧ください (▷65 ページ)

アダプティブブレーキライト

約 50km/h 以上の速度で走行中に急ブレーキを効かせたとき、またはブレーキ操作中に BAS やアダプティブブレーキアシストが作動したときは、ブレーキライトが素早く点滅します。このように、後続車により目立つ方法で警告が行なえます。

約 70km/h 以上からの急ブレーキにより停車したときは、非常点滅灯が自動的に点滅します。ブレーキペダルを再度踏み込むと、ブレーキライトは点灯し続けます。非常点滅灯は、走行速度が約 10km/h 以上になると自動的に消灯します。非常点滅灯スイッチ (▷113 ページ) を押すことにより、非常点滅灯を消灯することもできます。

i アダプティブブレーキライトは特定の国にのみ装備されています。

ESP® (エレクトロニック・スタビリティ・プログラム)

重要な安全上の注意

警告

ESP® が作動したときは、以下のようになしてください。

- 状況を問わず、ESP® の機能を解除しないでください。
- 発進するときは、アクセルペダルを必要な分だけ踏んでください。
- 実際の道路と天候状況に運転スタイルを合わせてください。

さもないと、車が横滑りするおそれがあります。

速度が速すぎる場合は、ESP® は事故の危険性を軽減することができません。ESP® は、物理的な法則を越えることはできません。

! 以下のときはイグニッション位置を **0** か **1** にしてください。

- ブレーキダイナモを使用して電気式パーキングブレーキを点検するとき
- 前輪または後輪を上げてけん引されるとき

ESP® によるブレーキの作動により、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

ESP® は、車の走行ラインが運転者の望む進行方向から外れていると判断すると、1本または複数のタイヤにブレーキを効かせ、車の走行姿勢を安定させます。必要であれば、エンジン出力を調整して、物理的な限界内で運転者の望む方向に車の向きを保つように作動します。ESP® は、濡れた路面や滑りやすい路面での発進操作をアシストします。また、ESP® はブレーキ時の車の姿勢も安定させることができます。

ESP® が作動すると、メーターパネル内の ESP® 表示灯  が点滅します。

i "重要な安全上の注意" をご覧ください (▷65 ページ)

i 指定されたサイズのタイヤのみを装着してください。この場合にのみ、ESP® は正しく作動します。

トラクションコントロール

トラクションコントロールは ESP® の一部です。

トラクションコントロールは、空転した駆動輪に個別にブレーキを効かせます。これにより駆動輪の空転を防ぎ、片側が滑りやすい路面などで発進や加速を可能にします。

ESP® の機能を解除しても、トラクションコントロールは作動します。

i "重要な安全上の注意" をご覧ください (▷65 ページ)

ESP® の機能の設定 / 解除

警告

エンジンがかかっているときにメーターパネルの ESP® オフ表示灯  が点灯しているときは、ESP® が解除されています。

ESP® 表示灯  と ESP® オフ表示灯  が点灯しているときは、故障により、ESP® の機能が解除されています。

特定の状況では、車両が横滑りする危険性が高まります。

そのときの道路や天候の状況に運転スタイルを合わせてください。

エンジンを始動したとき、ESP® は常に待機状態になります。

ESP® の機能を解除しているときに1本または複数のタイヤが空転したときは、メーターパネルの ESP® 表示灯  が点滅します。この状況では ESP® は車両の制御を行いません。

- ▶ **解除する**：(▷229 ページ) ご覧ください。

メーターパネルの ESP® オフ表示灯  が点灯します。

- ▶ **待機状態にする**：(▷229 ページ) ご覧ください。

メーターパネルの ESP® オフ表示灯  が消灯します。

以下の状況では、ESP® の機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

- スノーチェーンを装着して走行するとき
- 深い雪の上を走行するとき
- 砂や砂利の上を走行するとき

警告

上記の状況が解消されたときは、すみやかに ESP® を待機状態にしてください。車が横滑りをしたり、車輪が空転しても、ESP® は車両の制御を行いません。

ESP® の機能を解除すると、以下のようになります。

- ESP® は作動せず、走行安定性を高められなくなります。
- エンジン出力の制御は行なわれず、駆動輪が空転することがあります。車輪の空転により地面を掘ることので、より強い駆動力が得られる場合があります。
- トラクションコントロールシステムは引き続き作動します。

- ブレーキを効かせたときは ESP® は自動的に作動します。

i ECO スタート / ストップ装備車は、作動条件が揃っている場合は車両が停止したときに自動的にエンジンを停止し、発進時には再始動します。このとき、ESP® はエンジン停止前の状態が維持されます。例えば、ECO スタート / ストップによりエンジンが停止する前に ESP® の機能を解除していたときは、再始動しても ESP® の機能は解除されずのままになります。

i "重要な安全上の注意" をご覧ください (▷65 ページ)

EBD

警告

EBD に異常があるときでも、ブレーキシステムは最大限の制動能力を発揮します。しかし、急ブレーキ時などには後輪がロックします。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。変化した車両操縦性に対して運転スタイルを合わせなければなりません。

EBD は、後輪のブレーキ圧を検知して制御を行ない、ブレーキ時の走行安定性を高めます。

i "重要な安全上の注意" をご覧ください (▷65 ページ)

アダプティブブレーキ

アダプティブブレーキは、ブレーキ時の利便性と安全性を高めるシステムです。アダプティブブレーキには、ホールド機能(▷191 ページ)とヒルスタートアシスト(▷149 ページ)も含まれます。詳しい情報については"走行時の注意"をご覧ください(▷169 ページ)。

ステアコントロール

⚠ 警告

ESP® が故障している場合は、ステアコントロールによるステアリング補助は得られません。しかし、パワーステアリングは作動し続けます。

ステアコントロールは、車両の走行姿勢を安定させるのに必要な向きの操舵力をステアリングに伝達し、運転者が適切な回避操作が行なえるようステアリング操作を補助する機能です。

このステアリング補助機能は、特に以下のような状況で作動します。

- ブレーキを効かせたときに、右側または左側の前後車輪が濡れた路面または滑りやすい路面にあるとき
- 車がスリップをし始めたとき

運転者は常にステアリングを制御する必要があります。

盗難防止システム

イモビライザー

- ▶ **待機状態にする**：エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ **解除する**：イグニッション位置を **1** か **2** にします。

イモビライザーは、正規のキー以外ではエンジンを始動させない盗難防止装置です。

- ▶ **i** イモビライザーは、エンジンを始動すると解除されます。

盗難防止警報システム



- ▶ **待機状態にする**：リモコン操作で車を施錠します。
表示灯 ① が点滅します。警報システムが約 15 秒後に待機状態になります。
- ▶ **解除する**：リモコン操作で車を解錠します。
- ▶ **警報を停止する**：エンジンスイッチにキーを差し込みます。
警報が停止します。

または

- ▶ キーの  ボタンまたは  ボタンを押します。

警報が停止します。

システムが待機状態にあるときに以下の部分を開くと、サイレンが鳴り、非常点滅灯が点滅します。

- ドア
- エマージェンシーキーによる車の解錠
- テールゲート
- ボンネット

たとえば、ドアを開いて警報が作動したときは、そのドアをすぐに閉じてても警報は解除されません。

けん引防止機能

けん引防止機能が待機状態のときに車両の傾きを検知すると、サイレンが鳴り非常点滅灯が点滅します。たとえば、ジャッキアップなどにより車両の片側が持ち上げられたときに警報が作動します。

待機状態にする：

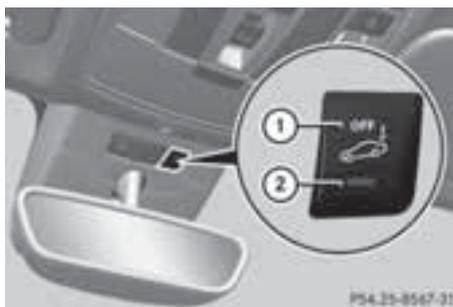
- ▶ リモコン操作で車を施錠します。

けん引防止機能が約 30 秒後に待機状態になります。

解除する：

- ▶ リモコン操作で車を解錠します。

けん引防止機能は自動的に解除されます。



けん引防止機能の解除：

- ▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ スイッチ ① を押します。
表示灯 ② が数秒間点灯します。
- ▶ リモコン操作で車を施錠します。
けん引防止機能が解除されます。

けん引防止機能は、以下の操作を行なうまで解除されます。

- 車を再度解錠する
- ドアを再度開いて閉じる
- 車を再度施錠する

誤作動を防止するため、以下のような状況で車を施錠する場合は、けん引防止機能を解除してください。

- 運搬されるとき
- フェリーや車両運搬車などに積載されるとき
- 機械式駐車場などに駐車するとき

室内センサー

室内センサーを待機状態にしたときは、車内で物体の動きを検知すると、サイレンが鳴り、非常点滅灯が点滅します。たとえば、車内に人が侵入したときなどに警報が作動します。

待機状態にする：

- ▶ 以下を確認します。
 - サイドウィンドウが完全に閉じていること
 - パノラミックスライディングルーフが閉じていること
- ▶ リモコン操作で車を施錠します。

室内センサーが約 30 秒後に待機状態になります。

解除する：

- ▶ リモコン操作で車を解錠します。

室内センサーは自動的に解除されます。



室内センサーの解除：

- ▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ スイッチ ① を押します。

表示灯 ② が数秒間点灯します。

- ▶ リモコン操作で車を施錠します。

室内センサーが解除されます。

室内センサーは、以下の操作を行なうまで解除されます。

- 車を再度解錠する
- ドアを再度開いて閉じる
- 車を再度施錠する

誤作動を防止するため、以下のような状況で車を施錠する場合は、室内センサーを解除してください。

- 車内に人や動物が残るとき
- サイドウィンドウを少し開いた状態にしておくと
- パノラミックスライディングルーフを少し開いた状態にしておくと

役に立つ情報	78
キー	78
ドア	83
ラゲッジルーム	85
サイドウィンドウ	87
パノラミックスライディンググループ	90

役に立つ情報

i この取扱説明書では、本書の発行時点で車両に装着可能な、すべての標準およびオプション装備について記載しています。ただし、国により仕様が異なるため、本書に記載されているすべての機能が、お客様の車両に当てはまらない場合があることにご留意ください。このことは、安全に関する装備や機能にも当てはまります。

キー

重要な安全上の注意

⚠ 警告

子供だけを車内に残した場合は、彼らは以下を行なうおそれがあります。

- 施錠されていても、車内からドアを開く
- 車内に残されたキーを使用して車両を始動する
- パーキングブレーキを解除する

それにより、彼ら自身および他の方が危険にさらされるおそれがあります。子供だけを車内に残して車から離れないでください。ごく短時間離れる場合でも、車両から離れるときは常にキーを携帯してください。

⚠ 警告

エンジンスイッチに差し込んであるキーに、重い、または大きなアクセサリを取り付けしないでください。アクセサリが重すぎたり、大きすぎる場合は、重量によりエンジンスイッチでキーがまわることにつながったり、ステアリングにひっかかるおそれがあります。これにより、エンジンが突然停止することにつながります。車両のコントロールを失ったり、事故につながるおそれがあります。

強い電磁波を発生させる物の近くでキーを使用しないでください。さもないと、リモコン機能に影響を及ぼすおそれがあります。

キーを以下に近付けないでください。

- 携帯電話または他のキーなどの電子機器
- 硬貨やアルミホイールなどの金属類

キーの機能



- ① 車両を施錠する
 ② 車両を解錠する

▶ 集中して解錠する： スイッチを押します。

解錠から約 40 秒以内に車両を開かない場合は、以下になります。

- 車両が再度施錠されます。
- 盗難防止警報システムが再度待機状態になります。

▶ **集中して施錠する**： スイッチを押します。

キーで以下の全ての解錠 / 施錠ができます。

- ドア
- テールゲート
- 燃料給油フラップ

解錠したときは、非常点滅灯が 1 回点滅します。

施錠したときは、それらが 3 回点滅します。

マルチファンクションディスプレイで作動させている場合は、暗いときは周囲のライトも点灯します (▷234 ページ)。

車両が施錠されたことを確認するための確認音を設定することもできます。確認音は、マルチファンクションディスプレイを使用して作動または解除させることができます (▷235 ページ)。

ロックングシステムの設定の変更

▶ **設定を変更する**：キーのバッテリーチェックランプが 2 回点滅するまで、 および  スイッチを同時に約 6 秒間押しして保持します (▷80 ページ)。

① 車両の信号範囲内でロックングシステムの設定を変更した場合は、 または  スイッチを押すことで、車両も施錠または解錠されます。

このとき、キーは以下のように作動します。

▶ **運転席ドアを解錠する**： スイッチを 1 回押します。

▶ **集中して解錠する**： スイッチを 2 回押します。

▶ **集中して施錠する**： スイッチを押します。

運転席ドアと燃料給油フラップのみを解錠するようにロックングシステムの設定を変更できます。これは運転者が単独で走行することが多い場合に便利です。

工場出荷時の設定に復元する

▶ キーのバッテリーチェックランプが 2 回点滅するまで、 および  スイッチを同時に約 6 秒間押しして保持します。

エマージェンシーキー

全体的な注意事項

車両をキーで解錠できなくなった場合は、エマージェンシーキーを使用してください。

エマージェンシーキーを使用して運転席ドアを解錠し、開いた場合は、盗難防止警報システムが作動します (▷73 ページ)。

警報を停止するためには、以下のいくつかの方法があります。

- キーの  または  スイッチを押す

または

- エンジンスイッチにキーを差し込みます

エマージェンシーキーを使用して車両を解錠しても、燃料給油フラップは自動的に解錠されません。

- ▶ **燃料給油フラップを解錠する**：エンジンスイッチにキーを差し込みます。

エマージェンシーキーを取り外し



- ▶ 解除キャッチ ① を矢印の方向に押し、同時にエマージェンシーキー ② をキーから取り外します。

キーの電池

重要な安全上の注意

⚠ 警告

電池は有毒で、腐食性物質が含まれています。この理由により、電池は子供の手の届かないところに離してください。

電池を飲み込んだときは、ただちに医師のところに行ってください。

♻ 環境



バッテリーには有害物質が含まれています。家庭ごみとして廃棄することは違法です。分別して収集され、環境を配慮したリサイクルシステムで廃棄されなければなりません。



バッテリーは環境を配慮した方法で廃棄されなければなりません。放電したバッテリーは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場、または使用済みバッテリーの収集場所にお持ちください。

電池の点検



- ▶  または  スイッチを押します。

バッテリーチェックランプ①が短時間点灯する場合は、電池は正常に作動しています。

バッテリーチェックランプ①が短時間点灯しない場合は、バッテリーが放電しています。

- ▶ 電池を交換してください。(▷81ページ)

i 車両の信号受信範囲内でキーのバッテリーを点検した場合は、 または  スイッチを押すと以下のようになります。

- 車両が施錠します。または
- 車両が解錠します。

i 電池はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で購入できます。

電池の交換

CR2025 3V の電池が必要です。

- ▶ キーからエマージェンシーキーを取り出します (▷80ページ)。



- ▶ バッテリートレイカバー①が開くまで、キーの開口部に矢印の方向にエマージェンシーキー②を押します。このときは、カバー①を押さえないでください。

- ▶ バッテリートレイカバー①を取り外します。



- ▶ 電池③が落ちるまで、手のひらでキーを繰り返し軽くたたきます。

- ▶ プラス電極が上方を向くように新しい電池を差し込みます。このときは、糸くずのない布を使用してください。

- ▶ 電池の表面に糸くず、脂分および他の汚れがないことを確認してください。

- ▶ バッテリートレイカバー①の前方のタブを差し込み、それを押して閉じます。

- ▶ エマージェンシーキーをキーに差し込みます。

- ▶ 車両でキーのすべてのスイッチの機能を点検します。

キーのトラブル

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
キーを使用して車両を施錠または解錠できない。	<p>キーの電池が放電している、またはほぼ放電している。</p> <p>▶ キーのリモコン機能を使用して、再度車両を施錠 / 解錠してください。近い範囲からキーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向け、 /  スイッチを押してください。</p> <p>これが作動しないとき：</p> <p>▶ キーの電池を点検し、必要であれば交換してください (▷80 ページ)。</p> <p>▶ エマージェンシーキーを使用して車両を施錠 (▷85 ページ) または解錠 (▷84 ページ) してください。</p> <p>キーが故障している。</p> <p>▶ エマージェンシーキーを使用して車両を施錠 (▷85 ページ) または解錠 (▷84 ページ) してください。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でキーを点検してください。</p>
キーを紛失した。	<p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、キーを無効にしてください。</p> <p>▶ ただちに自動車保険会社に紛失を報告してください。</p> <p>▶ 必要であれば、ドアの鍵も交換してください。</p>
エマージェンシーキーを紛失した。	<p>▶ ただちに自動車保険会社に紛失を報告してください。</p> <p>▶ 必要であれば、ドアの鍵も交換してください。</p>
キーを使用してエンジンを始動できない。	<p>車両の電圧が非常に低い。</p> <p>▶ シートヒーターやルームライトなど、必要のない電気装備を停止して、再度エンジンの始動を試みてください。</p> <p>これが作動しないとき：</p> <p>▶ スターターバッテリーを点検し、必要であれば充電してください (▷316 ページ)。</p> <p>または</p> <p>▶ 車両をジャンプスタートしてください (▷319 ページ)。</p> <p>または</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。</p>
キーによるエンジン始動ができない。	<p>ステアリングロックが機械的にかかっている。</p> <p>▶ キーを抜き、エンジンスイッチに再度差し込んでください。このときは、ステアリングを両方向にまわしてください。</p>

ドア

重要な安全上の注意

⚠ 警告

子供だけを車内に残した場合は、彼らは以下を行なうおそれがあります。

- 施錠されているにもかかわらず、車内からドアを開く
- 車内に残されたキーを使用して車両を始動する
- パーキングブレーキを解除する

それにより、彼ら自身および他の方が危険にさらされるおそれがあります。子供だけを車内に残して車から離れないでください。ごく短時間離れる場合でも、車両から離れるときは常にキーを携帯してください。

内側からドアを解錠して開く



- ▶ ドアハンドル ② を引きます。

ドアが施錠されているときは、ロックノブ ① が上がります。ドアが解錠され、開くことができます。

車両が施錠されているときも、車内からドアを開くことができます。

内側から集中して車両を施錠および解錠する



- ▶ 解錠する：スイッチ ① を押します。

- ▶ 施錠する：スイッチ ② を押します。

すべてのドアとテールゲートが閉じているときは、車両が施錠されます。

内側から集中して車両を施錠または解錠できます。これは、例えば発進する前に車両を施錠したい場合などに便利です。

集中施錠スイッチまたは集中解錠スイッチを押したときは、燃料給油フラップは施錠または解錠されません。

i キーを使用して車両が施錠されている場合は、車両を集中して解錠することはできません。

i 助手席ドアが開いている場合は、車両を集中して施錠することはできません。

車速感応ドアロック



- ▶ **解除する**：音が鳴るまで、スイッチ①を約5秒間押しして保持します。
- ▶ **設定する**：音が鳴るまで、スイッチ②を約5秒間押しして保持します。

イグニッション位置が**0**以外のときに車輪が回転すると、車両は自動的に施錠されます。

そのため、以下のときに閉め出されるおそれがあります。

- 車が押される
- 車がけん引される
- ダイナモメーター上で車両がテストされる

i 2つのうちのいずれかのスイッチを押して、音が鳴らない場合は、対応する設定がすでに選択されています。

車速感応ドアロックはマルチファンクションディスプレイを使用しても設定または解除できます（▷235ページ）。

運転席ドアの解錠（エマージェンシーキー）

キーで車両を解錠できなくなった場合は、エマージェンシーキーを使用してください。

エマージェンシーキーを使用して運転席ドアを解錠し、開いた場合は、盗難防止警報システムが作動しません（▷73ページ）。

- ▶ キーからエマージェンシーキーを取り出します（▷80ページ）。
- ▶ エマージェンシーキーを、運転席ドアの鍵にいっぱいまで差し込みます。



- ▶ エマージェンシーキーを反時計回りに**1**の位置にまわします。ドアが解錠されます。

i 右ハンドル車では、エマージェンシーキーを時計回りにまわします。

- ▶ エマージェンシーキーをまわして戻し、抜きます。
- ▶ エマージェンシーキーをキーに差し込みます。

車両の施錠

キーで車両を施錠できなくなった場合は、エマージェンシーキーを使用してください。

- ▶ 運転席ドアを開きます。
- ▶ 助手席ドア、リアドアおよびテールゲートを閉じます。
- ▶ 集中施錠スイッチを押します（▷83ページ）。
- ▶ 助手席ドアとリアドアのロックノブがまだ見えているかどうかを確認します。必要であれば、手でロックノブを押し込みます。
- ▶ 運転席ドアを閉じます。
- ▶ キーからエマージェンシーキーを取り出します（▷80ページ）。
- ▶ エマージェンシーキーを、運転席ドアの鍵にいっぱいまで差し込みます。



- ▶ エマージェンシーキーを時計回りに ① の位置にいっぱいまでまわします。
- ① 右ハンドル車では、エマージェンシーキーを反時計回りにまわします。

- ▶ エマージェンシーキーをまわして戻し、抜きます。
- ▶ ドアとテールゲートが施錠されていることを確認します。
- ▶ エマージェンシーキーをキーに差し込みます。

① 上記のように車両を施錠した場合は、燃料給油フラップは施錠されません。盗難防止警報システムは待機状態になりません。

ラゲッジルーム

重要な安全上の注意

❗ 開くときは、テールゲートは上方および後方に動きます。そのため、テールゲートの上方および後方に十分な間隔があることを確認してください。

ラゲッジルームにキーを置いたままにしないでください。さもないと、閉め出されるおそれがあります。

① テールゲート開口部の寸法についての詳細は、テクニカルデータの項目にあります（▷360ページ）。

以下ができます。

- 外側からテールゲートを手動で開閉する
- エマージェンシーキーで内側からテールゲートを解錠する

外側からの開閉

開く

- ▶ キーの  スイッチを押します。



- ▶ ハンドル ① を引きます。
- ▶ テールゲートを上げます。

閉じる

 警告

テールゲートを閉じるときに、挟まれるおそれのある人がいないことを確認してください。



- ▶ クロー징ハンドル ① を使用して、テールゲートを引き下げます。
- ▶ テールゲートをロックするまで下ろします。

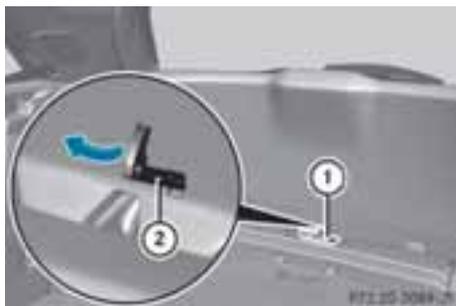
- ▶ 必要であれば、キーの  スイッチで車両を施錠します。

テールゲートの非常解除

車外からテールゲートを開けられなくなった場合は、テールゲート内側の非常解除を使用してください。

- ▶ キーからエマージェンシーキーを取り出します (▷80 ページ)。

テールゲート開口部の寸法についての詳細は、テクニカルデータの項目にあります (▷360 ページ)。



- ▶ **!** 開くときは、テールゲートは上方および後方に動きます。そのため、テールゲートの上方および後方に十分な間隔があることを確認してください。

- ▶ エマージェンシーキー ② をトリムの開口部 ① に差し込みます。
- ▶ エマージェンシーキー ② を 90 度まわします。
- ▶ エマージェンシーキー ② を矢印の方向に押して、テールゲートを開きます。

サイドウインドウ

重要な安全上の注意

警告

サイドウインドウを開くときは、サイドウインドウとドアフレームとの間に挟まれるおそれがある人がいないことを確認してください。開いている動作の間に、サイドウインドウに触れたり、もたれかけないでください。サイドウインドウが下降しているときに、サイドウインドウとドアフレームとの間に挟まれるおそれがあります。挟まれる危険性があるときは、スイッチを放すか、スイッチを上方に引いてサイドウインドウを再度閉じてください。

警告

サイドウインドウを閉じるときは、挟まれるおそれがある人がいないことを確認してください。挟まれる危険性があるときは、スイッチを放すか、スイッチを押してサイドウインドウを再度開いてください。

警告

子供がサイドウインドウを開閉する場合は、けがをすることがあります。子供だけを車内に残して車から離れないでください。ごく短時間離れる場合でも、車両から離れるときは常にキーを携帯してください。

警告

チャイルドセーフティシートに固定している場合でも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。

子供が以下のようなおそれがあります。

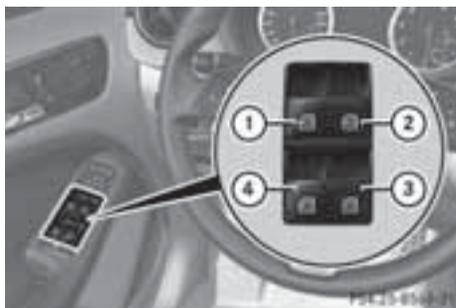
- 車両の部品で、重大な、または致命的なけがをする
- 非常に高い、または非常に低い温度に長時間さらされ、重大な、または致命的なけがをする

子供がドアを開いた場合は、彼らが以下のようなおそれがあります。

- 他の人が重大な、または致命的なけがをする
- 車外に出てけがをしたり、通過車両により重大な、または致命的なけがをする

子供が車内に乗車する場合は、チャイルドプルーフロックを設定してください。さもないと、車両が動いているときに彼らがドアやサイドウインドウを開き、それにより彼らや他の方がけがをするおそれがあります。

サイドウィンドウの開閉



- ① フロント左
- ② フロント右
- ③ リア右
- ④ リア左

運転席ドアには、すべてのサイドウィンドウのスイッチがあります。各ドアにも、対応するサイドウィンドウのスイッチがあります。

運転席ドアのスイッチに優先権があります。

i サイドウィンドウのチャイルドブルーフロックを設定しているときは、リアからサイドウィンドウを操作することはできません (▷64 ページ)。

- ▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。
- ▶ **開く** : 対応するスイッチを押します。
- ▶ **閉じる** : 対応するスイッチを引きます。

i 抵抗がある位置を越えてスイッチを押した場合は、対応する方向に自動開閉作動が開始します。再度押すことにより、自動作動を停止できます。

i イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いた後でも、サイドウィンドウの操作を続けることができます。この機能は約 5 分間または運転席ドアか助手席ドアを開くまでそのままになります。

コンビニエンスオープニング機能

走行を開始する前に、車両を換気することができます。以下の機能を同時に実行するためにキーを使用します。

- 車両を解錠する
- サイドウィンドウを開く
- パノラミックスライディングルーフと電動サンシェードを開く

i コンビニエンスオープニング機能は、キーを使用してのみ操作することができます。キーが運転席ドアハンドルの近くになければなりません。

- ▶ キーの先端部を運転席ドアハンドルに向けます。
- ▶ サイドウィンドウとパノラミックスライディングルーフが好みの位置になるまで、 スwitchを押して保持します。

パノラミックスライディングルーフの電動サンシェードが閉じているときは、電動サンシェードが最初に開きます。

- ▶ パノラミックスライディンググループが好みの位置になるまで、 スイッチを再度押して保持します。
- ▶ **コンビエンスオープニング機能を中断する**： スイッチを放します。

コンビエンスクロージング機能

警告

コンビエンスクロージング機能を使用しているときは、挟まれるおそれのある人がいないことを確認してください。挟まれる危険性があるときは、以下の操作を行なってください。

-  スイッチを放してください。
- サイドウィンドウとパノラミックスライディンググループが再度開くまで、 スイッチを押して保持してください。

車両を施錠するときに、同時に以下ができます。

- サイドウィンドウを閉じる
- パノラミックスライディンググループを閉じる

パノラミックスライディンググループ装備車では、その後に電動サンシェードを閉じることができます。

- i** キーが運転席ドアハンドルの近くになければなりません。

- ▶ キーの先端部を運転席ドアハンドルに向けます。
- ▶ サイドウィンドウとパノラミックスライディンググループが完全に閉じるまで、 スイッチを押して保持します。
- ▶ すべてのサイドウィンドウとパノラミックスライディンググループが閉じていることを確認します。

パノラミックスライディンググループ装備車：

- ▶ パノラミックスライディンググループの電動サンシェードが完全に閉じるまで、 スイッチを再度押して保持します。
- ▶ **コンビエンスクロージング機能を中断する**： スイッチを放します。

サイドウィンドウのリセット

以下のときは、それぞれのサイドウィンドウをリセットしなければなりません。

- 完全に閉じた後に、サイドウィンドウが再度少し開く
- サイドウィンドウが完全に開閉しなくなった
- ▶ すべてのドアを閉じます。
- ▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。
- ▶ サイドウィンドウが完全に閉じるまで、運転席ドアコントロールパネルの対応するスイッチを引きます (▷88 ページ)。

- ▶ さらに2秒間スイッチを保持します。
- ▶ スwitchを放した後に対応するサイドウィンドウがそのままになっている場合は、サイドウィンドウは適切にリセットされています。そのような状況でない場合は、上記の手順を再度繰り返してください。

サイドウィンドウのトラブル

警告

強い力で、または挟み込み防止機能がない状態でサイドウィンドウを閉じるときは、重大な、または致命的なけがにつながるおそれがあります。サイドウィンドウを閉じるときは、挟まれるおそれがある人がいないことを確認してください。

トラブル：ウィンドウガイドに葉などの物がありブロックされているため、サイドウィンドウを閉じることができない。

- ▶ 物を取り除いてください。
- ▶ サイドウィンドウを閉じてください。

トラブル：サイドウィンドウを閉じることができず、原因が分からない。閉じている間にサイドウィンドウが妨げられ、再度少し開く場合は、以下のようになしてください。

- ▶ サイドウィンドウが妨げられた後に、サイドウィンドウが閉じるまで、ただちに対応するスイッチを再度引きます。

強い力でサイドウィンドウが閉じます。

閉じている間にサイドウィンドウが再度妨げられて、再度少し開く場合は、以下のようになしてください。

- ▶ サイドウィンドウが停止した後に、サイドウィンドウが閉じるまで、ただちに対応するスイッチを再度引きます。

挟み込み防止機能がない状態で、サイドウィンドウが閉じます。

パノラミックスライディンググループ

重要な安全上の注意

警告

パノラミックスライディンググループを開閉するときは、挟まれるおそれがある人がいないことを確認してください。

挟まれる危険性があるときは、ただちにスイッチを放してください。自動作動の間は、スイッチをいずれかの方向に軽く押して、パノラミックスライディンググループを停止してください。

⚠ 警告

子供がパノラミックスライディンググループを操作する場合は、けがをすることがあります。

子供だけを車内に残して車から離れないでください。ごく短時間離れる場合でも、車両から離れるときは常にキーを携帯してください。

⚠ 警告

パノラミックスライディンググループのガラスは事故のときに割れるおそれがあります。シートベルトを着用していないと、車が横転したときに開口部から投げ出される危険性があります。そのため、けがの危険を減らすために、常にシートベルトを着用してください。

! 雪や氷がないときのみ、パノラミックスライディンググループを開いてください。さもないと、故障が発生することがあります。

パノラミックスライディンググループから物が突き出ないようにしてください。さもないと、シール部を損傷するおそれがあります。

i パノラミックスライディンググループを開いているときは、走行風の影響などで空気の振動が感じられる場合があります。これは車内のわずかな圧力変動によるものです。この音を低減、またはなくすためには、パノラミックスライディンググループの位置を変更するか、サイドウィンドウを少し開いてください。

パノラミックスライディンググループの操作**開閉**

前席上方の操作部

- ① チルトアップする
- ② 開く
- ③ 閉じる / チルトダウンする

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ 対応する方向に、 スイッチを押すか、引きます。

i 抵抗がある位置を越えて  スイッチを押した場合は、対応する方向に自動開閉作動が開始します。再度押すことにより、自動作動を停止できます。

i イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いた後でも、パノラミックスライディンググループの操作を続けることができます。この機能は約 5 分間または運転席ドアか助手席ドアを開くまでそのままになります。

レインクローズ機能

レインクローズ機能はレインセンサー装備車でのみ使用できます。

イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いたときは、以下のときにパノラミックスライディングルーフが自動で閉じます。

- 雨が降りだした場合
- 外気温度が極端に高い、または低いとき
- 約 6 時間後
- 電力供給に故障がある場合

車内を換気するため、パノラミックスライディングルーフがチルトアップした状態になります。

1 レインクローズ機能で閉じているときにパノラミックスライディングルーフの動きが妨げられたときは、再度少し開きます。その後レインクローズ機能は解除されます。

以下のときは、パノラミックスライディングルーフは閉じません。

- チルトアップしている場合
- 動きが妨げられた場合
- 車両が橋の下にあるときなど、レインセンサーによりモニターされているフロントウインドウの範囲に雨が落ちない

パノラミックスライディングルーフの電動サンシェードの操作

重要な安全上の注意

警告

電動サンシェードを開閉するときは、挟まれるおそれがある人がいないことを確認してください。

電動サンシェードは、車内への日光を遮ります。パノラミックスライディングルーフが閉じているときにのみ、2つの電動サンシェードを一緒に開閉することができます。

開閉



前席上方の操作部

- ① 開く
- ② 開く
- ③ 閉じる

- ▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。
- ▶ 対応する方向に、 スイッチを押すか、引きます。

i 抵抗がある位置を越えて  スイッチを押した場合は、対応する方向に自動開閉作動が開始します。再度押すことにより、自動作動を停止できます。

パノラミックスライディンググループおよび電動サンシェードのリセット

! リセットした後に、パノラミックスライディンググループまたは電動サンシェードが完全に開閉しない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

パノラミックスライディンググループやフロントの電動サンシェードがスムーズに作動しない場合は、以下のようにパノラミックスライディンググループと電動サンシェードをリセットしてください。

- ▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。
- ▶ パノラミックスライディンググループが約 10cm 開くまで、抵抗がある位置まで  スイッチを矢印 **②** の方向に押し保持します。
- ▶ パノラミックスライディンググループが完全に閉じるまで、抵抗がある位置まで  スイッチを矢印 **③** の方向に繰り返し引きます。
- ▶ さらに 2 秒間  スイッチを引いたままにします。
- ▶ パノラミックスライディンググループが約 10cm 開くまで、抵抗がある位置まで  スイッチを矢印 **②** の方向に押し保持します。

▶ パノラミックスライディンググループが完全に閉じるまで、抵抗がある位置まで  スイッチを矢印 **③** の方向に繰り返し引きます。

▶ さらに 2 秒間  スイッチを引いたままにします。

▶ パノラミックスライディンググループ (▷90 ページ) と電動サンシェード (▷92 ページ) が再度完全に開閉することを確認します。

▶ そのような状況でない場合は、上記の手順を再度繰り返してください。

パノラミックスライディンググループのトラブル

警告

強い閉じる力でパノラミックスライディンググループを閉じるとき、または挟み込み防止機能が解除されている場合は、重大な、または致命的なけがをすることがあります。パノラミックスライディンググループを閉じるときは、挟まれるおそれがある人がいないことを確認してください。

トラブル：パノラミックスライディンググループを閉じることができず、原因がわからないとき。 閉じている間にサイドウィンドウが妨げられ、再度少し開く場合は、以下のようにしてください。

▶ パノラミックスライディンググループが妨げられた後に、パノラミックスライディンググループが閉じるまで、ただちに上方の操作部の  スイッチを抵抗がある位置まで引き下げて保持します。

強い力でパノラミックスライディンググループが閉じます。

閉じている間にパノラミックスライディンググループが再度妨げられて、再度少し開く場合は、以下のようにしてください。

▶ パノラミックスライディンググループが妨げられた後に、パノラミックスライディンググループが閉じるまで、ただちに上方の操作部の  スイッチを抵抗がある位置まで引き下げて保持します。

挟み込み防止機能がない状態で、パノラミックスライディンググループが閉じます。

役に立つ情報	96
運転席の適切な位置	96
シート	97
ステアリング	102
ミラー	103
メモリー機能	106

役に立つ情報

i この取扱説明書では、本書の発行時点で車両に装着可能な、すべての標準およびオプション装備について記載しています。ただし、国により仕様が異なるため、本書に記載されているすべての機能が、お客様の車両に当てはまらない場合があることにご留意ください。このことは、安全に関する装備や機能にも当てはまります。

運転席の適切な位置



シート調整に関する安全ガイドラインに従ってください (▷97 ページ)。

▶ シート③を適切に調整していることを確認します。

手動シートの調整 (▷99 ページ)

電動シートの調整 (▷99 ページ)

シートを調整するときは、以下のことを確認してください。

- 運転席エアバッグからできるだけ離れている
 - 通常の起きた姿勢で着座している
 - シートベルトを適切に着用できる
 - バックレストをできるだけ垂直の位置に調整している
 - 大腿部が軽く支えられるようにシートの角度を調整している
 - ペダルを適切に踏める
- ▶ ヘッドレストを適切に調整していることを確認します (▷99 ページ)。
- そのためには、後頭部がヘッドレストの中央で目の高さで支えられるようにヘッドレストを調整したことを確認します。

ステアリング調整に関する安全ガイドラインに従ってください (▷102 ページ)。

▶ ステアリング①を適切に調整していることを確認します。

ステアリングの調整 (▷102 ページ)

ステアリングを調整するときは、以下のことを確認してください。

- 腕を少し曲げてステアリングを握ることができる
- 足を自由に動かせる
- メーターパネルのすべての表示を確認できる

シートベルトに関する安全ガイドラインに従ってください (▷97 ページ)。

- ▶ シートベルト ② を適切に調整していることを確認します。

シートベルトは以下のようになっていなければなりません。

- 身体に密着している
- 肩の中央にかかっている
- 骨盤の腰骨にかかっている

- ▶ 走行する前に、道路や交通状況が十分視認できるようにルームミラーとドアミラーを調整します。

メモリー付パワーシート装備車：

- ▶ シートとドアミラーの設定を記憶させます (▷106 ページ)。

シート

警告

パワーシート装備車は、エンジンスイッチにキーが差し込まれていなくてもシート位置を調整することができます。この理由により、子供だけを車内に残して車から離れないでください。シートを調整して挟まれるおそれがあります。

警告

運転席シートは、停車しているときのみ調整してください。さもないと、シートが動くことにより道路や交通状況から注意がそれ、車両のコントロールを失うおそれがあります。事故の原因になるおそれがあります。

警告

シートの高さを不用意に調整すると、乗員が挟まれて、けがをするおそれがあります。特に子供は、スイッチを不意に操作して電動シートを調整し、挟まれるおそれがあります。

以下のことに注意してください。

- シート調整システムのレバー部分の下に手を入れないでください。
- 車内の子供がレバー下に手を入れないようにしてください。

警告

シートを調整している間は、挟まれるおそれのある人がいないことを確認してください。

エアバッグの注意事項も確認してください。

推奨されているように子供を固定してください。"子供を乗せるとき"の項目をご覧ください。

⚠ 警告

シートベルトは、バックレストができるだけ垂直で、乗員が上体を起こして座っている場合にのみ、想定された保護の効果を発揮することができます。シートベルトを適切に着用できないようなシート位置は避けてください。バックレストはできるだけ直立になるように調整してください。バックレストを後方に寝かせすぎた状態で走行しないでください。さもないと、事故や急ブレーキ時に重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。

⚠ 警告

後頭部がヘッドレストの中央で目の高さで支えられていることを確認してください。頭部がヘッドレストに適切に支えられていないと、事故のときに、頸部に重大なけがをするおそれがあります。ヘッドレストが固定されていないとき、または適切に調整されていないときは、決して走行しないでください。

! シートやシートヒーターの損傷を防ぐため、以下の点に注意してください。

- シートに液体をこぼさないでください。シートに液体をこぼしたときは、すみやかに乾燥させてください。
- シートカバーが濡れたときなどは、シートヒーターを作動させないでください。また、シートを乾燥させるためにシートヒーターを使用しないでください。

- 推奨されているようにシートの表皮を清掃してください。"内装の手入れ"をご覧ください。
- シートの上で重い物を運搬しないでください。ナイフ、くぎまたは工具のような鋭利な物をシートクッションの上に置かないでください。可能であれば、シートは人のみを乗せてください。
- シートヒーターを使用しているときは、ブランケット、コート、バッグ、シートカバー、チャイルドセーフティシートなどの被覆物でシートを覆わないでください。

! シートを後方に動かすときは、足元やシートの後方に物が無いことを確認してください。シートや物を損傷する危険性があります。

i 前席および後席のヘッドレストは取り外すことができます。

詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

i 関連する項目：

ラゲッジルームの拡大（リアシートの取り外し / 前方への折りたたみ）

シートの手動調整



シートの前後位置の調整

- ▶ レバー ① を上げ、シートを前方または後方にスライドさせます。
- ▶ レバー ① を再度放します。
シートが固定されていることを確認します。

バックレストの角度の調整

- ▶ バックレストに荷重をかけないようにします。
- ▶ ダイヤル ④ を前方または後方にまわします。

シートの高さの調整

- ▶ シートが好みの高さになるまで、ハンドル ③ を繰り返し上方に引くか、下方に押しします。

シートクッションの角度の調整

大腿部が軽く支えられるように角度を調整します。

- ▶ ダイヤル ② を前方または後方にまわします。

シートの電動調整



- ① ヘッドレストの高さの調整
- ② シートクッションの角度の調整
- ③ シートの高さの調整
- ④ シートの前後位置の調整
- ⑤ バックレストの角度の調整

- ① **i** メモリー機能により、シート位置を記憶させることができます (▷106 ページ)。

ヘッドレストの調整

ヘッドレストの手動調整

ヘッドレストの高さの調整



- ▶ **上げる**：好みの高さヘッドレストを引き上げます。

- ▶ **下げる**：解除ノブ①を矢印の方向に押し、好みの高さにヘッドレストを押し下げます。

ヘッドレストの前後位置の調整



この機能により、ヘッドレストと後頭部との距離を調整することができます。

- ▶ **前方に動かす**：固定するまで、ヘッドレストを矢印の方向に前方に引きます。
数ヶ所の固定位置があります。
- ▶ **後方に動かす**：解除ノブ①を押し、ヘッドレストを後方に押し下げます。
- ▶ ヘッドレストが好みの位置になったときに、解除ノブを放し、ヘッドレストが固定されていることを確認します。

ヘッドレストの電動調整

- ▶ **ヘッドレストの高さを調整する**：ヘッドレスト調整スイッチ（▷99ページ）を矢印の方向に上または下にスライドします。

リアシートのヘッドレスト

ヘッドレストの高さの調整



- ▶ **上げる**：好みの高さのヘッドレストを引き上げます。
- ▶ **下げる**：解除ノブ①を押し、好みの高さのヘッドレストを押し下げます。

リアシートのヘッドレストの脱着

⚠ 警告

乗員は、ヘッドレストが装着されているシートのみ座って走行してください。事故のときに乗員が重大なけがをする危険性が低減します。

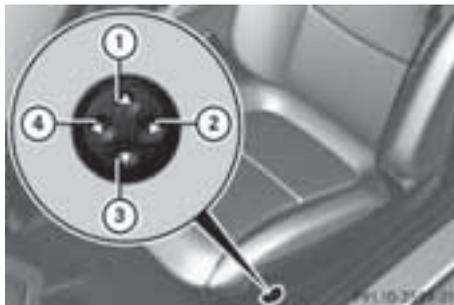


- ▶ ヘッドレストを取り外すために、シートのバックレストを前方に少し倒します（▷99ページ）。

- ▶ **取り外す**：ヘッドレストを停止するまで引き上げます。
- ▶ 解除ノブ①を押して、ヘッドレストをガイドから引き抜きます。
- ▶ **取り付ける**：前方から見て支柱の切り欠きが左側になるようにして、ヘッドレストを差し込みます。
- ▶ 固定した音が聞こえるまで、ヘッドレストを押し下げます。

電動ランバーサポートの調整

背中での最適な支持が得られるように、前席のバックレストの形状を個別に調整できます。



- ① サポートを上げる
- ② サポートを弱くする
- ③ サポートを下げる
- ④ サポートを強くする

シートヒーター

シートヒーターの使用と停止

⚠ 警告

シートヒーターを繰り返しレベル **3** に設定すると、シートの温度が過度に上がることがあります。温度の感じ方が鈍い乗員や過度に高い温度に反応しにくい乗員の健康に影響を与えたり、低温火傷（紅斑、水ぶくれ）を起こすおそれがあります。シートヒーターを繰り返しレベル **3** で使用しないでください。

⚠ 警告

以下の事項に該当する方は、熱すぎたり、低温火傷をするおそれがありますので、十分に注意してください。

- 乳幼児、お年寄り、病人、身体が不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 眠気を誘う薬を服用された方
- 飲酒した方



スイッチの3個の赤い表示灯は、選択したヒーターレベルを示しています。

約8分後に、システムは自動的にレベル3からレベル2に低く切り替わります。

約10分後に、システムは自動的にレベル2からレベル1に低く切り替わります。

レベル1に設定されてから約20分後に、システムは自動的に停止します。

▶ イグニッション位置が1または2であることを確認します。

▶ **作動させる**：希望のヒーターレベルに設定されるまで、スイッチ①を繰り返し押します。

▶ **停止する**：表示灯が消灯するまで、スイッチ①を繰り返し押します。

① バッテリーの電圧が低下すると、シートヒーターが停止することがあります。

シートヒーターのトラブル

シートヒーターが短時間で停止したり、作動できなくなります。多くの電気装備が使用されているために電圧が低下しています。

▶ リアデフォグガーやルームライトのような、必要のない電気装備を停止してください。

ステアリング

⚠ 警告

停車しているときにのみステアリングを調整し、走行を開始する前に適切な位置に確実に固定されていることを確認してください。

ステアリング調整機構が適切な位置に固定されていない状態で走行すると、ステアリングが不意に動く原因になることがあります。結果として、運転者が車両のコントロールを失うおそれがあります。走行を開始する前に、上または下に動かしてステアリングが適切な位置に固定されていることを確認してください。

ステアリングの調整



- ① ステアリング調整ロック解除レバー
- ② ステアリングの高さを調整する
- ③ ステアリングの前後位置を調整する

▶ ステアリング調整ロック解除レバー①を完全に押し下げます。

ステアリングコラムのロックが解除されます。

▶ 希望の位置にステアリングを調整します。

- ▶ ステアリング調整ロック解除レバー①を完全に押し上げます。
- ▶ ステアリングが固定されていることを確認します。そのときは、ステアリングを上下に押し、または前後に動かしてみます。

ミラー

ルームミラー



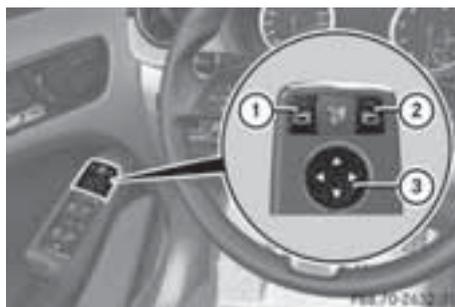
- ▶ **防眩モード**：ノブ①を前後に動かします。

ドアミラー

ドアミラーの調整

⚠ 警告

ドアミラーは像の大きさを小さくします。対象物は表示されているものよりも実際は近くにあります。車線変更のときなどに、後方を走行している車両との距離を見誤り、事故の原因になるおそれがあります。この理由により、肩越しに視認することにより後方の車両との実際の距離を確認してください。

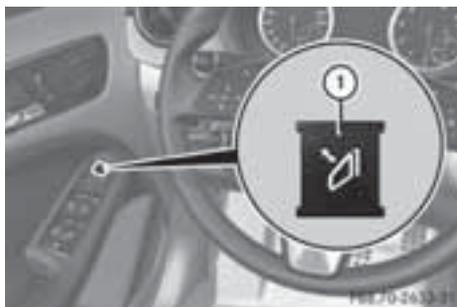


- ▶ イグニッション位置が1か2になっていることを確認します。
- ▶ 左側ドアミラースイッチ①または右側ドアミラースイッチ②を押します。
対応するスイッチの表示灯が赤く点灯します。
しばらくすると表示灯は消灯します。表示灯が点灯している間に調整スイッチ③を使用して、選択したミラーを調整します。
- ▶ ドアミラーを適切な位置に調整できるまで、調整スイッチ③を上、下、または左または右に押します。交通状況を適切に視認できるようにします。

より広い視界を確保するため、ドアミラーは凸面になっています。

リアデフォグが作動し、外気温度が低いときは、ドアミラーは自動的に温められます。

ドアミラーの電動格納 / 展開



▶ イグニッション位置が **1** か **2** になっていることを確認します。

▶ スイッチ **①** を軽く押します。

ドアミラーが格納 / 展開します。

i 走行するときはドアミラーが完全に展開されていることを確認してください。さもないと、振動するおそれがあります。

ドアミラーの設定

バッテリーの接続が外れたり、完全に放電したときは、ドアミラーをリセットしなければなりません。さもないと、マルチファンクションディスプレイで " 施錠時のドアミラー格納 " を設定していても、ドアミラーは格納しません (▷236 ページ)。

▶ イグニッション位置が **1** になっていることを確認します。

▶ スイッチ **①** を軽く押します。

施錠時のドアミラー格納

マルチファンクションディスプレイで " 施錠時のドアミラー格納 " が設定されているときは、以下ようになります。

- リモコン操作で車両を施錠するとすぐに、ドアミラーが自動的に格納します。
- 車両を解錠し、運転席または助手席ドアを開くとすぐに、ドアミラーは自動的に展開します。

この機能の設定と解除については (▷236 ページ) をご覧ください。

i ドアミラー格納 / 展開スイッチでドアミラーを格納したときは、ドアミラーは展開しません。

ドアミラーが適正な位置にないとき

ドアミラーが押されて適正な位置にないときは、以下のようにしてください。

- ▶ **手動格納式ドアミラー装備車**：手でミラーを正しい位置に戻します。
- ▶ **電動格納式ドアミラー装備車**：ミラーが適正な位置で固定される音が聞こえるまで、ドアミラー格納/展開スイッチ（▷104 ページ）を繰り返し押しします。

ドアミラーが再度固定され、通常通りドアミラーを調整できるようになります。

自動防眩機能

⚠ 警告

車内に高く積んだ荷物などにより、ヘッドライトから照射された光がルームミラーのセンサーに当たらないときは、ミラーの自動防眩機能は作動しません。

照射された光により眩惑するおそれがあります。交通状況から注意がそれ、結果として事故の原因になることがあります

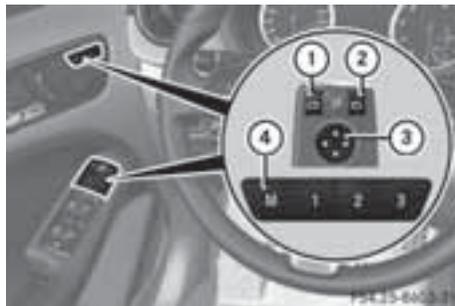
イグニッション位置が **1** か **2** で、ヘッドライトから照射された光がルームミラーのセンサーに当たると、ルームミラーと運転席側ドアミラーが自動的に防眩モードになります。

リバースギア **R** に入っているとき、またはルームライトが点灯しているときは、ミラーは防眩モードになりません。

パーキングヘルプ機能

駐車時の位置に設定し記憶させる

リバースギア **R** に入れるとすぐに、助手席側ドアミラーを助手席側後輪が見えるような位置にすることができます。この位置を記憶させることができます。



- ▶ エンジンがかかっている、停車していることを確認します。
- ▶ 助手席側ドアミラースイッチ **②** を押しします。
- ▶ リバースギア **R** に入れます。
助手席側ドアミラーが、あらかじめ設定させていた駐車時の位置に動きまます。
- ▶ ドアミラー調整スイッチ **③** を使用して、ドアミラーを調整します。後輪および路肩がドアミラーに見えるようにします。

駐車時の位置が記憶されます。

- ▶ **i** トランスミッションを他の位置にシフトすると、助手席側ドアミラーは走行時の位置に戻ります。

i メモリースイッチ **M④** を使用して、駐車時の位置を記憶させることもできます。

- ▶ 停車して、イグニッション位置が **2** になっていることを確認します。
- ▶ 助手席側ドアミラーを作動させ、調整スイッチ **③** を使用してドアミラーを調整します。後輪および路肩がドアミラーに見えるようにします。
- ▶ メモリースイッチ **M④** を押し、約 3 秒以内に調整スイッチ **③** のいずれかの矢印を押します。

ドアミラーが動かなければ、駐車時の位置が記憶されます。

ミラーが適正な位置から動いたときは手順を繰り返してください。

記憶させた駐車時の位置を呼び出す

- ▶ エンジンを始動します。
- ▶ 助手席側ドアミラースイッチを押します (▷103 ページ)。
- ▶ リバースギア **R** に入れます。
助手席側ドアミラーの角度が、記憶させた駐車時の位置に動きます。

助手席側ドアミラーは、以下のときに元の位置に戻ります。

- 速度が約 15km/h を越えてすぐ
- リバースギア **R** から他の位置にして約 10 秒経過したとき
- 運転席側ドアミラー選択スイッチ **①** を押したとき

メモリー機能

設定の記憶

警告

運転席側のメモリー機能は、停車中のみ使用してください。さもないと、メモリー機能によるシートの移動により交通状況から注意がそれ、結果として事故の原因になるおそれがあります。

警告

エンジンスイッチにキーが差し込まれていなくてもメモリー機能は使用することができます。この理由により、子供だけを車内に残して車から離れないでください。さもないと、シートを調整して、挟まれるおそれがあります。

メモリー機能で、例えば 3 人の異なる運転者などの 3 つの異なる設定を記憶させることができます。

以下の項目がひとつの設定として記憶されます。

- シート、バックレストおよびヘッドレストの位置
- 運転席側は、運転席側および助手席側ドアミラーの位置



- ▶ シート位置を調整します (▷99 ページ)。
- ▶ 運転席ではドアミラー (▷103 ページ) を調整します。
- ▶ メモリースイッチ **M** を押し、約 3 秒以内にポジションスイッチ **1**、**2**、または **3** を押します。

選択したポジションに設定が記憶されます。設定が完了すると、確認音が鳴ります。

シート位置の呼び出し

- ▶ シートとドアミラーが記憶した位置になるまで、対応するポジションスイッチ **1**、**2**、または **3** を押して保持します。
- i** ポジションスイッチを放すとすぐに、設定の作動は中断します。

役に立つ情報	110
車外ライト	110
ルームライト	117
電球の交換	119
ワイパー	127

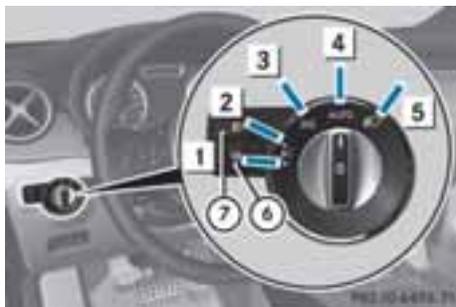
役に立つ情報

1 この取扱説明書では、本書の発行時点で車両に装着可能な、すべての標準およびオプション装備について記載しています。ただし、国により仕様が異なるため、本書に記載されているすべての機能が、お客様の車両に当てはまらない場合があることにご留意ください。このことは、安全に関する装備や機能にも当てはまります。

車外ライト

ライトスイッチ

ライトの操作



- 1 左側パーキングライト
- 2 右側パーキングライト
- 3 車幅灯、ライセンスライト、メーターパネルなどの照明
- 4 オートモード
- 5 ロービーム / ハイビームヘッドライト
- 6 リアフォグランプ
- 7 フロントフォグランプ

方向指示灯、ハイビームヘッドライト、パッシングはコンビネーションスイッチを使用して操作します。

! バッテリーが過度に放電しているときは、次のエンジン始動を可能にするために、車幅灯またはパーキングライトが自動的に消灯します。法規に沿って、常に車両を安全にまた十分明るくして駐車してください。車幅灯  を数時間使用し続けることは避けてください。可能であれば、 右側または  左側のパーキングライトを点灯してください。

車幅灯およびテールライトは以下のときに自動的に消灯します。

- エンジンスイッチからキーを抜いたとき
- イグニッション位置が **0** のときに、運転席側ドアを開いたとき

車両から離れるときに警告音が聞こえるときは、ライトがまだ点灯しています。

▶ ライトスイッチを **AUTO** にまわします。

ロービーム

- ▶ **ロービームヘッドライトを点灯する**：イグニッション位置を **2** にするか、エンジンを始動します。
- ▶ ライトスイッチを  にまわします。

メーターパネルの  表示灯が点灯します。

デイトタイムドライビングライト

マルチファンクションディスプレイを使用して、デイトタイムドライビングライトを作動または解除できます (▷232 ページ)。

▶ **デイトタイムドライビングライト**：マルチファンクションディスプレイを使用して、デイトタイムドライビングライトを作動または解除します。

▶ ライトスイッチを **AUTO** にまわします。

エンジンがかかっているときは、周囲の明るさの状況に応じて、デイトタイムドライビングライトまたはパーキングおよびロービームヘッドライトが点灯します。

ロービームヘッドライトが点灯しているときは、メーターパネルの  表示灯が点灯します。

ヘッドライトオートモード

警告

ライトスイッチが **AUTO** のときは、霧のときはロービームヘッドライトは自動的に点灯しません。お客様または他の方に危険にさらされるおそれがあります。

そのため、霧の中ではライトスイッチを  にまわしてください。

ヘッドライトオートモード機能は単なる補助です。運転者には常に、車両のライトに関する責任があります。

▶ **ヘッドライトオートモードを作動させる**：ライトスイッチを **AUTO** にまわします。

イグニッション位置が **1** のときは、周囲の明るさに応じて、車幅灯が自動的に点灯 / 消灯します。

エンジンがかかっているときは、周囲の明るさに応じて、デイトタイムドライビングライト (マルチファンクションディスプレイで作動させているとき)、またはロービームヘッドライトが自動的に点灯 / 消灯します。

ロービームヘッドライトが点灯しているときは、メーターパネルの  表示灯が点灯します。

フロントフォグランプおよびリアフォグランプ

フロントフォグランプ

フロントフォグランプ装備車のみにも、"フロントフォグランプ" 機能があります。

警告

走行状況が霧になりそうなきは、走行を開始する前にライトスイッチを  にまわしてください。さもないと、車両の視界が確保できず、お客様自身または他の方が危険にさらされるおそれがあります。

- ▶ **フロントフォグランプを点灯する：**
イグニッション位置を **2** にするか、エンジンを作動します。
- ▶ ライトスイッチを **300E**、**0D** または **AUTO** にまわします。
- ▶ **0D** スイッチを押します。
メーターパネルの緑色の **0D** 表示灯が点灯します。
- ▶ **フロントフォグランプを消灯する：**
0D スイッチを押します。
メーターパネルの緑色の **0D** 表示灯が消灯します。

リアフォグランプ

- ▶ **リアフォグランプを点灯する：**イグニッション位置を **2** にするか、エンジンを作動します。
- ▶ ライトスイッチを **0D** または **AUTO** にまわします。
- ▶ **0E** スイッチを押します。
メーターパネルの黄色の **0E** 表示灯が点灯します。
- ▶ **リアフォグランプを消灯する：** **0E** スイッチを押します。
メーターパネルの黄色の **0E** 表示灯が消灯します。

フロントフォグランプ装備車では、ライトスイッチが **300E** の位置のときは、フロントフォグランプが点灯しているときのみ、リアフォグランプを点灯することができます。

ヘッドライト範囲の調整（ハロゲンヘッドライト）

ヘッドライト範囲の調整により、車両の積載に合わせて、ヘッドライトの照射範囲を調整できます。



ヘッドライト範囲調整

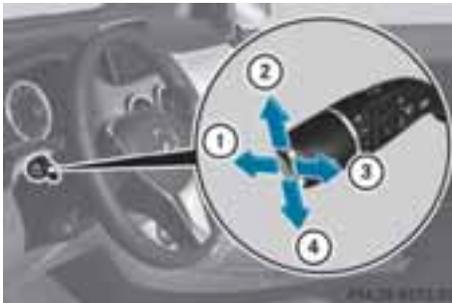
- 0** 運転席と助手席に乗車
 - 1** 運転席と助手席、および後席に乗車
 - 2** 運転席と助手席、および後席に乗車し、ラゲッジルームに積載
 - 3** 運転席と助手席、および後席に乗車し、最大許容後軸荷重を使用
- ▶ エンジンを作動します。
 - ▶ 車両の積載状況に対応した位置に、ヘッドライト範囲調整ダイヤルをまわします。

ヘッドライトウォッシャー

ヘッドライトが点灯していてエンジンがかかっているときに、フロントウインドウウォッシャーを約5回作動させると、ヘッドライトウォッシャーが自動的に作動します（▶127ページ）。エンジンを停止すると、ヘッドライトウォッシャーの自動作動はリセットされ、カウントは0から再開します。

コンビネーションスイッチ

方向指示



- ① ハイビームヘッドライト
- ② 方向指示、右
- ③ パッシング
- ④ 方向指示、左

- ▶ **短時間作動させる**：コンビネーションスイッチを矢印②または④の方向に、抵抗がある位置まで軽く操作します。

対応する方向指示灯が3回点滅します。

- ▶ **作動させる**：コンビネーションスイッチを矢印②または④の方向に、抵抗がある位置を越えて操作します。

ハイビームヘッドライト

- ▶ **ハイビームヘッドライトを点灯する**：イグニッション位置を2にするか、エンジンを始動します。
- ▶ ライトスイッチを  または **AUTO** にまわします。

- ▶ コンビネーションスイッチを矢印①の方向に、抵抗がある位置を越えて操作します。

 位置では、周囲が暗く、エンジンがかかっているときのみ、ハイビームヘッドライトが点灯します。

ハイビームヘッドライトが点灯しているときは、メーターパネルの  表示灯が点灯します。

- ▶ **ハイビームヘッドライトを消灯する**：コンビネーションスイッチを通常の位置に戻します。

メーターパネルの  表示灯が消灯します。

パッシング

- ▶ **点灯する**：イグニッション位置を1または2にするか、エンジンを始動します。
- ▶ コンビネーションスイッチを矢印③の方向に引きます。

非常点滅灯



非常点滅灯は、以下のときに自動的に作動します。

- エアバッグが作動したとき

- 約 70km/h 以上の速度から、車両が急減速して停車したとき

▶ **非常点滅灯を作動させる**：スイッチ①を押します。

すべての方向指示灯が点滅します。このときにコンビネーションスイッチを使用して方向指示灯を作動させたときは、車両の対応する側の方向指示灯のみが点滅します。

▶ **非常点滅灯を解除する**：スイッチ①を押します。

フルブレーキを効かせた後は、車両の速度が再度 10km/h に達すると、非常点滅灯は自動的に解除されます。

- i** 非常点滅灯はイグニッションがオフのときでも作動します。

インテリジェントライトシステム

重要な安全上の注意

インテリジェントライトシステムは、そのときの走行や天候の状況に合わせてヘッドライトを自動的に調整するシステムです。車両の速度や天候状況などに応じて路面の照射を向上させる先進機能があります。

システムには、アクティブライトシステム、コーナリングライト、ハイウェイモード、フォグランプ強化機能が含まれます。システムは、周囲が暗いときにのみ作動します。

マルチファンクションディスプレイを使用して、"インテリジェントライトシステム"を設定または解除することができます (▶232 ページ)。

アクティブライトシステム



アクティブライトシステムは、前輪のステアリング動作に応じて、ヘッドライトを動かすシステムです。このようにして、走行している間は関連する範囲が照射されたままになります。これにより、歩行者、サイクリストや動物を認識できます。

作動：ライトが点灯しているとき

コーナリングライト



コーナリングライトは、曲がる方向の広い角度にわたる路面の照射を向上させ、急カーブなどでのより良い視界を可能にします。コーナリングライトは、ロービームヘッドライトが点灯しているときにのみ作動します。

作動：

- 約 40km/h 以下の速度で走行していて、方向指示灯を作動させるか、またはステアリングをまわした場合
- 約 40 km/h から 70km/h の間の速度で走行していて、ステアリングをまわした場合

非作動：約 40km/h 以上の速度で走行するか、または方向指示灯を停止する、またはステアリングを直進位置にまわした場合。

コーナリングライトは短時間点灯したままになることがありますが、最大約 3 分後に自動的に消灯します。

ハイウェイモード

ハイウェイモードは、照射範囲を増やします。

作動：

- 約 110km/h 以上の走行速度で、約 1000m ステアリングを大きく動かさなかった場合
- 約 130km/h 以上の速度で走行した場合

非作動：作動した後に、約 80km/h 以下の速度で走行した場合。

フォグランプ強化機能

フォグランプ強化機能は、運転者が感じる眩しさを軽減し、道路の端の照射を向上させます。

作動：約 70km/h 以下の速度で走行していて、リアフォグランプを点灯した場合。

非作動：作動した後に、約 100km/h 以上の速度で走行した場合、またはリアフォグランプを消灯した場合。

アダプティブハイビームアシスト

⚠ 警告

アダプティブハイビームアシストは走行を支援するための補助機能です。実際の明るさ、視界および交通状況に車両の照明を調整する責任は運転者にあります。

以下のときは、システムが損なわれたり、解除されることがあります。

- 雪、雨、霧または霧雨などの視界が悪い場合
- 光学センサー周囲のフロントウインドウ範囲が汚れていたり、曇っている、またはステッカーで覆われている場合

以下のときは、道路使用者を認識しないことがあります。

- 歩行者など、道路使用者が照明を持っていない場合
- サイクリストなど、道路使用者が暗い照明を持っている場合
- 道路使用者がガードレールの後ろにいるなど、道路使用者の照明が明確に見えない場合
- まれな場合：照明を持っている道路使用者が非常に遅れて、またはまったく認識されないことがあります。

道路使用者が前方を走行している、または車両に接近しているにもかかわらず、自動的なハイビームヘッドライトが解除されなかったり、または作動することがあります。

このように、事故やお客様自身または他の方のけがにつながるおそれがあります。常に交通状況に従い、必要であれば手でライトを下向きにしてください。

この機能を使用すると、ヘッドライトがハイビームとロービームの間で自動的に切り替わるように設定できます。反対方向から接近してくる、または車両の前方を走行しているライトを点灯した車両を認識し、それに従ってヘッドライトをハイビームからロービームに切り替えます。

システムは、他の車両との距離に応じてロービームヘッドライトの範囲を自動的に調整します。システムが他の車両を検知しなくなると、ハイビームヘッドライトを再作動させます。

システムの光学センサーは、フロントウインドウ裏側の上方操作部付近にあります。



▶ **作動させる**：マルチファンクションディスプレイを使用して、アダプティブハイビームアシストを作動させます (▷233 ページ)。

▶ ライトスイッチを **AUTO** にまわします。

- ▶ コンビネーションスイッチを抵抗がある位置を越えて、矢印①の方向に押します (▷113 ページ)。

暗く、ライトセンサーがロービームヘッドライトを作動させた場合は、マルチファンクションディスプレイに  表示灯が表示されます。

約 45km/h 以上の速度で走行している場合は、車両と他の道路使用者との間の距離に応じて、ヘッドライトの範囲が自動的に設定されます。

約 55km/h 以上の速度で走行し、他の道路使用者が認識されない場合は、自動的にハイビームヘッドライトが点灯します。メーターパネルの  表示灯も点灯します。

約 45km/h 以下の速度で走行しているか、または他の道路使用者が認識されている、または道路が十分に照らされているときは、自動的にハイビームヘッドライトが消灯します。メーターパネルの  表示灯が消灯します。マルチファンクションディスプレイの  表示灯は点灯したままになります。

- ▶ **解除する：** コンビネーションスイッチを通常の位置に動かして戻します。

マルチファンクションディスプレイの  表示灯が消灯します。

ヘッドライトの内側が曇るとき

外気の湿度が高いときは、ヘッドライトの内側が曇ることがあります。

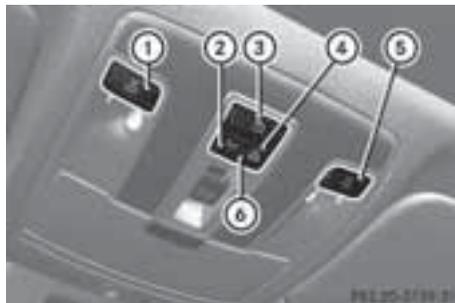
- ▶ ヘッドライトを点灯して走行してください。

走行距離や天候（湿度と気温）に応じて、ヘッドライト内側の曇り具合は低減します。

- ▶ ヘッドライト内側の曇り具合が低減しない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場ヘッドライトの点検を受けてください。

ルームライト

ルームライトの概要



上方の操作部

- ①  左側フロント読書灯の点灯 / 消灯の切り替え
- ②  フロントルームライトの点灯 / 消灯
- ③  リアルームライトの点灯 / 消灯
- ④  フロントルームライト / ルームライトオート制御の解除
- ⑤  右側フロント読書灯の点灯 / 消灯の切り替え
- ⑥ ルームライトオート制御の作動



後席上方の操作部

① 読書灯の点灯 / 消灯

ルームライトの操作

重要な安全上の注意

車両のバッテリーの放電を防ぐため、イグニッション位置が 2 以外のときは、点灯したルームライト機能は一定時間後に自動的に解除されます。

ルームライトのオート制御

- ▶ **作動させる**：スイッチを中立の位置 ⑥ にします。
- ▶ **解除する**：スイッチを  の位置にします。

ルームライトは以下のときに自動的に点灯します。

- リモコン操作で車両を解錠したとき
- ドアを開いたとき
- エンジンスイッチからキーを抜いたとき

エンジンスイッチからキーを抜いた後も、ルームライトは短時間点灯します。マルチファンクションディスプレイを使用して、この遅延機能を作動させることができます (▷234 ページ)。

ルームライトの手動制御

- ▶ **フロントルームライトを点灯する**：スイッチを  の位置にします。
- ▶ **フロントルームライトを消灯する**：スイッチを  の位置にします。
- ▶ **リアルームライトの点灯 / 消灯を切り替える**： スイッチを押します。
- ▶ **読書灯の点灯 / 消灯を切り替える**： スイッチを押します。

緊急時点灯機能

車両が事故に巻き込まれたときは、ルームライトが自動的に点灯します。

- ▶ **緊急時点灯機能を解除する**：非常点滅灯スイッチを押します。

または

- ▶ キーを使用して車両を施錠および解錠します。

電球の交換

重要な安全上の注意

バイキセノンヘッドライト

警告

バイキセノンヘッドライトには高電圧が発生しています。バイキセノンヘッドライトの電気接続部に触れると、感電して、重大な、または致命的なけがをすることがあります。この理由のため、バイキセノンヘッドライトのカバーは取り外さないでください。

バイキセノンヘッドライトの交換はご自身では行わず、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行ってください。

車両にバイキセノンヘッドライトが装備されているときは、以下のことができます。エンジンを始動すると、バイキセノンヘッドライトからの配光は上から下に動き、再度戻ります。このことを見るためには、エンジンを始動する前に、ライトが点灯されていないかなければなりません。

電球やライトは車両の重要な安全装備のひとつです。そのため、これらすべてが常に適切に機能していることを確認してください。ヘッドライトの設定を定期的に点検してください。

その他のライト

警告

電球やライトは非常に熱くなります。そのため、交換する前に電球を冷やしてください。

電球は子供の手の届かないところに保管してください。さもないと、電球を損傷したり、子供がけがをすることがあります。

落下した電球を使用しないでください。そのような電球は、割れたり破裂して、けがをすることがあります。

ハロゲンライトには圧力がかかっており、交換するときには破裂するおそれがあります。そのため、交換するときには、防護眼鏡や手袋などを着用してください。

バイキセノンヘッドライト以外にもお客様自身で交換できない電球があります。リストに挙げられている電球のみを交換してください（▶120 ページ）。お客様自身で交換できない電球は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行ってください。

新しい電球のガラス部分には素手で触れないでください。少しの汚れであってもガラス表面で溶け、電球の寿命を短くします。装着するときは常に、きれいな布を使用するか、バルブのベース部分にのみ触れてください。

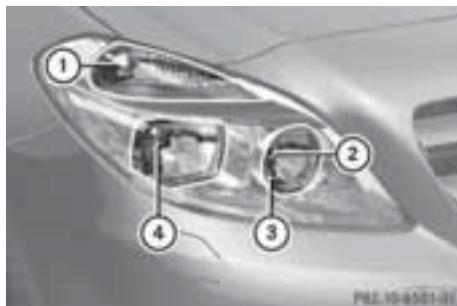
適切な種類の電球のみを使用してください。

新しい電球が点灯しない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

バルブとライトは車両安全性に対して重要な要因です。そのため、これらが正しく機能することを常に確認しなければなりません。定期的にヘッドライトの設定を点検してください。

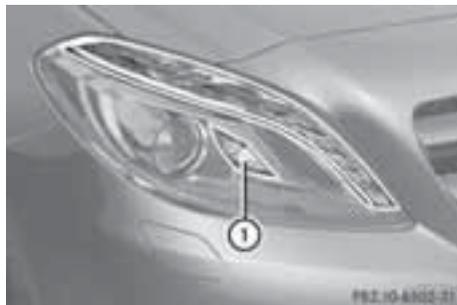
電球交換の概要

以下の電球を交換することができません。電球の種類の詳細は、凡例をご覧ください。



ハロゲンヘッドライト

- ① 方向指示灯：PY 21W
- ② ハイビームヘッドライト：H7 55W
- ③ 車幅灯 / パーキングライト：W 5W LL
- ④ ロービームヘッドライト：H7 55W



インテリジェントライトシステム装備車

- ① コーナリングライト：H7 55W



テールライト (ハロゲンヘッドライト装備車)

- ① テールライト / ブレーキライト：P 21W
- ② 方向指示灯：PY 21W
- ③ テールライト：P 21W
- ④ リアフォグランプ：P 21W
- ⑤ バックランプ：W 16W



テールライト (バイキセノンヘッドライト装備車)

- ① ブレーキライト：P 21W
- ② リアフォグランプ：H 21W
- ③ バックランプ：W 16W



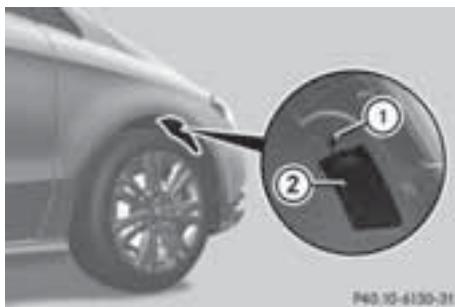
ライセンスプレートランプ（ハロゲンヘッドライト装備車）

① ライセンスプレートランプ：C 5W

フロントバルブの交換

フロントホイールアーチのカバーの着脱

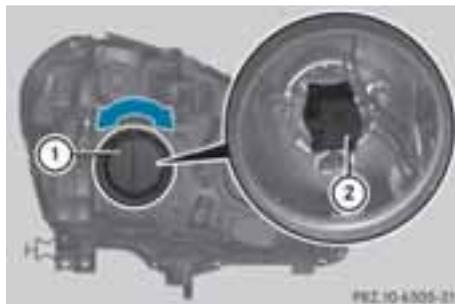
フロントのバルブを交換する前に、フロントホイールハウジングからカバーを外す必要があります。



- ▶ **外す**：ライトを消灯します。
- ▶ 前輪を内側にまわします。
- ▶ ノブ①を90度まわします。
カバー②のロックが外れます。
- ▶ カバー②を押し下げます。

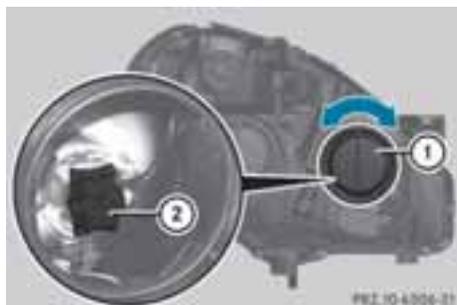
- ▶ **取り付ける**：カバー②を押し上げます。
- ▶ ノブ①を90度まわします。
カバー②がロックされます。

ロービームヘッドライト（ハロゲンヘッドライト）



- ▶ フロントホイールアーチのカバーを押し下げます（▶121ページ）。
- ▶ ハウジングカバー①を反時計回りにまわし、引いて取り外します。
- ▶ バルブホルダー②を反時計回りにまわし、引いて取り外します。
- ▶ バルブホルダー②のバルブを抜きます。
- ▶ 新しいバルブをバルブホルダー②に差し込みます。
- ▶ バルブホルダー②をライトに差し込み、時計回りにまわします。
- ▶ ハウジングカバー①を合わせ、固定されるまで時計回りにまわします。
- ▶ フロントホイールアーチのカバーを元通りにします（▶121ページ）。

ハイビームヘッドライト (ハロゲンヘッドライト)



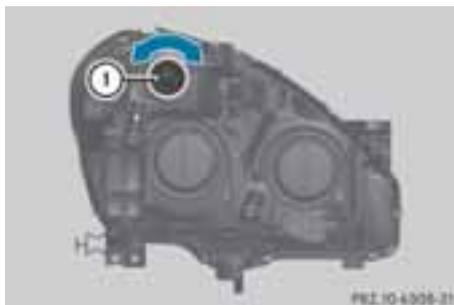
- ▶ ライトを消灯します。
- ▶ ボンネットを開きます。
- ▶ハウジングカバー ① を反時計回りにまわし、引いて取り外します。
- ▶バルブホルダー ② を反時計回りにまわし、引いて取り外します。
- ▶バルブホルダー ② のバルブを抜きます。
- ▶新しいバルブをバルブホルダー ② に差し込みます。
- ▶バルブホルダー ② をライトに差し込み、時計回りにまわします。
- ▶ハウジングカバー ① を合わせ、固定されるまで時計回りにまわします。

車幅灯 / パーキングライト (ハロゲンヘッドライト)



- ▶ ライトを消灯します。
- ▶ ボンネットを開きます。
- ▶ハウジングカバー ① を反時計回りにまわし、引いて取り外します。
- ▶バルブホルダー ② を取り外します。
- ▶バルブホルダー ② のバルブを抜きます。
- ▶新しいバルブをバルブホルダー ② に差し込みます。
- ▶バルブホルダー ② を差し込みます。
- ▶ハウジングカバー ① を合わせ、固定されるまで時計回りにまわします。

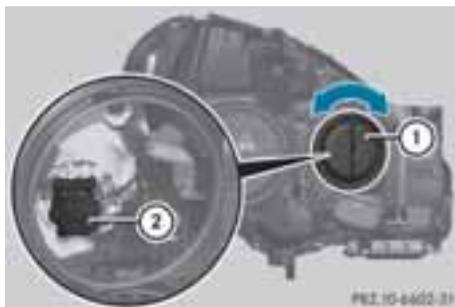
方向指示灯 (ハロゲンヘッドライト)



- ▶ ライトを消灯します。

- ▶ ボンネットを開きます。
- ▶ バルブホルダー ① を反時計回りにまわし、引いて取り外します。
- ▶ バルブホルダー ① のバルブを抜きます。
- ▶ 新しいバルブをバルブホルダー ① に差し込みます。
- ▶ バルブホルダー ① を差し込み、固定されるまで時計回りにまわします。

コーナリングライト機能 (インテリジェントライトシステム)



- ▶ ライトを消灯します。
- ▶ ボンネットを開きます。
- ▶ ハウジングカバー ① を反時計回りにまわし、引いて取り外します。
- ▶ バルブホルダー ② を反時計回りにまわし、引いて取り外します。
- ▶ バルブホルダー ② のバルブを抜きます。
- ▶ 新しいバルブをバルブホルダー ② に差し込みます。
- ▶ バルブホルダー ② をライトに差し込み、時計回りにまわします。

- ▶ ハウジングカバー ① を合わせ、固定されるまで時計回りにまわします。

リアバルブの交換

サイドトリムパネルの開閉

テールライトのバルブを交換する前に、ラゲッジルームのサイドトリムパネルを開く必要があります。



左側サイドトリムパネル



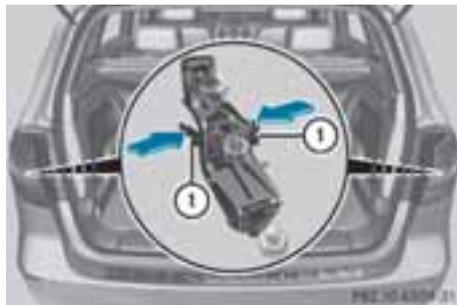
右側サイドトリムパネル

- ▶ **開く**：解除ノブ ① を矢印の方向に90度まわし、サイドトリムパネル ② を外します。
- ▶ **閉じる**：サイドトリムパネル ② を元の位置に差し込み、解除ノブ ① を矢印と逆方向に90度まわします。

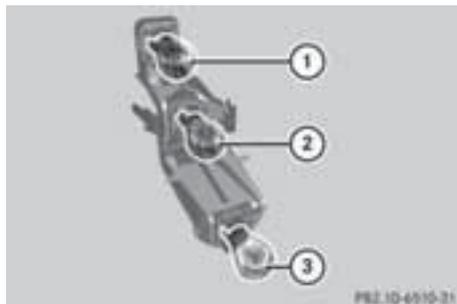
テールライト

方向指示灯 / テールライトとブレーキライト

- ▶ ライトを消灯します。
- ▶ ラゲッジルームを開きます。
- ▶ サイドトリムパネルを開きます (▷123 ページ)。



- ▶ 取り付け部のつまみ ① を両側同時に矢印の方向に押し、バルブホルダーを引いて取り外します。



バルブホルダー

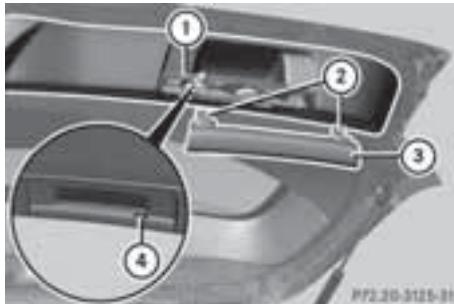
- ① テールライト / ブレーキライト¹
 - ② 方向指示灯 (LED ライト非装備車)
 - ③ テールライト (LED ライト非装備車)
- ▶ 該当するバルブをバルブホルダーに軽く押し、反時計回りにまわして、バルブホルダーから取り外します。

- ▶ 該当する新しいバルブをバルブホルダーに差し込み、時計回りにまわします。
- ▶ バルブホルダーをはめ込み、強めに押します。
固定される音が聞こえ、バルブホルダーの取り付け部のつまみがはめ込まれます。
- ▶ サイドトリムパネルを閉じます (▷123 ページ)。

バックランプとリアフォグランプ

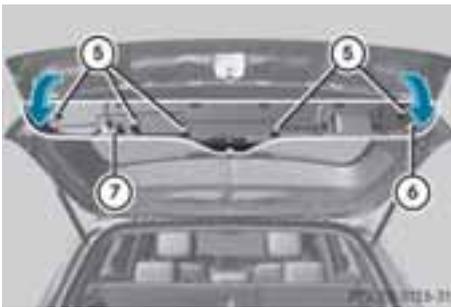
ランプの配置のため、テールゲート内のバックランプとリアフォグランプのバルブは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場での交換する必要があります。

- ▶ ライトを消灯します。
- ▶ テールゲートを開きます。



- ▶ クロー징ハンドル内側の凹部 ④ にドライバーなどの平らで平滑な物を差し込み、ハンドル上部 ③ を開いて取り外します。
- ▶ ハンドル下部 ① を一気に引いてトリムから外します。ハンドルは適切な場所に寄せておきます。

¹ LED ライト装備車：ブレーキライトのみ



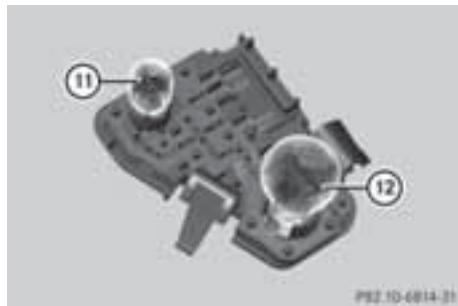
- ▶ 右側トリム⑥の下端に手を入れ、静かに力を加えながら、トリム全周のロックをひとつずつ外します。
- ▶ テールゲートライトのコネクター⑦を外します。
- ▶ トリム⑥は適切な場所に寄せておきます。



- ▶ 左右どちらかのバルブを交換するには、バルブホルダー⑨に手が届くまで、トリム⑧に静かに力を加えながら、トリム全周のロックをひとつずつ外します。



- ▶ レバー⑩の両側をつまみ、バルブホルダー⑨を外します。



バルブホルダー

- ▶ **リアフォグランプ⑫**：バルブをホルダー⑨に軽く押しながら、反時計回りにまわしてバルブホルダー⑨から取り外します。
- ▶ **バックランプ⑪**：バルブをバルブホルダー⑨から取り外します。
- ▶ 新しいバルブをバルブホルダー⑨に差し込みます。
- ▶ 新しいバルブをバルブホルダー⑨に差し込み、時計回りにまわして固定します。
- ▶ バルブホルダー⑨をテールゲートに再度差し込み、固定される音が聞こえるまでロックします。

- ▶ トリム ⑧ の位置合わせを行ない、所定の位置に手で叩いてはめ込みます。
- ▶ 残りの取り付けを始める前に、ハンドル上部 ③ には 2 個のメタルクリップ ② が、そしてトリム ⑥ には 5 個のメタルクリップ ⑤ がそれぞれ差し込まれていることを確認してください。
- ▶ そうでない場合は、テールゲート内側の取り付け部に残っているメタルクリップを取り外し、それらを所定の位置に差し込みます。
- ▶ トリム ⑥ を取り出し、テールゲートライトのコネクター ⑦ を取り付けます。
- ▶ **i** テールゲートライトは、テールゲートを閉じ、再度開いたときに点灯します。
- ▶ トリム ⑥ の位置合わせを行ない、はじめに外側から、所定の位置に手で叩いてはめ込みます。
- ▶ ハンドル下部 ① を再度はめ込みます。
- ▶ ハンドル上部 ③ をハンドル下部 ① に差し込み、はめ込みます。

ライセンスプレートランプ



- ▶ ライトを消灯します。
- ▶ テールゲートを開きます。
- ▶ テールゲートとランプレンズ ① の外側のすき間にマイナスドライバーを差し込みます。
- ▶ マイナスドライバーをひねってランプレンズ ① のロックを外し、レンズを取り外します。
- ▶ バルブを交換します。
- ▶ ランプレンズ ① を元の位置に差し込み、固定されるまで押し込みます。

ワイパー

フロントウインドウワイパーの作動 / 停止の切り替え

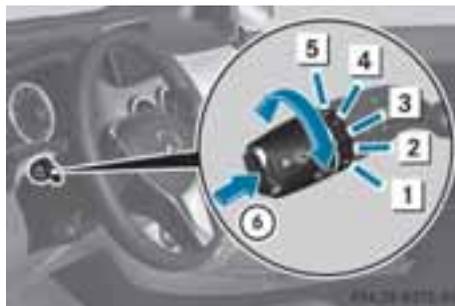
⚠ 警告

ワイパーブレードが摩耗すると、フロントワイパーが適切に拭き取れなくなります。交通状況を把握する妨げになり、そのため事故の原因になるおそれがあります。ワイパーブレードは年に2回、理想的には春と秋に交換してください。

! ワイパーブレードを損傷するおそれがあるため、フロントウインドウが乾いているときはワイパーを作動させないでください。さらに、フロントウインドウが乾いているときに拭き取ると、フロントウインドウに付着している汚れにより、ガラスに傷が付くおそれがあります。

雨が降っていない天候のときにフロントウインドウワイパーを作動させる必要があるときは常に、ウォッシャー液を使用して作動させてください。

! 自動洗車機で洗車した後に、フロントウインドウワイパーがフロントウインドウに油膜を残すときは、ワックスや他の残留物が原因であることがあります。自動洗車機で洗車した後は、ウォッシャー液でフロントウインドウを清掃してください。



コンビネーションスイッチ

- 1 **0** フロントウインドウワイパーの停止
- 2 **⋯** 間欠作動、低（レインセンサーが低い感度に設定）
- 3 **⋯⋯** 間欠作動、高（レインセンサーが高い感度に設定）
- 4 **—** 連続作動、低速
- 5 **≡** 連続作動、高速
- 6 **☔** 1回作動 / **☔** ウィンドウウォッシャー液を使用してのフロントウインドウの拭き取り

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

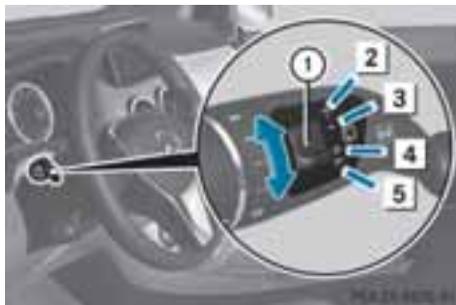
▶ 対応する位置にコンビネーションスイッチをまわします。

! レインセンサー装備車は、雨が降っていない状況でフロントウインドウが汚れたときはフロントウインドウワイパーが不意に作動することがあります。これにより、フロントウインドウワイパーのブレードが損傷したり、フロントウインドウを傷つけるおそれがあります。

この理由により、雨が降っていないときは常に、フロントウインドウワイパーを停止してください。

レインセンサー装備車： または の位置では、雨の強さに応じて適切な拭き取り頻度が自動的に設定されます。 位置では、 位置に比べレインセンサーはより感度がよくなり、フロントウインドウワイパーがより頻繁に拭き取ることになります。

リアウインドウワイパーの作動 / 停止の切り替え



コンビネーションスイッチ

- ① スイッチ
- ② ウォッシャー液を含む拭き取り
- ③ I 間欠拭き取りの作動
- ④ 0 間欠拭き取りの停止
- ⑤ ウォッシャー液を含む拭き取り

▶ イグニッション位置を 1 か 2 にします。

▶ 対応する位置にコンビネーションスイッチをまわします。

リアウインドウワイパーが作動しているときは、メーターパネルにマークが表示されます。

ワイパーブレードの交換

重要な安全上の注意

⚠ 警告

ワイパーを作動させているときは、ワイパーアームが動きだし、けがの原因になることがあります。

ワイパーブレードを交換する前に、エンジンスイッチからキーを抜いてください。

❗ ワイパーブレードの損傷を避けるため、ワイパーのワイパーアームのみに触れるようにしてください。

❗ ワイパーアームがウインドウから起きているときは、ボンネットを開かないでください。

ワイパーブレードがないワイパーアームをウインドウの上に載せないでください。

ワイパーブレードを交換するときは、ワイパーアームを確実に持ってください。ワイパーブレードがないワイパーアームを放して、ウインドウに落ちると、衝撃の力によりウインドウを損傷するおそれがあります。

ワイパーブレードの交換は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

フロントウィンドウのワイパーブレードの交換

ワイパーブレードを取り外す

- ▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ フロントウィンドウからワイパーアームを起こします。



- ▶ 両側の解除クリップ②を押します。
- ▶ ワイパーブレード①を、ワイパーアーム④から矢印③の方向に起こします。
- ▶ ワイパーブレード①を矢印⑤の方向に取り外します。

ワイパーブレードを取り付ける



- ▶ 新しいワイパーブレード①の凹部⑥を突起⑤に合わせます。

- ▶ 固定クリップ②がブラケット④に固定されるまで、ワイパーブレード①をワイパーアームの上に矢印③の方向に押しします。
- ▶ ワイパーブレード①が、適切に固定されていることを確認します。
- ▶ ワイパーアームをフロントウィンドウの上を下ろして戻します。

リアウィンドウのワイパーブレードの交換

⚠ 警告

ワイパーを作動させているときは、ワイパーアームが動きだし、けがの原因になることがあります。

ワイパーブレードを交換する前に、エンジンスイッチからキーを抜いてください。

ワイパーブレードを取り外す



- ▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ 固定されるまで、リアウィンドウからワイパーアーム①を起こします。
- ▶ ワイパーブレード②をワイパーアーム①に対して直角の位置にします。

- ▶ ワイパーアーム ① を持ち、外れるまで矢印の方向にワイパーブレード ② を押します。
- ▶ ワイパーブレード ② を取り外します。

ワイパーブレードを取り付ける

- ▶ 新しいワイパーブレード ② をワイパーアーム ① に合わせます。
- ▶ ワイパーアーム ① を持ち、固定されるまで矢印と反対の方向にワイパーブレード ② を押します。
- ▶ ワイパーブレード ② が適切に固定されていることを確認します。
- ▶ ワイパーブレード ② をワイパーアーム ① と平行の位置にします。
- ▶ ワイパーアーム ① をリアウインドウに下ろして戻します。

ワイパーが作動しない

ワイパーが故障しています。

- ▶ コンビネーションスイッチの他のワイパーの作動を選択します。
- ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場
でワイパーの点検を受けてください。

噴射ノズルの位置がずれている

噴射ノズルからのウインドウウォッシャー液がフロントウインドウの中央に当たらなくなっています。噴射ノズルの位置がずれています。

- ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場
で噴射ノズルを調整してください。

ワイパーのトラブル

ワイパーが妨げられている

葉や雪などが、ワイパーの動きを妨げています。ワイパーモーターの作動が停止しています。

- ▶ 安全上の理由により、エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ 原因となっている障害物を取り除きます。
- ▶ 再度、ワイパーを作動させます。

役に立つ情報	132
エアコンディショナーシステムの概要	132
エアコンディショナーシステムの操作	135
送風口の調整	142

役に立つ情報

i この取扱説明書では、本書の発行時点で車両に装着可能な、すべての標準およびオプション装備について記載しています。ただし、国により仕様が異なるため、本書に記載されているすべての機能が、お客様の車両に当てはまらない場合があります。このことにご留意ください。このことは、安全に関する装備や機能にも当てはまります。

i 外気温度が高いときは、コンビニエンスオープニング機能 (▷88 ページ) を使用して、車内を一時的に換気してください。これにより、好みの車内温度により速く達することができます。

i エアコンディショナーのフィルター類は定期的な交換が必要です。また、交換時期は使用環境によって異なります。

フィルター類が目づまりを起こしていると送風量が減ることがあります。

エアコンディショナーシステムの概要

重要な安全上の注意

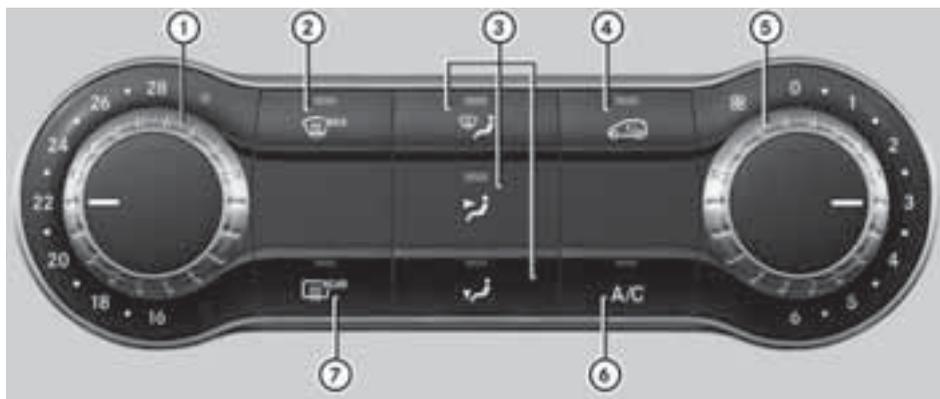
警告

エアコンディショナーの設定は、以降の説明に従って正しく行なってください。さもないと、ウィンドウが曇ります。これにより交通状況を把握できず、事故の原因になります。

エアコンディショナーは、車内の温度や湿度を制御し、空気中の不快な物質を除去します。

エアコンディショナーはエンジンがかかっているときにのみ作動します。サイドウィンドウやパノラミックスライディングルーフを閉じて走行しているときにのみ、最適な作動が行なわれます。

エアコンディショナーのコントロールパネル



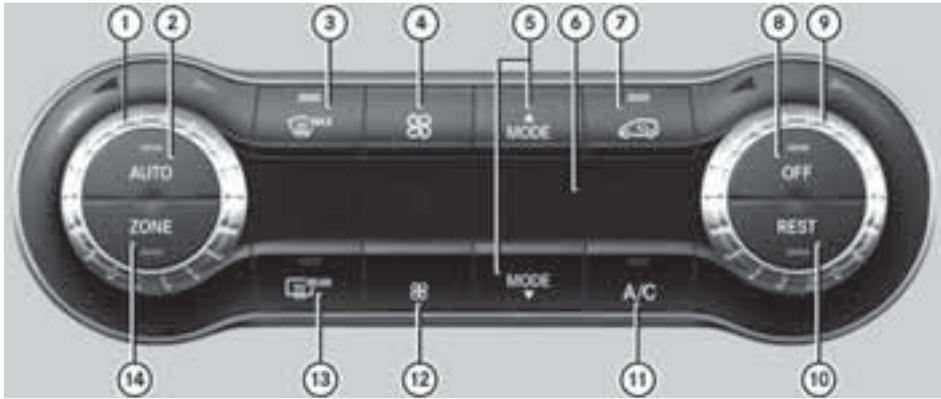
- ① 温度の設定 (▷136 ページ)
- ② デフロスターの作動 (▷138 ページ)
- ③ 送風配分の設定 (▷137 ページ)
- ④ 内気循環モードの作動 / 解除 (▷140 ページ)
- ⑤ 送風量の設定 (▷138 ページ)
- ⑥ AC モードの作動 / 解除 (▷135 ページ)
- ⑦ リアデフォグラーの作動 / 停止 (▷139 ページ)

エアコンディショナー使用時の注意

以下には、エアコンディショナーを最も効果的にご使用いただくための指示と推奨が含まれています。

- ダイヤル ⑤ を時計回りに好みの位置にまわして、エアコンディショナーを作動させてください。
- 通常は設定温度を 22℃ にすることをお勧めします。
- 冬季は送風口を  または  にすることをお勧めします。
夏季は送風口を  にすることをお勧めします。
- デフロスターモードは、フロントウインドウの曇りが取れるまでのみ、一時的に使用してください。
- 内気循環モードは、外気に不快な臭いがあるときやトンネルの中などのみに、一時的に使用してください。さもないと、内気循環モードでは外気が車内に送風されないため、ウインドウが曇るおそれがあります。

クライメートコントロール（左右独立調整）のコントロールパネル



- ① 温度の設定、左側（▷137 ページ）
- ② オートモードの設定（▷136 ページ）
- ③ デフロスターの作動 / 停止（▷138 ページ）
- ④ 送風量を上げる（▷138 ページ）
- ⑤ 送風配分の設定（▷137 ページ）
- ⑥ ディスプレイ
- ⑦ 内気循環モードの作動 / 解除（▷140 ページ）
- ⑧ エアコンディショナーの作動 / 停止（▷135 ページ）
- ⑨ 温度の設定、右側（▷137 ページ）
- ⑩ 余熱ヒーターの作動 / 停止（▷141 ページ）
- ⑪ AC モードの作動 / 解除（▷135 ページ）
- ⑫ 送風量を下げる（▷138 ページ）
- ⑬ リアデフォグガーの作動 / 停止（▷139 ページ）
- ⑭ ZONE 機能の作動 / 停止（▷138 ページ）

クライメートコントロール（左右独立調整）使用時の注意

以下には、クライメートコントロール（左右独立調整）を最も効果的にご使用いただくための指示と推奨が含まれています。

- **AUTO** および **A/C** スイッチを使用してエアコンディショナーを作動させてください。**AUTO** および **A/C** スイッチ **A/C** の表示灯が点灯します。
- 通常は設定温度を 22℃ にすることを お勧めします。
- デフロスターモードは、フロントウインドウの曇りが取れるまでのみ、一時的に使用してください。

- 内気循環モードは、外気に不快な臭いがあるときやトンネルの中のと
きなどのみに、一時的に使用してく
ださい。さもないと、内気循環モ
ードでは外気が車内に送風されないた
め、ウインドウが曇るおそれがあり
ます。
- ゾーン機能は運転席側の温度設定を
助手席側にも適応させるときに使用
してください。[ZONE] スイッチの表
示灯が消灯します。
- 余熱ヒーター機能は、エンジンを停
止したときに車内を暖めたり、換
気するときを使用してください。予
熱ヒーター機能はイグニッション位
置が **0** または **1** のときに、作動ま
たは解除することができます。

エアコンディショナーシステムの操作

エアコンディショナーシステムの作 動 / 停止

作動 / 停止

エアコンディショナー

- ▶ イグニッション位置を **2** にします。
- ▶ **作動させる**：好みの位置 (**0** の位置
を除く) にダイヤル ⑤ を時計回り
にまわします (▷133 ページ)。
- ▶ **停止する**：**0** の位置にダイヤル ⑤
を反時計回りにまわします (▷133
ページ)。

クライメートコントロール (左右独立 調整)

- ▶ イグニッション位置を **2** にします。

- ▶ **作動させる**：**AUTO** スイッチを押し
ます。**AUTO** スイッチの表示灯が点
灯します。送風量と送風配分が自動
モードに設定されます。

または

- ▶ **OFF** スイッチを押します。**OFF** ス
イッチの表示灯が消灯します。以
前選択していた設定で再度作動し
ます。

- ▶ **停止する**：**OFF** スイッチを押し
ます。**OFF** スイッチの表示灯が点
灯します。

i エアコンディショナーが停止する
と、送風や内気循環も停止します。
この設定は短時間のみ使用してくだ
さい。さもないと、ウインドウが曇
るおそれがあります。

i クライメートコントロール (左右
独立調整) は、基本的には **AUTO** ス
イッチを使用して、エアコンディ
ショナーシステムを作動させてくだ
さい。

AC モードの作動 / 解除

重要な情報

警告

"AC モード" 機能が解除されている
と、車内の空気は冷却 (暖かい気候
の間) または除湿されません。ウイ
ンドウがより早く曇るおそれがあり
ます。これにより、交通状況を把握
できずに事故の原因になります。

AC モードは、エンジンがかかっているときのみ使用できます。設定温度に応じて、車内の空気が冷房または除湿されます。

AC モードが作動しているとき、除湿された水分は車体下方に排水されます。これは正常であり、故障の兆候ではありません。

i AC モードで使用される冷媒にはフロンガスが含まれていないため、オゾン層を破壊しません。冷媒に関する情報はメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

作動と解除

- ▶ **作動させる**： A/C スイッチを押します。 A/C スイッチの表示灯が点灯します。
- ▶ **解除する**： A/C スイッチを押します。 A/C スイッチの表示灯が消灯します。AC モードには、少し遅れて解除される機能があります。

AC モードのトラブル

- A/C スイッチを押したときに、表示灯が3回点滅するか、消灯したままになります。AC モードを作動できなくなります。
- ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場点検を受けてください。

エアコンディショナーシステムをオートモードに設定する

クライメイトコントロール（左右独立調整）のみに"オートモード"機能があります。

オートモードでは、設定温度が一定のレベルで自動的に維持されます。システムが送風温度や送風量、送風配分を自動的に制御します。

オートモードはACモードが作動しているときに、最適な作動を得ることができます。好みによって、ACモードを解除してください。

- ▶ イグニッション位置を **2** にします。
- ▶ 好みの温度に設定します。

- ▶ **作動させる**： AUTO スイッチを押します。 AUTO スイッチの表示灯が点灯します。自動的な送風量と送風配分が作動します。
- ▶ **停止する**： OFF スイッチを押します。

または

- ▶ ☼ または ☼ スイッチを押します。
- AUTO スイッチの表示灯が消灯します。自動的な送風量と送風配分が解除されます。

温度の調整

エアコンディショナー

車内全体の温度を設定できます。

- ▶ イグニッション位置を **2** にします。

- ▶ **上げる / 下げる**：ダイヤル ① を時計回りまたは反時計回りにまわします (▷133 ページ)。

少しずつ、温度設定を変更してください。22℃から開始してください。

クライメートコントロール (左右独立調整)

運転席および助手席側で異なる温度を設定できます。

- ▶ イグニッション位置を **2** にします。
- ▶ **上げる / 下げる**：ダイヤル ① または ⑨ を時計回りまたは反時計回りにまわします (▷134 ページ)。

少しずつ、温度設定を変更してください。22℃から開始してください。

送風配分の設定

送風配分の設定

エアコンディショナー

-  デフロスター送風口からの送風になります。
-  中央およびサイド送風口からの送風になります。
-  足元送風口からの送風になります。

i 複数の送風配分を同時に作動させることもできます。そのためには、複数の送風配分スイッチを押してください。それにより、異なる送風口を通した送風になります。

クライメートコントロール (左右独立調整)

-  デフロスター送風口からの送風になります。
-  中央およびサイド送風口からの送風になります。
-  足元送風口からの送風になります。
-  中央およびサイド送風口、足元送風口からの送風になります。
-  中央およびサイド送風口、同時にデフロスター送風口からの送風になります。
-  足元およびデフロスター送風口からの送風になります。

i 送風配分の設定にかかわらず、サイド送風口からの送風は常に行なわれます。サイド送風口は、送風口を時計回りに停止するまでまわしたときのみ、閉じることができます。

エアコンディショナー

- ▶ イグニッション位置を **2** にします。
- ▶ 、、 スwitchの一つ、またはいずれかを押します。
対応する表示灯が点灯します。

クライメートコントロール (左右独立調整)

- ▶ イグニッション位置を **2** にします。
- ▶ 好みのマークがディスプレイに表示されるまで、 または  スwitchを押します。

送風量の設定

エアコンディショナー

- ▶ イグニッション位置を **2** にします。
- ▶ **上げる / 下げる** : ダイヤル ⑤ を時計回り、または反時計回りにまわします。

クライメートコントロール (左右独立調整)

- ▶ イグニッション位置を **2** にします。
- ▶ **上げる / 下げる** :  または  スイッチを押します。

ゾーン機能の作動 / 解除

この機能はクライメートコントロール (左右独立調整) でのみ使用できます。

- ▶ **作動させる** :  スイッチを押します。

 スイッチの表示灯が点灯します。

運転席側の温度設定は、助手席側には適用されません。

- ▶ **解除する** :  スイッチを押します。

 スイッチの表示灯が消灯します。

運転席側の温度設定が、助手席側に適用されます。

フロントウインドウのデフロスター

フロントウインドウの霜取りや、フロントウインドウまたはサイドウインドウの曇り取りに、この機能を使用することができます。

i フロントウインドウが再度クリアになるまでのみ、デフロスター機能を選択してください。

- ▶ イグニッション位置を **2** にします。
- ▶ **作動させる** :  スイッチを押します。

 スイッチの表示灯が点灯します。

以下の内容でエアコンディショナーシステムが作動します。

- AC モードが作動します。
- 外気温度によっては、送風量が上がります。
- 外気温度によっては、送風温度が高くなります。
- フロントウインドウとサイドウインドウへの送風配分になります。
- 内気循環モードが解除されます。

i "デフロスター" 機能は、最適な曇り取り効果になるように送風量を自動的に設定します。結果として、スイッチを押した後に送風量が自動的に上がったたり、または下がる場合があります。

- ▶ **解除する** :  スイッチを押します。

 スイッチの表示灯が消灯します。以前選択していた設定が再度作動します。AC モードは作動したままになります。内気循環モードは解除されたままになります。

または

- ▶ **AUTO** スイッチを押します（クライメートコントロール（左右独立調整）のみ）。
- ▶  スイッチの表示灯が消灯します。送風量と送風配分がオートモードに設定されます。

または

- ▶ **エアコンディショナー**：温度ダイヤル ① を時計回りまたは反時計回りにまわします（▶133 ページ）。
- ▶ **クライメートコントロール（左右独立調整）**：温度ダイヤル ① または ⑨ を時計回りまたは反時計回りにまわします（▶134 ページ）。

または

- ▶ **エアコンディショナー**：ダイヤル ⑤ を時計回りまたは反時計回りにまわします（▶133 ページ）。
- ▶ **クライメートコントロール（左右独立調整）**： または  スイッチを押します。

ウインドウの曇り取り

ウインドウの内側が曇るとき

- ▶ AC モード  を作動させます。
- ▶ オートモード **AUTO** を作動させます。
- ▶ ウインドウが曇り続けるときは、デフロスター機能を作動させます。
- ▶ **i** フロントウインドウが再度クリアになるまでのみ、デフロスター機能を選択してください。

フロントウインドウの外側が曇るとき

- ▶ フロントウインドウワイパーを作動させます。
- ▶ 送風配分を  または  に設定します。
- ▶ **i** フロントウインドウが再度クリアになるまでのみ、デフロスター機能を選択してください。

リアデフォグガー

警告

発進前にすべてのウインドウの氷や雪を取り除いてください。さもないと、損なわれた視界により、お客様や他の方に危険がおよぶおそれがあります。

- ▶ イグニッション位置を **2** にします。
- ▶  スイッチを押します。
- ▶  スイッチの表示灯が点灯します。

リアデフォグガーは多くの電力を使用します。リアウインドウがクリアになったらすぐに停止してください。数分後に自動的に停止します。

バッテリーの電圧が低下したときは、リアデフォグガーは停止することがあります。

リアデフォグガーのトラブル

リアデフォグガーが短時間で停止するか、作動させることができません。

- ▶ 読書灯やルームライトなど、必要でない装備を停止してください。

バッテリーが十分に充電されると、リアデフォグガーは再度作動できるようになります。

内気循環モードの作動 / 解除

警告

外気温度が低いときは、内気循環モードは短時間のみ作動させてください。さもないと、ウインドウが曇りやすくなり、そのために視界が損なわれ、お客様や他の方に危険がおよぶおそれがあります。これにより交通状況への注意が妨げられ、事故の原因になることがあります。

不快な臭いが車外から車内に入ってくるときは、車外の空気の送風を停止できます。車内にある空気が循環されます。

内気循環モードの操作はいずれのコントロールパネルでも共通です。

- ▶ イグニッション位置を **2** にします。

- ▶ **作動させる**： スイッチを押します。

 スイッチの表示灯が点灯します。

- i** 外気温度が高いときは、自動的に内気循環モードが作動します。自動的に内気循環モードが作動した時は、 スイッチの表示灯は点灯しません。

約 30 分後に、外気が追加されます。

- ▶ **解除する**： スイッチを押します。

 スイッチの表示灯が消灯します。

- i** 内気循環モードは以下ときに自動的に解除されます。

- 外気温度が約 5℃ 以下のときは約 5 分後
- AC モードが解除されているときは約 5 分後
- 外気温度が約 5℃ 以上のときは約 30 分後

内気循環スイッチを使用時のコンビニエンスオープニング機能 / クロー징機能

警告

サイドウインドウを開閉するときは、サイドウインドウとドアフレームの間に挟まれる人がいないことを確認してください。開閉するときは、サイドウインドウに物や身体の一部が触れていないことを確認してください。サイドウインドウが動いているときに、人または物がサイドウインドウとドアフレームとの間に引き込まれたり、挟まれるおそれがあります。挟まる危険があるときは、サイドウインドウを反対の方向に動かすために、 スイッチを操作してください。

パノラミックスライディングルーフを開閉するときは、挟まれるおそれのある人がいないことを確認してください。挟まる危険があるときは、パノラミックスライディングルーフを反対の方向に動かすために、 スイッチを操作してください。

- ▶ **コンビエンスクロージング機能**：
サイドウインドウとパノラミックス
ライディングルーフが閉じるまで、
内気循環  スイッチを押して保
持します。

 スイッチの表示灯が点灯し
ます。内気循環モードが作動します。

- ▶ **コンビエンスオープニング機能**：
サイドウインドウとパノラミックス
ライディングルーフが開くまで、内
気循環  スイッチを押して保持
します。サイドウインドウをパノラ
ミックスライディングルーフが元の
位置まで動いて戻ります。

 スイッチの表示灯が消灯し
ます。内気循環モードが解除され
ます。

- i** コンビエンスクロージング機
能で閉じた後に、サイドウインド
ウまたはパノラミックスライディ
ングルーフを手動で開いたときは、
次にコンビエンスオープニング
機能を使用して開いたときに、こ
の箇所は動きません。

余熱ヒーター機能の作動 / 解除

余熱ヒーター機能は、クライメートコ
ントロール（左右独立調整）でのみ使
用できます。

エンジンを停止した後に、最大 30 分
間、停止した車両を暖め続けるために
エンジンの余熱を使用することができ
ます。暖房時間は設定した温度によ
ります。

- i** 送風量の設定に関わらず、送風は
低い設定で行なわれます。

- i** 高い気温のときに余熱ヒーター機
能を作動させたときは、換気のみが
作動します。送風は中ぐらいの設定
で行なわれます。

- i** 余熱ヒーター機能は、イグニッ
ション位置を **0** にするか、エンジ
ンスイッチからキーを抜いた後に 1
時間、自動的に作動することがあり
ます。それから 30 分間は、エアコ
ンディショナーシステムを乾燥させ
るために、車内が換気されます。

- ▶ イグニッション位置を **0** にするか、
エンジンスイッチからキーを抜き
ます。

- ▶ **作動させる**：**REST** スイッチを押し
ます。

REST スイッチの表示灯が点灯し
ます。

- ▶ **解除する**：**REST** スイッチを押し
ます。

REST スイッチの表示灯が消灯し
ます。

- i** 以下のときは、余熱ヒーター機能
が自動的に解除されます。

- 約 30 分後
- イグニッション位置を **2** にしたとき
- バッテリーの電圧が低下したとき
- 冷却水の温度が非常に低いとき

送風口の調整

⚠ 警告

送風口からは、非常に熱い、または非常に冷たい送風が行なわれることがあります。このため、送風口のすぐ近くでは火傷やしもやけの原因になるおそれがあります。これらの送風口から皮膚を離してください。必要であれば、車内の他の場所に送風を向けてください。

暖気が送風されているときは、送風口に身体を近付けたまましていると低温火傷のおそれがあります。

また、送風温度を高めを設定してあるときは、送風口が過熱して高温になることがあり、火傷をするおそれがあります。

車内の送風口を通して外気を送風するために、以下の点に注意してください。

- フロントウィンドウとボンネットとの間の吸気口が、氷、雪、または葉などで覆われていないこと
- 車内の送風口や排気グリルが覆われていないこと

i 送風方向を設定するために、送風口を縦方向または横方向に動かすことができます。

i 最適なエアコンディショナーシステムの機能は、送風口が完全に開いているとき、また送風口が中央の位置に調整されているときに得ることができます。

中央送風口の調整



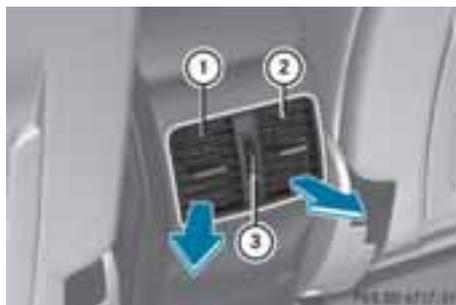
- ▶ **中央送風口を開く**：いずれかの中央送風口①をつまんで、反時計回りにまわします。
- ▶ **中央送風口を閉じる**：いずれかの中央送風口①をつまんで、停止するまで時計回りにまわします。

サイド送風口の調整



- ① サイドウィンドウのデフロスター送風口
- ② サイド送風口
- ▶ **サイド送風口を開く**：サイド送風口②をつまんで、反時計回りにまわします。
- ▶ **サイド送風口を閉じる**：サイド送風口②をつまんで、停止するまで時計回りにまわします。

リア送風口の調整



- ① リア送風口、左
- ② リア送風口、右
- ③ リア送風口ダイヤル

▶ **開く / 閉じる**：ダイヤル ③ を上または下にまわします。

役に立つ情報	146
慣らし運転	146
走行	147
オートマチックトランスミッション	
.....	155
燃料の給油	164
駐車	167
走行時の注意	169
走行装備	173

役に立つ情報

i この取扱説明書では、本書の発行時点で車両に装着可能な、すべての標準およびオプション装備について記載しています。ただし、国により仕様が異なるため、本書に記載されているすべての機能が、お客様の車両に当てはまらない場合があることにご留意ください。このことは、安全に関する装備や機能にも当てはまります。

慣らし運転

重要な安全上の注意

 警告

新品のブレーキパッド/ライニングは、目安として走行距離が数百 km を超えるまでは制動性能を完全には発揮できません。この期間は、必要に応じてブレーキペダルを少し強めに踏み、制動力を補ってください。また、ブレーキディスクやブレーキパッド/ライニングの交換を行なったときも同様です。

最初の約 1,500km まで

最初に十分注意してエンジンを取り扱うことにより、その後、将来にわたって安定した性能を維持することができます。

- 最初の約 1,500km までは、速度と回転数を変えて走行してください。
- アクセルペダルをいっぱい踏み込むなど、エンジンに大きな負担のかかる運転は避けてください。
- エンジン回転数がタコメーターのレッドゾーン（許容限度）の 2/3 を超えないように、適切なギアシフト操作を行なって走行してください。
- マニュアルギアシフトでのシフトダウン操作によりエンジンブレーキを効かせないでください。
- アクセルペダルをいっぱいまで踏み込む操作は避けてください（キックダウン）。

約 1,500km を超えたら、エンジン回転数を徐々に高回転まで上げてください。

- i** エンジンや駆動系部品の交換を行なったときも、上記の注意事項を守って慣らし運転を行なってください。

走行

重要な安全上の注意

 警告

運転席の足元には物を置かないでください。運転席の足元にフロアマットやカーペットを敷くときは、ペダルとの間に十分な空間があり、確実に固定されていることを確認してください。

フロアマットを重ねて使用しないでください。

急ブレーキ時や急加速時に、フロアマットが滑ったりブレーキペダルやアクセルペダルに引っかかるおそれがあり危険です。ブレーキやアクセルの操作が確実にできなくなる場合があります。事故やけがにつながるおそれがあります。

 警告

滑りやすい路面を走行するときは、シフトダウンにより急激なエンジンブレーキを効かせないでください。駆動輪がグリップを失い、車がスリップする原因になります。車のコントロールを失い、事故を起こす原因になります。

! 暖機運転は素早く行なってください。エンジンが暖まっていないときは、エンジン出力を最大まで使わないでください。

シフト操作は、完全に停車して行なってください。

滑りやすい路面で発進するときは、駆動輪を空転させないように穏やかにアクセルペダルを操作してください。さもないと、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

イグニッション位置



- 0** キーを抜く位置
- 1** ワイパーなど複数の電気装備に電源を供給する位置
- 2** イグニッション（すべての電気装備への電源供給）および運転するときの位置
- 3** エンジンを始動する位置

i 異なる車両のキーを差し込んだときも、エンジンスイッチをまわせることがあります。ただし、エンジンスイッチの位置は選択できません。エンジンの始動はできません。

エンジンの始動

重要な安全上の注意

警告

密閉された場所では、エンジンをかけたままにしないでください。車の排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。一酸化炭素を吸い込むと健康が損なわれ、意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

! エンジンを始動するときは、アクセルペダルを踏まないでください。

i エンジンが冷えている状態でエンジンを始動したときは、触媒コンバーターをより早く作動温度にするために、より高いエンジン回転数でエンジンが作動します。この結果、エンジン音が変わることがあります。

▶ トランスミッションをポジション P にシフトします。

マルチファンクションディスプレイのシフトポジション表示に P が表示されます。

i トランスミッションがポジション N のときも、ブレーキペダルを踏んでエンジンを始動することができます。

エンジンの始動

▶ エンジンスイッチ (▶147 ページ) のキーを **3** の位置にまわして、エンジンが始動したらすぐに放します。

i タッチスタート機能を使用することができます。この機能を使用するには、キーを **3** の位置までまわしてから、ただちに手を放します。エンジンが自動的に始動します。

発進

i トランスミッションをポジション P から好みのポジションにシフトするためには、ブレーキペダルを踏む必要があります。その後シフトロックが解除されます。ブレーキペダルを踏んでいないときは、DIRECT SELECT レバーの操作はできませんが、シフトロックは解除されません。

i トランスミッションオイルの温度が -20°C 以下のときは、エンジンがかかっているときにのみ、トランスミッションをポジション P から他のポジションにシフトできます。

▶ ブレーキペダルを踏み、そのまま保持します。

▶ トランスミッションをポジション D または R にシフトします。

▶ ブレーキペダルから足を放します。

▶ アクセルペダルを注意しながら踏み込みます。

電気式パーキングブレーキが自動的に解除されます。

メーターパネルの赤色のパーキングブレーキ表示灯  が消灯します。

i 発進すると、車が自動的に施錠されます。ドアのロックノブが下がります。

ドアは車内からいつでもロックを解除して開くことができます。

また、車速感応ドアロックを解除することもできます (▷84 ページ)。

i エンジンが冷えているときは、より高いエンジン回転数でシフトアップが行なわれます。これにより、排気ガスを浄化する触媒がより早く適正な作動温度に達します。

パーキングブレーキ作動時からの発進



上り坂での発進時に後方に下がることがないように、電気式パーキングブレーキを効かせてください。

▶ ハンドル ① を押して、保持します。

電気式パーキングブレーキが効き、車が後方に下がることを防止します。

メーターパネルに赤色のパーキングブレーキ表示灯 [P] が点灯します。

▶ アクセルペダルを踏み込みます。

▶ 車が動き出したら、すみやかにハンドル ① を放します。

電気式パーキングブレーキが解除されます。

メーターパネルの赤色のパーキングブレーキ表示灯 [P] が消灯します。

i 電気式パーキングブレーキについて、詳しくは (▷168 ページ) をご覧ください。

ヒルスタートアシスト

⚠ 警告

ヒルスタートアシストにより車が停止していても、絶対に車から離れないでください。約1秒後にはヒルスタートアシストは解除され、車が動き出すおそれがあります。

ヒルスタートアシストは、坂道発進時に車が後退または前進することを防ぎ、運転者の発進操作を補助します。ブレーキペダルから足を放しても、ヒルスタートアシストが車を停止したまま保持します。そのため、車が動き出す前に、ブレーキペダルからアクセルペダルへ余裕を持って踏みかえることができます。

▶ ブレーキペダルから足を放します。

車両はその後約1秒間停止します。

▶ 発進します。

ヒルスタートアシストは以下のときは作動しません。

- 傾斜していない路面や下り坂で発進するとき
- トランスミッションがポジション N のとき

- 電気式パーキングブレーキが効いているとき
- ESP® が故障しているとき

ECO スタート / ストップ機能

重要な安全上の注意

⚠ 警告

エンジンが自動的に停止しているときに車から離れると、エンジンは自動的に再始動します。車が動き出します。事故やけがををするおそれがあります。

車から離れるときは、常にイグニッション位置を **0** にして、車が動き出さないように固定してください。

- ❗ 車から離れるときは、必ずイグニッション位置を **0** にして、キーを携帯してください。

全体的な注意事項

ECO スタート / ストップ機能は、車両が停止すると、自動的にエンジンを停止します。

再び発進しようとするとき、自動的にエンジンが始動します。ECO スタート / ストップ機能は、燃料消費と排出ガスを低減させます。

キーによりエンジンを始動するたびに、ECO スタート / ストップ機能が作動します。

マルチファンクションディスプレイに ECO インジケーター **ECO** が表示されている場合は、システムは操作可能です。ECO スタート / ストップ機能が手動で解除されたとき、または故障によりシステムが解除されているときは、ECO インジケーター **ECO** は表示されません。

エンジンを停止したときに ECO インジケーター **ECO** が表示されているときは、エンジンが自動的に停止しています。その場合でも、車両のすべてのシステムは機能しています。

ECO スタート / ストップ機能の解除 / 作動



ECO スタート / ストップスイッチ

- ▶ **解除する** : スイッチ ① を押します。
 スイッチ ① の表示灯 ② とマルチファンクションディスプレイの ECO インジケーター **ECO** が消えます。

▶ **待機状態にする**：スイッチ ① を押しします。

表示灯 ② が点灯します。エンジン自動停止のすべての条件 (▷151 ページ) がそろっているときは、マルチファンクションディスプレイに ECO インジケーター **ECO** が表示されます。

ECO スタート / ストップ機能のすべての作動条件がそろっていないときは、マルチファンクションディスプレイには ECO インジケーター **ECO** は表示されません。この場合には、ECO スタート / ストップ機能は使用できません。

- i** 表示灯 ② が消灯しているときは、ECO スタート / ストップ機能は手動または故障により作動が解除されています。停車しても、エンジンは自動的に停止しません。
- i** エンジンを再始動するたびに、ECO スタート / ストップ機能は待機状態になります。

エンジンの自動停止

全体的な注意事項

ECO スタート / ストップ機能は以下のときに作動し、マルチファンクションディスプレイに ECO インジケーター **ECO** が表示されます。

- ECO インジケーター **ECO** が緑色に表示されているとき
- 外気温度がシステムに適した範囲内にあるとき
- エンジンが正常な作動温度にあるとき

- 車内の温度がエアコンディショナーの作動温度になっているとき
- バッテリーが十分に充電されているとき
- エアコンディショナーが作動しているときに、システムがフロントウィンドウの曇りを検知していないとき
- ボンネットが閉じているとき
- 運転席ドアが閉じていて、運転席側のシートベルトのバックルが差し込まれているとき

エンジン自動停止のためのすべての条件がそろっていないときは、ECO インジケーター **ECO** は表示されません。

- i** エンジンは連続して最大 4 回 (最初の停止と、それに続く 3 回の停止) まで自動的に停止します。その後は、マルチファンクションディスプレイに再度 ECO インジケーター **ECO** が表示された後に、エンジンの自動停止は使用可能になります。
- i** エンジンが自動的に停止しているときは、エアコンディショナーの作動能力が低下します。最大限の能力でエアコンディショナーを作動させたいときは、ECO スタート / ストップスイッチを押して、ECO スタート / ストップ機能を解除してください。

ポジション **D** か **N** で、車両にブレーキが効いて停車しているときに、ECO スタート / ストップ機能は自動的にエンジンを停止します。

i 車が停車していてエンジンが自動停止しているときは、ホールド機能を作動させることができます。その場合はブレーキを効かせ続ける必要はありません。アクセルペダルを踏むとエンジンが自動的に始動し、ホールド機能のブレーキ作動は解除されます。最初にエンジンを始動させる必要があるため、アクセルペダルは静かに踏み込んでください。

エンジンの自動再始動

全体的な注意事項

エンジンは以下のときに自動的に始動します。

- ECO スタート / ストップスイッチを押して、ECO スタート / ストップ機能を解除したとき
- リバース **R** にシフトしたとき
- 車両が動き出したとき
- ブレーキシステムが要求したとき
- 車内の温度が作動温度になっていないとき
- エアコンディショナーが作動しているときに、システムがフロントウインドウの曇りを検知したとき
- バッテリーの充電状態が低すぎる時
- 運転席の乗員がシートベルトを外すか、運転席ドアを開いたとき

エンジンは以下の操作を行なうと自動的に始動します。

- ホールド機能が作動していない状態で、トランスミッションがポジション **D** または **N** のときに、ブレーキペダルから足を放したとき、または
 - アクセルペダルを踏んだとき、または
 - トランスミッションをポジション **P** 以外にしたとき
- i** トランスミッションをポジション **P** にしても、エンジンは始動しません。
- i** トランスミッションをポジション **R** から **D** にすると、マルチファンクションディスプレイに ECO インジケーター **[ECO]** がすぐに表示され、ECO スタート / ストップ機能が再び使用可能になります。

エンジンのトラブル

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
エンジンが始動しない。	<p>ホールド機能またはディストロニック・プラスが作動している。</p> <p>▶ ホールド機能 (▷191 ページ) またはディストロニック・プラス (▷180 ページ) を解除してください。</p> <p>▶ 再度、始動操作を行なってください。</p>
エンジンが始動しない。スターターモーターの音がる。	<ul style="list-style-type: none"> • エンジンの電気システムに異常がある。 • 燃料供給に異常がある。 <p>▶ エンジンを再始動する前に、エンジンスイッチを 0 の位置にまわしてください。</p> <p>▶ 再度、始動操作を行なってください。ただし、エンジン始動操作を長時間何度も行なうと、バッテリーがあがるおそれがあります。</p> <p>何度始動を試みても、エンジンが始動しないとき：</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。</p>
エンジンが始動しない。スターターモーターの音がる。燃料残量警告灯が点灯し、燃料計の指針が 0 を示している。	<p>燃料タンクが空になっている。</p> <p>▶ 給油してください。</p>
エンジンが始動しない。スターターモーターの音がしない。	<p>バッテリーがあがっているか、充電されていないため、バッテリーの電圧が低くなっている。</p> <p>▶ ジャンプスタートしてください (▷319 ページ)。</p> <p>エンジンが始動しないとき：</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。</p> <p>過度の負荷によりスターターモーターが過熱している。</p> <p>▶ スターターが冷えるまで、約 2 分間待ってください。</p> <p>▶ 再度、始動操作を行なってください。</p> <p>エンジンが始動しないとき：</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。</p>
エンジンの回転が滑らかでなく、ミスファイアも起きている。	<p>エンジンの電気システム、またはエンジン制御システムに異常がある。</p> <p>▶ アクセルペダルを静かに踏み込んでください。</p> <p>未燃焼の燃料が触媒に入り、損傷するおそれがあります。</p> <p>▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。</p>

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
<p>冷却水温度が約 120℃を越えている。冷却水警告灯が点灯し、警告音も鳴った。</p>	<p>リザーブタンクの冷却水量が非常に不足している。冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ すみやかに安全に停車して、エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶ エンジンと冷却水が冷えてから冷却水量を点検し、必要であれば、冷却水補給時の注意事項を読んでから、冷却水を補給してください (▷295 ページ)。 <p>冷却水量が正常なときは、ラジエターの冷却ファンが故障している可能性がある。</p> <p>冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 冷却水温度が約 120℃以下の場合は、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで運転してください。 ▶ 山道の走行や発進と停止を繰り返す走行など、エンジンへの大きな負荷がかかる走行は避けてください。

オートマチックトランスミッション

重要な安全上の注意

 警告

決してペダル操作が妨げられないように十分に注意してください。運転席の足元には、物を置かないでください。運転席の足元にフロアマットやカーペットを敷くときは、ペダルとの間に十分な空間があり、確実に固定されていることを確認してください。

フロアマットを重ねて使用しないでください。

 警告

滑りやすい路面を走行するときは、シフトダウンにより急激なエンジンブレーキを効かせないでください。駆動輪がグリップを失い、車が横すべりする原因になります。車のコントロールを失い、事故の原因になります。

 警告

上り坂でアクセルペダルを踏んで車を静止させると、トランスミッションが過熱するおそれがあります。トランスミッションが過熱すると警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイにディスプレイメッセージが表示されます。その後トランスミッションの接続機能が断たれることがあります。車が後退するおそれがあります。その結果、事故の原因になることがあります。

トランスミッションが冷えて、マルチファンクションディスプレイのディスプレイメッセージが消えたときのみ、走行を続けることができます。

上り坂でアクセルペダルを踏んで車を静止させないでください。

その代わりに、上り坂では以下により車を静止させてください。

- ブレーキペダルを踏む

または

- ホールド機能を作動させる

または

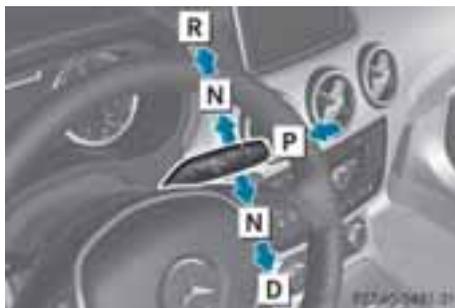
- 電気式パーキングブレーキを効かせる

-  エンジンを停止すると、エンジンとトランスミッションの間の動力伝達が中断されることに留意してください。したがって、エンジンを停止して車を停車しているときは、車が動き出すことを防ぐため、トランスミッションをパーキングポジション **P** にシフトして、電気式パーキングブレーキを効かせてください。

DIRECT SELECT レバー

シフトポジションの概要

DIRECT SELECT レバーは、ステアリングの右側にあります。



P パーキングロック付きパーキングポジション

R リバース

N ニュートラル

D ドライブ

i DIRECT SELECT レバーから手を放すと、自動的に中立の位置に戻ります。現在のトランスミッションのポジション **P**、**R**、**N** または **D** は、マルチファンクションディスプレイのシフトポジション表示 (▷156 ページ) に表示されます。

トランスミッションのシフトポジションと走行モードの表示

現在のトランスミッションのシフトポジションと走行モードは、マルチファンクションディスプレイに表示されます。



- ① トランスミッションのシフトポジション表示
- ② 走行モード表示

i シフトポジション表示の矢印は、DIRECT SELECT レバーで選択できるシフトポジションとその方向を示しています。

! マルチファンクションディスプレイにトランスミッションのシフトポジションが表示されないときは、選択したシフトポジションにあるかどうかを調べるために慎重に発進してください。理想的には、トランスミッションのシフトポジションは **D**、走行モードは **E** または **S** を選択してください。

パーキングポジション P に入れる

▶ DIRECT SELECT レバーを矢印 **P** の方向に押します。

マルチファンクションディスプレイにトランスミッションのポジション **P** が表示されます。

i トランスミッションのポジションを **P** に入れたときは、マルチファンクションディスプレイにトランスミッションのポジション **P** が表示されていること確認してください。

i 車が停車しているときにのみ、パーキングポジション **P** に入れることができます。

i 車が停車しているとき、またはトランスミッションがポジション **D** か **R** で、ごく低速で走行しているときに運転席ドアを開くと、自動的にパーキングポジション **P** にシフトされます。

i ブレーキペダルを踏み、DIRECT SELECT レバーを上または下に操作すると、パーキングロックが解除され、トランスミッションがニュートラル **N** にシフトします。

トランスミッションオイルの温度が -20°C 以下のときは、エンジンがかかっているときにのみ、トランスミッションをパーキングポジション **P** から他のポジションにシフトできません。

トランスミッションをパーキングポジション **P** から直接 **D** か **R** にシフトするには、ブレーキペダルを踏み、DIRECT SELECT レバーを上または下に抵抗がある位置を越えて押します。

! エンジン回転数が高すぎるときや走行中は、**D** から直接 **R**、または **R** から直接 **D** か **P** にシフトしないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

リバースギア **R** に入れる

! 必ず停車してからトランスミッションを **R** にシフトしてください。

i リバースギア **R** に入っているときは、ECO スタート / ストップ機能は待機状態になりません。

ECO スタート / ストップ機能について、詳しくは (▷150 ページ) をご覧ください。

▶ 車が停車しているときに、ブレーキペダルを踏みます。

▶ DIRECT SELECT レバーを、抵抗がある位置を越えて上に押します。

ニュートラル **N** にシフトする

▶ DIRECT SELECT レバーを、抵抗がある位置まで上または下に押します。

ニュートラル **N** での ECO スタート / ストップ機能の作動

ニュートラル **N** でブレーキペダルを踏み続けているときは、車両が停止するまでブレーキを効かせると、ECO スタート / ストップ機能によりエンジンが自動的に停止します。

ECO スタート / ストップ機能について、詳しくは (▷150 ページ) をご覧ください。

ドライブポジション **D** での ECO スタート / ストップ機能の作動

ドライブポジション **D** でブレーキペダルを踏み続けているときは、車両が停止するまでブレーキを効かせると、ECO スタート / ストップ機能によりエンジンが自動的に停止します。

ECO スタート / ストップ機能について、詳しくは (▷150 ページ) をご覧ください。

ドライブポジション D に入れる

- ▶ 車が停車しているときに、ブレーキペダルを踏みます。
- ▶ DIRECT SELECT レバーを、抵抗がある位置を越えて下に押しします。

D ドライブ

オートマチックトランスミッションが自動変速します。すべての前進ギアを使用できます。

シフトポジション

P パーキングポジション

停止中に車両が動き出すのを防ぎます。停車しているとき以外はトランスミッションをポジション P にシフトしないでください。

R リバースギア

停車しているときにのみ、トランスミッションを R にシフトしてください。

N ニュートラル

エンジンから駆動輪に動力が伝達しません。

この位置でブレーキを緩めると、押したりけん引してもらうことで車を移動できます。

ESP® の機能が解除されているときや異常がある場合は、凍結路などで車がスリップする危険があるときにのみ、トランスミッションを N にシフトしてください。

エンジンを停止すると、オートマチックトランスミッションが自動的にニュートラル N にシフトします。

ギアシフト操作

オートマチックトランスミッションは、トランスミッションのポジションが D のときに自動的に変速を行いません。ギアシフトは以下により決定されます。

- 選択された走行モード(▷159 ページ)
- アクセルペダルの踏み具合
- 走行速度

運転のヒント

アクセルペダルの位置

アクセルペダルの踏み加減に応じて、ギアが変速するタイミングが以下のように変化します。

- 軽く踏んだときは、シフトアップするタイミングが早くなります。
- 深く踏み込んだときは、シフトアップするタイミングが遅くなります。

キックダウン

急な加速が必要な場合はキックダウンを行いません。

- ▶ アクセルペダルを抵抗がある位置を越えて踏み込みます。

エンジン回転数に応じて自動的に低いギアに変速します。

- ▶ 希望する速度に達したら、アクセルペダルをゆるめます。
自動変速に戻ります。

走行モード

全体的な注意事項

走行モード選択スイッチにより、異なる走行特性の走行モードを選択することができます。



走行モード選択スイッチの例

E エコノミー	快適で経済的な走行
S スポーツ	スポーティな走行スタイル
M マニュアル	マニュアルギアシフト

- ▶ マルチファンクションディスプレイに希望する走行モードが表示されるまで、走行モード選択スイッチ①を繰り返し押します。

- i** エンジンを開始すると、オートマチックトランスミッションの走行モードは常に **E** に設定されます。

- i** 走行モードについて、詳しくは (▷159 ページ) をご覧ください。

パドルシフト



- ① 左側パドルシフト (シフトダウン)
- ② 右側パドルシフト (シフトアップ)

走行モードが **M** のときは、ステアリングのパドルシフトを使用して、ギアをマニュアルで選択できます。

走行モードが **E** または **S** のときは、左側または右側のパドルシフトを引くと、オートマチックトランスミッションの走行モードが一定時間 **M** になります。パドルシフトの操作に応じて、オートマチックトランスミッションはただちにシフトダウンまたはシフトアップします。

- i** パドルシフトによるギアシフト操作は、トランスミッションがポジション **D** のときにのみ行なえます。
- i** マニュアルギアシフトについて、詳しくは (▷160 ページ) をご覧ください。

オートマチックギアシフト

走行モードが **E** のときは、以下のようになります。

- 快適性を重視したエンジン制御になります。
- シフトアップが早めに行なわれるため、燃料の余分な消費が抑えられます。
- 前進・後退ともに、アクセルペダルをいっぱいまで踏み込まないときは、穏やかに発進します。
- 滑りやすい路面などでの車両操縦性や走行安定性が向上します。
- オートマチックトランスミッションが早めにシフトアップするため、エンジン回転数が低く抑えられ、車輪が空転しにくくなります。

走行モードが **S** のときは、以下のようになります。

- スポーツ性を重視したエンジン制御になります。
- オートマチックトランスミッションが遅めにシフトアップします。
- シフトアップが遅めに行なわれるため、エンジン回転数が高くなり、燃料をより多く消費します。

マニュアルギアシフト

はじめに

走行モードが **M** のときは、パドルシフトを使用してギアをマニュアルで選択できます。このときはトランスミッションをポジション **D** にしてください。選択され変速された現在のギアがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

走行モードが **M** のときは、走行モードが **E** または **S** のときに比べて、ギアシフトの変速タイミングやレスポンス、スムーズさに関する違いがあります。

ギア	走行状況
3	エンジンプレーキを効かせるために使用
2	下り坂で以下のような走行をしているときに、エンジンプレーキを効かせるために使用 <ul style="list-style-type: none"> • 急な坂道 • 山道 • 過酷な状況
1	非常に急な下り坂や長い下り坂などでエンジンプレーキを効かせるために使用

マニュアルギアシフトの作動

常時作動させる

- ▶ マルチファンクションディスプレイに **M** が表示されるまで、走行モード選択スイッチを押します。

走行モードを **E** または **S** にするまで、マニュアルギアシフト **M** が作動します。

一時的に作動させる

- ▶ 左側または右側のパドルシフトを引きます。

マルチファンクションディスプレイに **M** が表示されます。マニュアルギアシフト **M** が一時的に作動します。パドルシフトの操作に応じて、オートマチックトランスミッションはただちにシフトダウンまたはシフトアップします。

- i** パドルシフトによりマニュアルギアシフトが作動しているときは、走行状況に応じて、一時的に作動させたマニュアルギアシフト **M** は一定時間経過後に自動的に解除されます。この場合、オートマチックトランスミッションの走行モードは、以前選択していた **E** または **S** になります。下り坂を走行しているときは、一時的に作動させたマニュアルギアシフト **M** は、車両が下がっているときにアクセルペダルを踏んだときのみ解除されます。

シフトアップする

- ▶ 右側のパドルシフトを引きます。
オートマチックトランスミッションがシフトアップします。
- i** ギアレンジに対応するエンジンの許容回転数に達し、さらに加速を続けると、エンジンの損傷を防ぐため、オートマチックトランスミッションは自動的にシフトアップします。

シフトダウンする

- ▶ 左側のパドルシフトを引きます。
オートマチックトランスミッションがシフトダウンします。
- i** 車両にブレーキを効かせるか、またはシフトダウンをしないで停止したときは、オートマチックトランスミッションは、再び発進や加速が可能なギアにシフトダウンします。
- i** 最大限の加速をしたい場合は、トランスミッションが現在の走行速度に見合ったギアを選択するまで、左側のパドルシフトを引きます。
- i** シフトダウン操作によりエンジンの許容回転数を超えるおそれがあるときは、エンジン保護のため、シフトダウンされません。

キックダウンする

マニュアルギアシフト **M** のときにも、キックダウンを行なうことができます。

- ▶ アクセルペダルを抵抗がある位置を越えて踏み込みます。

エンジン回転数に応じて自動的に低いギアに変速します。

- ▶ 希望する速度に達したら、元のギアに変速します。

i キックダウンを行なっている間は、パドルシフトを使用してシフト操作をすることはできません。

i アクセルペダルを抵抗がある位置を越えて踏み込んだときは、エンジンの許容回転数に達すると自動的にシフトアップします。これにより、エンジンの損傷を防ぎます。

マニュアルギアシフトを解除する

- ▶ マルチファンクションディスプレイに **E** または **S** が表示されるまで、走行モード選択スイッチ (▶159 ページ) を繰り返し押します。

一時的に作動させたマニュアルモードを解除する

- ▶ マルチファンクションディスプレイに、以前選択していた走行モードの **E** または **S** が表示されるまで、右側のパドルシフトを引きます。

i マニュアルギアシフト **M** を解除すると、オートマチックトランスミッションの走行モード **E** または **S** により、現在のギアからシフトアップまたはシフトダウンすることがあります。これはアクセルペダルの踏み加減と走行速度、負荷により異なります。

オートマチックトランスミッションのトラブル

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
トランスミッションが正しく変速しない。	トランスミッションオイルが減っている。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でのトランスミッションの点検を受けてください。
加速性能が悪化している。 トランスミッションが変速しない。 リバースギアに変速できない。	トランスミッションがエマージェンシーモードになっている。 ▶ 停車します。 ▶ トランスミッションをポジション P にします。 ▶ エンジンを停止します。 ▶ エンジンを再始動する前に、少なくとも約 10 秒間待ちます。 ▶ トランスミッションをポジション D にします。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でのトランスミッションの点検を受けてください。

燃料の給油

重要な安全上の注意

⚠ 警告

燃料は高い可燃性です。そのため、燃料を取り扱うときに火気を近づけたり、近くで喫煙をすることは禁じられています。

燃料を給油する前に、エンジンを停止してください。

⚠ 警告

燃料に触れないようにしてください。燃料が肌に直接触れたり、気化した燃料を吸い込むと、健康を害するおそれがあります。

! 誤って指定以外の燃料を給油してしまった場合は、決してエンジンを始動しないでください。さもないと、誤った燃料が燃料系部品全体にまわるおそれがあります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡して、燃料タンクや燃料装置から燃料を完全に抜き取ってください。

! 燃料を入れすぎると、燃料噴射システムを損傷するおそれがあります。

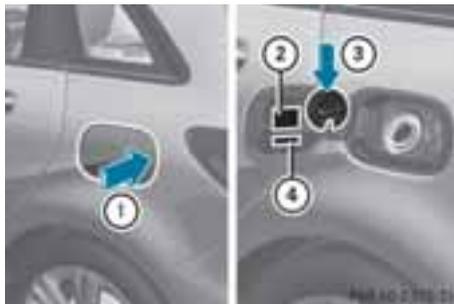
! 燃料が塗装面に付着しないように注意してください。さもないと、塗装面を損傷するおそれがあります。

! 燃料携行缶から燃料を補給するときは、フィルターを使用してください。燃料携行缶に付着した微粒子によって、燃料系の配管や燃料噴射システムの部品が詰まるおそれがあります。

燃料と燃料の規格について、詳しくは"燃料"の章(▷355ページ)をご覧ください。

燃料を給油する

燃料給油口



- ① 燃料給油フラップを開く
- ② タイヤ空気圧ラベル
- ③ キャップを差し込む
- ④ 使用燃料ラベル

キーを使用して車を解錠または施錠すると、燃料給油フラップも自動的に解錠 / 施錠されます。

メーターパネル内には、給油口の位置を示す  が表示されています。給油ノズルの横の矢印は、給油口の取り付け位置を示しています。

開く

- ▶ エンジンを停止します。
- ▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ 燃料給油フラップを矢印①の方向に押します。

燃料給油フラップが少し開きます。

- ▶ キャップを反時計回りにまわして取り外します。
- ▶ 外したキャップを燃料給油フラップ③の裏側にあるホルダーに差し込みます。
- ▶ 給油ノズルを奥まで差し込み、給油を開始します。
- ▶ 給油ノズルが自動停止した時点で給油を停止します。

i 給油ノズルの自動停止後は、それ以上補給しないでください。さもないと、燃料があふれるおそれがあります。

閉じる

- ▶ キャップを燃料給油口に合わせ、カチッという音がするまで時計回りにまわします。
- ▶ 燃料給油フラップを閉じます。

燃料と燃料タンクのトラブル

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
燃料が漏れている。	<p>⚠ 火災や爆発のおそれがあります</p> <p>燃料供給システム、または燃料タンクに問題がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ただちにイグニッション位置を 0 にして、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 ▶ 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
燃料給油フラップが開かない。	<p>燃料給油フラップが解錠されていない。</p> <p>または</p> <p>キーの電池が消耗している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 車を解錠してください (▷79 ページ)。 <p>または</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ エマージェンシーキーを使用して解錠してください (▷84 ページ)。 <p>燃料給油フラップは解錠されるが、給油フラップの開閉機構に異常がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

駐車

重要な安全上の注意

 警告

キーが抜かれているとステアリングの操作ができなくなるため、必ず停車しているときにエンジンからキーを抜いてください。

決して子供だけを車内に残さないでください。電気式パーキングブレーキを解除するおそれがあります。重大な、または致命的なけがにつながるおそれがあります。

 警告

排気システムには、枯れ草や油などの可燃物が絶対に触れないようにしてください。乾いた草地などには駐車しないでください。高温の排気システムにより可燃物が発火して、車両火災を起こすおそれがあります。

駐車時に車が不意に動き出さないように、以下により車を確実に固定してください。

- 電気式パーキングブレーキを必ず効かせる
- トランスミッションがポジション P になっていて、マルチファンクションディスプレイにポジション P が表示されている
- 必ずエンジンスイッチからキーを抜く
- 坂道では前輪を歩道の縁石に向ける

エンジンの停止

重要な安全上の注意

 警告

エンジンが停止しているときは、ステアリングとブレーキのパワーアシストが作動しなくなります。ステアリングやブレーキの操作に非常に大きな力が必要になります。

その結果、車のコントロールを失い、事故またはお客様や他の方がけがをする原因になります。

そのため、走行中はエンジンを停止しないでください。

- ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせします。
- ▶ トランスミッションをポジション P にシフトします。
- ▶ キーをまわして、イグニッション位置を 0 にしてから、キーを抜きます。イモビライザーが作動します。

 トランスミッションがポジション D または R のときにエンジンを停止すると、オートマチックトランスミッションは自動的に N にシフトします。

その後、運転席ドアまたは助手席ドアを開くか、エンジンスイッチからキーを抜くと、オートマチックトランスミッションは P にシフトします。

エンジンを停止する前にオートマチックトランスミッションを N にシフトしたときは、ドアを開いても、オートマチックトランスミッションは N のままになります。

電気式パーキングブレーキ

全体的な注意事項



i 電気式パーキングブレーキは、エンジンが停止すると定期的に機能チェックを行ないます。作動音が発生しますが、異常ではありません。

手動での作動 / 解除

作動させる

▶ ハンドル ① を押します。

メーターパネルの赤色のパーキングブレーキ表示灯  が点灯します。

i 電気式パーキングブレーキは、エンジンスイッチにキーを差し込んでいないときも効かせることができます。

解除する

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ ハンドル ① を引きます。

メーターパネルの赤色のパーキングブレーキ表示灯  が消灯します。

i 電気式パーキングブレーキは、イグニッション位置が **1** か **2** のときのみ解除することができます。

自動作動

車両の電気式パーキングブレーキは、ディストロニック・プラスまたはホールド機能が車両が停止するまでブレーキを効かせたとき、または車両を停止状態に保っているときに、自動的に作動します。さらに、最低でも以下の条件のうち 1 つが満たされる必要があります。

- エンジンが停止している
- 運転席ドアが開いていて、運転席の乗員がシートベルトを外している
- システムに異常がある
- 電力供給が不足している
- 車両が長時間停車している

メーターパネルの赤色のパーキングブレーキ表示灯  が点灯します。

i ECO スタート / ストップ機能によりエンジンが停止したときは、電気式パーキングブレーキは自動的に作動しません。

自動解除

車両の電気式パーキングブレーキは、以下の作動条件がすべて満たされたときに自動的に解除されます。

- エンジンがかかっている
- トランスミッションがポジション **D** か **R** になっている
- シートベルトを着用している
- アクセルペダルを踏んだ

トランスミッションがポジション **R** のときは、テールゲートが閉じていなければなりません。

シートベルトが着用されていないときに電気式パーキングブレーキが自動解除されるには、以下の条件が満たされている必要があります。

- 運転席ドアが閉じている
- トランスミッションをポジション P 以外にシフトしたか、あるいは以前に約 3km/h 以上の速度で走行した

緊急ブレーキ

緊急時には、電気式パーキングブレーキスイッチを使用してブレーキを効かせることができます。

▶ 走行しているときに、電気式パーキングブレーキのハンドル①を押します (▷168 ページ)。

- i** ハンドル①を押している間、車両にブレーキが効きます。ハンドル①を押し続けるに従い、ブレーキの制動力は強くなります。

ブレーキ作動時には以下のようになります。

- 警告音が鳴ります。
- **パーキングブレーキ解除してください**というメッセージが表示されます。
- メーターパネルの赤色のパーキングブレーキ表示灯  が点滅します。

車両にブレーキが効いて完全に停車すると、電気式パーキングブレーキが効いた状態になります。

長期間駐車するとき

約 4 週間以上駐車したままにすると、バッテリーが完全放電して損傷するおそれがあります。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場
でバッテリーからケーブルを外すか、
バッテリー充電器を接続してください。

約 6 週間以上駐車したままにすると、不具合が発生するおそれがあります。

▶ 対応について、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

i バッテリー充電器については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

走行時の注意

全体的な走行時の注意

情行運転中のエンジン停止

警告

走行中は決してエンジンを停止しないでください。

エンジンが停止しているときは、ステアリングとブレーキのパワーアシストが働きません。

ステアリングとブレーキの操作に非常に大きな力が必要になるため、車のコントロールを失い、事故につながるおそれがあります。

ブレーキ

重要な安全上の注意

 警告

滑りやすい路面では、シフトダウン操作による急激なエンジンブレーキを効かせないでください。駆動輪がグリップを失い、車両が横すべりするおそれがあります。

 警告

ブレーキ操作が、後続車などに危険をおよぼすことがないように注意してください。

下り坂の傾斜

長く急な下り坂で、特に荷物を積んでいるときは、適時低いギアを選択します。あらかじめ走行モードを **M** にする必要があります。

 クルーズコントロールや可変スピードリミッターまたはディストロニック・プラスが設定しているときも、同様の操作を行ないます。

エンジンブレーキを効かせることにより、少ないブレーキ操作で車両の加速を防ぐことができます。これにより、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキが過熱して早く摩耗することを防ぎます。

 一時的にマニュアルギアシフト **M** にしているときに、下り坂でアクセルペダルを短時間踏み込むと、オートマチックトランスミッションの走行モードが以前選択していた **E** または **S** になることがあります。オートマチックトランスミッションが高いギアにシフトされることがあります。これによりエンジンブレーキの効果が減少します。

強い負荷および弱い負荷

 警告

ブレーキペダルの上に常に軽く足を置くなど、決してブレーキを踏んだ状態で運転しないでください。ブレーキシステムが過熱して、制動距離が長くなり、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

ブレーキに高い負担がかかったときは、ただちに停車するのではなく、しばらく走行を続けてください。ブレーキに風を当てることにより、より早く冷却することができます。

ブレーキを効かせずに長時間走行したときなどは、時々ブレーキの効きを確かめてください。このためには、高い速度から強めにブレーキを効かせます。これにより、ブレーキの効きが向上します。

濡れた路面

激しい雨の中でブレーキを踏まずに長時間走行した後、最初にブレーキを踏んだときにブレーキの反応時間が遅れることがあります。洗車直後も同様の反応が起こることがあります。

滑りやすい路面では、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んでください。前車との車間距離を十分に保ってください。

滑りやすい路面の走行後や洗車直後は、周囲の道路状況に注意しながらブレーキを強めに効かせてください。これによりブレーキディスクを暖め、より早く乾燥させて腐食を防ぐことができます。

凍結防止剤が撒かれた路面でのブレーキ性能の制限

警告

ブレーキディスクやブレーキパッド / ライニングに塩分が付着すると、ブレーキの効きが悪くなるため、制動距離が大幅に長くなり、事故につながるおそれがあります。

危険を回避するために、以下の操作を行ってください。

- 凍結防止剤を散布した道路を走行するときは、周囲の交通を妨げないように注意しながら数回に分けてブレーキを効かせてください。ブレーキペダルを数回踏むことにより、ブレーキディスクやブレーキパッド / ライニングに付着した塩分を除去することができます。
- 前車との車間距離を十分に確保して、慎重に運転してください。
- 車両を駐車する前や発進直後には注意してブレーキを効かせ、ブレーキディスクから塩分を除去するようにしてください。

新品のブレーキパッド / ライニング

警告

新品のブレーキパッド / ライニングは、走行距離が数百 km を超えるまでは制動性能を完全には発揮できません。最適な制動性能に達するまでは、必要に応じてブレーキペダルを少し強めに踏んでください。これは、ブレーキディスクやブレーキパッド / ライニングを交換した後についても適用されます。

安全上の理由により、メルセデス・ベンツ車のために承認された、または品質基準に適合したブレーキパッド / ライニングのみを装着することをお勧めします。メルセデス・ベンツ向けに承認されていない、または品質基準に適合しないブレーキパッド / ライニングは、安全な車両操縦性に影響をおよぼすおそれがあります。

タイヤのグリップについて

警告

濡れた路面や凍結した路面で車両を完全にコントロールするためには、乾燥した路面を走行するときよりも低い速度で走行してください。さもないと、事故を起こすおそれがあります。

外気温度が低いときは、路面の状態に十分注意してください。

路面が凍結しているときは、ブレーキ時にタイヤと路面の間に薄い水の層が形成され、タイヤのグリップが大きく低下します。そのような天候状況では、十分注意して走行してください。

濡れた路面での走行

ハイドロプレーニング現象

路面に一定以上の深さまで水がたまると、以下の状況でもハイドロプレーニング現象が発生することがあります。

- 低い速度で走行している
- タイヤトレッドの溝の深さが十分にある

この理由により、水たまりやわだちを避け、注意してブレーキを効かせてください。

冠水路の走行

! 前方を走行する車や対向車からも波が発生することに注意してください。これにより、最大水深を超えることがあります。

状況を問わず、これらの注意事項を守ってください。さもないと、エンジン、電気装備またはトランスミッションを損傷するおそれがあります。

冠水した道路を走行しなければならないときは、以下の点に注意してください。

- 許容されている最大水深は約 25cm です。
- 波が立たないように速度で走行してください。

寒冷時の走行

重要な安全上の注意

警告

雪道で動けなくなったときは、マフラーと車両の周囲から雪を取り除いてからエンジンを始動してください。さもないと、有害な一酸化炭素 (CO) を含む排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

新鮮な空気により十分な換気を行なうため、風に面していない側のウィンドウを少し開いてください。

冬になる前に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で車両に寒冷時の対応作業を行なってください。

"冬季の使用"に記載されている注意事項を守ってください (▷335 ページ)。

サマータイヤでの走行

"冬季の使用"に記載されている注意事項を守ってください (▷335 ページ)。

滑りやすい路面

警告

滑りやすい路面では、シフトダウン操作による急激なエンジンプレーキを効かせないでください。ブレーキにより駆動輪がグリップを失い、車両が横すべりするおそれがあります。

車両がスリップしやすいとき、または低速走行中に停止できないときは、以下の指示に従ってください。

- ▶ トランスミッションをポジション N にシフトします。
- ▶ ステアリングの修正操作により、車両の操縦性を確保します。

滑りやすい路面では、特に慎重に走行してください。急加速、急ハンドル、急ブレーキなどは避けてください。

- i** スノーチェーン装着時の走行について、詳しくは (▷335 ページ) をご覧ください。

走行装備

クルーズコントロール

全体的な注意事項

クルーズコントロールは一定の走行速度を維持します。設定速度を超えないようにするために自動的にブレーキを効かせます。長い急な下り坂で、特に車両に荷物を積載しているときは、適時低いギアを選択してください (▷160 ページ)。走行モードを **M** にする必要があります。そうすることにより、エンジンプレーキの効果を利用できます。これにより、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキが過熱して早く摩耗することを防ぎます。

道路や交通状況が長時間の一定速度の維持に適している場合にのみ、クルーズコントロールを使用してください。約 30km/h 以上の走行速度を記憶できます。

重要な安全上の注意

警告

滑りやすい路面では、シフトダウン操作による急激なエンジンプレーキを効かせないでください。駆動輪がグリップを失い、車両が横すべりするおそれがあります。

⚠ 警告

クルーズコントロールは道路や交通事情を考慮することはできません。

クルーズコントロールが作動していても常に交通状況に注意してください。

クルーズコントロールは運転中に運転者を補助するためだけに設計されたものです。運転者は、車両の速度に注意して、適時減速する責任があります。

⚠ 警告

以下のときはクルーズコントロールを使用しないでください。

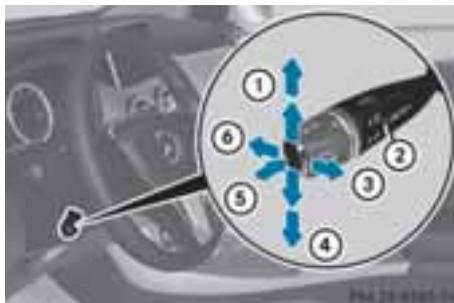
- 一定の速度を維持できないような道路や交通状況のとき（例えば、混雑した交通状況やカーブしている道路）。さもないと、事故を起こすおそれがあります。
- 滑りやすい路面。ブレーキや加速により駆動輪が駆動力を失い、車両が横すべりするおそれがあります。
- 霧や激しい雨、雪のときなど、十分な視界が得られないとき。

クルーズコントロールレバー

クルーズコントロールレバーでクルーズコントロールと可変スピードリミッターを操作できます。

クルーズコントロールレバーのLIM表示灯は、選択したシステムを示しています。

- LIM表示灯が消灯：クルーズコントロールが選択されています。
- LIM表示灯が点灯：可変スピードリミッターが選択されています。



- ① 現在の走行速度に設定する、または設定速度を上げる
- ② LIM表示灯
- ③ 現在の走行速度に設定する / 記憶されている前回の設定速度に設定する
- ④ 現在の走行速度に設定する、または設定速度を下げる
- ⑤ クルーズコントロールと可変スピードリミッターを切り替える
- ⑥ クルーズコントロールを解除する

クルーズコントロールを作動させると、記憶された速度がマルチファンクションディスプレイに約5秒間表示されます。その後、メーターパネルには、記憶された速度と最高速度の間のセグメントが点灯します。

作動条件

以下のすべての作動条件を満たしているときに、クルーズコントロールを作動させることができます。

- 電気式パーキングブレーキが解除されていること
- 約 30km/h 以上の速度で走行していること
- ESP® が待機状態になっていて、作動していないこと
- トランスミッションがポジション D にあること
- クルーズコントロールが選択されていること

- ▶ **クルーズコントロールを選択する：** LIM 表示灯 ② が消灯しているかどうかを確認します。

消灯しているときは、すでにクルーズコントロールが選択されています。

そうでないときは、クルーズコントロールレバーを矢印 ⑤ の方向に押しします。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② が消灯します。クルーズコントロールが選択されます。

記憶、維持、速度の呼び出し

現在の速度を記憶および維持する

約 30km/h 以上の速度を走行しているときは、現在の速度を記憶できます。

- ▶ 希望の速度に加速します。
- ▶ クルーズコントロールレバーを上 ① または下 ④ に軽く押しします。
- ▶ アクセルペダルから足を放します。
クルーズコントロールが作動します。車両は自動的に記憶された速度を維持します。

- ▶ **i** クルーズコントロールは、急な上り坂では記憶された速度を維持できないことがあります。勾配が平坦になると記憶された速度に復帰します。クルーズコントロールは急な下り坂では自動的にブレーキを効かせることにより記憶された速度を維持します。

現在の速度を記憶する、または最後に記憶した速度を呼び出す

警告

記憶されている速度を認識していて、また現在の交通や走行状況に合っているときにのみ、記憶させた速度を呼び出してください。さもないと、意図せずに突然の加速やブレーキ作動が起こり、お客様や他の方がけがをするおそれがあります。

- ▶ クルーズコントロールレバーを運転者の方向 ③ に軽く引きします。
- ▶ アクセルペダルから足を放します。
最初にクルーズコントロールを作動させたときは現在の速度が記憶され、または以前に記憶した速度に走行速度を制御します。

速度の設定

- ▶ クルーズコントロールレバーを、高い速度へは上①に、低い速度へは下④に押しします。
- ▶ 希望した速度に達するまでクルーズコントロールレバーを保持します。
- ▶ クルーズコントロールレバーから手を放します。

新しい速度が記憶されます。

- ▶ **1km/h 単位での調整**：クルーズコントロールレバーを、高い速度へは上①に、低い速度へは下④に、抵抗がある位置まで軽く押しします。

最後に記憶された速度が 1km/h 単位で上がる、または下がります。

- ▶ **10km/h 単位での調整**：クルーズコントロールレバーを、高い速度へは上①に、低い速度へは下④に、抵抗がある位置を越えて軽く押しします。

最後に記憶された速度が 10km/h 単位で上がる、または下がります。

- i** クルーズコントロールは、アクセルペダルを踏んでも解除されません。例えば、追い越しのために一時的に加速したときは、追い越しが完了した後に、クルーズコントロールは、最後に記憶された速度に車両の速度を調整します。

クルーズコントロールの解除

クルーズコントロールを解除するにはいくつかの方法があります。

- ▶ クルーズコントロールレバーを前方⑥に軽く押しします。

または

- ▶ ブレーキペダルを踏みます。

または

- ▶ クルーズコントロールレバーを矢印⑤の方向に軽く押しします。

可変スピードリミッターが選択されます。クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯②が点灯します。

クルーズコントロールは、以下のときに自動的に解除されます。

- 電気式パーキングブレーキを効かせたとき
- 走行速度が約 30km/h 以下になったとき
- ESP® が作動したときや、ESP® の機能を解除したとき
- 走行中にポジション N にシフトしたとき

クルーズコントロールが解除されると、確認音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに**クルーズコントロール 解除**というメッセージが約 5 秒間表示されます。

- i** エンジン进行停止すると、記憶されている速度は消去されます。

可変スピードリミッター

全体的な注意事項

可変スピードリミッターは、設定された速度を超えないように自動的にブレーキを効かせます。長い急な下り坂で、特に車両に荷物を積載しているときは、適時低いギアを選択してください。あらかじめ走行モードを **M** にする必要があります (▷160 ページ)。そうすることにより、エンジンブレーキの効果を利用できます。これにより、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキの過熱と早期の摩耗を防ぎます。制動力がより必要な場合は、継続的にではなく、繰り返しブレーキペダルを踏んでください。

可変スピードリミッターまたはウィンタータイヤスピードリミッターを設定することができます。

• 可変スピードリミッター

市街地などの速度制限のためのものです。

• ウィンタータイヤスピードリミッター

ウィンタータイヤを装着して走行するときなど、速度を長期間制限するためのものです (▷160 ページ)。

- i** スピードメーターに表示された速度は、記憶された制限速度と若干異なる場合があります。

重要な安全上の注意

警告

ブレーキペダルの上に常に軽く足を置くなど、決してブレーキを踏んだ状態で運転しないでください。ブレーキシステムが過熱して、制動距離が長くなり、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

警告

滑りやすい路面では、シフトダウン操作による急激なエンジンブレーキを効かせないでください。駆動輪がグリップを失い、車両が横すべりするおそれがあります。

警告

可変スピードリミッターは運転を補助するために設計されたものです。運転者は、車両の速度に注意して、適時減速する責任があります。

可変スピードリミッター

全体的な注意事項

クルーズコントロールレバーで、クルーズコントロールまたはディストロニック・プラスと可変スピードリミッターを操作できます。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯は、選択したシステムを示しています。

- LIM 表示灯が消灯：クルーズコントロールまたはディストロニック・プラスが選択されています。
- LIM 表示灯が点灯：可変スピードリミッターが選択されています。

エンジンがかかっているときに、クルーズコントロールレバーを使用して、約 30km/h 以上の速度を制限できます。



- ① 現在の走行速度、またはより速い速度を記憶する
- ② LIM 表示灯
- ③ 現在の速度を記憶する、または最後に記憶した速度を呼び出す
- ④ 現在の走行速度、またはより遅い速度を記憶する
- ⑤ クルーズコントロールまたはディストロニック・プラスと可変スピードリミッターを切り替える
- ⑥ 可変スピードリミッターを解除する

可変スピードリミッターの選択

警告

運転者を交代する場合は、交代する運転者に記憶されている制限速度を伝えてください。

可変スピードリミッターは、制限速度に設定された速度以上に加速する必要がないときのみ使用してください。さもないと、事故を起こすおそれがあります。

以下の操作を行ない可変スピードリミッターを解除することによってのみ、記憶されている制限速度を超えて走行できます。

- クルーズコントロールレバーを使用する。
- アクセルペダルを抵抗がある位置を越えて踏み込む（キックダウン）。

ブレーキペダルを踏んで可変スピードリミッターを解除することはできません。

- ▶ LIM 表示灯 ② が点灯しているかどうかを確認します。

点灯しているときは、すでに可変スピードリミッターが選択されています。

そうでないときは、クルーズコントロールレバーを矢印 ⑤ の方向に押します。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② が点灯します。可変スピードリミッターが選択されます。

- ▶ アクセルペダルを抵抗がある位置を越えて踏み込んでいないことを確認します。

現在の速度を記憶する

エンジンがかかっているときに、クルーズコントロールレバーを使用して、約 30km/h 以上の速度を制限できます。

- ▶ クルーズコントロールレバーを上①または下④に軽く押します。

現在の速度が記憶されます。マルチファンクションディスプレイに**制限速度 100km/h**のように記憶した速度が約 5 秒間表示されます。

スピードメーターの目盛りの始まりから制限速度までのセグメントが点灯します。

現在の速度を記憶する、または最後に記憶した速度を呼び出す

警告

記憶されている速度を認識していて、また現在の交通や走行状況に合っているときにのみ、記憶させた速度を呼び出してください。さもないと、意図せずに突然の加速やブレーキ作動が起こり、お客様や他の方がけがをするおそれがあります。

- ▶ クルーズコントロールレバーを運転者の方向③に軽く引きます。
- ▶ **1km/h 単位での調整**：クルーズコントロールレバーを、高い速度へは上①に、低い速度へは下④に、抵抗がある位置まで軽く押します。

または

- ▶ 希望する速度に設定されるまで、クルーズコントロールレバーを抵抗がある位置まで押して保持します。高い速度へは上①に、低い速度へは下④に押します。

- ▶ **10km/h 単位での調整**：クルーズコントロールレバーを、高い速度へは上①に、低い速度へは下④に、抵抗がある位置を越えて軽く押します。

または

- ▶ 希望する速度に設定されるまで、クルーズコントロールレバーを抵抗がある位置を越えて押して保持します。高い速度へは上①に、低い速度へは下④に押します。

可変スピードリミッターを解除する

警告

ブレーキペダルを踏んで可変スピードリミッターを解除することはできません。

可変スピードリミッターを解除するためにはいくつかの方法があります。

- ▶ クルーズコントロールレバーを前方⑥に軽く押します。

または

- ▶ ブレーキペダルを踏みます。

または

- ▶ クルーズコントロールレバーを矢印を⑤の方向に軽く押します。

クルーズコントロールレバーのLIM表示灯②が消灯します。可変スピードリミッターが解除されます。

クルーズコントロールまたはディストロニック・プラスが選択されます。

アクセルペダルを抵抗がある位置を越えて踏み込んだとき（キックダウン時）も、可変スピードリミッターは解除されます。このときは警告音が鳴ります。ただし、記憶された速度より約20km/h以上低い速度までは解除されません。

- ① エンジンを停止すると、記憶されている速度は消去されます。

ウィンタータイヤスピードリミッター

マルチファンクションディスプレイを使用して、約160 km/h（例えばウィンタータイヤで走行するとき）から最高速度までの間の値に、速度を常時制限できます（▶235 ページ）。

記憶された速度に到達する少し前に、マルチファンクションディスプレイに速度が表示されます。

可変スピードリミッターを解除しても、ウィンタータイヤスピードリミッターは作動したままになります。

アクセルペダルを抵抗がある位置を越えて踏み込んでも（キックダウン）、記憶された制限速度を超えることはできません。

ディストロニック・プラス

重要な安全上の注意

警告

滑りやすい路面では、よりエンジンブレーキを効かせるためのシフトダウンは行なわないでください。駆動輪がグリップを失い、車両が横すべりするおそれがあります。

警告

ディストロニック・プラスは運転の補助のみを行なうために設計されたものです。他の車両との距離、走行速度、タイミングに合ったブレーキ操作に関するすべての責任は運転者にあります。

ディストロニック・プラスは、特に以下のようなものには反応しません。

- 歩行者
- 駐停車している車両など、道路上の静止している障害物
- 対向車や横切る車両

ディストロニック・プラスは、オートバイなど前方を走行している幅の狭い車両や、左または右にずれて走行している車両を検知しないことがあります。そのため、ディストロニック・プラスを作動させているときでも、交通状況には常に注意してください。さもないと、適切に危険を認識することができず、事故の原因になったり、お客様や他の方がけがをするおそれがあります。

⚠ 警告

ディストロニック・プラスは道路や交通状況を考慮することはできません。ディストロニック・プラスが先行車を認識しない場合には、ディストロニック・プラスを作動させないでください。または、すでに作動させているときは解除してください。特に以下の場合です。

- カーブの前
- 車線が狭くなった場合
- 流れの速い車線に車線変更する場合
- 複雑な運転状況、または高速道路での工事など、車線が迂回している場合

ディストロニック・プラスは現在設定されている速度を維持するか、設定した速度まで加速します。

ディストロニック・プラスは天候などの条件を考慮することはできません。以下のときは、ディストロニック・プラスを解除するか作動させないでください。

- 道路が滑りやすいとき、雪や氷で覆われているとき。ブレーキを効かせたときや加速時に車輪がグリップを失うことがあります。車両が滑り始めるおそれがあります。
- センサーが汚れていたり、雪、雨、または霧などで視界が悪いとき。距離の制御ができないことがあります。

ディストロニック・プラスが作動していても、交通状況には常に注意してください。さもないと、危険を適切に認識することができず、事故の原因になったり、お客様や他の方がけがをするおそれがあります。

⚠ 警告

ディストロニック・プラスは、走行速度により、最大 4m/s^2 で車両にブレーキを効かせます。これは、車両の最大制動力の約 40% に相当します。この制動力が不十分なときは、運転者自身でブレーキを効かせてください。

ディストロニック・プラスが車両の前方に衝突の危険性を検知したときは、断続的な警告音が鳴ります。さらに、メーターパネルの車間距離警告灯  が点灯します。衝突を避けるためにブレーキ操作を行なってください。

⚠ 警告

ディストロニック・プラスが作動しているときは、車両にブレーキが効くことがあります。この理由により、他の方法（自走式洗車機に入れたり、けん引するときなど）で車両を動かすときは、ディストロニック・プラスを解除してください。

全体的な注意事項

ディストロニック・プラスは速度を制御し、前方に検知された車両との距離を自動的に維持するための補助を行ないません。ディストロニック・プラスは設定された速度を超えないように自動的にブレーキを効かせます。

長い急な下り坂で、特に車両に荷物を積載しているときは、適時低いギアを選択してください。走行モードをMにする必要があります（▶160ページ）。そうすることにより、エンジンブレーキの効果を利用できます。これにより、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキが過熱して早く摩耗することを防ぎます。

前方を走行している遅い車両を検知すると、ディストロニック・プラスは自動ブレーキを作動させ、あらかじめ設定した先行車との距離を維持します。

前方に車両がないとき、ディストロニック・プラスは、約30km/h～約200km/hの走行速度の範囲で、クルーズコントロールと同じように作動します。前方を車両が走行しているときは、ディストロニック・プラスは、0km/h～約200km/hの走行速度の範囲で作動します。

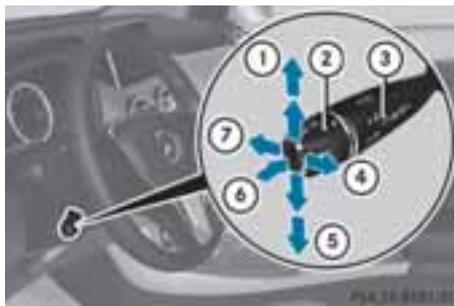
急な坂道を走行しているときは、ディストロニック・プラスを使用しないでください。

クルーズコントロールレバー

クルーズコントロールレバーでディストロニック・プラスと可変スピードリミッターを操作できます。

クルーズコントロールレバーのLIM表示灯は、選択したシステムを示しています。

- LIM表示灯が消灯：ディストロニック・プラスが選択されています。
- LIM表示灯が点灯：可変スピードリミッターが選択されています。



- ① 現在の走行速度に設定する、または設定速度を上げる
- ② 車間距離を設定する
- ③ LIM表示灯
- ④ 現在の走行速度に設定する、または最後に記憶させた速度を呼び出す
- ⑤ 現在の走行速度に設定する、または設定速度を下げる
- ⑥ ディストロニック・プラスと可変スピードリミッターを切り替える
- ⑦ ディストロニック・プラスを解除する

ディストロニック・プラスの選択

▶ LIM表示灯③が消灯していることを確認します。

消灯しているときは、ディストロニック・プラスがすでに選択されています。

そうでないときは、クルーズコントロールレバーを矢印⑥の方向に押します。

クルーズコントロールレバーのLIM表示灯③が消灯します。ディストロニック・プラスが選択されます。

ディストロニック・プラスの設定、記憶、維持、速度の呼び出し

作動条件

ディストロニック・プラスは、以下の条件を満たすときに作動させることができます。

- エンジンがかかっていること。約2分以上走行するとディストロニック・プラスの使用準備が整います。
- 電気式パーキングブレーキが解除されていること
- ESP® が待機状態になっていて、作動していないこと
- トランスミッションがポジションDにあること
- PからDにシフトしたときに運転席ドアが閉じているか、運転者がシートベルトを着用していること
- 助手席側ドアと後席ドアが閉じていること
- 車両がスリップしていないこと

走行中の作動：約20km/h以下の速度で走行しているときは、先行車が検知されていて、マルチファンクションディスプレイに表示されているときのみ、ディストロニック・プラスを作動させることができます。先行車が検知されなくなり、表示されなくなったときは、ディストロニック・プラスは解除され、確認音が鳴ります。

- ▶ クルーズコントロールレバーを運転者の方向④に軽く引くか、上①または下⑤に押します。

ディストロニック・プラスが選択されます。

- ▶ 希望の速度が設定されるまで、クルーズコントロールレバーを上①または下⑤に押したままにします。
- ▶ アクセルペダルから足を放します。

設定速度以下で先行車が走行している場合、自車の速度が先行車と同じ速度に調整されます。

- ① **!** アクセルペダルから足を完全に放していないときは、マルチファンクションディスプレイに**ディストロニックプラス 制御待機中**というメッセージが表示されます。前方を走行している遅い車両との車間距離は維持されなくなります。アクセルペダルの踏み具合で自車の速度を調整してください。

停止している先行車に向かって走行しているときに作動させる：先行車が停車しているときは、自車が同様に停車してからのみ、ディストロニック・プラスを作動させることができます。

- ▶ クルーズコントロールレバーを運転者の方向④に軽く引くか、上①または下⑤に押します。

ディストロニック・プラスが選択されます。

i 約 20km/h 以下では、先行車が検知されたときにのみ、ディストロニック・プラスを作動させることができます。マルチファンクションディスプレイの車間ディスプレイで確認してください。

▶ 希望の設定速度になるまで、クルーズコントロールレバーを上 ① または下 ⑤ に押したままにします。

i クルーズコントロールレバーを使用して記憶速度を設定したり、レバーのダイヤル ② を使用して車間距離を設定することができます。

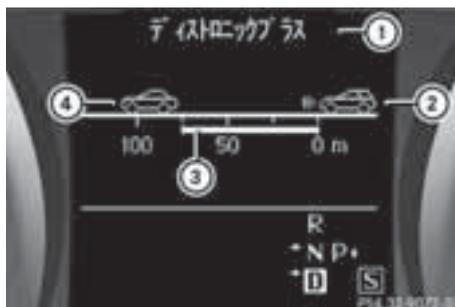


スピードメーターのディストロニック・プラス表示

ディストロニック・プラスを作動させたときは、設定速度域の 1 個または 2 個のセグメント ② が点灯します。

i デザイン上の理由により、スピードメーターに表示されている速度とディストロニック・プラスの設定速度が若干異なる場合があります。

ディストロニック・プラスが先行車を検知すると、先行車の速度 ① と設定速度 ③ の間のセグメント ② が点灯します。



ディストロニック・プラス作動中のマルチファンクションディスプレイの車間ディスプレイ

- ① ディストロニック・プラス作動表示
- ② 自車
- ③ 先行車との間に設定された調整可能な車間距離
- ④ 検知された先行車

マルチファンクションディスプレイのアシストメニュー (▷228 ページ) で、車間ディスプレイを選択することができます。

▶ マルチファンクションディスプレイで、**車間ディスプレイ** (▷229 ページ) を選択します。

i ディストロニック・プラスを作動させると、マルチファンクションディスプレイに記憶した速度が約 5 秒間表示されます。

走行

警告

ブレーキペダルを踏んだとき、自車が停止しているとき以外はディストロニック・プラスが解除されます。この後は、ディストロニック・プラスが車両にブレーキを効かせることはありません。そのような場合は、運転者のブレーキ操作のみで先行車との距離を調整することになります。事故の原因になったり、お客様や他の方がけがをするおそれがあります。他の車両との車間距離、走行速度、タイミングに合ったブレーキ操作に関するすべての責任は運転者にあります。

発進

- ▶ **前方の車両が発進したとき**：ブレーキペダルから足を放します。
- ▶ クルーズコントロールレバーを運転者の方向（▷182 ページ）に軽く引きます。

または

- ▶ 軽くアクセルペダルを踏みます。
先行車の走行速度に合わせるようにして発進します。

先行車がないときは、ディストロニック・プラスはクルーズコントロールと同じように作動します。

ディストロニック・プラスが先行車の減速を検知したときは、自動ブレーキを作動させます。これにより、設定した車間距離を維持します。

先行車が加速し、設定速度よりも速くなったときは、設定速度まで加速します。

車線変更

警告

ディストロニック・プラスは、運転を補助するために設計されたものです。運転者の責任や注意を軽減させるものではありません。他の車両との車間距離、走行速度、タイミングに合ったブレーキ操作に関するすべての責任は運転者にあります。

常に交通状況や周囲に注意してください。さもないと、適切に危険を認識することができず、事故の原因になったり、お客様や他の方がけがをするおそれがあります。

以下の状況で追い越し車線に変更する場合は、ディストロニック・プラスの加速によって運転者の車線変更操作を補助します。

- 約 60 km/h 以上で走行しているとき
- 先行車の速度が自車の設定速度よりも遅く、ディストロニック・プラスが先行車との距離を維持して追従走行しているとき
- 対応する方向指示灯を作動させたとき
- ディストロニック・プラスが衝突の危険を検知していないとき

これらの条件を満たした場合は、車両は加速します。車線変更に時間がかかりすぎたり、自車と先行車との距離が短すぎるときは、加速は中断されます。

i 車線を変更するとき、ディストロニック・プラスは、左ハンドル車は左側、右ハンドル車は右側の車両または障害物をモニターします。

停止

警告

ディストロニック・プラスが作動しているときは決して車両から降りないでください。

ディストロニック・プラスを同乗者が操作したり、停車時に車外から作動または解除するような操作は決してしないでください。

ディストロニック・プラスは電気式パーキングブレーキの代わりになるものではありません。駐車するために使用しないでください。

以下のときには、ディストロニック・プラスの自動ブレーキの作動が中断し、車両が動き出すことがあります。

- クルーズコントロールレバーを使用してディストロニック・プラスが解除されたとき
- アクセルペダルを踏んだとき
- システムに故障があるときやバッテリー故障などで電力供給が中断したとき
- エンジンルームの電気システムや、バッテリーまたはヒューズが改造されたとき
- バッテリーの接続を外したとき

車両から離れたり、駐車するときは、ディストロニック・プラスを解除し、車両が動き出さないようにしてください。

先行車が停止したことをディストロニック・プラスが検知すると、自車が停止するまでブレーキを効かせます。

一度自車が停止すると、停車したままになり、ブレーキペダルを踏む必要はありません。

i 一定時間が経過すると、電気式パーキングブレーキにより車両が動かなくなり、システムによるブレーキ作動の負荷を軽減します。

i 設定した車間距離によっては、自車は先行車後方の十分な距離があるところで停止することがあります。車間距離はレバーのダイヤルを使用して設定します。

ディストロニック・プラスが作動しているときに以下のことを行なうと、電気式パーキングブレーキにより車両が動かなくなります。

- 運転席ドアを開いて、運転席のシートベルトを外したとき
- ECO スタート / ストップ機能で自動的に停止している場合を除き、エンジンを停止したとき
- システムに故障が発生したとき
- 電力供給が不十分なとき

故障が発生した場合は、トランスミッションが自動的に **P** にシフトすることがあります。

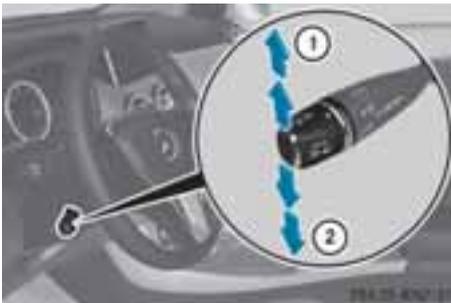
現在の速度を記憶する、または最後に記憶した速度を呼び出す

⚠ 警告

記憶されている速度を認識していて、また現在の交通や走行状況に合っているときにのみ、記憶させた速度を呼び出してください。さもないと、意図せずに突然の加速やブレーキ作動が起り、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

- ▶ クルーズコントロールレバーを運転者の方向（▷182 ページ）に軽く引きます。
- ▶ アクセルペダルから足を放します。ディストロニック・プラスが作動します。最初に作動させたときは現在の速度が記憶されます。そうでない場合は、以前に記憶されていた巡航速度に車両を設定します。

速度の設定



- ① 現在の走行速度に設定する、または設定速度を上げる
- ② 現在の走行速度に設定する、または設定速度を下げる

▶ クルーズコントロールレバーを、高い速度には上①に、低い速度には下②に押しします。

▶ 希望の速度が設定されるまで、クルーズコントロールレバーを押ししたままにします。

▶ クルーズコントロールレバーから手を放します。

新しい速度が記憶されます。ディストロニック・プラスが作動し、新しく記憶させた速度に車両の速度を調整します。

▶ **1km/h 単位での調整**：クルーズコントロールレバーを、高い速度には上①に、低い速度には下②に、抵抗がある位置まで軽く押しします。

最後に記憶された速度が 1km/h 単位で上がる、または下がります。

▶ **10km/h 単位での調整**：クルーズコントロールレバーを、高い速度には上①に、低い速度には下②に、抵抗がある位置を越えて押しします。

最後に記憶された速度が 10km/h 単位で上がる、または下がります。

i ディストロニック・プラスはアクセルペダルを踏んでも解除されません。追い越しを行なうために速度を上げたときは、追い越しが完了した後に、ディストロニック・プラスは車両の速度を設定速度に調整します。

車間距離の設定

時間間隔を1秒から2秒の間で変えることにより、ディストロニック・プラスの車間距離を設定することができます。この機能により、走行速度に応じてディストロニック・プラスが維持する先行車との最低距離を設定することができます。マルチファンクションディスプレイにこの距離を表示できます（▶184 ページ）。



- ▶ **長くする**：ダイヤル③を矢印②の方向にまわします。

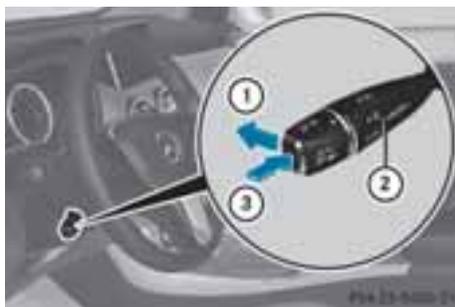
ディストロニック・プラスは、自車と先行車の間に、より長い車間距離を維持します。

- ▶ **短くする**：ダイヤル③を矢印①の方向にまわします。

ディストロニック・プラスは、自車と先行車の間に、より短い車間距離を維持します。

- i** 先行車と十分に安全な距離を維持していることを確認してください。必要であれば、先行車との距離を調整してください。

ディストロニック・プラスの解除



ディストロニック・プラスの解除には、いくつかの方法があります。

- ▶ クルーズコントロールレバーを前方①に軽く押します。

または

- ▶ 停車していないときに、ブレーキペダルを踏みます。

または

- ▶ クルーズコントロールレバーを矢印③の方向に軽く押します。

可変スピードリミッターが選択されます。クルーズコントロールレバーのLIM表示灯②が点灯します。

ディストロニック・プラスを解除すると、マルチファンクションディスプレイに**ディストロニックプラス オフ**と約5秒間表示されます。

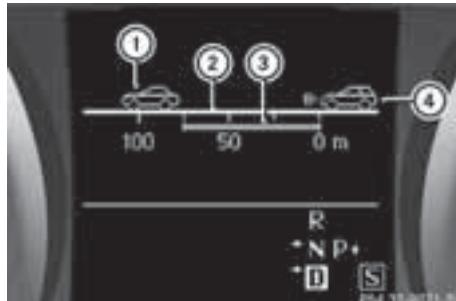
- i** エンジンを停止するまで、最後に記憶された速度がそのまま記憶されます。

ディストロニック・プラスは、以下のときに自動的に解除されます。

- 電気式パーキングブレーキを効かせたとき、または電気式パーキングブレーキにより車両が自動的に動かなくなったとき
- 走行速度が 10km/h 以下のときに、先行車がいなくなったときや先行車が検知されなくなったとき
- ESP[®] が作動したときや ESP[®] を解除したとき
- トランスミッションがポジション P や R、N になったとき
- 助手席ドアまたはいずれかの後席ドアが開いている状態で、発進させるためにレバーを手前に引いたとき
- 車両がスリップしたとき

ディストロニック・プラスが解除されると警告音が鳴ります。マルチファンクションディスプレイに**ディストロニックプラス オフ**と約 5 秒間表示されます。

マルチファンクションディスプレイのアシストメニュー (▷228 ページ) で、**車間ディスプレイ**を選択することができます。



ディストロニック・プラス解除中のマルチファンクションディスプレイの車間ディスプレイ

- ① 検知された先行車
- ② 先行車との現在の距離を表示する車間距離インジケーター
- ③ 先行車との間に設定された調整可能な車間距離
- ④ 自車

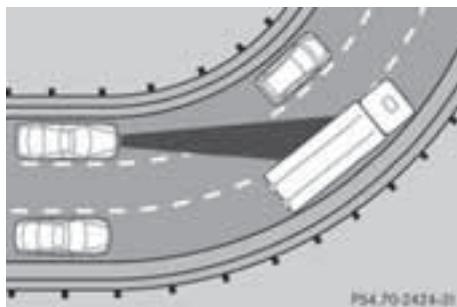
▶ マルチファンクションディスプレイで、**車間ディスプレイ** (▷229 ページ) を選択します。

ディストロニック・プラスで走行するときのヒント

全体的な注意事項

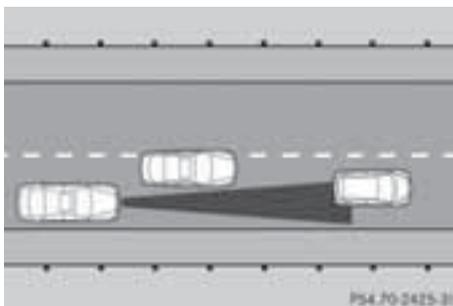
特に注意が必要な、道路と交通の特定の状況を以下に記載しています。このような状況下では、必要に応じてブレーキペダルを踏んでください。ディストロニック・プラスが解除されます。

カーブでの走行、カーブに入るときやカーブを抜けるとき



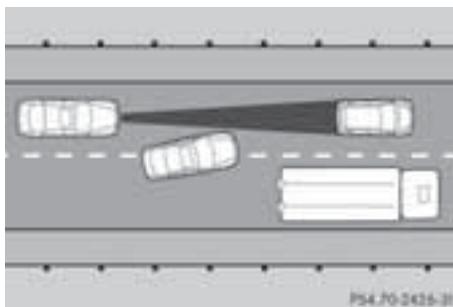
カーブでは、ディストロニック・プラスの機能が制限されます。車両が予想せずブレーキを効かせたり、ブレーキが遅れることがあります。

自車の進路から左または右に少しずれた位置に車両が走行しているとき



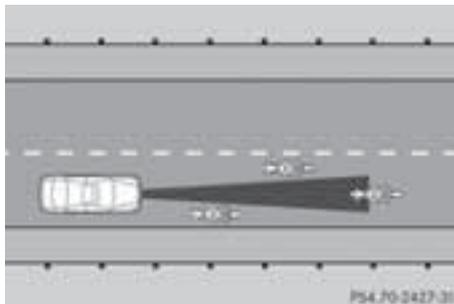
ディストロニック・プラスは、自車の進行方向から左または右にずれて走行している車両を検知できないことがあります。先行車との距離が非常に短くなることがあります。

自車の進路に車両が割り込んでくるとき



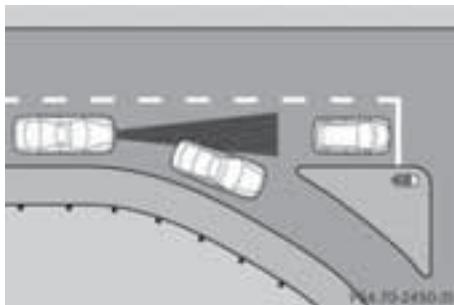
ディストロニック・プラスは割り込んでくる車両を検知できないことがあります。この車両との距離が非常に短くなることがあります。

横幅の狭い車両が前方を走行しているとき



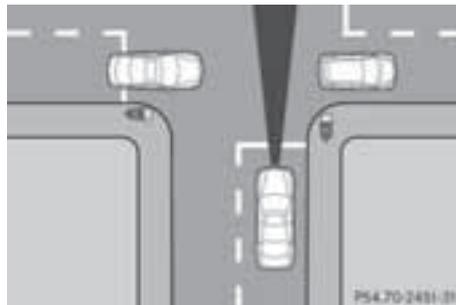
ディストロニック・プラスは、車線の端を走行している横幅の狭い車両を検知できないことがあります。先行車との距離が非常に短くなる場合があります。

自車の進路に障害物や停車車両があるとき



ディストロニック・プラスは、障害物や停車車両に対して自動ブレーキを作動させません。例えば、自車が追従していた先行車がカーブを曲がり、障害物や停車車両が現れたときは、ディストロニック・プラスはこれらに対して自動ブレーキを作動させません。

車両が横切ったとき



ディストロニック・プラスは、誤って自車の車線を横切る車両を検知することがあります。交差点でディストロニック・プラスを作動させているときは、意図せずに自車が発進することがあります。

ホールド機能

全体的な注意事項

ホールド機能は以下の状況で運転者を補助します。

- 特に急な坂道で発進するとき
- 急な坂道で車を動かすとき
- 発進待ちをしているとき

運転者がブレーキペダルを踏まなくても、車両が停止した状態を保ちます。

発進するためにアクセルペダルを踏み込むと、ブレーキ効果が解除され、ホールド機能は解除されます。

重要な安全上の注意

警告

ホールド機能が作動しているときは車両にブレーキが効いています。この理由により、車両が他の方法で動かされている場合（例えば洗車機に入れる場合やけん引されるとき）にはホールド機能を解除してください。

警告

ホールド機能が作動しているときは決して車両から降りないでください。ホールド機能は決して同乗者または車外から操作したり解除したりしないでください。

ホールド機能は電気式パーキングブレーキの代わりになるものではありません。駐車するために使用しないでください。

以下のときは、ホールド機能のブレーキ作動が中断して、車両が動き出します。

- アクセルペダルまたはブレーキペダルを踏んでホールド機能を解除したとき
- システムに故障があるときやバッテリー故障などで電力供給が中断したとき
- エンジンルームの電気システムや、バッテリーまたはヒューズが改造されたとき
- バッテリーの接続を外したとき

車両から離れたり、駐車するときは、ホールド機能を解除し、車両が動き出さないようにしてください。

作動条件

ホールド機能は以下のときに作動させることができます。

- 停車しているとき
- エンジンがかかっているとき、またはECOスタート/ストップ機能によりエンジンが自動的に停止しているとき
- 運転席ドアを閉じているとき、または運転席の乗員がシートベルトを着用しているとき
- 電気式パーキングブレーキが解除されているとき
- トランスミッションがポジションD、R、Nのいずれかのとき
- ディストロニック・プラスが解除されているとき

ホールド機能を作動させる

- ▶ 作動条件を満たしていることを確認します。
- ▶ ブレーキペダルを踏みます。
- ▶ マルチファンクションディスプレイにホールド機能表示灯 **HOLD** が表示されるまで、ブレーキペダルを意識的に素早く深く踏み込みます。

ホールド機能が作動し、ブレーキペダルから足を放すことができます。

- i** 最初にブレーキペダルを踏んだときにホールド機能が作動しない場合は、少し待った後に再度試してください。

ホールド機能を解除する

ホールド機能は以下のときに自動的に解除されます。

- トランスミッションがポジション **D** または **R** のときに、アクセルペダルを踏んだとき
- トランスミッションをポジション **P** にシフトしたとき
- ある一定以上の強さでブレーキペダルを再度踏み、マルチファンクションディスプレイのホールド機能表示灯 **HOLD** が消灯したとき
- 電気式パーキングブレーキを効かせて車両を動かさないようにしたとき
- ディストロニック・プラスを作動させたとき

i 一定時間が経過すると、電気式パーキングブレーキにより車両が動かなくなり、ブレーキ作動の負荷を軽減します。

ホールド機能が作動していて以下のようなときは、電気式パーキングブレーキが自動的に作動して車両が動かなくなります。

- 運転席ドアを開いて、運転席のシートベルトを外したとき
- ECO スタート / ストップ機能で自動的に停止している場合を除き、エンジンを停止したとき
- システムに故障が発生したとき
- 電力供給が不十分なとき

故障が発生した場合は、トランスミッションが自動的に **P** にシフトすることがあります。

パークトロニック

重要な安全上の注意

警告

パークトロニックは補助のみを行なうものであり、すべての障害物を検知するわけではありません。注意を払った運転の代わりになるものではありません。

安全に対する責任は常に運転者であり、駐車や移動を行なうときは常に周囲に注意を払ってください。さもないと、お客様や他の方が危険にさらされるおそれがあります。

警告

車の周辺に人や動物がいないことを確認してください。さもないと、人や動物がけがをするおそれがあります。

! 駐車するときは、鉢植えやトレーラーけん引部などセンサーの上下にあるものに十分注意してください。パークトロニックは、これらが車両の至近距離にあるときは検知できません。車両や物を損傷するおそれがあります。

センサーは超音波を吸収しやすい雪やその他のものを検知しないことがあります。

自動洗車機や大型車の排気ブレーキ、空気圧ドリルなどの超音波により、パークトロニックが誤作動することがあります。

不整地などではパークトロニックが正しく作動しないことがあります。

パークトロン尼克は、超音波センサーによる電子式駐車補助システムです。車両と障害物との距離を視覚的、聴覚的に示します。

パークトロン尼克は、以下のときに自動的に作動します。

- イグニッション位置が **2** のとき
- ポジション **D**、**R**、**N** にシフトしたとき
- 電気式パーキングブレーキが解除されているとき

パークトロン尼克は、走行速度が約18km/h 以上になると作動を停止し、それより低い速度のときに再度作動します。

パークトロン尼克は、フロントバンパーの6個のセンサーとリアバンパーの4個のセンサーにより、車両周辺のエリアをモニターします。

センサーの検知範囲

全体的な注意事項



① フロントバンパー左側のセンサーの例



側方図



上方図

センサーに汚れや氷および泥が付着しないようにしてください。さもないと、適切に機能しないことがあります。擦り傷や損傷を与えないように注意して、センサーを定期的に清掃してください（▷303 ページ）。

フロントセンサー

センター部 約 100cm

コーナー部 約 60cm

リアセンサー

センター部 約 120cm

コーナー部 約 80cm

最小範囲

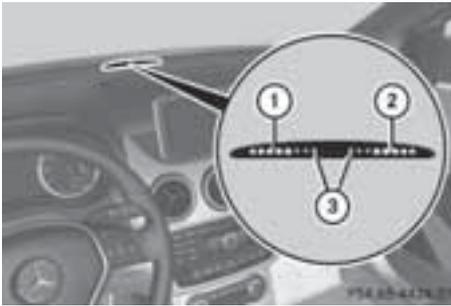
センター部 約 20cm

コーナー部 約 20cm

この範囲内に障害物があるときは、対応する警告灯が点灯して警告音が鳴ります。距離が最小範囲以下になると、距離が表示されなくなることがあります。

警告ディスプレイ

警告ディスプレイはセンサーと障害物との距離を示します。前方エリアの警告ディスプレイは中央送風口上部のダッシュボードにあります。後方エリアの警告ディスプレイは後席のルーフレイニングにあります。



前方エリアの警告ディスプレイ

- ① 車両左側のセグメント
- ② 車両右側のセグメント
- ③ 作動可能状態を示すセグメント

車両の各側の警告ディスプレイは、5個の黄色セグメントおよび2個の赤色セグメントに分けられます。作動可能状態を示す黄色セグメント③が点灯しているときは、パークトロニックは作動可能です。

エンジンがかかっているときに、選択したトランスミッションのポジションと車両の進行方向により、どの警告ディスプレイが作動するかが決定されます。

トランスミッションのポジション	警告ディスプレイ
D	前方エリアが作動します。
R、N または、車両が後退しているとき	前方と後方のエリアが作動します。
P	どのエリアも作動しません。

車両が障害物に近づくにつれ、障害物からの車両の距離に応じて1個またはそれ以上のセグメントが点灯します。

- 6個目のセグメントになると、警告音が約2秒間断続的に鳴ります。
- 7個目のセグメントになると、警告音が約2秒間鳴ります。これは、最短距離に達していることを示しています。

パークトロニックの解除 / 設定



- ① 表示灯
- ② パークトロニックの解除 / 設定

表示灯①が点灯しているときは、パークトロニックが解除されています。

- ① **i** イグニッション位置を2にすると、パークトロニックは自動的に設定されます。

パークトロンニックのトラブル

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
<p>パークトロンニック警告ディスプレイの赤色セグメントだけが点灯している。</p> <p>警告音が約2秒間鳴った。</p> <p>数秒後にパークトロンニックが解除され、パークトロンニックオフスイッチの表示灯が点灯した。</p>	<p>パークトロンニックの故障のため、機能が解除されている。</p> <p>▶ トラブルが続くようであれば、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でのパークトロンニックの点検を受けてください。</p>
<p>パークトロンニック警告ディスプレイの赤色セグメントだけが点灯している。</p> <p>数秒後にパークトロンニックが解除された。</p>	<p>パークトロンニックセンサーが汚れているか、付着物などがある。</p> <p>▶ パークトロンニックセンサーを清掃してください (▷303 ページ)。</p> <p>▶ 再度、イグニッション位置を 2 にしてください。</p> <p>外部の電波や超音波の干渉などにより、機能が解除されている。</p> <p>▶ 場所を変えて、パークトロンニックの作動を確認してください (▷194 ページ)。</p>

アクティブパーキングガイダンス

重要な安全上の注意

全体的な注意事項

アクティブパーキングガイダンスは、超音波センサーによる電子式駐車補助システムです。超音波は車両両側の道路の計測に使用されます。適切な駐車スペースは駐車マークで示されます。ステアリングの介入操作により、駐車を補助します。

パークトロンニックも併せて利用できます (▶193 ページ)。パークトロンニックが解除されているときは、アクティブパーキングガイダンスも使用できません。

駐車スペースが以下のときにアクティブパーキングガイダンスを使用してください。

- 走行する方向と平行なとき
- カーブしていない直線道路のとき
- 歩道以外の舗装路面など、道路と駐車スペースが同じ高さのとき

警告

アクティブパーキングガイダンスは運転操作を補助するシステムであり、駐車に適さない場所を誘導することがあります。例えば、駐車禁止の場所や、私道、駐車に適さない路面などです。

アクティブパーキングガイダンスは駐車スペースを通過してから測定します。駐車スペースが変わってしまうと測定することができません。例えば、駐車スペースの前後に駐車している車両の位置が変わったり、駐車スペースに障害物が入った場合です。

アクティブパーキングガイダンスは運転者の注意に対する責任を軽減させるものではありません。アクティブパーキングガイダンスだけに頼ると、事故の原因になったり、お客様や他の方がけがをするおそれがあります。

安全に対する責任は常に運転者であり、駐車や移動を行なうときは周囲への注意を払い続けてください。

⚠ 警告

駐車スペースを計測しているときは、アクティブパーキングガイダンスの検知範囲外の高さにある障害物は検知されません。例えば、突き出している荷物や車両後部、積載用スロープなどは、システムが駐車手順を計算するときに考慮されません。状況によっては、アクティブパーキングガイダンスが駐車スペースを指示するタイミングが早すぎることがあります。衝突するおそれがあります。この理由により、そのような状況ではアクティブパーキングガイダンスは使用しないでください。

⚠ 警告

駐車操作を行なっているときは、車両の前側が外側を向き、車両の向きが対向車の方向になります。状況によっては、駐車操作の間に車両が対向車線の部分に入ることもあります。安全に対する責任は常に運転者であり、前方や後方の他の車両への注意を払い続けてください。

⚠ 警告

車の周辺に人や動物がいないことを確認してください。さもないと、人や動物がけがをするおそれがあります。

! 縁石のような障害物を避けられないときは、鋭角でない角度でゆっくりと乗り越えてください。さもないと、ホイールやタイヤを損傷するおそれがあります。

駐車の知識：

- 狭い道では、できるだけ駐車スペースの近くを通過して走行してください。
- 駐車スペース内にごみが落ちていたり、草が生い茂ってたり、トレーラーけん引部が突き出ている場合などは、正しく見分けられなかったり、検知できないことがあります。
- 雪や激しい雨により、正しく計測されていない駐車スペースに誘導することがあります。
- 駐車を行なっている間は、パークトロニックの警告に注意してください(▷190 ページ)。
- 運転者はいつでも、操作を修正するためにステアリング手順に介入できます。アクティブパーキングガイダンスは中止されます。
- 車両からはみ出た荷物を運搬しているときは、アクティブパーキングガイダンスを使用しないでください。
- スノーチェーンを装着しているときは、決してアクティブパーキングガイダンスを使用しないでください。
- タイヤの空気圧が常に適正であることを確認してください。車両の駐車操作に直接影響します。

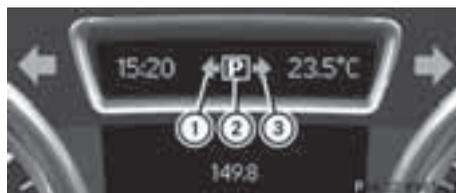
- 駐車スペースに車両を停める方法は、色々な要因により影響を受けます。それらは車両の前後に停車している車両の位置や形、場所の状態などです。場合により、アクティブパーキングガイダンスは駐車スペースからかなり離れていたり、十分に離れていない場所に誘導することがあります。場合により、縁石をまたいだり縁石に乗り上げることもあります。必要であれば、アクティブパーキングガイダンスによる駐車操作を中止してください。
- 運転者は駐車操作の間に前進ギアに入れることもできます。このときは車両が駐車スペースに向かって走行しなくなります。運転者がより良い駐車位置を得るためにギア操作を行った場合は、駐車手順が中止されます。

駐車スペースの検知

アクティブパーキングガイダンスは、前進しているときに自動的に作動します。システムは走行速度が約35km/hになるまで作動します。作動中、システムは車両の両側の駐車スペースを独自に見つけて、測定します。走行速度が約30km/h以下のときは、メーターパネルにステータスインジケータとしてパーキングガイダンスマークが表示されます。通常では、アクティブパーキングガイダンスは助手席側のみの駐車スペースを表示します。運転席側の方向指示灯を作動させると、すみやかに運転席側の駐車スペースを表示します。運転席側に駐車するときは、運転席側の方向指示灯を作動させたままにしてください。

運転者がマルチファンクションステアリングの **[OK]** スイッチを押してアクティブパーキングガイダンスの使用を確認するまで、方向指示灯は作動したままになります。

駐車スペースが検知されたときは、右または左向きの矢印が表示されます。



駐車スペースが検知されたときの例

- ① 左側に駐車スペースが検知されたとき
- ② パーキングガイダンスマーク
- ③ 右側に駐車スペースが検知されたとき

アクティブパーキングガイダンスは、以下のときのみ駐車スペースを検知します。

- 走行する方向と平行なとき
- 少なくとも約 1.5m 以上の幅があるとき
- 車両の全長よりも約 1.0m 以上長いとき

駐車スペースの表示は、駐車スペースを通り過ぎてから約 15m 離れるまで表示されます。

駐車する

⚠ 警告

パークトロンニックとアクティブパーキングガイダンスは運転操作を補助するものであり、すべての障害物を検知するわけではありません。注意を払った運転の代わりになるものではありません。

安全に対する責任は常に運転者であり、駐車や移動を行なうときは常に周囲に注意を払ってください。さもないと、運転者や他の人を危険にさらすおそれがあります。

⚠ 警告

駐車するとき、操作が行なわれている間は車の周辺に障害物がないことを確認する必要があります。

アクティブパーキングガイダンスは運転者の注意に対する責任を軽減させるものではありません。単にステアリング操作に介入して運転者を補助するものです。

車両を停車させたり事故を防ぐためには、運転者自身でブレーキ操作を行なう必要があります。

- ▶ 希望する場所の駐車スペースマークがマルチファンクションディスプレイに表示されたときは、停車します。
- ▶ ポジション R にシフトします。
マルチファンクションディスプレイに **パーキングアシストオン Yes: OK No:**  と表示されます。
- ▶ **操作を中止する**：マルチファンクションステアリングの  スイッチを押すか、走行します。

または

- ▶ **アクティブパーキングアシストを使って駐車する**：マルチファンクションステアリングの  スイッチを押します。

マルチファンクションディスプレイに **パーキングアシスト作動中 アクセルとブレーキを操作 周囲を確認**と表示されます。

- ▶ ステアリングが動きます。
- ▶ 常にブレーキ操作の準備をしながら後退します。後退中は速度が約 10km/h を超えないようにしてください。さもないと、アクティブパーキングガイダンスが解除されます。

- i** 小さな駐車スペースでは、できるだけ後方までバックすることにより最良の駐車結果が得られます。このときは、パークトロンニックのメッセージにも従ってください。

- ▶ パークトロンニックが継続的な警告音を発したらすみやかに停車します。警告を発する前ではありません。小さな駐車スペースでは位置の微修正が必要になります。

マルチファンクションディスプレイに **パーキングアシスト作動中 D にシフト 周囲を確認**と表示されます。

- ▶ 停車した状態で、トランスミッションのポジション **D** を選択します。
アクティブパーキングガイダンスがただちに反対の方向にステアリングをまわします。
マルチファンクションディスプレイに **パーキングアシスト作動中 アクセルとブレーキを操作 周囲を確認**と表示されます。

i 発進する前にステアリング操作が完了するまで待つことにより、最良の結果が得られます。

- ▶ 常にブレーキ操作の準備をしながら前進します。
- ▶ パークトロンニックが継続的な警告音を発したらすみやかに停車します。警告を発する前ではありません。

マルチファンクションディスプレイに「**パーキングアシスト**作動中 R にシフト 周囲を確認」と表示されます。

- ▶ トランスミッションのさらなるシフト操作が必要になる場合があります。

駐車操作が完了すると、すみやかにマルチファンクションディスプレイに「**パーキングアシスト** 終了」と表示されます。アクティブパーキングガイドランスが解除されます。パークトロンニックは引き続き作動します。

- ▶ 必要であれば、位置の微修正を行いません。
- ▶ 常にパークトロンニックの警告ディスプレイに従ってください (▷195 ページ)。

アクティブパーキングガイドランスの中止

アクティブパーキングガイドランスはいつでも中止できます。

- ▶ ステアリングの動きを停止するか、運転者自身でステアリング操作を行いません。

アクティブパーキングガイドランスが解除されます。マルチファンクションディスプレイに「**パーキングアシスト** 中止」と表示されます。

または

- ▶ センターコンソールのパークトロンニックオフスイッチを押します (▷195 ページ)。

パークトロンニックが停止し、アクティブパーキングガイドランスがただちに中止されます。マルチファンクションディスプレイに「**パーキングアシスト** 中止」と表示されます。

アクティブパーキングガイドランスは、以下のときに自動的に中止されます。

- トランスミッションのシフト操作が早すぎる時
- アクティブパーキングガイドランスを使用した駐車ができないとき
- 約 10km/h 以上の速度で走行したとき
- 車輪が空転して ESP® が作動するか、ESP® が作動できないとき。メーターパネルの ESP® 警告灯  が点灯します。

警告音が鳴ります。パーキングガイドランスマークが消え、マルチファンクションディスプレイに「**パーキングアシスト** 中止」と表示されます。

アクティブパーキングガイドランスが中止されたときは、運転者自身でステアリングを再度まわさなければなりません。

パーキングアシストリアビューカメラ

全体的な注意事項



テールゲートハンドル部のカメラ

パーキングアシストリアビューカメラ①は、視覚的に駐車および移動を補助します。ガイドラインとともにCOMANDディスプレイに車両後方のエリアを表示します。

車両後方のエリアは、ルームミラーに写るように鏡像で表示されます。

重要な安全上の注意

⚠ 警告

車の周辺に人や動物がいないことを確認してください。さもないと、人や動物がけがをするおそれがあります。

⚠ 警告

パーキングアシストリアビューカメラは補助のみを行なうものであり、障害物の歪んだ映像を表示したり、不正確にまたはまったく表示しないことがあります。パーキングアシストリアビューカメラは運転者の注意に対する責任を軽減させるものではありません。以下のエリアではカメラは物体を表示することができません。

- リアバンパーのすぐ近く
- リアバンパーの下方
- テールゲートハンドルの上方

安全に対する責任は常に運転者であり、駐車するときや移動するときは、常に周囲に注意してください。車両の後方や前方、両側などがこれにあてはまります。さもないと、お客様や他の方が危険にさらされるおそれがあります

⚠ 警告

以下のような場合は、パーキングアシストリアビューカメラは機能しなかったり、機能が制限されます。

- テールゲートが開いているとき
- 激しい雨や雪、霧のとき
- 夜間または非常に暗い場所のとき
- カメラが非常に明るい光にさらされたとき
- 周囲が蛍光灯やLEDライトで照らされているとき（映像にちらつきが出ることがあります）
- 寒冷時に暖房されたガレージに入ったときなど、急激な温度変化があったとき

- カメラのレンズが汚れていたり、付着物があるとき
- 車の後部を損傷したとき。このときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場ではカメラの位置や設定を調整してください。この作業はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

上記のような場合はパーキングアシストリアビューカメラを使用しないでください。さもないと、駐車を行なっているときに他の方がけがをしたり、物や車両を損傷するおそれがあります。

パーキングアシストリアビューカメラの作動 / 解除

- ▶ **作動させる**：イグニッション位置が 2 にあることを確認します。
- ▶ COMAND システムのリアビューカメラ機能が設定されていることを確認します。COMAND システムについて、詳しくは別冊の取扱説明書をご覧ください。
- ▶ リバースギア R に入れます。

車両後方のエリアが、ガイドラインとともにディスプレイに表示されます。



- ▶ **解除する**：パーキングアシストリアビューカメラは、以下のときに解除されます。
 - トランスミッションのポジション P を選択したとき
 - 約 10m 前進したとき
 - トランスミッションを R から他のポジションにシフトして約 15 秒経過したとき
 - 約 10km/h 以上の速度で前進したとき

ディスプレイの表示

⚠ 警告

色覚の方や色の識別能力が低い方は、パーキングアシストリアビューカメラを使用すると危険な場合があります。

パーキングアシストリアビューカメラにより COMAND ディスプレイに表示されるすべての色のガイドラインを見ることが可能で、識別できるときにのみ、パーキングアシストリアビューカメラを使用してください。

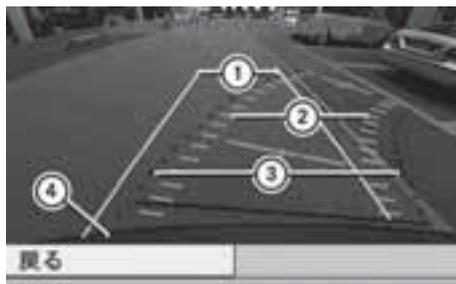
⚠ 警告

地面に接していないものは、実際よりも遠くにあるように見えるため、注意してください。例えば以下のようなものがあります。

- 自車の後方に駐車している車両のバンパー
- トレーラーのけん引部
- トレーラーヒッチのボールカップリング
- 大型車両の後端
- 傾いたポスト

表示されるガイドラインは目安であり、障害物との正しい距離を測るためのものではありません。

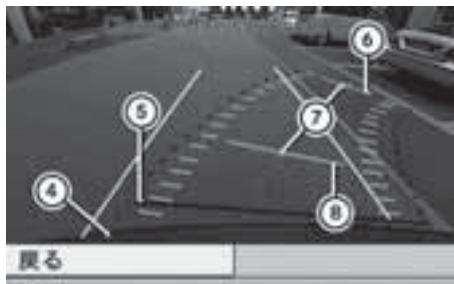
そのため、障害物に近づいたときは、赤色ガイドラインを越えないようにしてください。さもないと、事故の原因になったり、お客様や他の方がけがをするおそれがあります。



レーン

- ① ステアリングが直進状態のときの車両全幅を示す白色レーン（固定）
- ② 現在のステアリング操舵角でのタイヤの進路を示す黄色レーン（ステアリング連動）
- ③ 現在のステアリング操舵角での車両全幅を示す赤色レーン（ステアリング連動）
- ④ バンパー

白色および赤色レーンではドアミラーを含む車両全幅が示されます。黄色レーンは、車両の全幅に対する車輪の外側を意味しています。



ガイドライン

- ④ バンパー
- ⑤ 車両後部から約 0.25m の距離を示す赤色ガイドライン
- ⑥ 車両後部から約 4.0m の距離を示す黄色ガイドライン
- ⑦ 車両中心軸（補助マーカー）
- ⑧ 車両後部から約 1.0m の距離を示す黄色ガイドライン

リバースギア R に入れると、ガイドラインが表示されます。距離表示は地面にある障害物にのみ適用されます。



パークトロンニック装備車の追加メッセージ

- ① フロント警告ディスプレイ
- ② パークトロンニックの作動が可能であることを示す表示
- ③ リア警告ディスプレイ

パークトロンニック装備車：パークトロンニックが作動可能なときは（▷194ページ）、作動可能であることを示す表示②がディスプレイに表示されます。パークトロンニック警告ディスプレイが点灯しているときは、それに応じて警告ディスプレイ①と③もディスプレイ内で点灯します。

後退駐車機能

▶ COMAND システムのリアビューカメラ機能が設定されていて、パーキングアシストリアビューカメラが作動していることを確認します。COMAND システムについて、詳しくは別冊の取扱説明書をご覧ください。

レーンとガイドラインが表示されます。

ステアリングをまわさないで、駐車スペースにまっすぐ後退する



- ① ステアリングが直進状態のときの進路を示す白色レーン
- ② 車両後部から約 1.0m の距離を示す黄色ガイドライン
- ③ 車両後部から約 0.25m の距離を示す赤色ガイドライン

▶ 白色レーン①の補助により、車両が駐車スペースに合うかどうかを確認します。

▶ 白色レーンを目安として使用して、後端位置に達するまで注意しながら後退します。

赤色ガイドライン③が駐車スペースの後端位置になります。車両は駐車スペースとほぼ平行になっています。

ステアリングをまわしながら、直角に後退する

▶ 駐車スペースを通過したら、車両を停止します。



ステアリングをまわす

- ① 現在のステアリング操舵角での車両の進路を示す赤色レーン
- ② 駐車スペースのマーク

▶ 車両が停止しているときに、赤色レーンが駐車スペースのマーク②に達するまで、駐車スペースの方向にステアリングをまわします。

▶ ステアリングをその位置にしたまま注意して後退します。



ステアリングをまわして後退する

- ① 現在のステアリング操舵角での車両の進路を示す赤色レーン

- ▶ 駐車スペースのほぼ前になったときに車両を停止します。

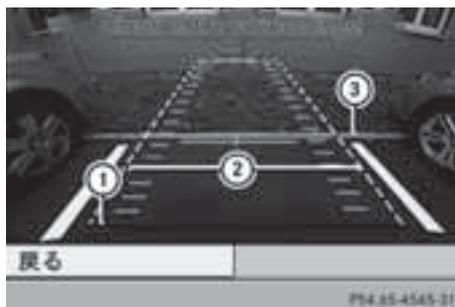
白色レーンが駐車スペースのマークに平行で、できるだけ接近するようにしてください。



後端位置まで後退する

- ① 現在のステアリング操舵角での車両の進路を示す白色レーン
② 駐車スペースのマーク

- ▶ 車両を停止しているときに、ステアリングを直進位置にまわします。



- ① 車両後部から約 0.25m の距離を示す赤色ガイドライン
② ステアリングが直進状態のときの進路を示す白色レーン
③ 駐車スペースの後端位置

- ▶ 後端位置に達するまで注意して後退します。

赤色ガイドライン ① が駐車スペースの後端位置 ③ になります。車両は駐車スペースとほぼ平行になっています。

アテンションアシスト

はじめに

アテンションアシストは高速道路や幹線道路のような道路で、長時間にわたり変化の少ない走行をするときに運転者を補助します。約 80km/h から約 180km/h の範囲で作動します。

アテンションアシストが運転者の疲労の増加や集中力の欠如などの典型的な兆候を検知したときは、休憩を促します。

重要な安全上の注意

⚠ 警告

アテンションアシストは運転者の補助のみを行なうものであり、疲労や注意力低下に対する警告が遅れたり、警告がまったく行なわれないことがあります。十分な休憩を取ったり、集中力のある運転者の代わりになるものではありません。

疲労により、危険な状況の認知が非常に遅れたり、また、状況の判断を誤ったり、反応が遅れることがあります。この理由により、運転前や運転中は運転者自身で疲労の度合いを認識してください。特に運転が長時間にわたるときは、適切な時間に定期的に休憩を取ってください。さもないと、適切に危険を認知することができず、事故の原因になったり、お客様や他の方がけがをするおそれがあります。

アテンションアシストは以下のような基準を考慮して、運転者の疲労や集中力欠如の度合いを判断します。

- ステアリング操作などの運転スタイル
- 時刻や運転時間などの走行に関する要因

以下のときは、アテンションアシストの機能が制限され、警告が遅れたり、警告がまったく行なわれないことがあります。

- 路面が平坦でなかったり、穴があるなど、道路の状態が悪いとき
- 横風が強いとき

- 高いスピードでカーブを曲がっているときや急加速をしているときなど、スポーティな運転を行なっているとき
- 約 80km/h 以下や約 180km/h 以上の速度で走行していることが多いとき
- COMAND システムを操作しているときや COMAND システムの電話機能で通話しているとき
- 時刻の設定が正しくないとき
- 車線を変えたり走行速度を変えるなど、活発な運転状況のとき

マルチファンクションディスプレイの警告とディスプレイメッセージ



- ▶ マルチファンクションディスプレイを使用して、アテンションアシストを設定します (▷230 ページ)。

マルチファンクションディスプレイにマーク ① が表示されます。

アテンションアシストが設定されたときは、運転を開始してから約 20 分以内は警告は行なわれません。断続的な警告音が 2 回鳴り、マルチファンクションディスプレイにアテンションアシスト 休憩してくださいと表示されます。

- ▶ 必要であれば、休憩を取ってください。

- ▶ **OK** スイッチを押して、メッセージを確認します。

長時間の運転では、確実に休息するために、適切な時間に定期的な休憩を取ってください。休憩を取らないときは、最短で約 15 分後に再度警告を行ないます。アテンションアシストが運転者の疲労や注意力低下の典型的な兆候を検知すると、再度警告を行ないます。

以下のことを行なって走行を続けたときは、アテンションアシストはリセットされ、再度運転者の疲労の検知を開始します。

- エンジンを停止する
- 運転を交代したり休憩を取るなどにより、運転者がシートベルトを外して、運転席ドアを開いたとき

スピードリミットアシスト

はじめに

スピードリミットアシストはマルチファンクションディスプレイに検知した速度制限を表示します。ナビゲーションシステムからのデータもこの目的のために使用されます。速度制限または速度制限の終了を示す交通標識をスピードリミットアシストが検知すると表示が現れます。スピードリミットアシストが交通標識を何も検知しない場合は、デジタル道路地図からの速度制限を取り込み、画面に表示します。

スピードリミットアシストはフロントガラスの上部に装着されたカメラで交通標識を検知します。



① スピードリミットアシストカメラ

重要な安全上の注意

⚠ 警告

スピードリミットアシストは運転者の補助のみを行なうものであり、誤った速度制限を検知したり、全く検知しないことがあります。

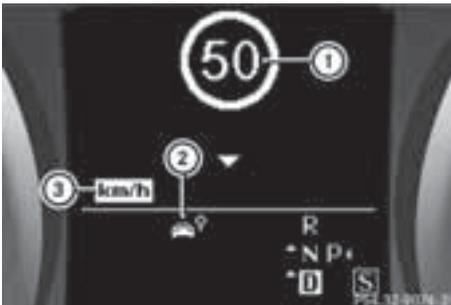
以下のときは、システムが機能しなかったり、機能が制限されます。

- 雪や雨、霧や小雨などで視界が悪いとき
- 対向車や太陽、または他の車からの反射光などでまぶしいとき
- フロントウィンドウが汚れていたり、曇っているとき、または、カメラ付近がステッカーなどで覆われているとき
- 交通標識が汚れや雪、木などにより覆われているとき
- 交通標識がわずかに点灯しているとき
- 例えば、近くの道路工事や複数の車線に対応したものなど、不明瞭な交通標識のとき

スピードリミットアシストよりも常に交通標識を重視してください。スピードリミットアシストは道路や交通状況を検知することはできません。注意を払った運転の代わりになるものではありません。

常に交通状況と車の周囲に注意を払ってください。さもないと、適切に危険を認識することができず、事故を起こしたり、お客様や他の方がけがをするおそれがあります。

マルチファンクションディスプレイの情報



- ① 速度制限、または速度制限の終了を示す交通標識（例）
- ② スピードリミットアシストが使用可能、およびマルチファンクションディスプレイの警告機能が作動
- ③ 表示される交通標識で使用される単位

検知した交通標識を短時間表示する

- ▶ マルチファンクションディスプレイを使用してスピードリミットアシストを作動させます。

マーク ② が表示されます。

交通標識を検知すると、すみやかに速度制限、または速度制限区域の終了を示す交通標識 ① がマルチファンクションディスプレイに約 5 秒間表示されます。

速度制限を示す交通標識 ① は、通常は以下のときまで表示されます。

- 速度制限の終了を示す交通標識が検知されたとき
- 曲がったとき
- 街から出る、または入るとき
- 道路の種類が変わるとき（例：自動車専用道路や郊外の道路）
- 交通標識が繰り返されたり、再度検知されずに一定の最低距離を走行したとき

i COMAND システムを使用して、スピードリミットアシストを作動させることもできます。最高許容速度は COMAND ディスプレイに表示されます。

レーントラッキングパッケージ

全体的な注意事項

レーントラッキングパッケージは、ブラインドスポットアシスト（▷210 ページ）とレーンキーピングアシスト（▷212 ページ）から構成されています。

ブラインドスポットアシスト

全体的な注意事項

アクティブブラインドスポットアシストはレーダーセンサーシステムを使用して、車両側方のエリアをモニターします。約 30km/h 以上の速度で運転者を支援します。ドアミラーの警告表示によって、モニターしている範囲で検知された車両に運転者の注意が向けられます。そのときに車線変更する側の方向指示灯を作動させると、視覚的および聴覚的な衝突警告が行なわれます。この目的のために、ブラインドスポットアシストはリアバンパーのセンサーを使用します。

重要な安全上の注意

警告

ブラインドスポットアシストは運転者の補助のみを行なうものです。車両によっては検知しないことがあり、注意を払った運転の代わりになるものではありません。

ブラインドスポットアシストは道路や交通状況を検知することはできません。オートバイや自転車のような幅の狭い車両を検知しなかったり、非常に遅れて検知することがあります。

システムの検知は、センサーの汚れや強い水しぶき、または雪や雨、霧などによる視界の悪さにより影響を受けます。この場合は、検知が遅れたり、検知しないことがあります。

常に交通状況と車の周囲に注意を払ってください。さもないと、適切に危険を認識することができず、事故の原因になったり、お客様や他の方がけがをするおそれがあります。

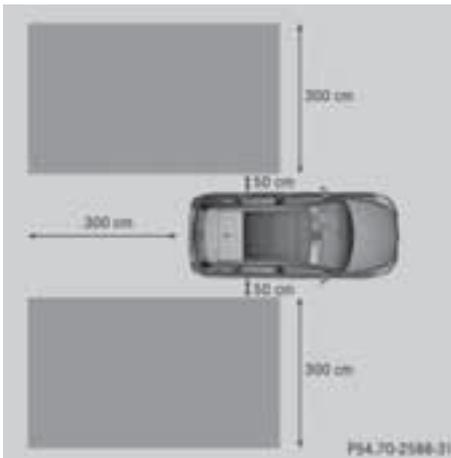
センサーのモニター範囲

警告

ブラインドスポットアシストは車両近辺の特定の範囲をモニターします。高速で近づき通り過ぎていく車両は検知されません。視覚的、聴覚的な警告は発せられず、進路を修正するために、システムが車両にブレーキを効かせることはしません。

車線の幅が非常に広いときは、隣の車線の幅すべてをモニターしないことがあります。この理由により、特に車線の中央を走行していない場合は隣の車線の車両は検知されないことがあります。これは、車両が車線の外端部を走行している場合などです。

常に交通状況と車の周囲に注意を払ってください。さもないと、適切に危険を認識することができず、事故の原因になったり、お客様や他の方がけがをするおそれがあります。



ブラインドスポットアシストは図に示すように、約 3m までの車両後方、および車両のすぐ側方の範囲をモニターします。

車線が狭い場合、特に車両が車線の中央を走行していない場合は、自車の 2 車線隣の車両を検知することがあります。これは、車両が車線の外端部を走行している場合などです。

以下は、システムの特性に起因するものです。

- ガードレール、または似たような高さのある車線境界の近くを走行しているときに誤って警告が寄せられることがあります。
- トラックのように特に長い車両の脇を長い間走行しているときに、警告が中断されることがあります。

2 つのブラインドスポットアシストのセンサーがリアバンパーの横に内蔵されています。バンパーのセンサーとその周辺に、汚れや、氷、泥がないことを確認してください。レーダーセンサーが自転車用ラック、または突き出た荷物などによって覆われないようにしてください。強い衝撃を受けたり、バンパーに損傷を与えたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でもレーダーセンサーの機能を点検してください。ブラインドスポットアシストが正しく作動しないことがあります。

表示灯と警告表示

⚠ 警告

ブラインドスポットアシストは約 30 km/h 以下の速度では作動しません。ドアミラーの表示灯は黄色に点灯します。モニター範囲にある車両は検知されません。

常に交通状況と車の周囲に注意を払ってください。さもないと、適切に危険を認識することができず、事故の原因になったり、お客様や他の方がけがをするおそれがあります。



① 黄色表示灯 / 赤色表示灯

ブラインドスポットアシストがオンになっているとき、ドアミラーの表示灯①は、約 30km/h 以下の速度では黄色に点灯します。約 30km/h 以上の速度では、表示灯は消え、ブラインドスポットアシストが作動可能になります。

約 30km/h 以上の速度でブラインドスポットアシストのモニター範囲内に車両が検知されると、対応する側の警告灯①が赤色に点灯します。この警告は、後方から、または側方から車両がブラインドスポットのモニター範囲に入ったときに常に行なわれます。車両を追い越すときは、速度差が約 12km/h 以下の場合にのみ警告が行なわれます。

黄色の表示灯はリバースギアに入れると消灯します。ブラインドスポットアシストは作動しなくなります。

表示灯 / 警告灯の明るさは周囲の明るさによって自動的に調整されます。

衝突警告

方向指示灯を作動させて車線を変更し、モニター範囲側で車両が検知されると、2 倍の速さの警告音が発せられます。赤色の警告灯①が点滅します。方向指示灯をそのままにすると、検知された車両が赤色の警告灯①の点滅により示されます。警告音はそれ以上鳴りません。

ブラインドスポットアシストを作動させる

- ▶ マルチファンクションディスプレイで、ブラインドスポットアシスト (▷210 ページ) が設定されていることを確認します。

- ▶ イグニッション位置を **2** にします。

ドアミラーの警告灯①が約 1.5 秒間赤色に点灯し、黄色に変わります。

レーンキーピングアシスト

全体的な注意事項

レーンキーピングアシストはフロントウインドウ上部にあるカメラで車両前部をモニターします。レーンキーピングアシストは路面の車線マークを検知し、意図せずに車線を外れる前に運転者に警告を行ないます。



① レーンキーピングアシストカメラ

マルチファンクションディスプレイの表示単位 **速度 / 距離** : (▷231 ページ) 機能で **km** を選択すると、アクティブレーンキーピングアシストは約 60km/h の速度のときに作動を開始します。miles 表示が選択されていると、支援範囲は約 40mph から始まります。

重要な安全上の注意

 警告

レーンキーピングアシストは車両を車線内に保つことはしません。道路の車線マークを正しく検知できなかつたり、全く検知しないことがあります。

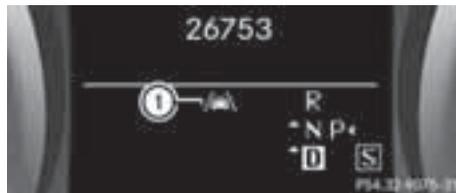
以下のときはシステムが影響を受けたり、機能しないことがあります。

- 道路に十分な照明がなかったり、雪や雨、霧や小雨のときなど視界が悪いとき
- 対向車や太陽、または他の車からの反射光などでまぶしいとき
- フロントウィンドウが汚れていたり、曇っているとき、または、カメラ付近がステッカーなどで覆われているとき
- 車線ラインが何本もあるときや、車線ラインがないとき
- 車線ラインが摩耗しているときや黒ずんでいるとき、または汚れや雪などに覆われているとき
- 先行車両との車間距離が短くて車線マークが検知できないとき
- 近くにある工事などで道路の車線マークが不鮮明なとき
- 車線の分岐や他との交差、合流などで車線マークが頻繁に変わるとき
- 道路が狭かったりカーブしているとき

レーンキーピングアシストは道路や交通状況を検知することはできません。注意を払った運転の代わりになるものではありません。走行速度やタイミングに合ったブレーキ操作、適切なステアリング操作の責任は運転者にあります。常に、運転スタイルを実際の道路や天候状況に合わせてください。常に交通状況や周囲の状況に注意してください。さもないと、適切に危険を認識することができず、事故の原因になったり、お客様や他の方がけがをするおそれがあります。

前輪が車線マークを超えると警告が行なわれます。警告はステアリングを約1.5秒間以上振動させることにより行なわれます。

レーンキーピングアシストを作動させる



- ▶ マルチファンクションディスプレイを使用して、レーンキーピングアシストを設定します（▷230ページ）。そのためには、**標準**または**アダプティブ**（▷230ページ）を選択します。

マーク①がマルチファンクションディスプレイに表示されます。

約 60km/h 以上の速度で走行しているときに車線マークを検知すると、マーク①が表示されます。レーンキーピングアシストが使用可能な状態になります。

標準を選択すると、以下のときは警告の振動は行なわれません。

- 方向指示灯を作動させたとき。このようなときは、警告が短時間に抑えられることがあります。
- ABS や BAS、ESP® などの走行安全装備が作動したとき

アダプティブを選択すると、以下のときは警告の振動は行なわれません。

- 方向指示灯を作動させたとき。このようなときは、警告が短時間に抑えられることがあります。
- ABS や BAS、ESP® などの走行安全装備が作動したとき
- キックダウンなどの急加速を行なったとき
- 急ブレーキを効かせたとき
- 障害物を避けるために急に進路変更をしたり、急に車線変更をするなど、活発なステアリング操作を行なったとき
- きついカーブの内側をまたいだとき

車線ラインを越えたときは、必要な状況で適切なタイミングでのみ警告を行なうため、システムは特定の状況を認識し、それに応じて警告を行ないません。

以下のときは、早めに警告の振動が行なわれます。

- カーブの外側の車線ラインに近づいたとき
- 高速道路などの非常に幅の広い道路のとき
- システムが実線の車線マークを検知したとき

以下のときは、遅めに警告の振動が行なわれます。

- 狭い車線の道路のとき
- カーブの内側をまたいだとき

役に立つ情報	216
安全上の注意事項	216
ディスプレイと操作	217
メインメニューとサブメニュー	221
ディスプレイメッセージ	237
メーターパネルの表示灯 / 警告灯	258

役に立つ情報

- i** この取扱説明書では、本書の発行時点で車両に装着可能な、すべての標準およびオプション装備について記載しています。ただし、国により仕様が異なるため、本書に記載されているすべての機能が、お客様の車両に当てはまらない場合があることにご留意ください。このことは、安全に関する装備や機能にも当てはまります。

重要な安全上の注意

 警告

道路および交通状況が許されているときにのみ、マルチファンクションディスプレイを使用してください。注意が散漫になり、運転に適切に集中することができず、事故の原因になります。

 警告

メーターパネルまたはマルチファンクションディスプレイが故障しているときは、メッセージが表示されません。

その結果、速度や外気温度、警告灯や表示灯、ディスプレイメッセージまたはシステム故障などの走行状況の情報を見ることができなくなります。車両操縦性が損なわれるおそれがあります。状況に応じて、運転スタイルと車両の速度を調整してください。

ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

 警告

マルチファンクションディスプレイは、特定のシステムからのメッセージや警告のみを記録し、表示します。この理由により、運転者は車両が安全に運転できる状態であることを常に確認しなければなりません。安全でない車両を運転することにより、事故の原因になります。

警告

メンテナンス作業が適切に行なわれなかったときは、車両の操作に関する安全性が損なわれているおそれがあります。車両のコントロールを失い、事故の原因になるおそれがあります。安全装備が本来の目的通りにお客様または他の方を保護できなくなるおそれがあります。

点検整備や修理などは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

メーターパネルのイラストについては、"各部の名称"の章をご覧ください (▷24 ページ)。

ディスプレイと操作

エンジン冷却水温度計

エンジン冷却水温度計は、メーターパネルの右側にあります。

冷却水が適切に充填されているときでも、通常の作動条件で冷却水温度の表示が約 120℃ 付近を示すことがあります。

暑い日や上り坂が続くときなどには、冷却水温度計の指針が上限付近を示すことがあります。

タコメーター

! 許容回転数を超えた範囲で走行しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

タコメーターのレッドゾーンは、エンジンの許容回転数を超えた範囲を示しています。

レッドゾーンに達すると、エンジン保護のため、燃料供給が中断されます。

外気温度表示

⚠ 警告

氷点に近い温度では、特に山間部や橋の上では路面が凍結しやすくなります。状況に運転スタイルを合わせないと、車両が滑るおそれがあります。この理由により、天候状況に運転スタイルや速度を合わせてください。

マルチファンクションディスプレイ内に外気温度表示があります。

外気温度の変化は、少し遅れて表示されます。

スピードメーター

スピードメーター内のセグメントは、使用できる速度の範囲を示しています。クルーズコントロール(▷173 ページ)が作動しているときは、設定速度から最高速度までのセグメントが点灯します。

可変スピードリミッター(▷177 ページ)が作動しているときは、最初の目盛りから設定速度までのセグメントが点灯します。

ディストロニック・プラス(▷180 ページ)が作動しているときは、設定速度の1個または2個のセグメントが点灯します。

ディストロニック・プラスが先行車を検知したときは、先行車の速度と設定速度の間のセグメントが点灯します。

マルチファンクションディスプレイの操作

概要



- ① マルチファンクションディスプレイ
- ② 音声認識スイッチ (別冊の取扱説明書をご覧ください)
- ③ 右側キーパッド
- ④ 左側キーパッド
- ⑤ リターンスイッチ

▶ マルチファンクションディスプレイを作動させる：イグニッション位置を1にします。

マルチファンクションステアリングのスイッチを使用して、マルチファンクションディスプレイの操作と設定を行なうことができます。

左側キーパッド

	<ul style="list-style-type: none"> • メインメニューおよびメニューリストの呼び出し
	
	軽く押す：
	<ul style="list-style-type: none"> • リストのスクロール • サブメニューまたは機能の選択 • オーディオメニュー：プリセットされた放送局の選局、音楽トラックまたはビデオシーンの選択 • TEL（電話）メニュー：電話帳の表示および電話帳の名前または電話番号の選択
	押して保持する：
	<ul style="list-style-type: none"> • オーディオメニュー：高速スクロールによる、前 / 次の放送局または音楽トラック、ビデオシーンの選択 • TEL（電話）メニュー：電話帳を開いている場合、高速スクロールの開始
	<ul style="list-style-type: none"> • 選択項目 / ディスプレイメッセージの確定 • TEL（電話）メニュー：電話帳への切り替えと発信の開始 • オーディオメニュー：希望の放送局で放送局サーチ機能を停止

右側キーパッド

	<ul style="list-style-type: none"> • 通話を拒否する、または終了 • 電話帳 / 発信履歴の終了
	<ul style="list-style-type: none"> • 発信する、または受ける • リダイアルメモリーに切り替える
	• 音量の調節
	
	• 消音

リターンスイッチ

	軽く押す：
	<ul style="list-style-type: none"> • 戻る • 音声認識の終了：別冊の取扱説明書をご覧ください。 • ディスプレイメッセージの消去 / 最後に使用したトリップメニュー機能の呼び出し • 電話帳 / 発信履歴の終了
	押して保持する：
	<ul style="list-style-type: none"> • トリップメニューの基本画面の呼び出し

メニューリスト



- ① 時刻
- ② 外気温度または速度 (▷232 ページ)
- ③ 表示エリア
- ④ メニューリスト
- ⑤ 走行モード
- ⑥ トランスミッション表示

▶ **メニューリスト ④ を表示させる：**
ステアリングの ◀ または ▶
スイッチを押します。

メニューリスト ④ は数秒後に消えます。
表示エリア ③ には選択したメニュー
やサブメニュー、ディスプレイメッ
セージが表示されます。

i COMAND システムを使用して時
刻を設定することができます。別冊
の取扱説明書をご覧ください。

マルチファンクションディスプレイに
は以下のメッセージが表示されること
があります。

- ◀P▶ アクティブパーキングガイダ
ンス (▷197 ページ)
- 🌬️ クルーズコントロール (▷173
ページ)
- LIM 可変スピードリミッター (▷177
ページ)
- 🪞 リアワイパー (▷128 ページ)
- 👁️ アダプティブハイビームアシ
スト (▷116 ページ)
- ☕ アテンションアシスト (▷206
ページ)
- ECO ECO スタート/ストップ機能
(▷150 ページ)
- 🚗💨 スピードリミットアシスト
(▷208 ページ)
- 🛞 レーンキーピングアシスト
(▷212 ページ)
- HOLD ホールド機能 (▷191 ページ)
- 🚗🚗 車間距離警告 (▷67 ページ)

120 km/h! 許容最高速度の超過 (特
定の国のみ)

メインメニューとサブメニュー

メニューの概要



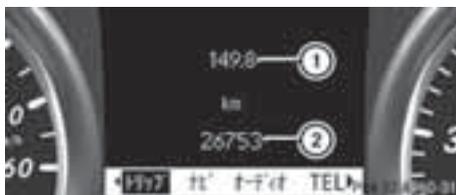
機能

- | | |
|---|---|
| ① | トリップメニュー (▷222 ページ) |
| ② | ナビメニュー (▷223 ページ) |
| ③ | オーディオメニュー (▷225 ページ) |
| ④ | TELメニュー (▷226 ページ) |
| ⑤ | アシストメニュー (▷228 ページ) |
| ⑥ | メンテナンスメニュー (▷231 ページ) |
| | <ul style="list-style-type: none"> • ディスプレイメッセージの呼び出し (▷237 ページ) • タイヤ空気圧警告システム (▷338 ページ) • メンテナンスインジケータ (▷297 ページ) |
| ⑦ | 設定メニュー (▷231 ページ) |

表示されるメニューの数は、車両のオプション装備によって異なります。

トリップメニュー

基本画面



- ▶ マルチファンクションディスプレイにトリップメーター①とオドメーター②を含む**トリップ**メニューが表示されるまで、ステアリングの  スイッチを押して保持します。

トリップコンピューター "スタート後" または "リセット後"



"スタート後" トリップコンピューターの例

- ① 距離
- ② 時間
- ③ 平均速度
- ④ 平均燃費

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**トリップ**メニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、**スタート後**または**リセット後**を選択します。

スタート後サブメニューの数値は、走行開始から算出されるものであり、**リセット**後サブメニューの数値は、サブメニューが最後にリセットされたときから算出されるものです (▶223 ページ)。

スタート後のトリップコンピューターは、以下のときに自動的にリセットされます。

- イグニッションがオフになってから約4時間以上経過したとき
- 999時間を超えたとき
- 9,999kmを超えたとき

リセット後のトリップコンピューターは、値が9,999時間または99,999kmを超えると、自動的にリセットされます。

走行可能距離と燃費消費の表示

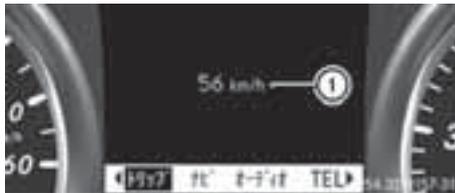


- ① 概算の走行可能距離
- ② 現在の燃費

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**トリップ**メニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、概算の走行可能距離①と現在の燃費②を選択します。

概算の走行可能距離①は、燃料の残量やそのときの運転スタイルによって変わります。燃料タンク内に残っている燃料の量が少なくなると、給油中の車両のマークが、走行可能距離の代わりにディスプレイに表示されます。

デジタルスピードメーター



① デジタルスピードメーター

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、トリップ[®]メニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、デジタルスピードメーター①を選択します。

数値のリセット



"スタート後"トリップコンピューターのリセットの例

以下の機能の数値をリセットできます。

- トリップメーター
- トリップコンピューター"スタート後"

- トリップコンピューター"リセット後"
- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、トリップ[®]メニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、リセットしたい機能を選択します。
- ▶  スイッチを押します。
- ▶  スイッチを押して、はいを選択し、 スイッチを押します。

ナビメニュー

ナビゲーション案内の表示

- ▶ COMAND システムをオンにします（別冊の取扱説明書をご覧ください）。
- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、ナビ[®]メニューを選択します。

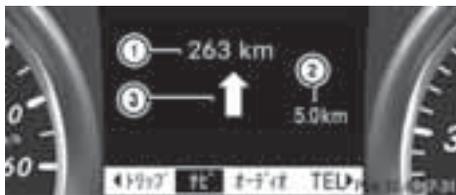
ナビ[®]メニューでは、マルチファンクションディスプレイにナビゲーション案内が表示されます。詳しい情報については別冊の取扱説明書をご覧ください。

ルート案内を行っていないとき



① 進行方向

ルート案内を行なっているとき 進路変更の案内がないとき



- ① 目的地までの距離
- ② 次の進路変更までの距離
- ③ "案内ルートを進む"のマーク

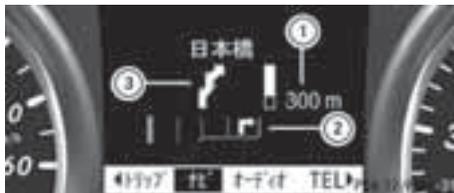
車線変更を伴わない進路変更の案内があるとき



- ① 進路変更の目標
- ② 進路変更までの距離と距離ディスプレイ表示
- ③ 進路変更マーク

進路変更の案内があるときは、距離ディスプレイ表示 ② が進路変更マーク ③ の横に表示されます。案内のあった進路変更地点に近づくにつれて、この表示は下から上へ短くなります。

車線変更を伴う進路変更の案内があるとき



- ① 交差点（分岐点）までの距離
- ② 推奨車線
- ③ 車線変更表示

複数の車線がある道路では、次の進路変更のための推奨車線 ② が表示されます。進路変更の間、追加の車線が表示されることがあります。

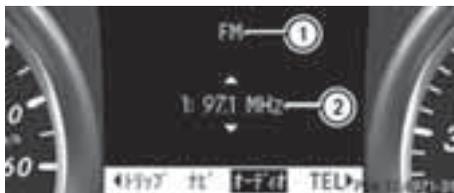
推奨車線は、デジタル地図に関連するデータがあるときのみ表示されます。

ナビゲーションシステムの他の状況表示

- : 目的地または立ち寄り地点に到着しました。
- **新ルート**または**ルート計算中**: 新しいルートを探索中です。
- **案内ルート外**: 車両の位置が地図の範囲外（地図外の位置）にあります。
- **ルートなし**: 選択されている目的地へのルートを計算できませんでした。

オーディオメニュー

ラジオ放送局を選局する



- ① 周波数バンド
- ② プリセットされたチャンネル周波数

i プリセット番号は、放送局がプリセットされている場合には、必ず放送局 ② と一緒に表示されます。

- ▶ COMAND システムをオンにします（別冊の取扱説明書をご覧ください）。
- ▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、オーディオメニューを選択します。
- ▶ プリセットされている放送局を選局する：▼ または ▲ スイッチを軽く押します。
- ▶ 放送局リストから放送局を選局する：▼ または ▲ スイッチを軽く押して保持します。

放送局リストが受信されない場合は、以下の操作を行ないます。

- ▶ 放送局サーチを使って放送局を選局する：▼ または ▲ スイッチを軽く押して保持します。

i 周波数バンドの切り替えと放送局のプリセットの情報は、別冊の取扱説明書をご覧ください。

オーディオ機器またはメディアの操作



音楽 CD モードの表示例

- ① 現在選択されている CD
- ② 現在のトラック

車両に装着された装備に応じて、多彩なオーディオ機器やメディアから音楽データを再生できます。

- ▶ COMAND システムをオンにします（別冊の取扱説明書をご覧ください）。
- ▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、オーディオメニューを選択します。
- ▶ 次 / 前のトラックを選択する：▼ または ▲ スイッチを軽く押します。
- ▶ トラックリストからトラックを選択する（高速スクロール）：希望のトラック ② が表示されるまで、▼ または ▲ スイッチを押して保持します。
- ▶ ▼ または ▲ スイッチを長押しすると、スクロール速度が速くなります。すべてのオーディオ機器またはメディアがこの機能をサポートしているわけではありません。

オーディオ機器またはメディアにトラック情報が保存されているときは、マルチファンクションディスプレイにトラック名と番号が表示されます。オーディオ AUX モード (外部オーディオモード) では、現在のトラックは表示されません。

DVD ビデオの操作



DVD ビデオモードの表示の例

① 現在のチャプター

- ▶ COMAND システムをオンにして、DVD ビデオを選択します (別冊の取扱説明書をご覧ください)。
- ▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、**オーディオ**メニューを選択します。
- ▶ **次 / 前のチャプターを選択する**: ▼ または ▲ スイッチを軽く押します。
- ▶ **チャプターリストからチャプターを選択する (高速スクロール)**: 希望のチャプター ① が表示されるまで、▼ または ▲ スイッチを押して保持します。

TEL メニュー

はじめに

⚠ 警告

運転者は走行中に携帯電話を操作しないでください。交通状況への注意が散漫になり、事故の原因になったり、お客様または他の方がけがをするおそれがあります。

- ▶ 携帯電話と COMAND システムの電源ををオンにします (別冊の取扱説明書をご覧ください)。
- ▶ 携帯電話と COMAND システムへの Bluetooth® 接続を確立してください (別冊の取扱説明書をご覧ください)。
- ▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、**TEL** メニューを選択します。

マルチファンクションディスプレイに、以下のメッセージのいずれかが表示されます。

- **電話 待ち受け**またはネットワークのキャリア名: 携帯電話がネットワークの探索を完了し、受信可能な状態です。
- **発信できません**: ネットワークに接続できない状態にあるか、携帯電話がネットワークを探索中の状態です。

i 適合する携帯電話と Bluetooth® による携帯電話の接続について、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

着信を受ける



電話が着信したときの例

- ▶ ステアリングの スイッチを押して、着信した電話を受けます。

TEL メニューのときに電話が着信すると、マルチファンクションディスプレイにディスプレイメッセージが表示されます。

TEL メニューを表示していないときも着信した電話を受けることができます。

通話の拒否、または終了

- ▶ ステアリングの スイッチを押します。

TEL メニューでないときも、通話を終了または拒否できます。

電話帳からの発信

- ▶ ステアリングの または スイッチを押して、TEL メニューを選択します。
- ▶ または スイッチを押して、電話帳を呼び出します。

- ▶ または スイッチを押して、希望の名称を選択します。

高速スクロールを開始するには、 または スイッチを約 1 秒以上押し続けます。

スイッチを放すか、リストの最後まで行くと、スクロールは停止します。

- ▶ **名称に 1 件だけ電話番号が保存されているとき**： または スイッチを押して、発信を開始します。

または

- ▶ **その名称に 1 つ以上の番号があるとき**： または スイッチを押して、電話番号を表示させます。

- ▶ または スイッチを押して、発信先の番号を選択します。

- ▶ または スイッチを押して、発信を開始します。

または

- ▶ **電話の発信を止める**： または スイッチを押します。

リダイヤル

マルチファンクションディスプレイでは、最後に発信した名称と番号がリダイヤルメモリーに保存されています。

- ▶ ステアリングの または スイッチを押して、TEL メニューを選択します。

- ▶ スイッチを押して、リダイヤルメモリーに切り替えます。

- ▶ または スイッチを押して、希望の名称と番号を選択します。

- ▶  または **OK** スイッチを押して、発信を開始します。

または

- ▶ **電話の発信を止める**： または  スイッチを押します。

アシストメニュー

はじめに



アシストメニューでは、以下の選択を行なうことができます。

- スピードリミットアシストの表示およびこのメッセージ機能の設定 / 解除
- 車間ディスプレイの表示
- ESP® の設定 / 解除
- 車間距離警告の設定 / 解除
- アテンションアシストの設定 / 解除
- ブラインドスポットアシストの設定 / 解除
- レーンキーピングアシストの設定 / 解除

スピードリミットアシスト

スピードリミットアシストの表示

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**アシスト**メニューを選択します。

- ▶  または  スイッチを押して、**スピードリミットアシスト**を選択します。

- ▶ **OK** スイッチを押します。

状況に応じて (▷208 ページ)、マルチファンクションディスプレイに検知された制限速度が表示されます。

スピードリミットアシストのメッセージ機能の設定 / 解除

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**アシスト**メニューを選択します。

- ▶  または  スイッチを押して、**スピードリミットアシスト**を選択します。

- ▶ **OK** スイッチを押します。

マルチファンクションディスプレイにスピードリミットアシストが表示されます。

- ▶  スイッチを押します。

現在の選択内容が表示されます。

- ▶ **設定または解除する**：**OK** スイッチを押します。

スピードリミットアシストのメッセージ機能を設定したときは、検知された制限速度が自動的に約 5 秒間表示されます。この間は、マルチファンクションディスプレイの他の項目は表示されません。

スピードリミットアシストが作動しているとき、メッセージ機能を設定しているときは、イグニッション位置を **2** にすると、マルチファンクションディスプレイに  マークが表示されます。

車間ディスプレイの表示

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、アシストメニューを選択します。
- ▶  または  を押して、**車間ディスプレイ**を選択します。
- ▶ **OK** スイッチを押します。

マルチファンクションディスプレイにディストロニック・プラスの車間ディスプレイ (▷184 ページ) が表示されます。

ESP® の解除 / 作動

警告

ESP® 表示灯  が点滅したときは、以下のように従ってください。

- 状況を問わず、ESP® の機能を解除しないでください。
- 発進するときは、必要な分だけアクセルペダルを踏んでください。
- そのときの道路や天候の状況に運転スタイルを合わせてください。

さもないと、車両が横滑りすることがあります。

速度を上げて走行すると、ESP® は事故の危険性を減少させることはできません。ESP® は物理の法則を乗り越えることはできません。

警告

エンジンがかかっているときにメーターパネルの ESP® オフ表示灯  が点灯しているときは、ESP® の機能が解除されているか、故障により ESP® の機能が作動していません。特定の状況では、車両が横滑りする危険性が高まります。

そのときの道路や天候の状況に運転スタイルを合わせてください。

ESP® についての詳しい情報は (▷70 ページ) をご覧ください。

- ▶ エンジンを始動します。
- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、アシストメニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、**ESP** を選択します。
- ▶ **OK** スイッチを押します。
- ▶ **解除する**：再度 **OK** スイッチを押します。

メーターパネルの ESP® オフ表示灯  が点灯します。

- ▶ **待機状態にする**：再度 **OK** スイッチを押します。

メーターパネルの ESP® オフ表示灯  が消灯します。

車間距離警告の設定 / 解除

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、アシストメニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、**車間距離警告**を選択します。

- ▶ **OK** スイッチを押します。
現在の選択内容が表示されます。
- ▶ **設定する / 解除する**：再度 **OK** スイッチを押します。

ホールド機能が作動していないときは、車間距離警告を設定すると、マルチファンクションディスプレイに  マークが表示されます (▷67 ページ)。

アクティブパーキングガイダンス装備車：パークトロックが作動していて、走行速度が約 35km/h 以下のときは、 マークの代わりにアクティブパーキングガイダンスマーク **P** が表示されます (▷199 ページ)。

車間距離警告についての詳しい情報は (▷67 ページ) をご覧ください。

アテンションアシストの設定 / 解除

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**アシストメニュー** を選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、**アテンションアシスト** を選択します。
- ▶ **OK** スイッチを押します。
現在の選択内容が表示されます。
- ▶ **設定する / 解除する**：再度 **OK** スイッチを押します。

アテンションアシスト (▷206 ページ) を設定しているときは、イグニッション位置が **2** のときに、マルチファンクションディスプレイに  マークが表示されます。

ブラインドスポットアシストの設定 / 解除

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**アシストメニュー** を選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、**ブラインドスポットアシスト** を選択します。
- ▶ **OK** スイッチを押します。
現在の選択内容が表示されます。
- ▶ **設定する / 解除する**：再度 **OK** スイッチを押します。

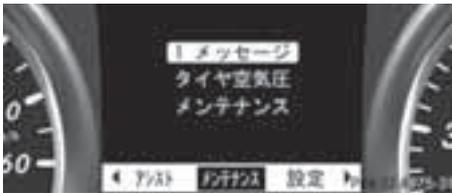
ブラインドスポットアシストについての詳しい情報は (▷210 ページ) をご覧ください。

レーンキーピングアシストの設定 / 解除

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**アシストメニュー** を選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、**レーンキーピングアシスト** を選択します。
- ▶ **OK** スイッチを押します。
現在の選択内容が表示されます。
- ▶ **OK** スイッチを押して、確定します。
- ▶  または  スイッチを押して、**オフ**、**標準**、または**アダプティブ**に設定します。
- ▶ **OK** スイッチを押して、設定を保存します。

レーンキーピングアシスト (▷212 ページ) を設定していて、イグニッション位置が **2** のときは、マルチファンクションディスプレイに  マークが表示されます。

メンテナンスメニュー



メンテナンスメニューには、以下の項目があります。

- ディスプレイメッセージの呼び出し (▷237 ページ)
- タイヤ空気圧警告システムの再起動 (▷338 ページ)
- メンテナンスインジケータの呼び出し (▷297 ページ)

設定メニュー

はじめに



設定メニューには、以下の項目があります。

- メーターパネルの設定の変更
- ライトの設定の変更 (▷232 ページ)
- 車両の設定の変更 (▷235 ページ)
- コンフォートの設定の変更 (▷236 ページ)
- 設定項目の初期化 (▷236 ページ)

メーター

距離単位の設定

距離単位表示の機能により、マルチファンクションディスプレイの特定の表示のキロメートルまたはマイル表示を選択できます。

- ▶ ステアリングの または スイッチを押して、**設定**メニューを選択します。
- ▶ または スイッチを押して、**メーター**サブメニューを選択します。
- ▶ スイッチを押して、確定します。
- ▶ または スイッチを押して、**表示単位 速度 / 距離**：機能を選択します。

選択された設定が表示されます。:

km または miles

- ▶ スイッチを押して、設定を保存します。

選択された距離の表示単位は、以下の項目に適用されます。

- **トリップ** メニューのデジタルスピードメーター
- オドメーターおよびトリップメーター
- トリップコンピューター
- 現在の燃費と走行可能距離
- クルーズコントロール
- 可変スピードリミッター
- ディストロニック・プラス
- メンテナンスインジケータの表示

常時表示機能の選択

マルチファンクションディスプレイに速度あるいは外気温度を常時表示させるかどうかを選択できます。

▶ ステアリングの または スイッチを押して、**設定**メニューを選択します。

▶ または スイッチを押して、**メーターサブメニュー**を選択します。

▶ スイッチを押して、確定します。

▶ または スイッチを押して、**サブメーター**：機能を選択します。

選択されている設定が表示され
ます。**外気温度表示**または**速度表示**
[mph]:

▶ スイッチを押して、設定を保存します。

i 速度は mph で表示されます。

ライト

ヘッドライト点灯モードの設定

▶ エンジンを停止します。

▶ ステアリングの または スイッチを押して、**設定**メニューを選択します。

▶ または スイッチを押して、**ライト**サブメニューを選択します。

▶ スイッチを押して、確定します。

▶ または スイッチを押して、**デイトタイムライト**：機能を選択します。

選択されている設定が表示され
ます。**オン**または**オフ**

▶ スイッチを押して、設定を保存します。

ヘッドライト点灯モードの詳しい情報は (▷111 ページ) をご覧ください。

インテリジェントライトシステムの設定

▶ ステアリングの または スイッチを押して、**設定**メニューを選択します。

▶ または スイッチを押して、**ライト**サブメニューを選択します。

▶ スイッチを押して、確定します。

▶ または スイッチを押して、**インテリジェントライトシステム**：機能を選択します。

選択されている設定が表示され
ます。**オン**または**オフ**

▶ スイッチを押して、設定を保存します。

インテリジェントライトシステム：を設定したときは、以下の機能が作動します。

- ハイウェイモード
- アクティブヘッドライト
- コーナリングライト
- フォグランプ強化機能

ヘッドライト照射範囲の設定で、**右側通行用**を設定しているときは（▶233ページ）、インテリジェントライトシステム設定画面の代わりに**インテリジェントライトシステム**システム作動できません。右側通行設定では**無効**というディスプレイメッセージが表示されます。

ヘッドライト照射範囲の設定

- ▶ ステアリングの または スイッチを押して、**設定**メニューを選択します。
 - ▶ または スイッチを押して、**ライト**サブメニューを選択します。
 - ▶ **OK** スイッチを押して、確定します。
 - ▶ または スイッチを押して、**ヘッドランプロービーム** 設定機能を選択します。
- 選択されている設定が表示されず。**左側通行用**または**右側通行用**
- ▶ **OK** スイッチを押して、設定を保存します。

設定を変更すると、次に停車したときに変更が実行されます。

この機能は、インテリジェントライトシステム装備車のみで使用できます。

この機能を使用して、ロービームヘッドライトを左右対称または左右非対称に切り替えることができます。

ロービームヘッドライトを**右側通行用**に設定しているときは、ハイウェイモードおよびフォグランプ強化機能が解除されます。

ロービームヘッドライトを右側通行 / 左側通行に適した設定に切り替えるときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で作業を行なってください。

アダプティブハイビームアシストのオン / オフ

- ▶ ステアリングの または スイッチを押して、**設定**メニューを選択します。
 - ▶ または スイッチを押して、**ライト**サブメニューを選択します。
 - ▶ **OK** スイッチを押して、確定します。
 - ▶ または スイッチを押して、**アダプティブハイビームアシスト**：機能を選択します。
- 選択されている設定が表示されず。**オン**または**オフ**
- ▶ **OK** スイッチを押して、設定を保存します。

アンビエントライト照度の設定

- ▶ ステアリングの または スイッチを押して、**設定**メニューを選択します。
- ▶ または スイッチを押して、**ライト**サブメニューを選択します。
- ▶ **OK** スイッチを押して、確定します。
- ▶ または スイッチを押して、**アンビエントライト 明るさ**：機能を選択します。
- ▶ **OK** スイッチを押します。

- ▶ または を押して、レベル 5～レベル 1 またはオフに設定を変更します。

ロケイターライティングの設定

ロケイターライティング機能を設定していて、ライトスイッチが **Auto** の位置にあるときは、周囲が暗いときに以下の機能が作動します。

- **解錠時点灯機能**：キーで車を解除すると、車外ライトが約 40 秒間点灯し続けます。エンジンを始動するとロケイターライティングの機能が解除され、ヘッドライトオートモードが作動します (▷111 ページ)。
- **車外ライト残照機能**：エンジンを停止した後、約 60 秒間点灯し続けます。すべてのドアとテールゲートを閉じると、約 15 秒後に車外ライトが消灯します。
- ▶ ステアリングの または スイッチを押して、**設定**メニューを選択します。
- ▶ または スイッチを押して、**ライト**サブメニューを選択します。
- ▶ スイッチを押して、確定します。
- ▶ または スイッチを押して、**ロケイターライティング**：機能を選択します。
選択されている設定が表示されます。**オン**または**オフ**
- ▶ を押して、設定を変更します。

車外ライト残照機能を一時的に解除するには、以下のようにします。

- ▶ 車両から離れる前に、イグニッション位置を **0** にします。
- ▶ イグニッション位置を **2** にします。
車外ライト残照機能が解除されます。

次にエンジンを始動すると、車外ライト残照機能が再び設定されます。

- i** ロケイターライティングおよび車外ライト残照機能を設定すると、車両の装備に応じて以下のライトが点灯します。
 - 車幅灯
 - フォグランブ
 - ヘッドライト
 - デイタイムドライビングライト
 - ドアミラーのロケイターライティング

ルームライト残照機能の設定 / 解除

ルームランプ 消灯遅延機能を設定したときは、エンジンスイッチからキーを抜いた後、ルームライトが約 20 秒間点灯したままになります。

- ▶ ステアリングの または スイッチを押して、**設定**メニューを選択します。
- ▶ または スイッチを押して、**ライト**サブメニューを選択します。
- ▶ スイッチを押して、確定します。

- ▶ または スイッチを押して、**ルームランプ 消灯遅延**：機能を選択します。
選択されている設定が表示されません。**オン**または**オフ**
- ▶ スイッチを押して、設定を保存します。

車両

ウィンタータイヤスピードリミッターの設定

- ▶ ステアリングの または スイッチを押して、**設定メニュー**を選択します。
- ▶ または スイッチを押して、**車両サブメニュー**を選択します。
- ▶ スイッチを押して、確定します。
- ▶ または スイッチを押して、**速度制限(冬タイヤ)**：を選択します。
- ▶ スイッチを押して、確定します。
- ▶ または スイッチを押して、10km/h 単位 (**160km/h ~ 230 km/h**) でウィンタータイヤスピードリミッターを調整します。**オフ**設定で、ウィンタータイヤスピードリミッターは解除されます。
- ▶ スイッチを押して、入力を確定します。

ウィンタータイヤスピードリミッター (>64 ページ) は、**速度制限 (冬タイヤ)**：により設定できます。

車速感応ドアロックのオン / オフ

- ▶ ステアリングの または スイッチを押して、**設定メニュー**を選択します。
- ▶ または スイッチを押して、**車両サブメニュー**を選択します。
- ▶ スイッチを押して、確定します。
- ▶ または スイッチを押して、**車速感応ドアロック**：機能を選択します。
選択されている設定が表示されません。**オン**または**オフ**
- ▶ スイッチを押して、設定を保存します。

車速感応ドアロックが設定されているときは、走行速度が約 15km/h 以上になると自動的にすべてが施錠されます。

i 車速感応ドアロックについての詳しい情報は (>84 ページ) をご覧ください。

アンサーバック機能の設定 / 解除

ILクロックキー アンサーバック：機能を設定しているときは、車を施錠すると確認音が鳴ります。

- ▶ ステアリングの または スイッチを押して、**設定メニュー**を選択します。
- ▶ または スイッチを押して、**車両サブメニュー**を選択します。
- ▶ スイッチを押して、確定します。

- ▶ または スイッチを押して、**イルミネーション アンサーバック**：機能を選択します。

選択されている設定が表示されません。**オン**または**オフ**

- ▶ スイッチを押して、設定を保存します。

コンフォート

シートベルト調整機能のオン / オフ

- ▶ ステアリングの または スイッチを押して、**設定メニュー**を選択します。

- ▶ または スイッチを押して、**コンフォートサブメニュー**を選択します。

- ▶ スイッチを押して、確定します。

- ▶ または スイッチを押して、**ベルト調整**：機能を選択します。

選択されている設定が表示されません。**オン**または**オフ**

- ▶ スイッチを押して、設定を保存します。

シートベルト調整機能の詳しい情報は (▷44 ページ) をご覧ください。

施錠時のドアミラー格納のオン / オフ

- ▶ ステアリングの または スイッチを押して、**設定メニュー**を選択します。

- ▶ または スイッチを押して、**コンフォートサブメニュー**を選択します。

- ▶ スイッチを押して、確定します。

- ▶ または スイッチを押して、**ロック時のミラー格納**：機能を選択します。

選択されている設定が表示されません。**オン**または**オフ**

- ▶ スイッチを押して、設定を保存します。

ロック時のミラー格納：機能を設定しているときは、車を施錠するとドアミラーが自動的に格納されます。車を解錠してドアを開くと、格納されたドアミラーが再び展開します。

機能をオンにしているときに、ドアのスイッチを使用してドアミラーを格納すると、ドアミラーは自動的に展開しません (▷104 ページ)。ドアミラーはスイッチを使用するのみ展開することができます。

設定項目の初期化

- ▶ ステアリングの または スイッチを押して、**設定メニュー**を選択します。

- ▶ または スイッチを押して、**設定初期化サブメニュー**を選択します。

- ▶ スイッチを押して、確定します。

全ての設定を初期化しますか? のメッセージが表示されます。

- ▶ または スイッチを押して、**はい**または**いいえ**を選択します。

- ▶ スイッチを押して、選択を確定します。

はいを選択したときは、マルチファンクションディスプレイに確認メッセージが表示されます。

安全上の理由により、すべての機能が初期化されるとは限りません。ウィンタータイヤスピードリミッターの**速度制限（冬タイヤ）**：機能は、**車両サブメニュー**でのみ設定できます。**ライトサブメニュー**の**デイトタイムライト**：を初期化したいときは、イグニッション位置を **1** にしなければなりません。

ディスプレイメッセージ

はじめに

マルチファンクションディスプレイには、ディスプレイメッセージが表示されます。

この取扱説明書ではマークを含むディスプレイメッセージの表記を簡略化しているため、マルチファンクションディスプレイに実際に表示されるマークと異なる場合があります。

ディスプレイメッセージの指示に従って適切な処置を行ない、この取扱説明書に記載された注意事項をお守りください。

特定のディスプレイメッセージが表示されると、断続的または連続的な警告音も鳴ります。

停車または駐車するときは、ホールド機能（▷191 ページ）と駐車（▷167 ページ）に関する注意事項をお守りください。

ディスプレイメッセージを非表示にする

重要度の低いディスプレイメッセージは消すことができます。

▶ ディスプレイメッセージを非表示にするには、ステアリングの **OK** または **☞** スイッチを押します。

ディスプレイメッセージが消えます。

重要度の高いメッセージは赤色で表示されます。

特に重要度の高いディスプレイメッセージは、非表示にすることができません。これらのメッセージは、故障や異常の原因が解決するまでマルチファンクションディスプレイに常時表示されます。

メッセージメモリー

マルチファンクションディスプレイには、特定のディスプレイメッセージが記憶されています。メッセージメモリーに記憶されたディスプレイメッセージを呼び出し、表示させることができます。

▶ ステアリングの **◀** または **▶** スイッチを押して、**メンテナンス** サブメニューを選択します。

メッセージがある場合は、ディスプレイに **2 メッセージ** のように故障の件数が表示されます。

▶ **▼** または **▲** スイッチを押して、**2 メッセージ** などを選択します。

▶ **OK** スイッチを押して確定します。

▶ **▼** または **▲** スイッチを押して、ディスプレイメッセージをスクロールします。

エンジンスイッチからキーを抜くと、重要度の高い一部のメッセージを除いて、メッセージがすべて削除されます。故障の原因が解決すると、重要度の高いメッセージも削除されます。

安全装備

ディスプレイ表示

考えられる原因および症状 /▶ 対応



現在 使用できません
取扱説明書を参照

ABS (アンチロック・ブレーキング・システム)、ESP® (エレクトロニック・スタビリティ・プログラム)、BAS (ブレーキアシスト)、PRE-SAFE®, ホールド機能、ヒルスタートアシストが一時的に作動しない状態になっている。アダプティブブレーキライトとアダプティブブレーキアシストも作動しない。加えて、メーターパネルの と 、 も点灯している。アテンションアシストは解除される。

可能性のある原因：

- 自己診断機能が終了していない
- バッテリー電圧が不十分である

警告

ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、たとえば急ブレーキ時などに車輪がロックするおそれがあります。

ブレーキ時には車両の操舵能力が制限され、制動距離が増えることがあります。

ESP® が解除されているか、作動していないときは、通常の走行操作時の車両の安定性が低下します。

事故の危険性があります。

▶ 適切な直線路で約 20km/h 以上の速度でステアリングを軽く左右に操作し、注意して走行してください。

メッセージが消えると、上記の機能は再度作動できる状態になります。メッセージが表示されたままのとき：

▶ 注意して走行してください。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。



故障
取扱説明書を参照

故障のため、ABS、ESP®, BAS、PRE-SAFE®, ホールド機能、ヒルスタートアシストが作動しない状態になっている。

アダプティブブレーキライトとアダプティブブレーキアシストも作動しない。加えて、メーターパネルの 、、 と も点灯している。アテンションアシストは解除される。

警告

ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、急ブレーキ時などに車輪がロックするおそれがあります。

ブレーキ時には車両の操舵能力が制限され、制動距離が増えることがあります。

ESP® が解除されているか、作動していないときは、通常の走行操作時の車両の安定性が低下します。

事故の危険性があります。

▶ 注意して走行してください。

▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 <p data-bbox="115 231 311 284">現在 使用できません 取扱説明書を参照</p>	<p data-bbox="341 181 1032 229">ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが一時的に作動しない状態になっている。</p> <p data-bbox="341 236 1025 295">アダプティブブレーキライトとアダプティブブレーキアシストも作動しない。加えて、メーターパネルの  と  も点灯している。</p> <p data-bbox="341 301 685 328">アテンションアシストは解除される。</p> <p data-bbox="341 335 871 362">たとえば、自己診断機能が終了していない可能性がある。</p> <p data-bbox="341 368 430 395">⚠ 警告</p> <p data-bbox="341 402 934 429">ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。</p> <p data-bbox="341 435 1025 491">ESP® が解除されているか、作動していないときは、通常の走行操作時の車両の安定性が低下します。</p> <p data-bbox="341 497 580 525">事故の危険性があります。</p> <p data-bbox="341 531 1032 587">▶ 適切な直線路で約 20km/h 以上の速度でステアリングを軽く左右に操作し、注意して走行してください。</p> <p data-bbox="341 593 1021 649">メッセージが消えると、上記の機能は再度作動できる状態になります。メッセージが表示されたままのとき：</p> <p data-bbox="341 655 624 683">▶ 注意して走行してください。</p> <p data-bbox="341 689 958 716">▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。</p>
 <p data-bbox="115 790 283 842">故障 取扱説明書を参照</p>	<p data-bbox="341 740 1032 788">故障のため、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが作動しない状態になっている。</p> <p data-bbox="341 794 1025 850">アダプティブブレーキライトとアダプティブブレーキアシストも作動しない。加えて、メーターパネルの  と  も点灯している。</p> <p data-bbox="341 857 685 884">アテンションアシストは解除される。</p> <p data-bbox="341 890 430 917">⚠ 警告</p> <p data-bbox="341 924 934 951">ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。</p> <p data-bbox="341 957 1025 1013">ESP® が解除されているか、作動していないときは、通常の走行操作時の車両の安定性が低下します。</p> <p data-bbox="341 1019 580 1046">事故の危険性があります。</p> <p data-bbox="341 1053 624 1080">▶ 注意して走行してください。</p> <p data-bbox="341 1086 958 1114">▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。</p>

ディスプレイ表示

考えられる原因および症状 /▶ 対応



故障

取扱説明書を参照

故障のため、EBD（エレクトロニック・ブレーキ・ディストリビューション）、ABS、ESP[®]、BAS、PRE-SAFE[®]、ホールド機能、ヒルスタートアシストが作動しない状態になっている。

アダプティブブレーキライトとアダプティブブレーキアシストも作動しない。加えて、メーターパネルの と 、 も点灯し、警告音が鳴った。アテンションアシストは解除される。

警告

ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、急ブレーキ時などに車輪がロックするおそれがあります。

ブレーキ時には車両の操舵能力が制限され、制動距離が増えることがあります。

ESP[®] が解除されているか、作動していないときは、通常の走行操作時の車両の安定性が低下します。

事故の危険性があります。

▶ 注意して走行してください。

▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場にて点検を受けてください。



パークング ブレーキ
解除
してください

赤色の が点滅し、警告音も鳴っている。

電気式パークングブレーキの自動解除の条件が満たされていない（▶174 ページ）。

電気式パークングブレーキが効いたまま走行している。

▶ 手で電気式パークングブレーキを解除してください。

赤色の が点滅し、警告音も鳴っている。

電気式パークングブレーキを使用して、緊急ブレーキを行なっている（▶169 ページ）。

ディスプレイ表示

考えられる原因および症状 /▶ 対応



パーキング ブレーキ
取扱説明書を参照

黄色の [P] が点灯している。

電気式パーキングブレーキが故障している。

パーキングブレーキを効かせる：

- ▶ イグニッション位置を **0** にしてください。
- ▶ 電気式パーキングブレーキハンドルを少なくとも 10 秒間押してください。
- ▶ トランスミッションをポジション **P** にシフトしてください。
- ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

黄色の [P] と赤色の [P] が点灯している。

電気式パーキングブレーキが故障している。

パーキングブレーキを解除する：

- ▶ イグニッション位置を **0** にしてから、**1** にしてください。
 - ▶ 手動で電気式パーキングブレーキを解除してください。
- または
- ▶ 自動で電気式パーキングブレーキを解除してください (▶168 ページ)。
- 黄色の [P] が点灯したままか、点滅し続けるときは：
- ▶ 走行を続けしないでください。
 - ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

赤色の [P] が点滅し、黄色の [P] が点灯している。

電気式パーキングブレーキが故障している。

パーキングブレーキを解除する：

- ▶ イグニッション位置を **0** にしてから、**1** にしてください。
- ▶ 手動で電気式パーキングブレーキを解除してください。

パーキングブレーキを効かせる：

- ▶ イグニッション位置を **0** にしてから、**1** にしてください。
- ▶ 手動で電気式パーキングブレーキを効かせてください。

赤色の [P] が点滅し続けるときは：

- ▶ 走行を続けしないでください。
- ▶ 車両が動き出さないように固定してください。
- ▶ トランスミッションをポジション **P** にシフトしてください。
- ▶ 前輪を路肩方向に向けてください。
- ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

ディスプレイ表示

考えられる原因および症状 /▶ 対応



パークング ブレーキ

取扱説明書を参照

黄色の  が点灯している。電気式パーキングブレーキを効かせたか、解除した後、赤色の  が約 10 秒間点滅した。その後に点滅は消灯するか、点灯したままになっている。

電気式パーキングブレーキが故障している。

▶ イグニッション位置を **0** にしてから、**1** にしてください。

▶ 電気式パーキングブレーキを効かせてください。

電気式パーキングブレーキを効かせることができないときは：

▶ トランスミッションをポジション **P** にシフトしてください。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

電気式パーキングブレーキを解除することができないときは：

▶ 自動で電気式パーキングブレーキを解除してください (>168 ページ)。

それでも電気式パーキングブレーキが解除されていないときは：

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

黄色の  が点灯している。手動で電気式パーキングブレーキを効かせるか、解除したときに、赤色の  が点滅する。

電気式パーキングブレーキが故障している。手動で電気式パーキングブレーキを効かせることができない。

▶ 電気式パーキングブレーキを自動で効かせることができないため、トランスミッションをポジション **P** にシフトしてください。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

i 自動式洗車機で車両を洗車したり、けん引するなどで、電気式パーキングブレーキを効かせたくないときは、イグニッション位置を **1** のままにしてください。前輪を上げて車両をけん引するときを除きます (>311 ページ)。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 <p>パーキング ブレーキ 故障</p>	<p>黄色の  が点灯している。電気式パーキングブレーキを効かせたか、解除した後、赤色の  が約 10 秒間点滅した。その後に点滅は消灯するか、点灯したままになっている。</p> <p>電圧が高すぎるか、低すぎるために、電気式パーキングブレーキが故障している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ バッテリーを充電するか、エンジンを始動するなどして、電圧超過または電圧低下の原因を解消してください。 ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせるか、解除してください。 <p>電気式パーキングブレーキを効かせる、または解除することができないままのときは：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ イグニッション位置を 0 にしてから、1 にしてください。 ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせるか、解除してください。 <p>それでも電気式パーキングブレーキが解除されていないときは：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 <p>走行している間のみ、ディスプレイメッセージが表示される。赤色の  が点滅し、黄色の  が点灯している。</p> <p>手で電気式パーキングブレーキを効かせることができない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ トランスミッションをポジション P にシフトしてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場点検を受けてください。
 <p>パーキング ブレーキ イグニッションで 解除できます</p>	<p>赤色の  が点灯している。</p> <p>イグニッション位置が 0 のときに、電気式パーキングブレーキを解除しようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ イグニッション位置を 1 にしてください。
 <p>ブレーキ液レベル 点検して ください</p>	<p>リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。</p> <p>加えて、メーターパネルの  が点灯し、警告音も鳴った。</p> <p>⚠ 警告</p> <p>ブレーキ性能が損なわれることがあります。</p> <p>事故の危険性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。状況を問わず、走行しないでください。 ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ ブレーキ液を補給しないでください。問題は解消しません。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
 <p>ブレーキパッド摩耗 点検して ください</p>	<p>ブレーキパッド / ラインの摩耗が限界に達している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
プレセーフ 故障 取扱説明書を参照	PRE-SAFE® の重要な機能に異常がある。エアバッグなど他の乗員保護システムの機能は確保されている。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
プレセーフ 機能が現在 制限されています 取扱説明書を参照	以下により、アダプティブブレーキアシストが一時的に作動停止している。 <ul style="list-style-type: none"> • 豪雨や雪のため機能に支障がある。 • バンパーのセンサーが汚れている。 • 近くのテレビ局やラジオ局からの電磁波や、その他の電磁波の発生源などにより、レーダーセンサーシステムが一時的に作動停止している。 • システムが作動温度外になっている。 • バッテリーの電圧が低くなっている。 ディスプレイメッセージが消えないとき： <ul style="list-style-type: none"> ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ バンパーを清掃してください (▶303 ページ)。 ▶ エンジンを再始動してください。 センサーが完全に作動可能であることをシステムが検知したときは、メッセージが消えます。 アダプティブブレーキアシストは、再度作動可能になります。
プレセーフ 機能が制限 されています 取扱説明書を参照	アダプティブブレーキアシストが故障している。車間距離警告も機能しない。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	マルチファンクションディスプレイにマークが表示されたときは、リアのシートベルトのバックルにシートベルトプレートが差し込まれている。 後席シートベルトの状況表示の詳しい情報は、(▶43 ページ) をご覧ください。
	マルチファンクションディスプレイにマークが表示されたときは、リアのシートベルトのバックルにシートベルトプレートが差し込まれていない。 ⚠ 警告 シートベルトを正しく着用していないか、シートベルトがシートベルトバックルに正しく差し込まれていないときは、本来の保護効果を発揮することができません。 けがの危険性が高まります。 ▶ 必要であれば、後席の乗員にシートベルトを着用させてください。 後席シートベルトの状況表示の詳しい情報は、(▶43 ページ) をご覧ください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 <p>SRS システム 故障 工場で点検</p>	<p>SRS（乗員保護補助装置）が故障している。メーターパネルの SRS 警告灯  も点灯している。</p> <p>▲ 警告 エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに全く作動しないことがあります。 けがの危険性が高まります。</p> <p>▶メルセデス・ベンツ指定サービス工場にて点検を受けてください。 乗員安全装備の詳細な情報は、(▶32 ページ) をご覧ください。</p>
 <p>フロント左 SRS 故障 工場にて点検 または フロント右 SRS 故障 工場にて点検</p>	<p>フロント左側、または右側の SRS に異常がある。メーターパネルの SRS 警告灯  も点灯している。</p> <p>▲ 警告 エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに全く作動しないことがあります。 けがの危険性が高まります。</p> <p>▶メルセデス・ベンツ指定サービス工場にて点検を受けてください。</p>
 <p>リア左 SRS 故障 工場にて点検 または リア右 SRS 故障 工場にて点検</p>	<p>リア左側、または右側の SRS に異常がある。メーターパネルの SRS 警告灯  も点灯している。</p> <p>▲ 警告 エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに全く作動しないことがあります。 けがの危険性が高まります。</p> <p>▶メルセデス・ベンツ指定サービス工場にて点検を受けてください。</p>
 <p>リア中央 SRS 故障 工場にて点検</p>	<p>リア中央の SRS に異常がある。メーターパネルの SRS 警告灯  も点灯している。</p> <p>▲ 警告 エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに全く作動しないことがあります。 けがの危険性が高まります。</p> <p>▶メルセデス・ベンツ指定サービス工場にて点検を受けてください。</p>
 <p>ウィンドウバッグ左 SRS 故障 工場にて点検 または ウィンドウバッグ右 SRS 故障 工場にて点検</p>	<p>左側、または右側のウィンドウバッグに異常がある。メーターパネルの SRS 警告灯  も点灯している。</p> <p>▲ 警告 左側、または右側のウィンドウバッグが不意に作動したり、事故のときに全く作動しないことがあります。 けがの危険性が高まります。</p> <p>▶メルセデス・ベンツ指定サービス工場にて点検を受けてください。</p>

ライト

i LED に関するディスプレイメッセージは、すべての LED が切れたときにのみ表示されます。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 左コーナーリングライト または 右コーナーリングライト	左側または右側のコーナーリングライトが切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください (▶119 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。
 左ロービーム または 右ロービーム	左側または右側のロービームが切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください (▶119 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。
 左リアウインカー または 右リアウインカー	リア左側またはリア右側の方向指示灯が切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください (▶119 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。
 左フロントウインカー または 右フロントウインカー	フロント左側またはフロント右側の方向指示灯が切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください (▶119 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。
 左ドアミラーウインカー または 右ドアミラーウインカー	左側または右側のドアミラー方向指示灯が切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください (▶119 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。
 ハイマウントブレーキランプ	ハイマウントブレーキライトが切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください (▶119 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。
 左ブレーキランプ または 右ブレーキランプ	左側または右側のブレーキライトが切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください (▶119 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 <p>左テールランプ / ブレーキランプ または 右テールランプ / ブレーキランプ</p>	<p>左側または右側のテールライト / ブレーキライトが切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください (▶119 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。</p>
 <p>左ハイビーム または 右ハイビーム</p>	<p>左側または右側のハイビームが切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください (▶119 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。</p>
 <p>ライセンスランプ</p>	<p>左側または右側のライセンスランプが切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください (▶119 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。</p>
 <p>左フォグランプ または 右フォグランプ</p>	<p>左側または右側のフロントフォグランプが切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください (▶119 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。</p>
 <p>リアフォグランプ</p>	<p>リアフォグランプが切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください (▶119 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。</p>
 <p>左フロント パーキングランプ または 右フロント パーキングランプ</p>	<p>フロント左側またはフロント右側のパーキングライトが切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください (▶119 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。</p>
 <p>バックランプ</p>	<p>バックランプが切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください (▶119 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。</p>

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 <p>左テールランプ または 右テールランプ</p>	<p>左側または右側のテールライトが切れている。</p> <p>▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください (▶119 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。</p>
 <p>左デイトタイム ドライビングランプ または 右デイトタイム ドライビングランプ</p>	<p>左側または右側のデイトタイムドライビングライトが故障している。</p> <p>▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください (▶119 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。</p>
 <p>インテリジェントライト システム故障</p>	<p>インテリジェントライトシステムが故障している。インテリジェントライトシステムは作動しないが、ライトは通常通り点灯する。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。</p>
 <p>故障 取扱説明書を参照</p>	<p>車外ライトが切れている。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。</p>
 <p>オートライト 故障</p>	<p>ライトセンサーが故障している。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。</p>
 <p>ライトを 消してください</p>	<p>車両から離れるときにライトが点灯していた。警告音も鳴った。</p> <p>▶ ライトスイッチを AUTO の位置にしてください。</p>
<p>アダプティブ ハイビームアシスト 作動できません</p>	<p>アダプティブハイビームアシストが故障している。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。</p>
<p>アダプティブ ハイビームアシスト 現在 使用できません 取扱説明書を参照</p>	<p>アダプティブハイビームアシストが解除され、一時的に作動停止している。 可能性のある原因：</p> <ul style="list-style-type: none"> • フロントウインドウのカメラ付近が汚れている。 • 豪雨や雪、霧などのために、視界が妨げられている。 <p>▶ フロントウインドウを清掃してください。</p> <p>カメラが再び完全に機能しているとシステムが判断したときは、アダプティブハイビームアシスト 再び使用可能ですのメッセージが表示されます。 アダプティブハイビームアシストが再度作動できるようになります。</p>

エンジン

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 <p>冷却水を点検してください 取扱説明書を参照</p>	<p>冷却水量が非常に不足している。</p> <p>! エンジン冷却システムの冷却水が非常に少ない状態での長い走行は避けてください。さもないと、エンジンを損傷します。</p> <p>▶ 作業をする前に注意事項を読んでから、冷却水を補給してください (>295 ページ)。</p> <p>▶ 通常よりも頻繁に冷却水を補給している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でエンジン冷却システムの点検を受けてください。</p>
	<p>ファンのモーターが故障している。</p> <p>▶ 冷却水温度が約 120℃以下の場合、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行を続けることができます。</p> <p>▶ 山道の走行や発進と停止を繰り返す走行など、エンジンへの大きな負荷がかかる走行は避けてください。</p>
 <p>停車して エンジンを停止</p>	<p>冷却水の温度が高すぎる。 警告音も鳴っている。</p> <p>⚠ 警告</p> <p>エンジンがオーバーヒートしているときは走行しないでください。冷却水がエンジンルーム内に漏れて、発火する原因になります。</p> <p>オーバーヒートしているエンジンからの蒸気は、ボンネットを開いたときの深刻な火傷の原因にもなります。</p> <p>火傷の危険性があります。</p> <p>▶ 道路や交通状況に注意しながら、ただちに停車して、エンジンを停止してください。</p> <p>▶ 電気式パーキングブレーキを効かせてください。</p> <p>▶ エンジンが冷えるまで車両から離れ、車両との安全な距離を確保してください。</p> <p>▶ 凍った泥などにより、ラジエターへの送風が遮られていないか確認してください。</p> <p>▶ ディスプレイメッセージが消え、冷却水の温度が 120℃以下になるまでは、エンジンを再始動しないでください。さもないと、エンジンを損傷することがあります。</p> <p>▶ エンジン冷却水表示に注意を払ってください。</p> <p>▶ 冷却水温度が再び上昇する場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。</p> <p>冷却水が適切に補充されているときは、通常の走行状況下では数値は 120℃まで上昇することがあります。</p>

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
	<p>バッテリーが充電されていない。 可能性のある原因：</p> <ul style="list-style-type: none"> • オルタネーターの故障 • Vベルトの摩耗 • 電気システムの故障 <p>▶ 道路や交通状況に注意しながら、ただちに停車して、エンジンを停止してください。</p> <p>▶ ボンネットを開いてください。</p> <p>▶ Vベルトを点検してください。</p> <p>Vベルトが摩耗しているとき：</p> <p>! 走行を続けないでください。エンジンがオーバーヒートするおそれがあります。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。</p> <p>Vベルトが損傷していないとき：</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場ですぐに点検を受けてください。</p>
 <p>給油の際 エンジンオイル量を 点検してください</p>	<p>エンジンオイル量が最低量まで不足している。 警告音も鳴った。</p> <p>▶ 遅くとも次回の燃料補給までに、エンジンオイル量を点検してください。</p> <p>▶ 必要であれば、エンジンオイルを補給してください。</p> <p>▶ 通常よりも頻繁にエンジンオイルを補給している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でおイルが漏れていないかエンジンの点検を受けてください。</p>
 <p>給油してください</p>	<p>燃料の残量が少なくなっている。</p> <p>▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。</p>
	<p>燃料タンクに燃料がほとんどない。</p> <p>▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。</p>

走行装備

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 <p>アテンションアシスト 休憩してください</p>	<p>評価基準を基に、運転者が疲労しているか、または注意力が欠如しているとアテンションアシストが判断している。警告音も鳴った。</p> <p>▶ 必要であれば、休憩を取ってください。</p> <p>▶ 長距離運転時では、定期的に休憩を取り、身体を十分に休ませてください。</p>
 <p>アテンションアシスト 故障</p>	<p>アテンションアシストが作動しない状態になっている。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に点検を受けてください。</p>

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
スピードリミットアシスト 現在 使用できません 取扱説明書を参照	スピードリミットアシストが解除され、一時的に作動停止している。 可能性のある原因： <ul style="list-style-type: none"> • フロントウインドウのカメラ付近が汚れている。 • 豪雨や雪、霧などのために、視界が妨げられている。 ▶ フロントウインドウを清掃してください。 カメラが再び完全に機能しているとシステムが判断したときは、ディスプレイメッセージが消去される。 スピードリミットアシストが再度作動できるようになります。
スピードリミットアシスト： この国では 使用できません	スピードリミットアシストは特定の国でのみ使用できる。 ▶ 走行を続けてください。 スピードリミットアシストは、使用が承認されている国まで走行すれば、再びすみやかに使用することができます。
スピードリミットアシスト 作動できません	スピードリミットアシストが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">HOLD</div> オフ	ホールド機能が解除されている。車が横すべりしている。 警告音も鳴った。 ▶ 時間をおいてから、再度ホールド機能を作動させてください。
レーンキープアシスト 現在 使用できません 取扱説明書を参照	レーンキーピングアシストが解除され、一時的に作動停止している。 可能性のある原因： <ul style="list-style-type: none"> • カメラ部分のフロントウインドウが汚れている。 • 豪雨や雪、霧などのために、視界が妨げられている。 • 車線ラインがない道路を長時間走行している。 • 車線ラインが汚れや雪などにより覆われている。 ディスプレイメッセージが消えないとき： <ul style="list-style-type: none"> ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ 車が動かないように固定してください (▶167 ページ)。 ▶ フロントウインドウを清掃してください。 カメラが完全に作動可能であることをシステムが検知したときは、ディスプレイメッセージが消えます。 レーンキーピングアシストまたはアクティブレーンキーピングアシストは、再度作動可能になります。
レーンキープアシスト 作動できません	レーンキーピングアシストが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
ブラインドスポットアシスト 現在 使用できません 取扱説明書を参照	ブラインドスポットアシストが一時的に停止している。可能性のある原因： <ul style="list-style-type: none"> • センサーが汚れている。 • 豪雨や雪のため機能に支障がある。 • レーダーセンサーが作動温度外になっている。 • 近くのテレビ局やラジオ局からの電磁波や、その他の電磁波の発生源などにより、レーダーセンサーシステムが一時的に作動停止している。 ドアミラーの黄色の表示灯  も点灯している。 メッセージが消えないとき： <ul style="list-style-type: none"> ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ 車が動かないように固定してください (▷167 ページ)。 ▶ センサーを清掃してください (▷303 ページ)。 ▶ エンジンを再始動してください。 センサーが完全に作動可能であることをシステムが検知したときは、メッセージが消えます。 ブラインドスポットアシストは、再度作動可能になります。
ブラインドスポットアシスト 作動できません	ブラインドスポットアシストが故障している。 ドアミラーの黄色の表示灯  も点灯している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場 で点検を受けてください。
パーキングガイダンス 中止しました	運転席ドアを開き、運転席の乗員がシートベルトを着用していない。 ▶ シートベルトを着用し、運転席ドアを閉じた状態で、駐車操作を繰り返してください。 ステアリングがシステムにより動かされているときに、マルチファンクションステアリングに不注意に触れた。 ▶ ステアリングがシステムにより動かされているときは、マルチファンクションステアリングに触れていないことを確認してください。 車両が横滑りして、ESP® が作動した。 ▶ 時間をおいてから、アクティブパーキングガイダンスを使用してください (▷200 ページ)。
パーキングガイダンス 作動できません	何度もステアリング操作を行ったり、駐車操作を繰り返していた。 アクティブパーキングガイダンスは、約 10 分後に再び作動可能になります (▷197 ページ)。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ エンジンを停止してから再始動してください。 ディスプレイメッセージが消えないとき： <ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場 で点検を受けてください。 パークトロンニックが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場 で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
ディストロニックプラス オフ	ディストロニック・プラスが解除された (▷186 ページ)。自動的に解除されたときは、警告音も鳴る。
ディストロニックプラス 再び使用できます	ディストロニック・プラスが一時的に停止した状態から再び作動可能な状態になった。ディストロニック・プラスを再度作動できます (▷186 ページ)。
ディストロニックプラス 現在 使用できません 取扱説明書を参照	<p>以下により、ディストロニック・プラスが解除され、一時的に作動停止している。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 豪雨や雪などのため機能に支障がある。 • 近くのテレビ局やラジオ局からの電磁波や、その他の電磁波の発生源などにより、レーダーセンサーシステムが一時的に作動停止している。 • システムが作動温度外になっている。 • バッテリーの電圧が低くなっている。 <p>警告音も鳴っている。</p> <p>ディスプレイメッセージが消えないとき：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ 車が動かないように固定してください (▷167 ページ)。 ▶ エンジンを再始動してください。 <p>センサーが完全に作動可能であることをシステムが検知したときは、ディスプレイメッセージが消えます。</p> <p>ディストロニック・プラスは、再度作動可能になります。</p>
ディストロニックプラス 故障	ディストロニック・プラスが故障している。アダプティブブレーキアシストも機能しないことがある。 警告音も鳴った。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。
ディストロニックプラス 制御待機中	アクセルペダルを踏んだ。ディストロニック・プラスが車両の速度の制御をしなくなった。 ▶ アクセルペダルから足を放してください。
ディストロニックプラス --- km/h	ディストロニック・プラスの作動条件を満たしていない。 ▶ ディストロニック・プラスの作動条件を確認してください (▷183 ページ)。
ディストロニックプラス と可変スピードリミッター 故障	ディストロニック・プラスと可変スピードリミッターが故障している。警告音も鳴った。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。
クルーズコントロールと 可変スピードリミッター 故障	クルーズコントロールと可変スピードリミッターが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
制限速度 --- km/h	アクセルペダルをいっぱいまで踏み込んでいるとき（キックダウン）は、可変スピードリミッターを作動させることができない。
クルーズコントロール --- km/h	クルーズコントロールの作動条件を満たしていない。例えば、約 30km/h 以下の速度でクルーズコントロールを作動させようとした。 ▶ 作動条件が満たされていれば、約 30km/h 以上の速度で走行し、クルーズコントロールを設定してください。 ▶ クルーズコントロールの作動条件を確認してください（▶175 ページ）。
120 km/h 設定した 制限速度を 超えました	特定の国のみ：最高速度を超えた。 さらに、マルチファンクションディスプレイに 120 km/h! と表示された。 ▶ 速度を落として走行してください。

タイヤ

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
タイヤ空気圧 タイヤを点検 してください	タイヤ空気圧警告システムが空気圧の急激な低下を検知した。 警告音も鳴った。 ⚠ 警告 空気圧が低い、または空気圧が高いタイヤにより、以下の危険性があります。 <ul style="list-style-type: none"> • 荷物を積載したり速度が上昇すると、特にタイヤがバーストすることがあります。 • タイヤが過度に、または不均一に摩耗し、タイヤの駆動力が著しく損なわれることがあります。 • 走行特性や操舵特性、ブレーキ特性が著しく損なわれることがあります。事故の危険性があります。 ▶ 急ハンドルや急ブレーキを避けて停車してください。そのときは、交通状況に注意してください。 ▶ パンクしているときは、タイヤを点検してください（▶310 ページ）。 ▶ タイヤ空気圧を点検し、必要であれば空気圧を適正にしてください。 ▶ 適正なタイヤ空気圧に調整した後に、またはタイヤを修理するか交換した後に、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください（▶338 ページ）。 タイヤ空気圧の詳細な情報は、（▶336 ページ）をご覧ください。
空気圧点検後 タイヤ空気圧 警告システム 再始動	タイヤ空気圧警告システムの警告が行なわれ、その後に再起動が行なわれていない。 ▶ すべてのタイヤの空気圧を適正にしてください。 ▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
タイヤ空気圧警告システム 作動できません	タイヤ空気圧警告システムが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場 で点検を受けてください。

車両

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
エンジン始動 P または N にシフト	トランスミッションがポジション D または R のときにエンジンを始動しようとした。 ▶ トランスミッションをポジション P または N にシフトしてください。
バックアップバッテリー 故障	オートマチックトランスミッション用の補助バッテリーが充電されていない。 ▶ 次の機会に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場 で点検を受けてください。 ▶ それまでの間は、エンジンを停止する前にオートマチックトランスミッションをポジション P にしてください。 ▶ 車両から離れる前に、電気式パーキングブレーキを効かせてください。
ブレーキを踏んで P レンジからシフト	ブレーキペダルを踏まずに、セレクターレバーをポジション D、R または N に動かそうとした。 ▶ ブレーキペダルを踏んでください。
ドアが開いています P レンジでは ありません	運転席側のドアが開いていて、トランスミッションがポジション R、N または D になっている。 警告音も鳴った。 ▶ トランスミッションをポジション P にシフトしてください。 ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせてください。
シフトチェンジせず 工場 で点検	故障のため、トランスミッションのポジションを変えることができない。 警告音も鳴った。 ポジション D が選択されているときは： ▶ トランスミッションをポジション D から変速することなく、メルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行してください。 ポジション R、N または P が選択されているときは： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
停車中のみ P レンジにシフト できます	車両が動いている。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、安全に停車してください。 ▶ トランスミッションをポジション P にシフトしてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
	<p>テールゲートが開いている。</p> <p>⚠ 警告</p> <p>エンジンがかかっているときは、テールゲートが開いていると排気ガスが車内に侵入するおそれがあります。</p> <p>中毒の危険性があります。</p> <p>▶ テールゲートを閉じてください。</p>
	<p>ボンネットが開いている。</p> <p>⚠ 警告</p> <p>車両が動いているときは、開いているボンネットが視界を遮ることがあります。</p> <p>事故の危険性があります。</p> <p>▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。</p> <p>▶ 電気式パーキングブレーキを効かせてください。</p> <p>▶ ボンネットを閉じてください。</p>
	<p>いずれかのドアが開いている。警告音も鳴った。</p> <p>▶ すべてのドアを閉じてください。</p>
 <p>パワーステアリング 故障 取扱説明書を参照</p>	<p>パワーステアリングの補助が故障している。ステアリング操作により大きな力が必要になる。</p> <p>警告音も鳴った。</p> <p>▶ 大きな力でステアリングが操作できるか確認してください。</p> <p>▶ 安全にステアリング操作ができるとき：メルセデス・ベンツ指定サービス工場まで注意して走行してください。</p> <p>▶ 安全にステアリング操作ができないとき：走行を続けしないでください。最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。</p>
<p>発信できません</p>	<p>車両がネットワークプロバイダーの送受信範囲外にある。</p> <p>▶ 携帯電話が使用可能になる表示が現れるまで待ってください。</p>
 <p>ウォッシャー液を 補充してください</p>	<p>リザーブタンクのウォッシャー液量が最低レベルまで減っている。</p> <p>▶ ウォッシャー液を補給してください (▶296 ページ)。</p>

キー

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 キーが違います	エンジンスイッチに不適切なキーを差し込んでいる。 ▶ 正しいキーを使用してください。
 キーを交換 してください	キーを交換する必要がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

メーターパネルの表示灯 / 警告灯

シートベルト

トラブル	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 <p>特定の国のみ：エンジン始動後に、赤色のシートベルト警告灯が約 6 秒間点灯する。</p>	<p>シートベルト警告灯が運転席と助手席の乗員にシートベルトの着用を促している。</p> <p>▶ シートベルトを着用してください。(▷42 ページ)</p>
 <p>特定の国のみ：エンジン始動後に、赤色のシートベルト警告灯が点灯する。さらに、警告音が約 6 秒以内で鳴る。</p>	<p>運転席の乗員がシートベルトを着用していない。</p> <p>▶ シートベルトを着用してください (▷42 ページ)。 警告音が鳴り止みます。</p>
 <p>運転席ドアまたは助手席ドアを閉じてエンジンを始動すると、赤色のシートベルト警告灯が点灯する。</p>	<p>運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない。</p> <p>▶ シートベルトを着用してください (▷42 ページ)。 シートベルト警告灯が消灯します。</p> <p>助手席シートの上に荷物を置いている。</p> <p>▶ 助手席シートに置いてある荷物を、別の場所に確実に固定してください。 シートベルト警告灯が消灯します。</p>
 <p>赤色のシートベルト警告灯が点滅し、断続的な警告音も鳴る。</p>	<p>運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない。その状態で走行速度が約 25km/h を超えるか、または速度が一時的に約 25km/h を超えた。</p> <p>▶ シートベルトを着用してください (▷42 ページ)。 シートベルト警告灯が消灯し、断続的な警告音も停止します。</p> <p>助手席シートの上に荷物を置いている。その状態で速度が約 25km/h を超えるか、または速度が一時的に約 25km/h を超えた。</p> <p>▶ 助手席シートに置いてある荷物を、別の場所に確実に固定してください。 シートベルト警告灯が消灯し、断続的な警告音も停止します。</p>

安全装備

トラブル	考えられる原因および症状 /▶ 対応
<p> エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯が点灯する。警告音も鳴った。</p>	<p>リザーブタンクに十分な量のブレーキ液がない。</p> <p> 警告 ブレーキ性能が損なわれることがあります。事故の危険性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。状況を問わず、走行を続けなください。 ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ ブレーキ液を補給しないでください。補給によりこの故障は解消しません。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。
<p> エンジンがかかっているときに黄色のABS警告灯が点灯する。</p>	<p>ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）に異常があるため機能が解除されている。この理由により、BAS（ブレーキアシスト）、アダプティブブレーキアシスト、ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）、PRE-SAFE®, ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライトも解除されている。アテンションアシストは解除される。</p> <p> 警告 ブレーキシステムは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、急ブレーキ時などには車輪がロックする可能性があります。ブレーキ時には車両の操舵能力が制限され、制動距離が増えることがあります。</p> <p>ESP® が解除されているか、作動していないときは、通常の走行操作時の車両の安定性が低下します。</p> <p>事故の危険性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行を続けてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 <p>ABS コントロールユニットが故障しているときは、ナビゲーションシステムやオートマチックトランスミッションなどの他のシステムも使用できない可能性があります。</p>

トラブル	考えられる原因および症状 /▶ 対応
<p> エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。</p>	<p>ABS の機能が一時的に作動しない。BAS、アダプティブブレーキアシスト、ESP[®]、EBD（エレクトロニック・ブレーキ・ディストリビューション）、PRE-SAFE[®]、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライトも解除されている。</p> <p>可能性のある原因：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自己診断機能が終了していない • バッテリー電圧が不十分である <p>アテンションアシストは解除される。</p> <p>▲ 警告</p> <p>ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、急ブレーキ時などには車輪がロックする可能性があります。ブレーキ時には車両の操舵能力が制限され、制動距離が増えることがあります。</p> <p>ESP[®] が解除されているか、作動していないときは、通常の走行操作時の車両の安定性が低下します。</p> <p>事故の危険性があります。</p> <p>▶ 適切な直線路で約 20km/h 以上の速度でステアリングを軽く左右に操作し、注意して走行してください。</p> <p>警告灯が消灯すれば、上記の機能は再度作動できる状態になります。</p> <p>警告灯が点灯したままのとき：</p> <p>▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。</p> <p>▶ 注意して走行を続けてください。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にて点検を受けてください。</p>
<p> エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。警告音も鳴った。</p>	<p>EBD が故障している。そのため、ABS、BAS、アダプティブブレーキアシスト、ESP[®]、PRE-SAFE[®]、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライトも作動しない状態になっている。</p> <p>アテンションアシストは解除される。</p> <p>▲ 警告</p> <p>ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、急ブレーキ時などには車輪がロックする可能性があります。ブレーキ時には車両の操舵能力が制限され、制動距離が増えることがあります。</p> <p>ESP[®] が解除されているか、作動していないときは、通常の走行操作時の車両の安定性が低下します。</p> <p>事故の危険性があります。</p> <p>▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。</p> <p>▶ 注意して走行を続けてください。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にて点検を受けてください。</p>

トラブル	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 <p>エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯と黄色のESP®表示灯、ESP® オフ表示灯、黄色のABS警告灯が点灯する。</p>	<p>ABS と ESP® に異常がある。そのため、BAS、アダプティブブレーキアシスト、EBD、PRE-SAFE®, ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライトも故障のため作動しない状態になっている。</p> <p>アテンションアシストは解除される。</p> <p>▲ 警告</p> <p>ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、急ブレーキ時には車輪がロックする可能性があります。</p> <p>ブレーキ時には車両の操舵能力が制限され、制動距離が増えることがあります。</p> <p>ESP® が解除されているか、作動していないときは、通常の走行操作時の車両の安定性が低下します。</p> <p>事故の危険性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行を続けてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 <p>走行中に黄色のESP®表示灯が点滅する。</p>	<p>車が横滑りをする危険性があるか、少なくとも1つの車輪が空転し始めているため、ESP® やトラクションコントロールなどが作動している。クルーズコントロールまたはディストロニック・プラスの機能は解除される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。 ▶ 走行中はよりゆるやかに加速ください。 ▶ 道路と天候の状態に運転スタイルを合わせてください。 ▶ ESP® の機能を解除しないでください。 <p>例外は (▶72 ページ) をご覧ください。</p>
 <p>エンジンがかかっているときに黄色のESP® オフ表示灯が点灯する。</p>	<p>ESP® の機能が解除されている。車が横滑りし始めたときや車輪が空転し始めたときに、ESP® は車両を安定させることができない。</p> <p>▲ 警告</p> <p>ESP® が解除されているか、作動していないときは、通常の走行操作時の車両の安定性が低下します。</p> <p>事故の危険性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ESP® を待機状態にしてください。 <p>例外は (▶72 ページ) をご覧ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 道路と天候の状態に運転スタイルを合わせてください。 <p>ESP® を待機状態にできないとき：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場、ESP® の点検を受けてください。

トラブル	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 <p>エンジンがかかっているときに黄色の ESP® 表示灯と ESP® オフ表示灯が点灯する。</p>	<p>故障のため、ESP®、BAS、アダプティブブレーキアシスト、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライトが解除されている。</p> <p>アテンションアシストは解除される。</p> <p>⚠ 警告</p> <p>車が横滑りし始めたときや車輪が空転し始めたときに、ESP® は車両を安定させることができません。</p> <p>ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。</p> <p>ESP® が解除されているか、作動していないときは、通常の走行操作時の車両の安定性が低下します。</p> <p>事故の危険性があります。</p> <p>▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。</p> <p>▶ 注意して走行を続けてください。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。</p>
 <p>エンジンがかかっているときに黄色の ESP® 表示灯と ESP® オフ表示灯が点灯する。</p>	<p>ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが一時的に作動しない状態になっている。</p> <p>アダプティブブレーキライトとアダプティブブレーキアシストも作動しない可能性がある。</p> <p>アテンションアシストは解除される。</p> <p>⚠ 警告</p> <p>車が横滑りし始めたときや車輪が空転し始めたときに、ESP® は車両を安定させることができません。</p> <p>システムの自己診断が終了していません。</p> <p>ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。</p> <p>ESP® が解除されているか、作動していないときは、通常の走行操作時の車両の安定性が低下します。</p> <p>事故の危険性があります。</p> <p>▶ 適切な直線路で約 20km/h 以上の速度でステアリングを軽く左右に操作し、注意して走行してください。</p> <p>メッセージが消えれば、上記の機能は作動できる状態になります。</p> <p>表示灯が点灯したままのとき：</p> <p>▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。</p> <p>▶ 注意して走行を続けてください。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。</p>

トラブル	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 <p>赤色のパーキングブレーキ表示灯が点滅するか、黄色のパーキングブレーキ警告灯が点灯する。または、上記の表示灯と警告灯が点滅 / 点灯する。</p>	<p>電気式パーキングブレーキが一時的に故障しているか、作動を停止している。</p> <p>▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。</p>
 <p>エンジンがかかっているときに赤色の SRS 警告灯が点灯する。</p>	<p>SRS（乗員保護補助装置）が故障している。</p> <p>⚠ 警告</p> <p>エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに全く作動しないことがあります。けがの危険性が高まります。</p> <p>▶ 注意して走行を続けてください。</p> <p>▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場 で SRS の点検を受けてください。</p> <p>乗員安全装備の詳しい情報は（▷32 ページ）をご覧ください。</p>

エンジン

トラブル	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 <p>エンジンがかかっているときに黄色のエンジン警告灯が点灯する。</p>	<p>以下のものが故障している可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> • エンジン制御システム • 燃料噴射システム • 排気システム • イグニッションシステム • 燃料システム <p>排出ガスの制限値を超えたために、エンジンがエマージェンシーモードになっている可能性がある。</p> <p>▶ すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場 で点検を受けてください。</p>
 <p>エンジンがかかっているときに黄色の燃料残量警告灯が点灯する。</p>	<p>燃料の残量が少なくなっている。</p> <p>▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。</p>

トラブル	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 <p>エンジンがかかっているときに赤色の冷却水警告灯が点灯し、エンジン冷却水温度計の指針が下限にある。</p>	<p>エンジン冷却水温度計の温度センサーが故障している。 冷却水温度を確認することができない。冷却水温度が高すぎる場合は、エンジンを損傷するおそれがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 道路や交通状況に注意しながらただちに停車し、エンジンを停止してください。状況を問わず走行を続けしないでください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
 <p>エンジンがかかっているときに赤色の冷却水警告灯が点灯する。</p>	<p>冷却水量が非常に不足している。 冷却水量が正常なときは、ラジエターへの送風が遮られているか、ラジエターの冷却ファンが故障している可能性がある。 冷却水量の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 道路や交通状況に注意しながらただちに停車し、エンジンを停止してください。 ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ エンジンが冷えるまで車両から離れ、車両との安全な距離を確保してください。 ▶ 冷却水量を点検し、補給してください (▶295 ページ)。注意事項を守ってください。 ▶ 通常よりも頻繁に冷却水を補給する必要がある場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 ▶ 凍結した泥などにより、ラジエターへの送風が遮られていないか確認してください。 ▶ メッセージが消え、冷却水の温度が 120℃ 以下になるまでは、エンジンを再始動しないでください。さもないと、エンジンを損傷することがあります。 ▶ 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行してください。 ▶ そのときは、山道の走行や発進と停止を繰り返す走行など、エンジンへの大きな負荷がかかる走行は避けてください。

トラブル	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 <p>エンジンがかかっているときに赤色の冷却水警告灯が点灯する。警告音も鳴った。</p>	<p>冷却水温度が約 120℃を超えている。ラジエターへの送風が遮られているか、リザーブタンクの冷却水量が非常に不足している可能性がある。</p> <p>▲ 警告</p> <p>エンジンが十分に冷却されないため、エンジンを損傷するおそれがあります。</p> <p>エンジンがオーバーヒートしているときは走行しないでください。冷却水がエンジンルーム内に漏れて、発火する原因になります。</p> <p>オーバーヒートしているエンジンからの蒸気は、ボンネットを開いたときの深刻な火傷の原因にもなります。</p> <p>けがの危険性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 道路や交通状況に注意しながらただちに停車し、エンジンを停止してください。 ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ エンジンが冷えるまで車両から離れ、車両との安全な距離を確保してください。 ▶ 冷却水量を点検し、補給してください (▶295 ページ)。注意事項を守ってください。 ▶ 通常よりも頻繁に冷却水を補給する必要がある場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 ▶ 凍結した泥などにより、ラジエターへの送風が遮られていないか確認してください。 ▶ 冷却水温度が 120℃以下のときは、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行を続けることができます。 ▶ 山道の走行や発進と停止を繰り返す走行など、エンジンへの大きな負荷がかかる走行は避けてください。

走行安全装備

トラブル	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 <p>走行中に赤色の車間距離警告灯が点灯する。</p>	<p>選択した速度に対して先行車との車間距離が短すぎる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 車間距離を長くってください。
 <p>走行中に赤色の車間距離警告灯が点灯した。警告音も鳴った。</p>	<p>先行車または走行車線上にある障害物に、非常に高い速度で接近している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ただちにブレーキ操作を行なう準備を整えてください。 ▶ 交通状況に十分注意してください。ブレーキペダルを踏むか、回避操作を行なわなければなりません。

役に立つ情報	268
積載のガイドライン	268
収納エリア	269
室内装備	282

役に立つ情報

i この取扱説明書では、本書の発行時点で車両に装着可能な、すべての標準およびオプション装備について記載しています。ただし、国により仕様が異なるため、本書に記載されているすべての機能が、お客様の車両に当てはまらない場合があることにご留意ください。このことは、安全に関する装備や機能にも当てはまります。

積載のガイドライン

 警告

荷物を積むときは、以降に記載されている注意点を守り、確実に固定してください。

さもないと、急ブレーキや急な進路変更時、事故のときなどに前方に投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

詳しい情報は、「積載のガイドライン」をご覧ください。

たとえ荷物を積むときの注意点を守ったとしても、荷物を積むことにより、事故などのときに乗員がけがをする可能性は高まります。

 警告

エンジンがかかっているときは、テールゲートを開いたままにしないでください。さもないと、排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

荷物を積載した車両の車両操縦性は、車内の荷物の配分に影響されます。この理由により、荷物を運搬するときは、以下の事項を守ってください。

- 荷物の重量が、制限重量(▷359 ページ)を超えないようにしてください。
- 重い荷物は、ラゲッジルームのできるだけ前方および低い位置に配置してください。
- 荷物がシートのバックレストより高くないようにしてください。
- 荷物は常に、リアシートまたはフロントシートのバックレストに接するように配置してください。バックレストが確実にロックされていることを確認してください。
- 荷物を積むときは、セーフティネットを使用してください。
- ラゲッジフロアボード下の小物入れの最大積載量は約 25kg です。
- なるべく乗員のいない席の後方に荷物を積んでください。
- 十分な強度で、耐摩耗性のある固定用具で荷物を固定してください。角の部分にはカバーをしてください。

! ラゲッジフロアボードの一部にのみ荷物を配置しないでください。ラゲッジフロアボードの制限重量は約100kgです。ラゲッジフロアボードの損傷を防ぐため、重量は均一になるように分散させてください。必要であれば、荷物の下に丈夫な板などを置いてください。荷物を固定しているときは、ラゲッジフロアボードへの負担が増加することに注意してください。

収納エリア

小物入れ

重要な安全上の注意

警告

荷物が収納されているときは、小物入れを必ず閉じてください。収納ネットは重い荷物を固定するためには設計されていません。

以下のときに荷物が投げ出されて、お客様や他の方がけがをするおそれがあります。

- 急ブレーキ時
- 急な進路変更時
- 事故のとき

収納ネットには、鋭利な角のある物やこわれやすい物を入れないでください。

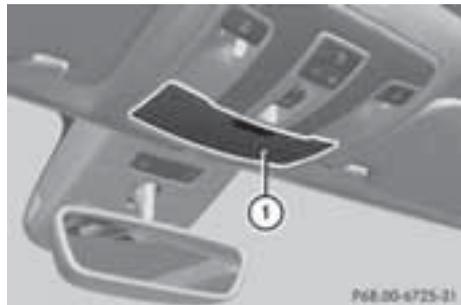
前席の小物入れ

グローブボックス



- ▶ **開く**：ハンドル①を引いて、グローブボックスカバー②を開きます。
- ▶ **閉じる**：グローブボックスカバー②を押してロックさせます。
- i** グローブボックスのカバー上部には、ペンホルダーがあります。

サングラスケース



- ▶ **開く**：カバー①のマークを押します。

センターコンソールの小物入れ



- ▶ 開く：カバー①のマークを押します。

i 車両の装備によって、センターコンソールにはカバー付きの小物入れや灰皿の代わりに、カバーなしの小物入れがあります。

アームレスト前方の小物入れ



- ▶ 開く：カバー①のマークを押します。

i 滑り止めのマットや小物入れを取り外して清掃することができます。

アームレスト下の小物入れ / 携帯電話ケース



- ▶ 開く：可動式アームレスト装備車では、アームレストが最も後方の位置になっていることを確認します。

▶ ボタン①を押して、アームレストを引き上げます。

i 車両の装備により、小物入れ内には USB ポートおよび AUX 入力ジャック、またはメディアインターフェースが装着されています。メディアインターフェースは iPod® や MP3 プレーヤーなどのポータブル音楽機器のための汎用インターフェースです（別冊の COMAND システム 取扱説明書をご覧ください）。

アンダーシートボックス（前席）

 **警告**

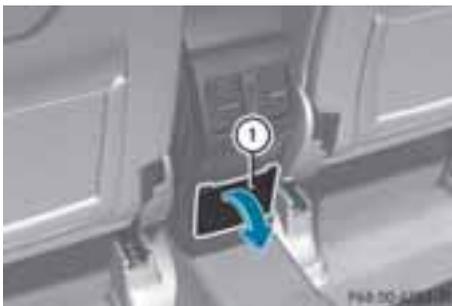
小物入れには、約 1.2kg 以下の荷物のみを収納してください。さもないと、急な進路変更や急ブレーキを行なった際に、小物入れから荷物が投げ出されるなどして、お客様や他の方がけがをされるおそれがあります。



- ▶ **開く**：ハンドル①を引き上げ、カバー②を前方に引き出します。

後席の小物入れ

リアセンターコンソールの小物入れ



- ▶ **開く**：小物入れ①の上部を持って、引き下げます。
- i** 車両の装備によって、小物入れ上部にはカバーなしの小物入れがあります。

シートバックテーブル（後席）

⚠ 警告

走行しているときは、シートバックテーブル（後席）を収納したままにしてください。さもないと、急ブレーキ、急な進路変更または事故のときに、テーブル上のものやシートバックテーブル（後席）そのもので乗員がけがをするおそれがあります。

- !** 約 2kg 以上の荷物をシートバックテーブル（後席）に載せないください。



- ▶ **展開する**：矢印の方向に、いっぱいまで折りたたみ式テーブルを引き上げます。
- ▶ **収納する**：折りたたみ式テーブルをバックレストまで押し下げます。

収納ネット

⚠ 警告

収納ネットには、軽い物のみを収納してください。重い物や鋭利な角のある物、こわれやすい物を運搬するために使用しないでください。事故のときに収納ネットが収納物を十分に固定できないおそれがあります。

収納ネットは、助手席足元と運転席および助手席シート背面にあります。

可倒式助手席バックレスト

⚠ 警告

助手席シートのバックレストが前方に倒れていると、事故や急ブレーキまたは急な進路変更のときに、倒した助手席シートから突き出した部分で後方に座っている人が危険になることがあります。これにより、けがの危険性が増します。

助手席シートを倒しているときは、後席の中央シートまたは助手席後方のシートに人がいないことを確認してください。



- ▶ **前方に倒す**：バックレストを軽く後ろに引きます。
- ▶ 解除ハンドル①を引き、ロックするまでバックレストをシートクッションの上に完全に倒します。
- ▶ **後方に起こす**：バックレストを軽く押し込み、解除ハンドル①を引きます。
- ▶ ロックするまでバックレストを後方に起こします。

スルーローディング

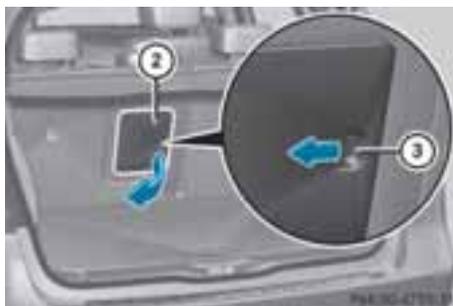
⚠ 警告

固定していない物をスルーローディングで運搬しないでください。

さもないと、急ブレーキ、急な進路変更または事故のときに、車内に投げ出された物でお客様や他の方がけがをするおそれがあります。



- ▶ **開く**：アームレスト①を引き下げます。
- ▶ リアシートの中央のヘッドレストを最も上の位置に引きます（▶100ページ）。



- ▶ ロック機構③を矢印の方向にスライドさせます。

- ▶ フラップ②をいっぱいまで横に開きます。
フラップ②は磁石で完全に開いたまま保持されます。
- ▶ 閉じる：ラゲッジルーム内のフラップ②を閉じてロックさせます。
- ▶ 必要であれば、アームレスト①をいっぱいまで起こします。

ラゲッジルームの拡大

重要な安全上の注意

⚠ 警告

車内やラゲッジルームには、重い荷物やかたい荷物を固定していない状態で運搬しないでください。

さもないと、急ブレーキ、急な進路変更または事故のときに、車内に投げ出された物でお客様や他の方がけがをすることがあります。

ラゲッジルームを拡大するときは、常に対応するバックレストをいっぱいまで倒し、セーフティネットを装着しなければなりません。

⚠ 警告

エンジンがかかっているときは、テールゲートを開いたままにしないでください。さもないと、排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死することがあります。

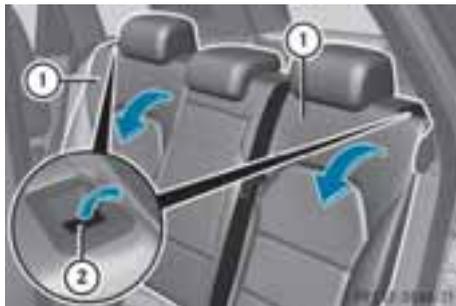
! リアシートのバックレストを倒す前に、インテグレートドチャイルドシートのサイドヘッドレストを取り外してください。"インテグレートドチャイルドシート用サイドヘッドレスト"の項目をご覧ください。さもないと、サイドヘッドレストを損傷するおそれがあります。

! 後席のバックレストを前方に倒す前に、後席のアームレストとカップホルダーが収納されていることを確認してください。さもないと、それを損傷することがあります。

EASY-VARIO PLUS 非装備車

リアシートのバックレストを前方に倒す

左側および右側のリアシートのバックレストを独立して前方に倒し、ラゲッジルームの容量を拡大することができます。



- ▶ バックレストのヘッドレストをいっぱいまで差し込みます (▷100 ページ)。
- ▶ 必要であれば、運転席または助手席シートを前方に移動します。

▶ インテグレートドチャイルドシート装備車は、チャイルドシートをたたみ (▷55 ページ)、サイドヘッドレストを取り外します (▷59 ページ)。

▶ 左側または右側のシートのバックレストの解除ハンドル②を前方に引きます。

対応するシートのバックレスト①が解除されます。

▶ シートのバックレスト①を前方に倒します。

▶ 必要であれば、運転席または助手席シートを後方に移動します。

リアシートのバックレストを後方に起こす



▶ 必要であれば、運転席または助手席シートを前方に移動します。

! リアシートのバックレストを後方に起こすときは、シートベルトが挟まれていないことを確認してください。さもないと、シートベルトを損傷するおそれがあります。

▶ ロックするまで、シートのバックレスト①を後方に起こします。

赤いロック状況インジケータが見えなくなります。

警告

シートのバックレストが確実に固定していることを確認してください。左および右側の赤いロック状況インジケータが見えなくなるようにしなければなりません。それが見えているときは、バックレストは正しい位置にロックされていません。

事故のときにラゲッジルームから物が車内前方に投げ出されるなどして、乗員がけがをされるおそれがあります。

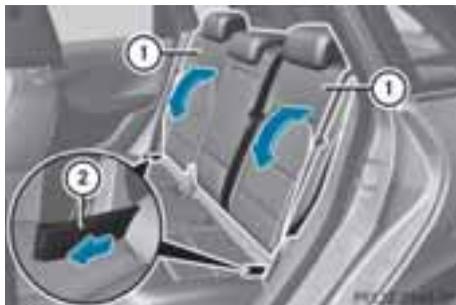
▶ 必要であれば、ヘッドレストを調整します (▷100 ページ)。

▶ 必要であれば、運転席または助手席シートを後方に移動します。

EASY-VARIO PLUS (バックレスト折りたたみ角度調整、後席シートスライド機構) 装備車

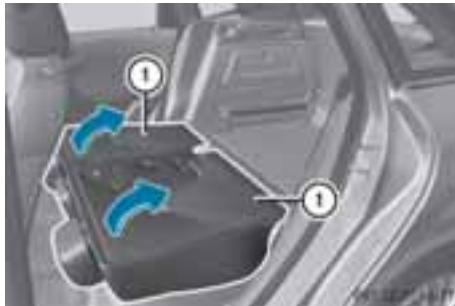
リアシートのバックレストを前方に倒す

左側および右側のリアシートのバックレストを独立して前方に倒し、ラゲッジルームの容量を拡大することができます。



- ▶ バックレストのヘッドレストをいっぱいまで差し込みます (▷100 ページ)。
- ▶ リアシートをできるだけ後方に移動します (▷276 ページ)。
- ▶ 必要であれば、運転席または助手席シートを前方に移動します。
- ▶ バックレストの右または左のループ②を矢印の方向に引きます。
対応するシートのバックレスト①が解除されます。
- ▶ シートのバックレスト①をいっばいに倒します。
- ▶ 必要であれば、運転席または助手席シートを後方に移動します。

リアシートのバックレストを後方に起こす



- ▶ 必要であれば、運転席または助手席シートを前方に移動します。
- !** リアシートのバックレストを後方に起こすときは、シートベルトが挟まれていないことを確認してください。さもないと、シートベルトを損傷するおそれがあります。
- ▶ バックレスト①を後方に起こします。

- ▶ ループを引いて、バックレストを好みの角度に調整します (▷276 ページ)。
- ▶ 必要であれば、ヘッドレストを調整します (▷100 ページ)。
- ▶ 必要であれば、運転席または助手席シートを後方に移動します。

ラゲッジルームを使用するときの注意



積載の位置

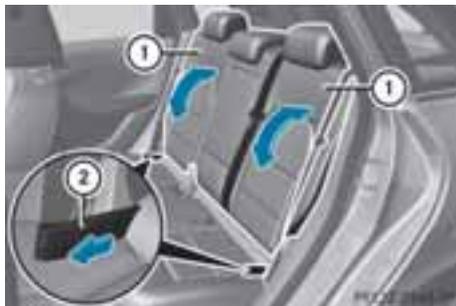
以下により、ラゲッジルームを最大限に使用できます。

- バックレストを積載位置 (90°) に設定しているときは積載容量が増えます (▷275 ページ)。
- EASY-VARIO PLUS (ラゲッジフロアボード調整 (2 段階)) 装備車：ラゲッジフロアボードを上の方に移動することで、平坦な積載面を得ることができます (▷281 ページ)。
- リアシートをできるだけ前方に移動することで、より大きな積載空間を得ることができます (▷276 ページ)。

- 助手席シートの可倒式バックレスト (▷272 ページ) および後席の対応するバックレストを前方に倒すことで、積載空間を長くすることができます。

リアシートのバックレストの角度を調整する

シートのバックレストの角度を 13 段階に設定することができます。



- ▶ 右または左の解除ループ ② を矢印の方向に前方に引きます。
対応するシートのバックレスト ① が解除されます。
- ▶ バックレスト ① を矢印の方向に前方に押すか、または後ろに押しロックさせます。
- ▶ バックレストがロックしているかを確認するために、バックレスト ① に対してしっかり寄りかかります。

シートの前後の調整

- !** リアシートを後方に移動するときは、足元やシートの後方に物が無いことを確認してください。さもないと、リアシートや物を損傷するおそれがあります。



- ▶ 左または右の解除ハンドルを上げ、対応するシートを前方または後方にスライドします。
- ▶ 再度解除ハンドルを放します。
シートが正しい位置にロックされていることを確認してください。

荷物の固定

荷物固定用リング

⚠ 警告

荷物固定用リングには均等に荷重を配分してください。

さもないと、以下のときに周囲に投げ出された物により、乗員がけがをされるおそれがあります。

- 急ブレーキ時
- 急な進路変更時
- 事故に巻き込まれたとき

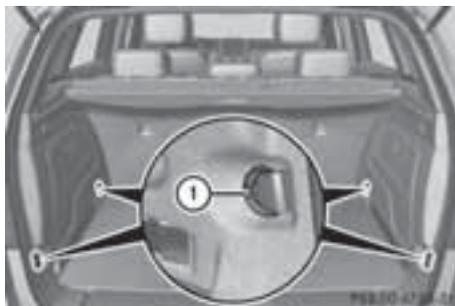
積載のガイドラインに従ってください。

荷物を固定するときは、以下の点に注意してください。

- 荷物固定用リングを使用して、荷物を固定してください。

- 伸縮性のあるストラップやネットは軽い荷物のずれを防ぐためだけのものですので、これらを使用して荷物を固定しないでください。
- 固定用具がとがった部分や角に当たらないようにしてください。
- 保護のため、鋭い角にはカバーをしてください。

ラゲッジルームに 4 個の荷物固定用リングがあります。



① 荷物固定用リング

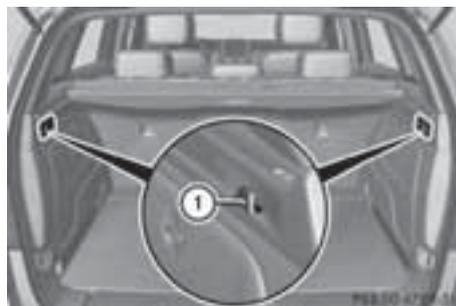
バッグフック

⚠ 警告

バッグフックには軽い荷物のみを掛けてください。重い物やとがった物、壊れやすい物を運搬するために使用しないでください。急ブレーキや急な進路変更のとき、事故のときなどにバッグフックは十分に荷物を固定できません。お客様や他の方がけがをするおそれがあります。

- ❗ バッグホルダーは、約 3kg までの荷重に耐えることができます。荷物を固定するために使用しないでください。

バッグホルダーはラゲッジルームのそれぞれの側面にひとつずつあります。



① バッグフック

ラゲッジルームカバー

重要な安全上の注意

⚠ 警告

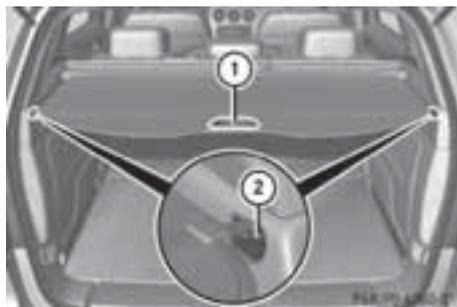
ラゲッジルームカバーは安全装備ではありません。ラゲッジルームカバー下の荷物は適切な方法で固定してください。ラゲッジルームカバーが確実に固定されていることを確認してください。荷物が十分に固定されていないと、急ブレーキや急な進路変更のとき、事故のときなどに荷物がバックレストを越えて車室内に投げ出されるおそれがあります。事故の原因になったり、お客様や他の方がけがの原因になるおそれがあります。

! 車両に積載するときには、ラゲッジルームの荷物が左右ウインドウの下端よりも高く積み上がっていないことを確認してください。ラゲッジルームカバーの上に重いものを載せないでください。

! ラゲッジルームカバーを脱着するときは、ラゲッジルームカバーの端部で車内を傷つけないようにしてください。

ラゲッジルームカバーは、リアシートのバックレストの背面にあります。

ラゲッジルームカバーの展開と収納



- ▶ **展開する**：グリップ①を持ち、ラゲッジルームカバーを後方に引き、左右の固定部②に掛けます。
- ▶ **収納する**：グリップ①を持ち、左右の固定部②からラゲッジルームカバーを外し、完全に収納されるまで前方にスライドさせます。

ラゲッジルームカバーの脱着



- ▶ **取り外す**：ラゲッジルームカバーが巻き取られていることを確認します。
- ▶ グリップ③を使用して、左または右にあるラゲッジルームカバー①の端部のキャップを矢印の方向に押しします。
- ▶ ラゲッジルームカバー①を反対の固定部②に押し込みます。
- ▶ ラゲッジルームカバー①を上方に取り外します。
- ▶ **取り付ける**：右または左側の固定部②にラゲッジルームカバー①を合わせます。
- ▶ ラゲッジルームカバー①の反対側の端部のキャップを矢印の方向に押し込み、ラゲッジルームカバー①を反対側の固定部②に差し込みます。

セーフティネット

重要な安全上の注意

⚠ 警告

セーフティネットは重い荷物を固定することはできません。そのため、荷物は常に固定してください。

さもないと、急ブレーキや急な進路変更、事故のときに、十分に固定されずに周囲に投げ出された物により、お客様や他の方がけがをするおそれがあります。

⚠ 警告

急ブレーキや急な進路変更、事故のときには、軽い荷物が投げ出されるおそれがあります。

この結果、お客様や他の方のけがにつながる可能性があります。

そのため、軽い荷物を運搬するときには、セーフティネットを使用してください。

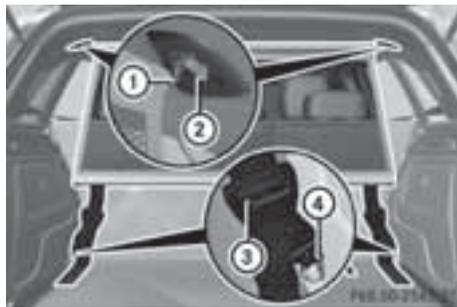
セーフティネットはラゲッジフロアボード下の小物入れにあります。

- ▶ 両方のベルクロテープを外し、セーフティネットを取り出します。
- ▶ セーフティネットをほどいて、広げます。

上部および下部のガイドロッドの接続部を、固定される音が聞こえるまでロックします。

セーフティネットの締め付けに対応する固定用リングはラゲッジルームにあります (▶277 ページ)。

セーフティネットの装着と締め付け



- ▶ **取り付けて締める**：ガイドロッド ① を固定部 ② に差し込みます。
- ▶ ベルトのフック ④ を荷物固定用リングに取り付け、セーフティネットが張るまで固定用ストラップの結ばれていない端部を下に引きます。
- ▶ 短距離を走行した後に、セーフティネットの張りを点検し、必要であれば再度締め付けます。
- ▶ **緩めて取り外す**：ベルトのバックル ③ を上に引き、固定用ストラップの張りを減らします。
- ▶ ベルトのフック ④ を荷物固定用リングから外します。
- ▶ ガイドロッド ① を固定部 ② から外します。
- ▶ **収納する**：上部および下部のガイドロッドの赤いボタンを押します。
- ▶ セーフティネットをたたみ、巻き上げます。
- ▶ セーフティネットホルダーの2つのベルクロテープをつなげます。

ラゲッジフロアボード下の小物入れ

重要な安全上の注意

⚠ 警告

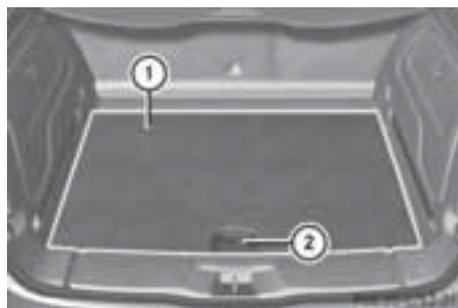
ラゲッジフロアボード下の小物入れで物を運搬するときは常に、ラゲッジフロアボードを閉じてください。

さもないと、急ブレーキや急な進路変更、事故のときに周囲に投げ出された物により、お客様や他の方がけがをするおそれがあります。

! ラゲッジフロアボード下の小物入れの最大積載量は約 25kg です。

ラゲッジフロアボードの開閉

ラゲッジフロアボードの下は、タイヤフィット、折りたたみ式収納ボックス、車載工具などの収納スペースがあります。



- ▶ **開く**：テールゲートを開きます。
- ▶ いっぱいまでハンドル②を引きます。
- ▶ ハンドル②を使用して、ラゲッジフロアボードを引き上げます。



- ▶ ラゲッジフロアボード裏側にあるフック③を引き出します。



- ▶ フック③をラゲッジルーム上部のシール部④に掛けます。
- ▶ **閉じる**：シール部④からフック③を外します。
- ▶ フック③をラゲッジフロアボード裏側にある固定部に取り付けます。
- ▶ ラゲッジフロアボードを下げます。
- ▶ ロックするまで、ラゲッジフロアボードを押し込みます。

EASY-VARIO PLUS (ラゲッジフロアボード調整 (2段階)) の高さの調整

ラゲッジフロアボード下の小物入れは、必要に応じて容量を増やしたり、減らすことができます。このために、フロアを2つの異なる高さでロックすることができます。上部の位置により、リアシートを前方に倒したときに平坦な積載面を得ることができます。



- ▶ **上げる**：ハンドル①を使用してラゲッジフロアボード②を矢印③の方向に上げ、上方にすばやく引きます。
- ▶ 再度ラゲッジフロアボード②を下げます。このためには、上の高さのガイドにロックされるようにラゲッジフロアボードを押しします。
ラゲッジフロアボード②が高い位置でロックされます。
- ▶ **下げる**：ハンドル①を使用してラゲッジフロアボード②を手前に軽く引きます。
- ▶ 再度ラゲッジフロアボード②をゆっくり下げます。そのようにしながら、ラゲッジフロアボードを下の高さに押し込みます。
ラゲッジフロアボード②が低い位置でロックされます。

ルーフキャリア

重要な安全上の注意

⚠ 警告

不適切に固定されたルーフキャリアやスキーラック、または荷物は、車両から脱落するおそれがあります。これらのものは周囲に投げ出され、お客様や他の方がけがをしたり、事故の原因になるおそれがあります。ルーフキャリアやスキーラックの製造者の装着指示や使用のための特別な指示に従ってください。

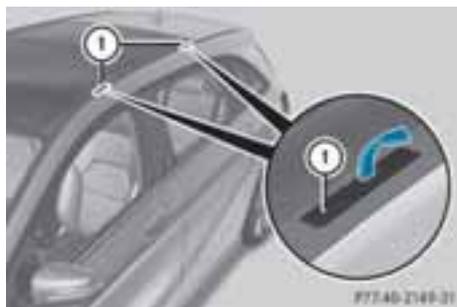
ルーフの荷物は車両の重心を上げ、そのため車両の操縦性に影響を与えます。常にルーフの最大積載量(約75kg)を遵守してください。常にそのときの道路、交通や天候状況にお客様の運転スタイルを合わせ、ルーフに荷物を積んでいるときは、特に注意して走行してください。

- ❗ **メルセデス・ベンツ車のためにテストされ、承認されたルーフキャリアのみを使用することをお勧めします。**これにより、車両の損傷を防ぎます。

走行時に車両が損傷しないような方法で、ルーフの上に荷物を配置してください。

ルーフキャリアを装着しているときにパノラミックスライディングルーフを完全に上げることができること、またテールゲートを完全に開くことができることを確認してください。

ルーフキャリアの装着



- ▶ カバー①を注意しながら矢印の方向に開きます。
- ▶ カバー①を上方に開きます。
- ▶ カバー①内部の固定部にルーフキャリアを固定します。
- ▶ メーカーの装着指示に従ってください。

室内装備

カップホルダー

重要な安全上の注意

⚠ 警告

車両が動いているときは、カップホルダーには何も置かないでください。さもないと、以下のときに周囲に投げ出された物により乗員がけがをするおそれがあります。

- 急ブレーキ時
- 急な進路変更時
- 事故に巻き込まれたとき

カップホルダーには適切なサイズかつフタ付きの容器のみを使用してください。さもないと、飲み物がこぼれるおそれがあります。

カップホルダーで熱い飲み物を使用しないでください。火傷をするおそれがあります。

⚠ 警告

小物入れには、重かったり角が尖っている、または壊れやすいボトルを入れないでください。

事故のとき、小物入れは適切にボトルを固定することができません。お客様や他の方がけがをするおそれがあります。

ドアの小物入れには、以下のボトルのためのスペースがあります。

- フロント：容量約 1.5 ℓまで
- リア：容量約 0.5 ℓまで

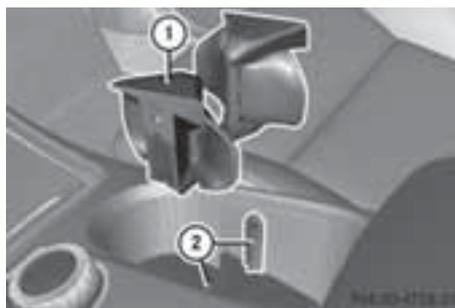
ボトルは固定されていないだけでなく、倒れることを防ぐこともできません。そのため、小物入れには開封した飲み物の容器を置かないください。

フロントセンターコンソールのカップホルダー

カップホルダーと下部のラバーマットは、取り外して清掃することができます。清潔なぬるま湯でのみ清掃を行なってください。



- ▶ **取り外す**：運転席側および助手側のカップホルダー①の上部を、ロックが解除されるまで注意しながら寄せます。
- ▶ カップホルダーを上方②に持ち上げて取り外します。



- ▶ **取り付ける**：小物入れ左右のカーブ部分②にカップホルダーを差し込みます。カップホルダー①上部の尖った部分が前方を向くように、カップホルダーを差し込みます。
- ▶ 左側および右側で固定されるまでカップホルダーを下方に押しします。

リアシートのアームレストのカップホルダー

- ❗ 損傷するおそれがあるため、リアシートのアームレストが引き出されているときは、アームレストに座ったり、体重をかけないでください。
- ❗ リアシートのアームレストを上方に収納する前に、カップホルダーを収納してください。さもないと、カップホルダーを損傷するおそれがあります。



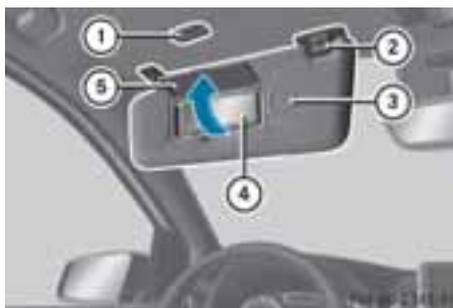
- ▶ リアシートのアームレストを引き出します。
- ▶ **開く**：カップホルダー ① または ② の前部を押します。
カップホルダー ① または ② が自動的に展開します。
- ▶ **閉じる**：ロックするまでカップホルダーを後ろにスライドさせます。

サンバイザー

はじめに

警告

走行中はサンバイザーのバニティミラーカバーを閉じてください。さもないと、眩惑されて交通状況の視認性が損なわれ、その結果事故の原因になります。



- ① ミラー照明
- ② フック
- ③ 駐車チケットなどのためのクリップ
- ④ バニティミラー
- ⑤ ミラーカバー

サンバイザーのバニティミラー

ミラーの照明 ① はサンバイザーがフック ② にかかっているときにのみ点灯します。

横方向からの眩しさ

- ▶ サンバイザーを下げます。
- ▶ サンバイザーをフック ② から外します。
- ▶ サンバイザーを横にまわします。
- ▶ **ミラー照明装備車**：好みに応じて、サンバイザーを水平にスライドさせます。

灰皿

フロントセンターコンソールの灰皿

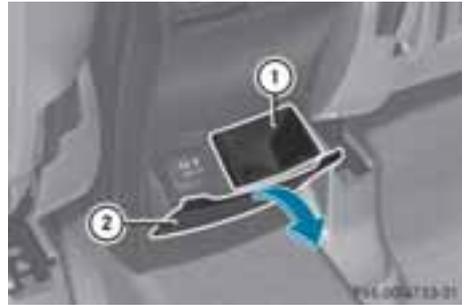
! 灰皿下部の収納スペースには耐熱性がありません。火がついたたばこを灰皿に置く前に、灰皿が確実に固定されていることを確認してください。さもないと、収納スペースを損傷するおそれがあります。



小物入れにカバーがある車両の例

- ▶ **開く**：カバー ① の下部を押します。カバーが開きます。
 - ▶ **灰皿を取り外す**：灰皿 ③ を上げて ②、取り出します。
 - ▶ **灰皿を再度取り付ける**：固定されるまで、灰皿 ③ をホルダーに押し込みます。
- i** 灰皿を取り外すと、小物入れとして使用することができます。

後席センターコンソールの灰皿



- ▶ **開く**：上端を持ってカバー ② を引き出します。
- ▶ **灰皿を取り外す**：停止する位置を越えて、灰皿 ① を引き出します。
- ▶ **灰皿を再度取り付ける**：上方からホルダーに灰皿 ① を合わせ、固定するまでホルダーに押し込みます。

ライター

! 警告

熱くなったライターはノブのみを持ってください。さもないと、火傷をするおそれがあります。

乗車している子供が熱くなったライターで火傷をしないよう、または火災の原因にならないように注意してください。



小物入れにカバーがある車両の例

- ▶ イグニッション位置を **2** の位置にします。
- ▶ **開く**：カバー **①** の下部を押します。灰皿が開きます。
- ▶ ライター **②** を押します。
熱くなる部分が赤く熱くなると、ライター **②** は自動的にポップアウトします。

12V 電源ソケット

使用する際の注意点

- ▶ イグニッション位置を **1** または **2** の位置にします。

ソケットは最大消費電力 180W (15A) のアクセサリーに使用できます。アクセサリーには、照明や携帯電話の充電器のような機器が含まれます。

エンジンが停止しているときに、ソケットを長時間使用すると、バッテリーが放電することがあります。

i 緊急遮断により、バッテリー電圧の過度の低下を防ぎます。バッテリー電圧が過度に低下したときは、12V 電源ソケットへの電力が自動的に遮断されます。これにより、エンジン始動用の十分な電力が確保されます。

フロントセンターコンソールのソケット



小物入れにカバーがある車両の例

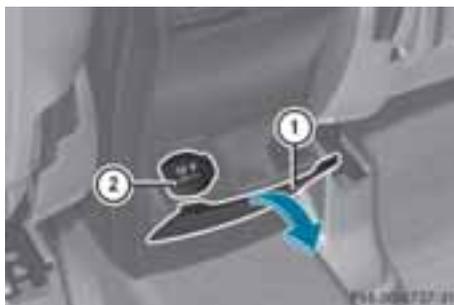
- ▶ **開く**：カバー **①** の下部を押します。小物入れが開きます。
- ▶ ソケットのカバー **②** を上げます。



小物入れにカバーがない車両の例

- ▶ ソケットのカバー **①** を上げます。

後席センターコンソールのソケット



- ▶ 上端を持ってカバー①を引き出します。
- ▶ ソケットのカバー②を上げます。

ラゲッジルームのソケット



- ▶ ソケットのカバー①を上げます。

携帯電話

重要な安全上の注意

警告

走行中は携帯電話を操作しないでください。さもないと、交通状況から注意がそれ、事故やお客様または他の方がけがをするおそれがあります。

適合している携帯電話や COMAND システムへの Bluetooth® 対応携帯電話の接続について、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

- ① 車両に装着できる携帯電話ブラケットにはさまざまな種類があります。
- ① 電話を使用するときの機能やサービスは、お客様の携帯電話の機種やサービスプロバイダーにより異なります。

携帯電話の差し込み

- ▶ 携帯電話ケースを開きます (▶270 ページ)。
- ▶ あらかじめ装着されている装着部に携帯電話ブラケットを差し込みます。

携帯電話が携帯電話ブラケットに差し込まれた場合は、ハンズフリーシステムを使用して発信した人と会話することができます。

- ① いくつかの携帯電話ブラケットでは、最初に Bluetooth® 経由で携帯電話ブラケットに携帯電話を接続しなければなりません。

この場合は、電話機能を使用可能にするために携帯電話ブラケットに携帯電話を差し込む必要はありません。ただし、充電機能とアンテナ機能は使用できません。

携帯電話の操作



- ▶ **ブラケットを持ち上げる**：ボタン①を押します。
- ▶ **ブラケットを下げる**：ブラケットを下に押し、ロックさせます。

ブラケットの下にある小物入れへのアクセスを容易にするため、あらかじめ装着されているブラケットを持ち上げることができます。車両の装備により、小物入れ内には USB 端子および AUX 入力端子 / メディアインターフェースが装備されています (▶270 ページ)。

ステアリングの  および  スイッチを使用して電話を操作することができます。マルチファンクションディスプレイ経由で携帯電話の他の機能を操作することができます (▶226 ページ)。

エンジンスイッチからキーを抜いた場合、携帯電話はそのままになりますが、ハンズフリーシステムは使用できなくなります。

通話を行なっていて、エンジンスイッチからキーを抜きたい場合は、最初に携帯電話ブラケットから携帯電話を取り外してください。さもないと、通話が終了します。

i 携帯電話ブラケットが Bluetooth® 経由で携帯電話に接続された状態で、"プライベートモード"での通話を続けたいときは、携帯電話で必要となる手順を実行しなければなりません (携帯電話の操作指示をご覧ください)。

運転席側フロアマット

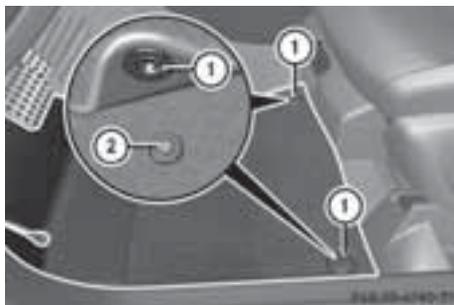
警告

運転席のフロアマットを使用するときは、ペダル周囲に十分な空間があり、フロアマットが確実に固定されていることを確認してください。

フロアマットは常に、ノブと固定部を使用して確実に固定してください。

走行前にフロアマットを点検し、必要であれば固定してください。確実に固定されていないフロアマットは滑るおそれがあり、そのためペダルの動きを妨げるおそれがあります。

フロアマットを重ねて使用しないでください。



- ▶ シートを後方にスライドします。
- ▶ **取り付ける**：足元にフロアマットを敷きます。

- ▶ ノブ①を固定部②に押し込みます。
- ▶ **取り外す:**固定部②からフロアマットを引き上げます。
- ▶ フロアマットを取り外します。

反射防止フィルムの装着

ウインドウの内側に装着した反射防止フィルムは、ラジオや携帯電話の受信を妨げることがあります。これは特に、伝導性があり、または金属コートが施されているフィルムの場合がそうです。反射防止フィルムに関しては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

役に立つ情報	292
エンジンルーム	292
メンテナンス	297
日常の手入れ	298

役に立つ情報

i この取扱説明書では、本書の発行時点で車両に装着可能な、すべての標準およびオプション装備について記載しています。ただし、国により仕様が異なるため、本書に記載されているすべての機能が、お客様の車両に当てはまらない場合があることにご留意ください。このことは、安全に関する装備や機能にも当てはまります。

エンジンルーム

ボンネット

ボンネットを開く

 警告

走行中はボンネットロック解除レバーを引かないでください。ボンネットが開いて、視界が遮られるおそれがあります。

 警告

エンジンがかかっていないときでも、ボンネットが開いているとけがの危険性があります。

いくつかのエンジン構成部品が高温になっているおそれがあります。

火傷の危険性を避けるため、取扱説明書に記載されている構成部品にのみ触れ、関連する安全に関する注意事項を守ってください。

 警告

ラジエーターとエンジンの間にあるラジエーターファンは、エンジンスイッチからキーを抜いてあるときでも自動的に作動するおそれがあります。この理由により、ファンの回転範囲には手を伸ばさないでください。

 警告

電子式イグニッションシステムは高電圧を使用しています。この理由により、以下の間は、イグニッションシステムの構成部品（イグニッションコイル、イグニッションケーブル、点火プラグコネクター、またはテストソケット）に触れないでください。

- エンジンがかかっている
- エンジンを始動している

さもないと、感電したり、重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。

 警告

フロントワイパーやワイパーの作動部品が動き出すおそれがあります。

ボンネットを開くときは、お客様や他の方がワイパーの作動部品でけがをするおそれがあります。

ボンネットを開く前に、ワイパーが停止していて、エンジンスイッチからキーが抜かれていることを確認してください。

! フロントワイパーがフロントウインドウから起きていないことを確認してください。さもないと、フロントワイパーやボンネットを損傷するおそれがあります。



- ▶ フロントワイパーが停止していることを確認します。
- ▶ ボンネットロック解除レバー①を引きます。
ボンネットのロックが解除されます。



- ▶ ボンネットとラジエターグリルの間のすき間に手を入れ、ロック解除ノブ②を左側に押しします。
- ▶ ボンネットを上げます。



- ▶ フック⑤からアーム④を引いて外します。
- ▶ アーム④を上げて、黄色の固定クリップ③に差し込みます。

ボンネットを閉じる

警告

ボンネットを閉じるときに、挟まれおそれのある人がいないことを確認してください。

- ▶ ボンネットを少し上げ、同時に黄色の固定クリップ③からアーム④を外します。
- ▶ アーム④を下げ、固定するまでフック⑤に押し込みます。
- ▶ ボンネットを下げ、約 20cm の高さから落とします。
- ▶ ボンネットが確実に固定していることを確認します。

ボンネットが少し上がっているときは、確実に固定していません。ボンネットを押して閉じないでください。ボンネットを再度開き、少し強めに閉じます。

エンジンオイル

エンジンオイル量に関する注意

運転スタイルより、1,000kmにつき最大で約0.8リットルのエンジンオイルが消費されます。新車時やエンジンを高回転にして頻繁に運転しているときは、エンジンオイル消費量はこれより多くなることがあります。

エンジンオイル量を点検するときは、以下の点に注意してください。

- 水平な場所に停車します。
- エンジンが通常の作動温度のときは、エンジンを約5分停止します。
- エンジンを短時間のみかけたときなど、通常の作動温度でないときは、測定を行なう前に約30分間待ちます。

エンジンオイルレベルゲージを使用し てのオイル量の点検



- ▶ エンジンオイルレベルゲージ ① をオイルレベルゲージチューブから抜き取ります。
- ▶ オイルレベルゲージ ① を拭きます。

▶ オイルレベルゲージ ① をオイルレベルゲージチューブに停止するまでゆっくり差し込み、再度抜き取ります。

レベルが MIN マーク ③ と MAX マーク ② の間にあれば、エンジンオイル量は正常です。

▶ エンジンオイルレベルが MIN マーク ③ かそれ以下のときは、約 0.5 ~ 1 リットルのエンジンオイルを補給します。

エンジンオイルを補給する

⚠ 警告

エンジンオイルが熱くなったエンジン部品に触れると、発火して火傷をすることおそれがあります。エンジンオイルを熱くなったエンジン部品にこぼさないでください。

🌱 環境

エンジンオイルを補給するときは、こぼさないように注意してください。エンジンオイルが地面や排水溝に流れると、環境に悪影響を与えます。

❗ 車両の点検整備用として承認された、エンジンオイルとオイルフィルターののみを使用してください。メルセデス・ベンツによりテストされ、承認されたエンジンオイルやオイルフィルターについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

以下のことが、エンジンや排気システムの損傷の原因になります。

- 点検整備用として承認されていないエンジンオイルとオイルフィルターを使用すること
- 点検整備により要求されている交換時期を過ぎてからエンジンオイルとオイルフィルターを交換すること
- エンジンオイルに添加剤を入れること

! エンジンオイルを補給しすぎないでください。エンジンオイルの過度の補給は、エンジンや触媒コンバーターの損傷につながるおそれがあります。エンジンオイルを抜いてください。



エンジンオイルフィルターキャップの例

- ▶ エンジンオイルフィルターキャップ①を反時計回りにまわして取り外します。
- ▶ エンジンオイルを補給します。
オイルレベルがエンジンオイルレベルゲージのMINマークかそれ以下のときは、エンジンオイルを約0.5～1リットル補給します。

- ▶ キャップ①を補給口に合わせ、時計回りにいっぱいにまわします。

キャップが確実にロックされていることを確認します。

- ▶ エンジンオイルレベルゲージで、オイルレベルを再度点検します。

エンジンオイルについては（▷338ページ）をご覧ください。

他のサービス用品の点検と補給

冷却水の量の点検

警告

冷却システムには圧力がかかっています。そのため、エンジンが冷えてからのみ、キャップをゆるめてください。冷却水温度表示が40℃以下でなければなりません。さもないと、高温に冷却水が吹き出して、火傷をするおそれがあります。

- !** 冷却水は、エンジンが冷えているとき（冷却水温度が約40℃以下）のみに量の点検と補給を行なわなければなりません。冷却水温度が約40℃以上のときに冷却水量の点検を行なうと、エンジンやエンジン冷却システムの損傷につながるおそれがあります。



- ▶ 水平な場所に車を停めます。

冷却水量の点検は、水平な場所に停車して、エンジンが冷えているときにのみ行なってください。

- ▶ イグニッション位置を **2** にします。
- ▶ メーターパネルのエンジン冷却水温度計を点検します。

冷却水温度が約 40℃ 以下になっていなければなりません。

- ▶ イグニッション位置を **0** にします。
- ▶ キャップ **①** を反時計回りにゆっくり約 1/2 回転までまわして、圧力を抜きます。
- ▶ キャップ **①** をさらに反時計回りにまわして取り外します。

冷えているときに、補充口のマーカークバー **③** の高さであれば、リザーブタンク **③** に十分な冷却水があります。

- ▶ 必要であれば、メルセデス・ベンツによりテストされ、承認された冷却水を補給します。
- ▶ キャップ **②** を合わせ、いっぱいまで時計回りにまわします。

冷却水について、詳しくは (▷358 ページ) をご覧ください。

フロントウインドウウォッシャー / ヘッドライトウォッシャーの補給

⚠ 警告

ウォッシャー液は高い可燃性です。発火し、燃焼するおそれがあるため、熱くなったエンジン構成部品にウォッシャー液をこぼさないでください。重大な火災につながるおそれがあります



- ▶ **開く**：タブを持ってキャップ **①** を上に引きます。
- ▶ 水と適正な混合比に混ぜたウォッシャー液を補給します。
- ▶ **閉じる**：固定するまでキャップ **①** を補給口に押し込みます。

リザーブタンクは、ウインドウウォッシャーとヘッドライトウォッシャー両方に使用されています。

ウォッシャー液について、詳しくは (▷358 ページ) をご覧ください。

メンテナンス

メンテナンスインジケータ

メンテナンスメッセージを消去する

メンテナンスインジケータは、次のメーカー指定点検整備の時期を知らせます。

マルチファンクションディスプレイに以下のようなメッセージが数秒間表示されます。

次のメンテナンス A まで あと XX 日です

メンテナンス A 期限が切れます

メンテナンス A 超過しました - XX 日です

文字はいずれの点検整備が予定されているかを示しています。A は小規模や点検整備を、B は大規模な点検整備を表しています。文字の後に、数字または他の文字が表示されることがあります。この数字は実施すべき他の必要な点検整備作業を示しています。

ただし、日本では法定点検があるため、これらの範囲と法定点検の範囲は異なります。

点検整備の種類や点検整備のインターバルについては、別冊の整備手帳をご覧ください。

メンテナンスインジケータは、バッテリーの接続を外している期間には考慮に入れません。

期日に応じたメーカー指定点検整備時期を維持するには、以下を行いません。

- ▶ バッテリーの接続を外す前に、マルチファンクションディスプレイに表示されている点検整備時期を書き留めます。

または

- ▶ バッテリーを再接続した後に、マルチファンクションディスプレイに表示されている点検整備時期からバッテリーの接続を外していた期間を差し引きます。

- i** メンテナンスインジケータは、エンジンオイル量に関する情報は表示しません。エンジンオイルについての注意事項は (▷294 ページ) をご覧ください。

メンテナンスメッセージを消去する

- ▶ ステアリングの  または **[OK]** スイッチを押します。

メンテナンスメッセージを表示させる

- ▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。
- ▶ ステアリングの  か  スイッチを押して、マルチファンクションディスプレイのメインメニューから **メンテナンス** を選択します。
- ▶ ステアリングの  か  スイッチを押して、**メンテナンス** を選択し、**[OK]** スイッチを押して確定します。

マルチファンクションディスプレイにメーカー指定点検整備時期が表示されます。

注意点

メンテナンスインジケーターのリセット

メーカー指定点検整備の実施後に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場メンテナンスインジケーターをリセットしてください。

リセット後、次回メーカー指定点検整備までの基本サイクルは、走行距離では15,000km、日数では365日に設定されます。いずれか先に達する距離または時期を次回のメーカー指定点検整備時期として表示します。

! メンテナンスインジケーターが不意にリセットされた場合は、この設定をメルセデス・ベンツ指定サービス工場で修正ください。

点検整備作業は、整備手帳に記載されているように実施してください。さもないと、車両の主要部品の摩耗の増加や損傷につながる可能性があります。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場は、点検整備作業が実施された後にメンテナンスインジケーターをリセットします。

点検整備作業に関する詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

日常の手入れ

手入れに関する注意事項

☉ 環境

空の容器や汚れた布は、環境に配慮した方法で廃棄してください。

! 車の手入れをするときは、以下のものを使用しないでください。

- 乾いた布や目の粗い布、かたい布など
- 研磨剤を含むクリーナー
- 有機溶剤
- 有機溶剤を含むクリーナー

強くこすらないでください。

指輪やアイススクレーパーなどのかたい物で塗装面や保護フィルムなどに触れないでください。さもないと、塗装面や保護フィルムなどを損傷したり、こすり傷が付くおそれがあります。

! 洗車してそのままの状態、特にホイールクリーナーでホイールを清掃したときは、長期間車を駐車したままにしないでください。ホイールクリーナーはブレーキディスクやブレーキパッド / ライニングの腐食の原因になります。この理由により、洗車した後にしばらく走行してください。ブレーキ操作でブレーキディスクやブレーキパッド / ライニングを温め、乾燥させることができます。その後には駐車してください。

定期的な車の手入れにより、長い期間に渡って品質を保つことができます。

メルセデス・ベンツが推奨し、承認した用品およびクリーナーを使用してください。

外装の手入れ

自動洗車機の使用

警告

洗車した後は、ブレーキの効きが悪くなる場合があります。事故の原因になる場合があります。この理由により、洗車した後はブレーキが乾くまで、特に注意して走行してください。

警告

ホールド機能やディストロニック・プラスが作動しているときは車両にブレーキが効いています。そのため、自動洗車機で洗車する前に、ホールド機能やディストロニック・プラスを解除してください。

! 自走式の自動洗車機で洗車するときは、オートマチックトランスミッションのシフトポジションが **N** になっていることを確認してください。トランスミッションが他のポジションになっていると、車を損傷するおそれがあります。

! 以下の点を確認してください。

- サイドウィンドウとパノラミックスライディングルーフが完全に閉じていること
- 送風が停止していること（エアコンディショナーは送風量調整ダイヤルが **0** の位置になっている / クライメートコントロールは OFF スイッチが押されている）
- ワイパースイッチが **0** の位置になっていること

車両を損傷するおそれがあります。

新車時から自動洗車機で洗車することができます。

自動洗車機で洗車する前に、余分な汚れを洗い流してください。

自動洗車機を使用した後は、フロントウィンドウやワイパーブレードからワックスを拭き取ってください。これにより、フロントウィンドウの残留物による汚れを防ぎ、ワイパーノイズを低減させます。

手洗いによる洗車

- ▶ 熱湯を使用せず、直射日光下では洗車をしないでください。
- ▶ 柔らかいスポンジで洗車してください。
- ▶ 水にカーシャンプーなどを混ぜた洗浄液を使用してください。
- ▶ 低圧の水流で車体全体に水をかけます。
- ▶ 吸気口に向けて直接水流を当てないでください。

- ▶ 十分な量の水を使用して、スポンジで洗い流します。
- ▶ きれいな水で洗い流し、セーム皮などで水滴を拭き取ります。
- ▶ 塗装面に洗浄液がある状態で乾かないでください。

冬季に車両を使用したときは、すみやかに凍結防止剤を丁寧に取り除いてください。

高圧式スプレーガンの使用

警告

高圧式スプレーガンのノズルをタイヤに向けしないでください。水圧が高いため、タイヤを損傷するおそれがあります。

- ▶ **!** 車両と高圧式スプレーガンのノズル間には、常に最低でも 30cm の間隔を確保してください。

高圧式スプレーガンのノズルは円を描くように動かしてください。

高圧式スプレーガンのノズルを直接、以下の物に向けしないでください。

- タイヤ
- ドア接合面、ルーフ接合面、ジョイントなど
- 電気装備
- バッテリー
- コネクター
- ライト
- シール部
- トリム部品
- 吸気口

シール部や電気装備や塗装面が損傷することにより、車内への水の浸入や故障につながります。

ホイールの清掃

- ▶ **!** ホイールには酸性のホイールクリーナーを使用しないでください。ホイールやホイールボルト、ブレーキ構成部品を損傷するおそれがあります。

- ▶ **!** ホイールクリーナーなどでホイールを清掃した後にそのまま放置しないでください。ブレーキディスクやブレーキパッド / ライニングなどが腐食するおそれがあります。この理由により、清掃後は数分間走行し、ブレーキディスクとブレーキパッド / ライニングを温めて乾燥させてください。その後、車を駐車してください。

塗装面の清掃

- ▶ **!** 塗装面に以下のものを貼付しないでください。

- ステッカー
- フィルム
- マグネットや類似の物

塗装面を損傷するおそれがあります。

- ▶ 不純物は、強くこすることなく、ただちに取り除いてください。
- ▶ 虫の死がいにはインセクトリムーバーで取り除き、周囲をよく洗い流してください。

- ▶ 鳥のふんは水で落とし、周囲をよく洗い流してください。
- ▶ 油脂類、樹液、オイル、燃料、グリースなどは、ベンジンまたはライター用オイルを染み込ませた布で軽くふいてください。
- ▶ タールはタールリムーバーで取り除いてください。
- ▶ ワックスはシリコンリムーバーで取り除いてください。

以下のものは完全に修復することはできません。

- 引っかき傷
- 腐食残留物
- 腐食作用を受けた範囲
- 不適切な取り扱いが原因の損傷

メルセデス・ベンツ指定サービス工場
で補修を行なってください。

マットペイント塗装車の取り扱い

! 車体またはホイールを磨かないでください。磨くことにより、塗装面に光沢が出ます。

! 以下のことは塗装面に光沢を持たせたり、マット塗装の質感を損なわせるおそれがあります。

- 不適切な素材で力強くこすること
- 頻繁に洗車を行なうこと
- 直射日光下で洗車を行なうこと

! 塗装クリーナー、磨き布または研磨剤、またはワックスなどの光沢剤を使用しないでください。これらの製品は高い光沢の表面にのみ適しています。マット仕上げの車両にこれらを使用すると、表面の著しい損傷（光沢、まだら）につながります。塗装の修復は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

! いかなる状況でもホットワックス仕上げの洗車コースを使用しないでください。

マットペイント塗装車では、これらの注意事項を守ってください。不適切な取り扱いによる塗装面の損傷を防ぐ助けになります。

マットペイント塗装されたホイールについても、同様の手入れを行なってください。

i 洗車は、柔らかいスポンジとカーシャンプー、十分な水で、手洗いで行なうことをおすすめします。

i インセクトリムーバーやカーシャンプーは、メルセデス・ベンツにより推奨され、承認された製品のみを使用してください。

ウインドウの清掃

警告

フロントウインドウやワイパーブレードを清掃する前に、フロントワイパーを停止し、エンジンスイッチからキーを抜いてください。さもないと、ワイパーが作動してけがをするおそれがあります。

! フロントウインドウからワイパーを起こすときは、ボンネットやフロントウインドウを損傷しないように注意してください。

! ウインドウの内側を清掃するときは、乾いた布や研磨剤、有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。アイススクレーパーや指輪などのかたい物でウインドウの内側に触れないでください。さもないと、ウインドウを損傷する危険性があります。

! フロントウインドウおよびリアウインドウの排水口を定期的に清掃してください。特定の状況で、葉、花およびほこりなどの残留物が排水を妨げることがあります。これにより、腐食による損傷や電気装備の損傷につながるおそれがあります。

▶ ウインドウの外側と内側を水で湿らせた柔らかい布で清掃してください。

ワイパーブレードの清掃

警告

フロントウインドウやワイパーブレードを清掃する前に、フロントワイパーを停止し、エンジンスイッチからキーを抜いてください。さもないと、ワイパーが作動してけがをするおそれがあります。

! フロントウインドウからワイパーを起こすときは、ボンネットやフロントウインドウを損傷しないように注意してください。

! ワイパーブレードを引っ張らないでください。さもないと、ワイパーブレードを損傷するおそれがあります。

! ワイパーブレードの清掃を頻繁に行なったり、強くこすらないでください。さもないと、表面のコーティングが損傷するおそれがあります。これは異音の原因になります。

▶ フロントウインドウからワイパーアームを起こします。

▶ ワイパーブレードを、湿らせた柔らかい布で軽く拭きます。

▶ イグニッション位置を **1** や **2** にする前に、ワイパーアームを元の位置に戻します。

! ワイパーアームを元の位置に戻すときは、ワイパーアームをしっかり持ってください。ワイパーアームがフロントウインドウにぶつかると、フロントウインドウを損傷するおそれがあります。

ライト類の清掃

! ライト類の清掃には、樹脂製レンズに適したクリーナーと布を使用してください。有機溶剤や強アルカリ洗剤などを使用したり、乾いた布などで強くこすらないでください。

▶ 湿らせたスポンジとカーシャンプーを混ぜた洗浄液、または清潔な柔らかい布でライト類の樹脂製レンズを清掃します。

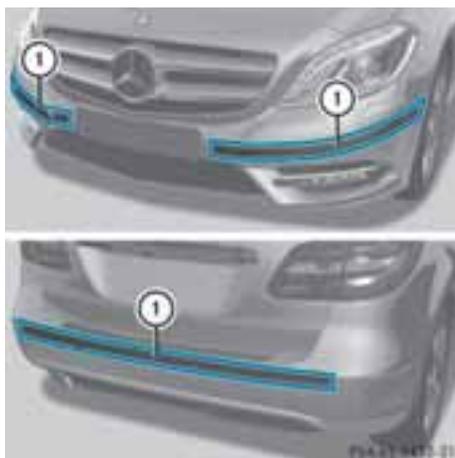
ドアミラー方向指示灯の清掃

! ドアミラー方向指示灯の清掃には、樹脂製レンズに適したクリーナーと布を使用してください。有機溶剤や強アルカリ洗剤などを使用したり、乾いた布などで強くこすらないでください。

▶ 湿らせたスポンジとカーシャンプーを混ぜた洗浄液、または清潔な柔らかい布でドアミラー方向指示灯の樹脂製レンズを清掃します。

センサーの清掃

! 高圧式スプレーガンでセンサーを清掃するときは、車両と高圧式スプレーガンとの間に最低でも 30cm の間隔があることを確認してください。適正な間隔についての情報は、用品の製造者から得ることができます。



▶ 流水または水とカーシャンプーを混ぜた洗浄液で走行装備のセンサー①を清掃します。

パーキングアシストリアビューカメラの清掃

! 高圧式スプレーガンで、カメラのレンズやカメラの周辺を清掃しないでください。



▶ きれいな水とやわらかい布を使用して、カメラのレンズ①を清掃してください。

マフラーの清掃

! ホイールクリーナーなど、アルカリ性のクリーナーでマフラーの手入れを行なわないでください。

▶ マフラーの手入れについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

路面の小石や腐食性のある環境物質などの不純物の影響により、マフラーの表面にサビが発生することがあります。冬季や洗車後は特に、定期的にマフラーを手入れすることにより、マフラーの輝きを保ち、また元の輝きを取り戻すことができます。

内装の手入れ

ディスプレイの清掃

! 清掃するときは、以下のものを使用しないでください。

- アルコール分を含んだ溶剤や有機溶剤、燃料
- 研磨剤を含んだクリーナー
- 家庭用クリーナー

ディスプレイ表面を損傷するおそれがあります。清掃するときは、ディスプレイ表面に圧力を加えないでください。ディスプレイに復元不可能な損傷を与えるおそれがあります。

- ▶ ディスプレイを清掃する前に、ディスプレイがオフになっていて、冷えていることを確認してください。
- ▶ 市販の不織布とディスプレイクリーナーを使用して、ディスプレイの表面を拭き取ります。

▶ 乾いた不織布でディスプレイを拭きます。

プラスチックトリムの清掃

警告

エアバッグの収納部分には、スプレー式の車内クリーナーや有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。有機溶剤を含むクリーナーなどで清掃すると、収納部分の表面が劣化し、エアバッグが作動したときにプラスチック部品が損傷して車内に飛散し、重大なけがをするおそれがあります。

! プラスチックトリムに、以下の物を貼付しないでください。

- ステッカー
- フィルム
- 芳香剤のボトルや類似のもの

プラスチックトリムを損傷するおそれがあります。

! プラスチックトリムに、化粧品や防虫剤、日焼け止めなどが付着しないようにしてください。表面の劣化の原因になります。

- ▶ 水で湿らせた不織布で拭き取ります。
- ▶ 頑固な汚れには専用のクリーナーを使用します。

表面の色が一時的に変化しますが、乾くと元に戻ります。

ステアリングおよびセレクターレバーの清掃

- ▶ 水で湿らせた布で全体を拭くか、指定のレザーケア用品を使用してください。

ウッドトリムの清掃

! 有機溶剤を含むクリーナーや研磨剤、ワックスなどは使用しないでください。さもないと、ウッドトリムを損傷するおそれがあります。

- ▶ 水で湿らせた不織布で拭き取ります。
- ▶ 頑固な汚れには専用のクリーナーを使用します。

シート表皮の清掃

! 清掃するときは、以下のことに注意してください。

- 本革の表皮は、湿らせた布で注意して清掃し、その後に乾いた布で表皮を拭き取ります。革が濡れないように注意してください。硬化やひび割れにつながります。承認されたレザーケア用品のみを使用してください。詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。
- 人工皮革の表皮は、1%の洗剤（洗濯液など）を含む溶液で湿らせた布で清掃します。
- 布の表皮は、1%の洗剤（洗濯液など）を含む溶液で湿らせた不織布で清掃します。拭き残さないように、注意深くこすり、シート全体をまんべんなく拭きます。その後、シートを乾燥させます。清掃の効果は、汚れの種類およびどの程度の期間汚れていたかによります。

- アルカンターラ®の表皮は、湿らせた布で清掃します。拭き残さないように、シート全体をまんべんなく拭きます。

! 本革、人工皮革またはアルカンターラ®の表皮の清掃には、不織布を使用しないでください。頻繁に使用すると、表皮を損傷するおそれがあります。

i 定期的な手入れを行なうことにより、表皮の見栄えと快適さを長期間維持することができます。

シートベルトの清掃

! 化学薬品を含むクリーナーを使用しないでください。直射日光に当たったり、80℃以上の温度で乾燥させないでください。

- ▶ めるま湯か薄めた石鹼水を使用して拭き取ります。

ルーファイニングおよびカーペットの清掃

▶ **ルーファイニング**：柔らかいブラシを使用して清掃します。ひどい汚れには、指定のクリーナーを使用します。

▶ **カーペット**：指定のクリーナーを使用して清掃します。

役に立つ情報	308
車載品の収納場所	308
パンクしたとき	310
バッテリー	316
ジャンプスタート	319
けん引およびけん引始動	322
ヒューズ	325

役に立つ情報

i この取扱説明書では、本書の発行時点で車両に装着可能な、すべての標準およびオプション装備について記載しています。ただし、国により仕様が異なるため、本書に記載されているすべての機能が、お客様の車両に当てはまらない場合があることにご留意ください。このことは、安全に関する装備や機能にも当てはまります。

車載品の収納場所

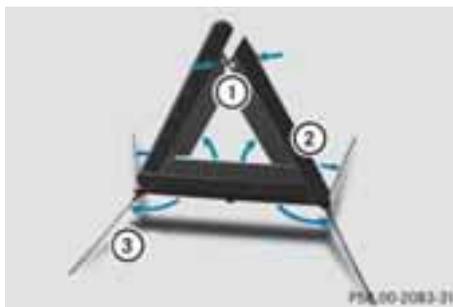
停止表示板

停止表示板の取り外し / 取り付け



- ▶ **取り外す**：テールゲートを開きます。
- ▶ ラゲッジフロアボードを上げます (▷280 ページ)。
- ▶ ブラケットのストッパーを後方に押し、停止表示板 ① を外します。
- ▶ ブラケットから停止表示板 ① を取り外します。
- ▶ **取り付ける**：停止表示板 ① をブラケットに戻して、押し込んで固定します。

停止表示板の組み立て



- ▶ スタンド ③ を引き出して、停止表示板を地面に立てます。
- ▶ 反射板 ② を開いて、先端のフック ① をかみ合わせます。

救急セット



- ▶ テールゲートを開きます。
- ▶ **小物入れを開く**：回転ノブ ① を時計回りにまわして、カバー ② を下方に倒します。



▶ 救急セット①を取り出します。

i 少なくとも1年に1度は救急セットの有効期限を点検してください。必要であれば中身を交換し、無くなった物を交換してください。

車載工具

全体的な注意事項

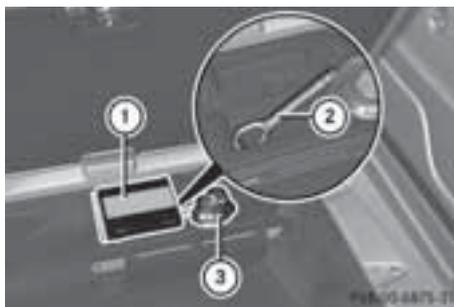
タイヤフィットはラゲッジフロアボード下の収納スペースにあります。

タイヤ交換工具装備車の場合は、タイヤ交換工具はラゲッジフロアボード下の収納スペースにあります。

応急用スペアタイヤ装備車は、「応急用スペアタイヤを取り出す」をご覧ください。

i 車両の装備により、すべての車両にジャッキなどの車輪交換に必要な工具があるわけではありません。

タイヤフィット



① タイヤ充填コンプレッサー

② けん引フック

③ タイヤシール剤ボトル

▶ テールゲートを開きます。

▶ ラゲッジフロアボードを上げます (▷280 ページ)。

i けん引フック②はタイヤ充填コンプレッサー①の下にあります。

タイヤ交換工具キット装備車

▶ テールゲートを開きます。

▶ ラゲッジフロアボードを上げます (▷280 ページ)。

▶ タイヤ交換工具を取り出します。

タイヤ交換工具には以下が含まれます。

- ジャッキ
- ホイールレンチ
- 1組の手袋
- 折りたたみ式輪止め

パンクしたとき

車両の準備

車両には以下のいずれかが装備されています。

- MOExtended タイヤ (ランフラット特性を持つタイヤ) (▷310 ページ)
- タイヤフィット (▷311 ページ)
- 応急用スペアタイヤ(特定の国のみ)

車輪の交換 / 取り付けに関する情報は、「車輪の交換」の項目にあります (▷339 ページ)。

i MOExtended タイヤ装備車では、車両の準備をする必要はありません。

i MOExtended タイヤ装備車は、工場出荷時はタイヤフィットは装備されていません。ウィンタータイヤなど、ランフラット特性を持たないタイヤを装着するときは、タイヤフィットを追加で車両に装備することを推奨します。タイヤフィットはメルセデス・ベンツ指定サービス工場です。

- ▶ 交通からできるだけ離れた、かたくて滑らない、水平な地面に車両を停止します。
- ▶ 非常点滅灯を点滅させます。
- ▶ 電気式パーキングブレーキを手動で効かせます (▷168 ページ)。
- ▶ 前輪を直進の位置にします。
- ▶ DIRECT SELECT レバーを **P** に動かします。
- ▶ エンジンを停止します。
- ▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

- ▶ すべての乗員が車両から出なければなりません。そのときは、彼らに危険がおよばないことを確認してください。
- ▶ 車輪を交換している間は、危険な範囲に誰もいないことを確認してください。車輪交換を直接補助しない人は、バリアの後方に立つなどしてください。
- ▶ 交通状況に注意しながら、車外に出ます。
- ▶ 運転席ドアを閉じます。
- ▶ 車両の後方から離れた適切な場所に停止表示板を置きます (▷308 ページ)。

MOExtended タイヤ (ランフラット特性を持つタイヤ)

 警告

パンクした状態で走行するときは、コーナリングや急加速をしているとき、およびブレーキを効かせているときなどに走行特性が悪化します。事故の危険性があります。

規定された最高速度を越えないでください。急なステアリング操作や運転操作、障害物（縁石、くぼ地、不整地）を乗り越える走行は避けてください。これは特に、荷物を積載している場合に当てはまります。

以下のときは、パンクした状態での走行を中止してください。

- 叩くような異音聞こえる
- 車両が振れ始めている
- 煙が見えたり、ゴムの臭いがする

- 常にESP® が作動する
- タイヤのサイドウォールが破れている

パンクした状態で走行した後は、それ以上使用できるかを確認するために、メルセデス・ベンツ指定サービス工場ホイールリムを点検してください。不具合のあるタイヤは交換しなければなりません。

MOExtended タイヤ（ランフラット特性を持つタイヤ）により、1本またはそれ以上のタイヤの空気圧が完全になくなった場合でも、車両の走行を続けることができます。

MOExtended タイヤは、作動しているタイヤ空気圧警告システムとの組み合わせでのみ、使用することができます。

走行可能距離は、乗員数や荷物が少ない場合は約 80km、荷物を最大に積載しているときは約 30km です。

車両の荷物に加え、走行可能距離は以下に左右されます。

- 速度
- 道路状況
- 外気温度

パンクした状態での走行可能距離は、厳しい走行環境 / 操作により減少することがあり、ゆるやかな運転スタイルでは増加させることができます。

パンクした状態で走行できる許容最大距離は、タイヤ空気圧警告システムがマルチファンクションディスプレイに表示されたときから計測されます。

最高速度が約 80km/h を超えてはいけません。

i 1 本またはすべてのタイヤを交換するときは、MOExtended のマークが付いたタイヤのみを使用していることを確認してください。また、車両に規定されたサイズであることも確認してください。

i MOExtended タイヤ装備車は、工場出荷時はタイヤフィットは装備されていません。ウィンタータイヤなど、ランフラット特性を持たないタイヤを装着するときは、タイヤフィットを追加で車両に装備することを推奨します。タイヤフィットはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で購入できます。

タイヤフィット

タイヤフィットの使用

タイヤフィットはタイヤシール剤です。

4mm までのパンク、特にタイヤトレッドの傷を塞ぐためにタイヤフィットを使用できます。- 20°C までの外気温度でタイヤフィットを使用できます。

⚠ 警告

以下の状況では、タイヤを適切に塞ぐことができないため、タイヤシール剤は十分な緊急補助を行なうことができません。

- 上記以上のタイヤの裂け目や穴がある
- ホイールリムが損傷している
- 非常に低いタイヤ空気圧で、または空気が完全に抜けたタイヤで走行した

事故の危険性があります。

それ以上走行しないでください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

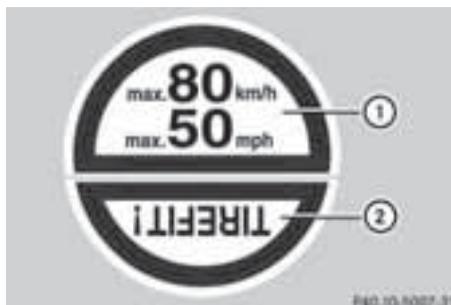
⚠ 警告

タイヤシール剤は有害で、炎症の原因になります。皮膚、眼または衣服に付着しないように、また飲み込まないようにしてください。また、タイヤフィットの臭気を吸い込まないでください。タイヤシール剤は、子供から離してください。けがの危険性があります。

タイヤシール剤に触れた場合は、以下に従ってください。

- ただちに水で皮膚からすすぎ落としてください。
- タイヤシール剤が眼に付着した場合は、ただちに清潔な水で十分にすすいでください。
- タイヤシール剤を飲み込んだ場合は、ただちに口全体をすすぎ、大量の水を飲んでください。吐こうとせず、ただちに治療を受けてください。

- タイヤシール剤が付着した衣類は、ただちに替えてください。
- アレルギー症状が出た場合は、ただちに治療を受けてください。



▶ ネジまたはクギなどのタイヤに刺さった異物は取り除かないでください。

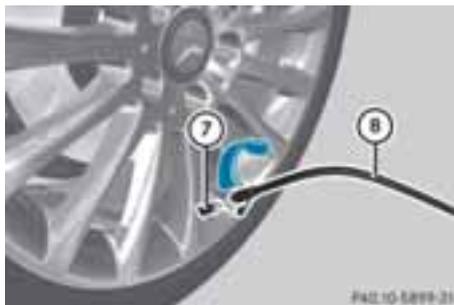
▶ ラゲッジフロアボード下の収納スペースからタイヤシール剤ボトル、付属の "max.80km/h" ステッカー、およびタイヤ充填コンプレッサーを取り出します。

▶ ステッカーの①部分を運転者の視界内に貼付します。

▶ ステッカーの②部分を不具合のあるタイヤのホイールのバルブ付近に貼付します。



- ▶ タイヤ充填コンプレッサーケースの底部から充填ホース⑧とプラグ③を取り出します。
- ▶ プラグが固定されるまで、タイヤシール剤ボトル①の黄色のキャップ⑤の取り付け部に充填ホースの黄色のコネクターをスライドします。
- ▶ シーリングリングを前方にして、キャップと両方のフックが固定されるまで、タイヤ充填コンプレッサー②の取り付け部にタイヤシール剤ボトル①の黄色のキャップ⑤をスライドします。



- ▶ 不具合のあるタイヤのバルブ⑦からキャップを取り外します。
- ▶ 充填ホース⑧をバルブに締めます。
- ▶ 電源プラグ③を車両のライターソケット (▷285 ページ) または 12V 電源ソケット (▷286 ページ) に差し込みます。
- ▶ イグニッション位置を 1 にします。
- ▶ タイヤ充填コンプレッサーの作動 / 停止スイッチ④の ON を押します。
タイヤ充填コンプレッサーが作動します。タイヤが充填されます。

i 最初にタイヤシール剤がタイヤに送り込まれます。空気圧が一時的に約 500kPa (5bar/73psi) に上がることあります。

この間はタイヤ充填コンプレッサーを停止しないでください。

- ▶ タイヤ充填コンプレッサーを最大約 10 分間作動させます。タイヤは少なくとも 200kPa (2.0bar/29psi) の空気圧になっていなければなりません。

! タイヤ充填コンプレッサーを絶え間なく 10 分以上作動させないでください。さもないと、過熱することがあります。

冷えてから、再度タイヤ充填コンプレッサーを作動させることができます。

最大で約 10 分間作動させても、200kPa (2.0bar/29psi) のタイヤ空気圧に達していないときは、(▷314 ページ) をご覧ください。

最大で約 10 分間作動させた後に、200kPa (2.0bar/29psi) のタイヤ空気圧に達しているときは、(▷314 ページ) をご覧ください。

i タイヤシール剤が漏れ出した場合は、乾かしてください。その後にフィルムのように取り除くことができます。

タイヤシール剤が衣類に付着した場合は、すみやかにドライクリーニングで洗濯してください。

200kPa (2.0bar/29psi) のタイヤ空気圧に達していない場合

10分後に200kPa (2.0bar/29psi)のタイヤ空気圧に達していない場合は、以下のようにします。

- ▶ タイヤ充填コンプレッサーを停止します。
- ▶ 不具合のあるタイヤのバルブから充填ホースを取り外します。
- ▶ ごく低速で約10m前進または後退します。
- ▶ 再度、タイヤに空気を入れます。

最大で10分後には、タイヤ空気圧は少なくとも200kPa (2.0bar/29psi)に達していなければなりません。

警告

規定時間後に要求されたタイヤ空気圧に達していない場合は、タイヤがかなり損傷しています。このときはタイヤシール剤でタイヤを修理することはできません。損傷したタイヤと非常に低下したタイヤ空気圧で、車両の制動および走行特性が著しく損なわれます。事故の危険性があります。

走行を続けしないでください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

200kPa (2.0bar/29psi) のタイヤ空気圧に達している場合

- ▶ タイヤ充填コンプレッサーを停止します。
- ▶ 不具合のあるタイヤのバルブから充填ホースを取り外します。

! 使用後、余分なタイヤシール剤が充填ホースから出てくる場合があります。これはシミにつながるおそれがあります。

そのため、タイヤフィットが入っていたプラスチックの袋に充填ホースを入れてください。

- ▶ タイヤシール剤ボトル、タイヤ充填コンプレッサーおよび停止表示板を収納します。
- ▶ **ただちに走行します。**

警告

タイヤシール剤で一時的に塞いだタイヤは走行特性が損なわれるため、高速走行に適していません。事故の危険性があります。

そのため、それに応じて運転スタイルを合わせ、慎重に運転してください。タイヤシール剤を使用して修理されたタイヤに規定された最高速度を超えないようにしてください。

タイヤシール剤で塞いだタイヤの最高速度は80km/hです。"max 80km/h"のステッカーをメーターパネルの運転者の視界内に貼付してください。

- ▶ 約10分間走行した後に停止し、タイヤ充填コンプレッサーでタイヤ空気圧を点検します。

このとき、タイヤ空気圧が少なくとも130kPa (1.3bar/19psi)になっていなければなりません。

⚠ 警告

短時間の走行後に要求されたタイヤ空気圧に達していない場合は、タイヤがかなり損傷しています。このときはタイヤシール剤でタイヤを修理することはできません。損傷したタイヤと非常に低下したタイヤ空気圧で、車両の制動および走行特性が著しく損なわれます。事故の危険性があります。

走行を続けしないでください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

- ▶ 空気圧が 130kPa (1.3bar/19psi) 以上ある場合は、タイヤ空気圧を修正します (数値は燃料給油フラップをご覧ください)。
- ▶ **空気圧を上げる**：タイヤ充填コンプレッサーを作動させます。



- ▶ **空気圧を下げる**：空気圧ゲージ②の横にある空気圧リリースボタン①を押します。



- ▶ タイヤ充填コンプレッサーからタイヤシール剤ボトルを取り外すためには、黄色いキャップのロックノブを同時に押します。
- ▶ タイヤ充填コンプレッサーからタイヤシール剤ボトルを引き出します。充填ホースはタイヤシール剤ボトルに取り付けたままにします。
- ▶ タイヤシール剤ボトル、タイヤ充填コンプレッサーおよび停止表示板を収納します。
- ▶ 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行し、そこでタイヤを交換します。
- ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場ですみやかにタイヤシール剤ボトルおよび充填ホースを交換します。
- ▶ タイヤシール剤ボトルは、4年ごとにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に交換してください。

🌿 環境

使用したタイヤシール剤ボトルは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に廃棄してください。

バッテリー

重要な安全上の注意

交換や取り付けなど、バッテリーに関する作業を行なうときは、特別な工具と専門の知識が要求されます。そのため、バッテリーにかかわるすべての作業はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で実施してください。

 警告

不適切に実施されたバッテリーへの作業は、たとえばショートや車両の電気システムの損傷につながるおそれがあります。これは、ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）またはESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）のような走行安全システムを非作動にするおそれがあります。

- ABS が故障した場合は、ブレーキの間に車輪がロックすることがあります。これにより、ブレーキ時の車両操縦性が制限され、制動距離が長くなることがあります。事故の危険性があります。
- ESP® が故障した場合は、滑り始めたときや車輪が空転し始めたときに、車両を安定させることができません。事故の危険性があります。

そのため、バッテリーにかかわるすべての作業はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で実施してください。

 警告

バッテリーを取り扱うときは、安全の注意に従い、保護対策を取ってください。



爆発の危険があります。



バッテリーを取り扱っているときは、火気、裸火および喫煙は禁止されています。

火花の発生を避けてください。



バッテリーの酸は腐食性です。皮膚、眼および衣服に触れないようにしてください。

手袋、エプロンおよびマスクなどの適切な保護用衣類を着用してください。

飛散した酸は、清潔な水でただちにすすぎ落としてください。必要であれば、医師に相談してください。



保護眼鏡を着用してください。



子供から離してください。



取扱説明書に従ってください。

 警告

安全上の理由により、メルセデス・ベンツがお客様の車両のためにテストを行ない、承認したバッテリーのみを使用することをお勧めします。これらのバッテリーは、事故でバッテリーが損傷したときに、乗員が酸による火傷を負うことを防ぐ、優れた衝撃保護をもたらします。

酸による火傷を防ぐため、バッテリーを取り扱うときは以下の安全事項に従ってください。

- バッテリーをのぞきこまないでください。
- 金属製の物をバッテリーの上に置かないでください。さもないと、ショートにつながるおそれがあり、バッテリーガスの混合気が発火するおそれがあります。
- 合成繊維の衣服の着用や繊維を擦ることによる静電気の帯電が発生していないことを確認してください。そのため、カーペットや他の合成繊維物の上でバッテリーを引いたり、スライドさせないでください。
- 最初にバッテリーに触れないでください。帯電した静電気を放電させるためには、最初に車から降りて、車体に触れてください。
- 布を使用してバッテリーを拭かないでください。これにより、静電気の帯電の結果、または火花の発生により、バッテリーが爆発することがあります。

 環境

バッテリーには有害物質が含まれています。家庭ごみとして廃棄することは違法です。分別して収集され、環境を配慮したリサイクルシステムで廃棄されなければなりません。



バッテリーは環境を配慮した方法で廃棄されなければなりません。放電したバッテリーは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場、または使用済みバッテリーの収集場所にお持ちください。

! バッテリーはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で定期的に点検してください。

詳しい情報は整備手帳の点検整備時期をご覧ください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! バッテリーにかかわるすべての作業はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で実施してください。例外的にお客様ご自身でバッテリーの接続を外す必要があるときは、以下を確認してください。

- エンジンを停止し、キーを抜いてください。メーターパネルのすべての表示灯が消灯していることを点検してください。さもないと、オルタネーターのような電気部品を損傷するおそれがあります。

- 最初にマイナス端子を、それからプラス端子を取り外してください。端子を入れ替えないでください。さもないと、車両の電気システムを損傷するおそれがあります。
- バッテリーの接続を外した後にトランスミッションがポジション **P** にロックされます。車両は固定され、動き出さなくなります。その後は車両を動かすことができません。

作業している間は、バッテリーとプラス端子のカバーが確実に取り付けられていなければなりません。

バッテリーが最大限の寿命を得るためには、常に十分に充電されていなければなりません。

他のバッテリーと同じように、車両を使用しない場合は時間とともに車両のバッテリーが放電することがあります。この場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でのバッテリーの接続を外してください。

主に短い走行で車両を使用する場合や、長い期間使用しないでいる場合は、より頻繁にバッテリーの充電状態を点検してください。長い期間車両を駐車したままにしたい場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に相談してください。

- i** 電気装備が必要でなければ、車両を駐車するときはキーを抜いてください。キーが差し込まれた状態では、車両はわずかな電力を使用し、バッテリーの電力を消耗します。

- i** バッテリーが放電した場合など、電力供給が中断された場合は、以下の作業を実施しなければなりません。

- 時計の設定（別冊の COMAND システム取扱説明書をご覧ください）
- ドアミラーの自動格納 / 展開機能のリセット（▷104 ページ）

バッテリーの充電

警告

バッテリーは換気のよい場所でのみ充電してください。バッテリーが充電されると、ガスが発生し、小規模な爆発が発生するおそれがあります。これにより、お客様や他の方がけがをしたり、塗装の損傷や車両の腐食につながるおそれがあります。

警告

充電作業の間は、バッテリーから発生したガスによる酸により、火傷のおそれがあります。充電作業の間は、バッテリーをのぞき込まないでください。

警告

バッテリーの酸は腐食性です。皮膚、目および衣類に触れないようにしてください。

! 装着されたバッテリーは、メルセデス・ベンツによりテストされ、承認されたバッテリー充電器のみで充電してください。これらのバッテリー充電器は、バッテリーを車両に装着している間に充電することができます。

! 最大充電電圧 14.8V のバッテリー充電器のみを使用してください。

! バッテリーを充電するときは、ジャンプスタートの接続端子のみを使用してください。

ジャンプスタートの接続端子はエンジンルーム内にあります (▷321 ページ)。

バッテリーを充電する前に、バッテリー充電器の操作説明もご覧ください。

- ▶ ボンネットを開きます。
- ▶ ジャンプスタートの手順で救援用バッテリーを接続するときと同じ順番で、バッテリー充電器をプラス端子とアース端子に接続します (▷321 ページ)。

ジャンプスタート

警告

車両をジャンプスタートするときは、バッテリーから発生したガスによる酸により、火傷をする危険性があります。エンジンをジャンプスタートしている間は、バッテリーをのぞき込まないでください。

警告

ジャンプスタートの間にバッテリーから発生したガスは、小規模な爆発につながる可能性があります。火花の発生を防いでください。裸火はバッテリーから離し、喫煙しないでください。

警告

未燃焼の燃料が排気システムに集まり、発火するおそれがあります。火災の危険性があります。始動操作を長時間繰り返し行なうことは避けてください。

! 始動操作を長時間繰り返し行なうことは避けてください。さもないと、未燃焼の燃料により、触媒コンバーターを損傷するおそれがあります。

車両を始動するために急速充電器を使用しないでください。車両のバッテリーが放電した場合は、他の車両のバッテリー、または他のバッテリーから、ジャンプケーブルを使用してエンジンをジャンプスタートすることができます。以下の項目に従ってください。

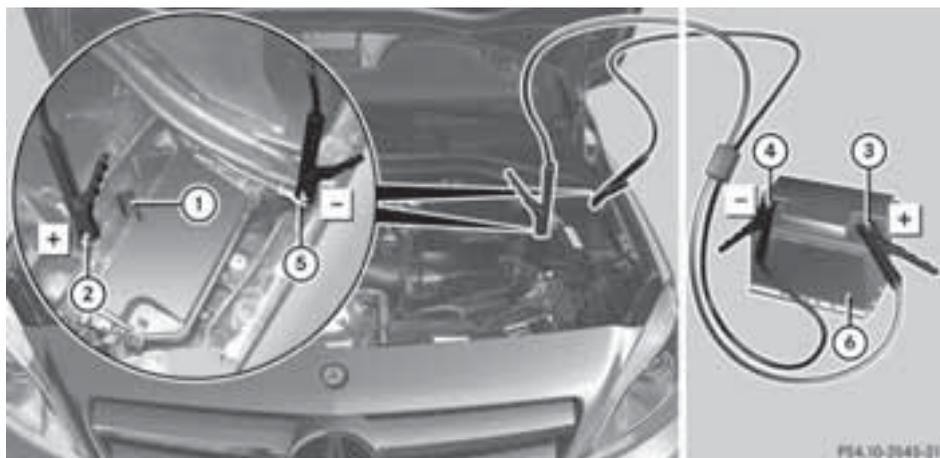
- すべての車両でバッテリーに手が届くわけではありません。他の車両のバッテリーに手が届かない場合は、他のバッテリーやジャンプスタート機器を使用して、車両をジャンプスタートしてください。
- エンジンおよび触媒コンバーターが冷えているときにのみ、車両をジャンプスタートすることができます。

- バッテリーが凍結しているときは、エンジンを始動しないでください。最初にバッテリーを解凍してください。
- ジャンプスタートは電圧 12V のバッテリーからのみ行なうことができます。
- 十分な太さがあり、絶縁された端子クランプを持つジャンプケーブルのみを使用してください。
- バッテリーが完全に放電している場合は、始動の試みの前に数分間、バッテリーをジャンプスタートで接続したままにしてください。これにより、空のバッテリーに少しだけ充電が行なわれます。
- 2 台の車両が接触していないことを確認してください。

以下を確認してください。

- ジャンプケーブルが損傷していないこと
- ジャンプケーブルがバッテリーに接続されている間は、端子クランプのむき出しの部品が他の金属部品に触れていないこと
- ジャンプケーブルがVベルトのプーリーやファンのような部品に触れていないこと。エンジンを始動するときやかかっている間は、これらの部品が動きます。

- ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせて、車両が動かないようにします。
- ▶ トランスミッションをポジション P にシフトします。
- ▶ エンジンスイッチのキーを **0** の位置にまわして抜きます。
- ▶ すべての電力装備を停止します (オーディオ、送風など)。
- ▶ ボンネットを開きます (▷292 ページ)。



番号⑥の位置は、他の車両または同様のジャンプスタート機器の充電されたバッテリーを示しています。

- ▶ プラス端子のカバー①を押して、同時に後方にスライドします。
- ▶ ジャンプケーブルを使用して、お客様のバッテリーを先に、お客様の車両のプラス端子②と救援用バッテリー⑥のプラス端子③を接続します。
- ▶ 救援車のエンジンを始動し、エンジンをアイドリングさせます。
- ▶ ジャンプケーブルを使用して、先に救援用バッテリー⑥にジャンプケーブルを接続して、救援用バッテリーのマイナス端子④とお客様の車両のアース端子⑤を接続します。
- ▶ エンジンを始動します。
- ▶ ジャンプケーブルの接続を外す前に、数分間エンジンをかけたままにします。
- ▶ エンジンスイッチのキーを0の位置にまわして抜きます。

▶ いずれの場合もお客様の車両の接続から先に、まずアース端子⑤とマイナス端子④から、そしてプラス端子②とプラス端子③からジャンプケーブルを取り外します。

▶ ジャンプケーブルを取り外した後に、プラス端子②のカバー①を閉じます。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でのバッテリーの点検を受けてください。

i ジャンプスタートは通常の操作状況とはみなされていません。

i ジャンプスタートケーブルやジャンプスタートに関する詳しい情報については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

けん引およびけん引始動

重要な安全上の注意

 警告

エンジンがかかっていないときは、ステアリングのパワーアシストや制動力ブースターは作動しません。ステアリング操作やブレーキ操作に、より大きな力が必要になり、ブレーキペダルを最大の力で踏まなければならないことがあります。

けん引される前に、ステアリングが動き、ロックされていないことを確認してください。

 警告

ホールド機能またはディストロニック・プラスが作動しているときは、車両にブレーキが効いています。そのため、車両がけん引される前に、ホールド機能およびディストロニック・プラスを解除してください。

! 最大で 50km まで車両をけん引できます。けん引速度は、50km/h を超えてはいけません。

50km を超えるけん引距離の場合は、フロントアクスルまたは車両全体を上げて運搬しなければなりません。

! けん引ロープは、けん引フックにのみ固定してください。さもないと、車両を損傷するおそれがあります。

! 車両を損傷するおそれがあるため、車両を復帰させるためにけん引フックを使用しないでください。不明なときは、車両をクレーンで復帰させてください。

! けん引の際にはスムーズに発進してください。駆動力が大きすぎるときは、車両を損傷するおそれがあります。

! けん引始動を行なってはいけません。さもないと、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

けん引されるときは、関連する国の法律要件に従ってください。

けん引はできるだけ避けてください。自走できないときは、専門業者に依頼して車両運搬車で移送してください。

けん引されるときは、トランスミッションがポジション **N** になければいけません。

バッテリーが接続されていて、充電されていないければなりません。さもないと、以下ようになります。

- エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわすことができません。
- トランスミッションをポジション **N** にシフトできません。

i 車速感応ドアロックを解除してください (>84 ページ)。さもないと、車両を押したりけん引されるときに、閉め出されるおそれがあります。けん引される前に、けん引防止警報を解除してください (>74 ページ)。

けん引フックの取り付け / 取り外し

けん引フックの取り付け



- ▶ 収納スペースからけん引フックを取り出します。

けん引フックはラゲッジフロアボード下の収納スペースにあります (▷309 ページ)。

- ▶ カバー①のマークを矢印の方向に内側に押します。
- ▶ 開口部からカバー①を外します。
- ▶ けん引フックを時計回りに停止するまでまわして締めます。

けん引フックの取り外し

- ▶ けん引フックを緩めて、取り外します。
- ▶ カバー①をバンパーに合わせ、ロックされるまで押します。
- ▶ けん引フックをラゲッジルーム内のラゲッジフロアボード下の収納スペースに置きます。

フロントアクスルを上げて車両をけん引する

! フロントアクスルを上げて車両をけん引する場合は、イグニッションをオフにしなければなりません。さもないと、ESP®の作動によりブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

- ▶ イグニッション位置を**2**にします。
- ▶ 車両が停止しているときに、ブレーキペダルを踏み、踏んだままにします。
- ▶ オートマチックトランスミッションをポジション**P**にシフトします。
- ▶ ブレーキペダルを放します。
- ▶ 電気式パーキングブレーキを解除します。
- ▶ 車速感応ドアロックを解除します (▷84 ページ)。
- ▶ 非常点滅灯を作動させます (▷114 ページ)。
- ▶ エンジンスイッチのキーを**0**の位置にまわし、そのままにします。

フロントアクスルを上げて車両をけん引するときは、安全上の指示に従うことが重要です (▷322 ページ)。

両アクスルを接地させて車両をけん引する

警告

エンジンがかかっていないときは、ステアリングのパワーアシストや制動力ブースターは作動しません。車両にブレーキを効かせたり、操舵するために、より多くの力が必要になります。それに応じて運転スタイルを合わせてください。

- i** 非常点滅灯を作動させてけん引されているときに方向変更の合図が必要なときは、通常通りコンビネーションスイッチを使用してください。この場合、望む方向の方向指示灯のみが点滅します。コンビネーションスイッチを元に戻すと、再度非常点滅灯が点滅し始めます。

運転席ドアまたは助手席ドアを開くか、エンジンスイッチからキーを抜くと、オートマチックトランスミッションが自動的にポジション **P** にシフトします。車両をけん引するときに、オートマチックトランスミッションをポジション **N** のままにしたいときは、以下のようにしてください。

- ▶ 車両が停止していることを確認します。
- ▶ イグニッション位置を **2** にします。
- ▶ ブレーキペダルを踏んで保持します。
- ▶ オートマチックトランスミッションをポジション **N** にシフトします。
- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置のままにします。
- ▶ ブレーキペダルを放します。

- ▶ 電気式パーキングブレーキを解除します。
- ▶ 非常点滅灯を作動させます (▷114 ページ)。

けん引の際には、安全上の指示に従うことが重要です (▷322 ページ)。

車両を運搬する

- !** アクスルやサスペンション構成部品のような車両部品ではなく、ホイールまたはホイールリムでのみ車両を固定してください。さもないと、車両を損傷するおそれがあります。
- ▶ イグニッション位置を **2** にします。
 - ▶ トランスミッションをポジション **N** にシフトします。

車両が積載されたら、すぐに以下のことを行ないます。

- ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせて、車両が動かないようにします。
- ▶ トランスミッションをポジション **P** にシフトします。
- ▶ エンジンスイッチのキーを **0** の位置にまわして抜きます。
- ▶ 車両を固定します。

運搬したいときは、車両を車両運搬車に引き上げたり、運搬するために、けん引フックを使用することができます。

けん引始動 (緊急エンジン始動)

- !** けん引始動を行なってはいけません。さもないと、オートマチックトランスミッションを損傷するおそれがあります。

ヒューズ

重要な安全上の注意

⚠ 警告

メルセデス・ベンツにより承認され、システムの要求に合った適切な規格のヒューズのみを使用してください。不具合のあるヒューズを修理したり、ブリッジしようとししないでください。承認されていない、または修理およびブリッジしようとしたヒューズの使用は、ヒューズの過熱の原因になり、火災につながるおそれがあります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で原因を特定し、修理してください。

! メルセデス・ベンツにより承認され、システムの要求に合った適切な規格のヒューズのみを使用してください。"S" マークがあるヒューズのみを使用してください。さもないと、構成部品やシステムが損傷するおそれがあります。

車両のヒューズは、不具合のある回路を切断する働きをします。ヒューズが切れた場合は、回路のすべての構成部品とそれらの機能は作動を停止します。

切れたヒューズは、色やヒューズ規格で区別することができる、同じ規格のヒューズと交換してください。ヒューズの規格はヒューズ一覧表に記載されています。

新しく差し込んだヒューズも切れるときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で原因を特定し、修理してください。

ヒューズを交換する前に

- ▶ 車両が動き出さないようにします (▷167 ページ)。
- ▶ すべての電気装備を停止します。
- ▶ エンジンスイッチのキーを **0** の位置にまわして抜きます (▷147 ページ)。メーターパネルのすべての表示灯が消灯します。

ヒューズは複数のヒューズボックスに収められています。

- 正面から見てエンジンルーム内右側のヒューズボックス
 - 助手席足元のヒューズボックス
- 助手席足元のヒューズボックスにはヒューズ配置表があります。

エンジンルームのヒューズボックス

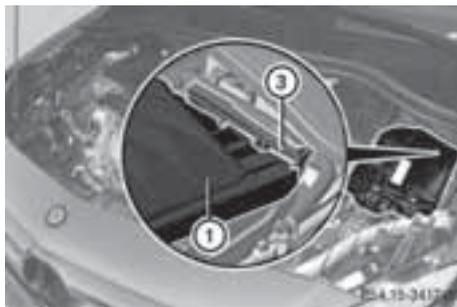
! カバーが開いているときに、湿気が入らないことを確認してください。

! カバーを閉じるときは、ヒューズボックスに正しくかぶさっていることを確認してください。さもないと、湿気や汚れによりヒューズの作動を損なうおそれがあります。



- ▶ ボンネットを開きます。

- ▶ 乾いた布を使用して、ヒューズボックスに付着している水分を取り除きます。
- ▶ **開く**：クリップ②を外します。
- ▶ カバー①を矢印の方向に上方に開いて取り外します

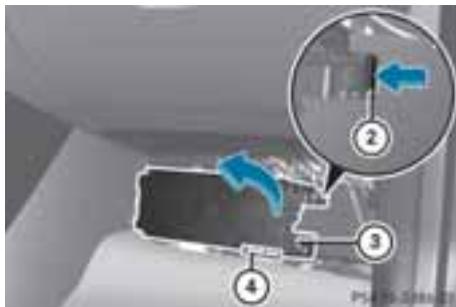


- ▶ **閉じる**：シールがカバー①内に正しく位置していることを確認します。
- ▶ ヒューズボックスの固定部③にカバー①の後部を差し込みます。
- ▶ カバー①を閉じます。
- ▶ クリップ②をヒューズボックスにかけ、固定します。
- ▶ ボンネットを閉じます。

助手席足元のヒューズボックス



- ▶ **開く**：助手席側のフロアマットを取り外します。
- ▶ 折り目に沿って、フロアカバー①を矢印の方向に引き出します。



- ▶ 固定クリップ②を押して、カバー③のロックを解除します。
- ▶ カバー③下部のつまみを押しながら、矢印の方向に引き出します。
- ▶ カバー③を手前に取り外します。
- ▶ **i** ヒューズ配置表④はカバー③の左側下部にあります。
- ▶ **閉じる**：ヒューズボックス右側の取り付け部にカバー③を差し込みます。
- ▶ 音がしてクリップがロックされるまで、カバー③を下方に倒します。
- ▶ 折り目に沿って、フロアカバー①を起こして戻します。

ヒューズ一覧

助手席足元のヒューズボックス

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
23	30A	フロントパワーウインドウ
24	30A	フロントパワーウインドウ
25	30A	CBC/SAM
26	10A	スターター
27	30A	オートマチックトランスミッション、ESP [®] 、エンジンエレクトロニクス
28	-	
29	15A	オプション
30	5A	オプション
31	5A	
32	5A	マルチファンクションステアリングホイール
33	5A	ラジオ
34	7.5A	エアコンディショナーシステム
35	40A	リアデフォグガー
36	7.5A	左フロントシート
37	7.5A	ラジオ
38	7.5A	エアバッグシステム
39	10A	頭上のコントロールパネル
40	15A	エンジンエレクトロニクス
41	30A	オプション
42	5A	ラジオ
43	5A	パークトロンニック
44	40A	エアバッグシステム
45	40A	エアバッグシステム
46	7.5A	エアバッグシステム
47	7.5A	ラジオ
48	-	
49	-	
50	7.5A	パークトロンニック
51	-	

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
52	-	
53	-	
54	7.5A	自己診断
55	15A	ダンパー調整
56	10A	マルチファンクションステアリングホイール
57	30A	
58	30A	
59	30A	右フロントシート
60	30A	左フロントシート
61	40A	ラジオ
62	20A	ステアリングロック
63	20A	燃料ポンプ
64	-	オプション
65	5A	グローブボックスライト
66	5A	
67	-	
68	-	
69	-	
70	25A	センターコンソールの12V電源ソケット
71	25A	ラゲッジルームの12V電源ソケット
72	25A	ライター、フロントの12V電源ソケット
73	30A	電気式パーキングブレーキ
74	30A	電気式パーキングブレーキ
75	20A	オプション
76	25A	オプション
77	25A	オプション
78	-	
79	40A	車外ライト
80	40A	
81	40A	エアコンディショナーシステム
82	10A	
83	7.5A	イグニッションロック

ヒューズ 番号	アンペア 数	装置名
84	-	
85	5A	オプション
86	5A	ラジオ
87	10A	自己診断
88	10A	メーターパネル
89	5A	ライトスイッチ
90	5A	パークトロニック
91	5A	
92	5A	燃料ポンプ
93	5A	電気式パーキングブレーキ
94	7.5A	エアバッグシステム
95	7.5A	エアバッグシステム
96	15A	リアワイパー
97	5A	電話
98	5A	
99	5A	タイヤ空気圧警告システム
100	5A	オートマチックトランスミ ッション
101	10A	
102	5A	エアコンディショナーシ ステム
103	5A	
104	5A	メディアインターフェース
105	5A	ラジオ
106	5A	メーターパネル
107	5A	ラジオ
108	5A	パークトロニック
109	-	
110	30A	ラジオ

エンジンルーム内のヒューズボックス

ヒューズ 番号	アンペア 数	装置名
201	5A	オプション

ヒューズ 番号	アンペア 数	装置名
202	20A	エアコンディショナーシ ステム
203	-	
204	25A	ESP®
205	15A	ホーン
206	5A	エンジンエレクトロニクス
207	5A	エンジンエレクトロニクス
208	5A	エンジンエレクトロニクス
209	-	
210	-	
211	5A	エンジンエレクトロニクス
212	15A	エンジンエレクトロニクス
213	15A	エンジンエレクトロニクス
214	10A	エンジンエレクトロニクス
215	20A	エンジンエレクトロニクス
216	5A	エンジンエレクトロニクス
217	25A	オートマチックトランスミ ッション
218	5A	ESP®
219	-	
220	10A	オートマチックトランスミ ッション
221	40A	自己診断
222	-	
223	-	
224	7.5A	ディストロニック・プラス / FCW
225	10A	自己診断
226	5A	エンジンエレクトロニクス
227	-	
228	-	
229	5A	左フロントライト
230	5A	ESP®
231	5A	右フロントライト
232	15A	車外ライト

ヒューズ 番号	アンペア 数	装置名
233	-	
234	5A	エンジンエレクトロニクス
235	5A	エンジンエレクトロニクス
236	40A	車外ライト
237	40A	ESP®
238	-	
239	30A	フロントワイパー
240	25A	スターター
241	-	

(2011-04-06・246 004 68 99)

- i** 記載の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

役に立つ情報	332
重要な安全上の注意	332
タイヤ / ホイールの使用	332
冬季の使用	335
タイヤ空気圧	336
車輪の交換	339
ホイールとタイヤの組み合わせ	345
応急用スペアタイヤ	348

役に立つ情報

i この取扱説明書では、本書の発行時点で車両に装着可能な、すべての標準およびオプション装備について記載しています。ただし、国により仕様が異なるため、本書に記載されているすべての機能が、お客様の車両に当てはまらない場合があることにご留意ください。このことは、安全に関する装備や機能にも当てはまります。

重要な安全上の注意

 警告

サイズの異なるホイールやタイヤを使用すると、ブレーキやサスペンションの部品を損傷するおそれがあります。事故の危険があります。

純正品および承認されているホイールおよびタイヤに交換してください。

 警告

パンクしたタイヤにより、車両の走行、ステアリング、制動特性が著しく損なわれます。事故の危険があります。

MOExtended タイヤ（ランフラット特性を持つタイヤ）以外のタイヤを装着している場合は、以下を守ってください。

- パンクしたタイヤでは走行しないでください。
- ただちに応急用スペアタイヤに交換するか、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

MOExtended タイヤを装着している場合は、以下を守ってください。

- MOExtended タイヤ（ランフラット特性を持つタイヤ）に関する情報と警告事項に注意してください。

メルセデス・ベンツにより承認されていない、または正しく装着されていないアクセサリにより、操作安全性が損なわれます。

お客様の車両のホイールおよびタイヤのサイズや種類については、「ホイールとタイヤの組み合わせ」の項目をご覧ください（▷345 ページ）。

タイヤ空気圧に関する情報については、以下をご覧ください。

- 燃料給油口フラップのタイヤ空気圧ラベル
- 「タイヤ空気圧」の項目

ブレーキシステムやホイールの改造は許可されていません。また、ホイールスペーサーやダストシールドは許可されていません。保証の適用外になります。

- i** タイヤとホイールに関する詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におだすねください。

タイヤ / ホイールの使用

走行時の注意

- 車両に特に重い荷重をかけるときは、タイヤ空気圧を点検し、必要であれば調整してください。

- 走行しているときは、振動や騒音、ステアリングが片方向にとられるなどの不自然なステアリングの動きに注意してください。ホイールやタイヤが損傷しているおそれがあります。タイヤやホイールの損傷が疑われるときは、ただちに速度を落としてください。すみやかに安全な場所に停車して、タイヤとホイールを点検してください。目に見えないタイヤやホイールの損傷も、不自然なステアリングの動きの原因になります。

異常が見つからないときも、メルセデス・ベンツ指定サービス工場
で点検を受けてください。

- 車両を駐車するときは、縁石や他の障害物でタイヤが変形していないことを確認してください。縁石や速度抑制用の突起、類似の突起物を乗り越える必要があるときは、縁石に対してタイヤをできるだけ直角にしてください。さもないと、タイヤ、特にサイドウォールを損傷するおそれがあります。

ホイールおよびタイヤの定期的な点検

警告

損傷しているタイヤは空気圧低下の原因になります。その結果、車のコントロールを失うことがあります。事故の危険があります。

損傷している兆候がないかタイヤを定期的に点検し、損傷しているタイヤはただちに交換してください。

タイヤを点検する

- ▶ タイヤ空気圧ゲージを使用するか、タイヤ接地部のたわみ状態(別冊「整備手帳」参照)を見て、空気圧が適切であることを点検します。
 - ▶ タイヤに大きな傷がないこと、くぎや石などがささったり、かみ込んでいないことを点検します。
 - ▶ タイヤが偏摩耗を起こしたり、極端にすり減っていないことを点検します。スリップサイン(別冊「整備手帳」参照)が出ているときは、新しいタイヤに交換します。
 - タイヤの溝の深さやタイヤの幅全体にわたる接地面の状態は定期的に点検してください。必要であれば、前輪をいっぱいまで切り、タイヤの内側も点検してください。
 - ほこりや水分の浸入を防ぎバルブを保護するため、ホイールバルブのキャップを必ず装着してください。また、市販のタイヤ空気圧計測装置をホイールバルブに装着するなど、純正品または承認されたバルブキャップ以外のものをホイールバルブに装着しないでください。
 - 定期的に、特に長距離走行の前にはすべてのタイヤの空気圧を点検し、必要であればタイヤ空気圧を調整してください(▷336 ページ)。
応急用スペアタイヤに関する注意事項もご覧ください(▷348 ページ)。
- タイヤの寿命は以下を含め、様々な要因に左右されます。
- 運転スタイル
 - タイヤ空気圧
 - 走行距離

タイヤトレッド

警告

溝の深さが十分でないタイヤはタイヤの駆動力を低下させます。また、タイヤが水を排水できなくなります。これにより、特に速度が走行状況にあっていないときは、濡れた路面でハイドロプレーニング現象を起こす危険性が増加します。事故の危険があります。

タイヤ空気圧が非常に高い、または低いときは、タイヤはタイヤトレッドの異なる部位で様々な度合いで摩耗します。すべてのタイヤのトレッド全体にわたり、溝の深さを定期的に点検してください。

溝の深さの最低値は以下の通りです。

- 標準タイヤ：3mm
- ウィンタータイヤ：4mm

安全上の理由により、溝の深さが最低値になる前に、必ず新品と交換してください。

タイヤの選択、装着と交換

- 同じサイズ、および同じ銘柄のタイヤとホイールのみを装着してください。
- ホイールに対して適切なサイズのタイヤのみを装着してください。
- 最大限の性能は走行距離が約100kmを超えてからのみ発揮されるため、この距離の間は控えめの速度で走行してください。

- 特に濡れた路面での駆動力が著しく減少するため（ハイドロプレーニング）、溝の深さがほとんどないタイヤで走行しないでください。
- 摩耗にかかわらず、6年以上経過したタイヤは新品のタイヤと交換してください。
応急用スペアタイヤも同様に交換してください。

MoExtended（ランフラット特性を持つタイヤ）

MOExtended タイヤ（ランフラット特性を持つタイヤ）装備車は、1本または複数のタイヤがすべてパンクした状態でも、車両の走行を続けることができます。

MOExtended タイヤは、タイヤ空気圧警告システムが作動していて、メルセデス・ベンツにより特別にテストされたホイールと組み合わせた場合にのみ使用できます。

パンクした場合のMOExtended タイヤでの走行に関する注意は「万一のとき」にあります（▷310ページ）。

- i** MOExtended タイヤ装備車は、工場出荷時はタイヤフィットは装備されていません。ウィンタータイヤなど、ランフラット特性を持たないタイヤを装着するときは、タイヤフィットを追加で車両に装備することを推奨します。タイヤフィットはメルセデス・ベンツ指定サービス工場ですぐ入手できます。

冬季の使用

標準タイヤでの走行

外気温度が約 7℃ 以下のときは、標準タイヤは弾力性を失い、それにより駆動力や制動力も失います。ウィンタータイヤに交換してください。非常に低い温度で標準タイヤを使用すると、亀裂が生じてタイヤの損傷の原因になることがあります。この種類の損傷については、メルセデス・ベンツは責任を負いません。

ウィンタータイヤ

警告

溝の深さが 4mm 以下になったウィンタータイヤは、十分な駆動力を確保できないため、冬季の使用には適していません。事故の危険があります。

溝の深さが 4mm 以下になったウィンタータイヤは交換してください。

ウィンタータイヤを装着したときは、以下を行なってください。

- タイヤ空気圧の点検 (▷336 ページ)
- タイヤ空気圧警告システムの再起動 (▷338 ページ)

外気温度が約 7℃ 以下のときは、ウィンタータイヤを使用してください。

冬季の道路状況では、ウィンタータイヤでのみ最高のグリップを得ることができます。これらのタイヤは雪の上での走行のために特別に設計されているため、冬季はこれらのタイヤでのみ ABS や ESP® などの走行安全装備が適切に機能します。

安全なハンドリング特性を維持するため、同じ種類、同じトレッドのタイヤのみを使用してください。

- ① ウィンタータイヤについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

スノーチェーン

- ❗ 後輪にスノーチェーンを装着すると、車体やサスペンション部品にこすれることがあります。これは、車両やタイヤの損傷の原因になることがあります。

- ❗ **スチールホイール装着車**：スチールホイールにスノーチェーンを装着する場合は、対応するホイールのホイールカバーを最初に取り外してください。さもないと、ホイールカバーを損傷することがあります。

安全上の理由により、メルセデス・ベンツによりお客様の車両のために特別に承認された、または同等の品質基準のスノーチェーンのみを使用することをお勧めします。

スノーチェーンを装着するときは、以下のことに注意してください。

- スノーチェーンは、すべてのホイールおよびタイヤの組み合わせに装着できるわけではありません。許容されているホイールおよびタイヤの組み合わせについては (▷345 ページ) をご覧ください。
- 応急用スペアタイヤにはスノーチェーンを装着しないでください。
- スノーチェーンは必ず一組かつ前輪のみに装着してください。メーカーの装着指示にも従ってください。

最高速度が約 50km/h を超えないでください。

i スノーチェーン装着中に発進するときは、ESP® の機能を解除したほうがよい場合があります。このようにして車輪をコントロールしながら空転させ、駆動力を増やすことができます（地面を掘る動作）。

タイヤ空気圧

指定のタイヤ空気圧

警告

空気圧が非常に低い、または非常に高いタイヤには、以下の危険があります。

- 特に車両に大きな荷重がかかったときや高い速度で走行しているときに、破裂するおそれがあります。
- タイヤが過度に、または不均等に摩耗して、タイヤの駆動力を著しく損なうおそれがあります。
- 走行やステアリングおよびブレーキの特性を著しく損なうおそれがあります。

事故の危険があります。

以下のときは、推奨タイヤ空気圧に従い、応急用スペアタイヤも含めたすべてのタイヤの空気圧を点検してください。

- 少なくとも 2 週間ごと
- 荷重が変わったとき
- 長距離走行前
- 不整地の走行など、使用条件が変わったとき

必要であれば、タイヤ空気圧を調整してください。

警告

タイヤバルブに不適切なアクセサリを装着すると、タイヤ空気圧低下の原因になるようなタイヤバルブの過負荷、および不具合が発生することがあります。設計上、後付けのタイヤ空気圧モニターはタイヤバルブを開いたままにします。これもタイヤ空気圧低下につながるおそれがあります。事故の危険があります。

タイヤバルブには、純正バルブキャップまたはお客様のメルセデス・ベンツ車のための特別なバルブキャップのみを装着してください。

警告

タイヤ空気圧が繰り返し低下するときは、ホイール、バルブ、またはタイヤが損傷しているおそれがあります。非常に低すぎるタイヤ空気圧は、タイヤの破裂につながるおそれがあります。事故の危険があります。

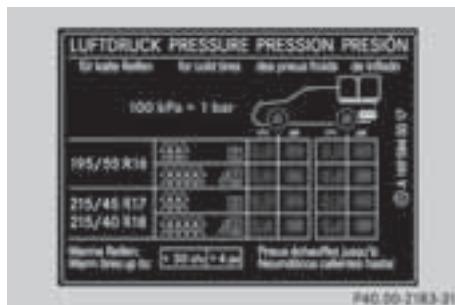
- タイヤに異物がないか確認してください。
- ホイールやバルブから空気が漏れていないか確認してください。

問題を解消できない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

さまざまな使用状況でのタイヤ空気圧は、車両の燃料給油フラップ内のラベルにあります。

燃料給油フラップ内のラベルには、様々な使用状況でのタイヤ空気圧が記載されていることがあります。乗車人数や荷物の量の違いに応じて、ラベルに定義されています。実際の座席数も様々ですので、詳しい情報は車両の登録書類を参照してください。

タイヤサイズが特定されていないときは、タイヤ空気圧ラベルに記載されているタイヤ空気圧は、この車両のために承認されている、すべてのタイヤに適用されます。



タイヤ空気圧の前にタイヤサイズがある場合、後に続くタイヤ空気圧はそのタイヤサイズのみ有効です。

適切なタイヤ空気圧ゲージを使用してタイヤ空気圧を点検してください。タイヤの外見を点検しても、空気圧を正しく判断することはできません。

タイヤ空気圧は、できるだけタイヤが冷えているときに測定してください。以下のときはタイヤは冷えています。

- 直射日光を浴びていない場所で、少なくとも約 3 時間以上駐車したままのとき
- 車両が約 1.6km 以上走行していないとき

周囲の気温、走行速度そしてタイヤへの荷重により、タイヤ温度およびタイヤ空気圧は変化することがあります。10℃あたり 10kPa (0.1bar/1.5psi) です。暖まったタイヤの空気圧を点検するときは、このことを考慮に入れてください。そのときの使用状況に対してタイヤ空気圧が低すぎるときのみ、空気圧を修正してください。

タイヤ空気圧が高すぎたり低すぎる状態で走行すると、以下のようなことが起こります。

- タイヤの寿命が短くなります。
- タイヤの損傷につながります。
- 車両操縦性や走行安全性に悪影響を与えます (ハイドロプレーニングなど)。

i 少ない荷物に対応した空気圧値は、快適な良い乗り心地をもたらすための最低空気圧です。

ただし、多い荷物に対応した空気圧を使用することもできます。これらは許容されており、車両の走行に悪影響を与えません。

タイヤ空気圧警告システム

重要な安全上の注意

車両が走行しているとき、タイヤ空気圧警告システムは車輪の回転速度を使用して、設定したタイヤ空気圧をモニターします。これにより、システムはタイヤの急激な空気圧低下を検知することができます。空気圧低下の結果、車輪の回転速度が変化すると、対応する警告メッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

タイヤ空気圧警告システムは、誤ったタイヤ空気圧の設定に対しては警告は行ないません。推奨タイヤ空気圧に関する注意事項は(▶336 ページ)をご覧ください。

タイヤ空気圧警告システムは複数のタイヤから同量の空気が漏れた場合には検知できないため、定期的なタイヤ空気圧点検の代わりになるものではありません。

タイヤに異物が貫通した場合など、突然の空気圧低下に対しては、タイヤ空気圧警告システムは警告を行なうことができません。急激な空気圧低下のときは、慎重にブレーキ操作を行なって停車してください。急なステアリング操作は避けてください。

タイヤ空気圧警告システムの機能は、以下のときに制限されたり、遅れることがあります。

- 車両のタイヤにスノーチェーンが装着されているとき
- 冬季の道路状況のとき
- 砂地や砂利道などを走行しているとき

- 非常にスポーティな走行スタイル(高速でのコーナリングや急加速)のとき
- 重い荷物を積載して走行しているとき(車内やルーフの上)

タイヤ空気圧警告システムの再起動

以下のときは、タイヤ空気圧警告システムを再起動させてください。

- タイヤ空気圧を変更したとき
 - ホイールやタイヤを交換したとき
 - 新しいホイールやタイヤを装着したとき
- ▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動する前に、燃料給油フラップ内側のタイヤ空気圧ラベルを参照して、4輪すべてのタイヤが対応する使用状況に対して適正に調整されていることを確認してください。
- タイヤ空気圧警告システムは、適正なタイヤ空気圧に設定されているときのみ、信頼性のある警告を行なうことができます。不適切なタイヤ空気圧に設定されている場合は、それらの不適切な値がモニターされます。
- ▶ タイヤ空気圧に関する注意事項を確認します(▶336 ページ)。
 - ▶ イグニッション位置が **2** になることを確認します。
 - ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**メンテナンス**メニューを選択します。
 - ▶  または  スイッチを押して、**タイヤ空気圧**を選択します。

- ▶ **OK** スイッチを押します。

タイヤ空気圧 警告システム オンというメッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

再起動を確定したいとき

- ▶ **OK** スイッチを押します。

タイヤ空気圧 正常ですか? キャンセル はいというメッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

- ▶ **▼** または **▲** スイッチを押して **はい** を選択します。

- ▶ **OK** スイッチを押します。

タイヤ空気圧 警告システム 再始動しましたというメッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

読み込み期間終了後に、タイヤ空気圧警告システムが4輪すべての設定したタイヤ空気圧をモニターします。

または

再起動を中断したいとき

- ▶ **☞** スイッチを押します。

または

- ▶ **タイヤ空気圧 正常ですか? キャンセル はい** というメッセージが表示されているときに、**▼** または **▲** スイッチを使用して **キャンセル** を選択します。

- ▶ **OK** スイッチを押します。

最後の再起動時に保存されたタイヤ空気圧値が引き続きモニターされます。

車輪の交換

パンクしたとき

"パンクしたとき" の項目には、パンクしたときの対処方法に関する情報が記載されています。

車輪の入れ替え

⚠ 警告

ホイールまたはタイヤが異なるサイズのときに前輪と後輪を入れ替えると、走行特性を著しく損なうことがあります。ブレーキやサスペンション構成部品を損傷するおそれもあります。事故の危険があります。

ホイールおよびタイヤが同じサイズの場合にのみ前輪と後輪を入れ替えてください。

サイズが異なる前輪と後輪の入れ替えは、保証を無効にします。

"車輪の交換" の項目にある指示と安全に関する警告に常に注意を払ってください (▷339 ページ)。

使用状況により、フロントタイヤとリアタイヤの磨耗パターンは異なります。タイヤに明確な磨耗パターンが形成される前に、車輪の入れ替えを行なってください。通常はフロントタイヤはショルダー部分が、リアタイヤはセンター部分がより磨耗します。

前輪と後輪のサイズが同じ車種の場合は、タイヤの磨耗具合により 5,000 ~ 10,000km 毎に車輪を入れ替えることができます。タイヤの回転方向は維持してください。

車輪を入れ替えるときは常に、ホイールとブレーキディスクの接合面全体を清掃してください。タイヤ空気圧を点検し、必要であればタイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

回転方向

タイヤの回転方向が指定されているタイヤは、例えばハイドロプレーニング現象のおそれがある状況などで補助的な効果を発揮します。回転方向が指定されているタイヤは、指定された回転方向になるように装着することで性能を十分に発揮できます。

タイヤの側面にある矢印は、適切な回転方向を示しています。

車輪の保管

使用していない車輪は、乾燥した冷暗所に保管してください。オイルやグリース、燃料などからタイヤを保護してください。

車輪の清掃

警告

車両、特にタイヤを清掃するときに、回転式ジェットノズル（ダートグラインダー）付きの高圧式クリーナーを使用しないでください。さもないと、タイヤを損傷したり、事故の原因になるおそれがあります。

車輪の装着

車両の準備

- ▶ かたく、すべりにくい、水平な地面に車両を停車します。
- ▶ 電気式パーキングブレーキを手動で効かせます（▷168 ページ）。
- ▶ 前輪を直進の位置にします。
- ▶ DIRECT SELECT レバーを **P** に動かします。
- ▶ エンジンを停止します。
- ▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ 車両の装備に含まれているときは、タイヤ交換工具を車両から取り出します。

i 国別仕様の違いとは別に、車両にはタイヤ交換工具キットは装備されていません。車両の車輪交換を行なうために必要な工具について、詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におだすねください。

タイヤ交換工具には、例えば以下が含まれることがあります。

- ジャッキ
- 輪止め
- ホイールレンチ
- ▶ 車両が動き出さないように輪止めで固定します。
- ▶ 車の後方に停止表示板を置きます。
- i** 高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。

輪止めで車両を固定する



車両に輪止めが装備されている場合、輪止めはタイヤ交換工具キットの中に収納されています（▶309 ページ）。

折りたたみ式の輪止めは、車輪を交換するときなどに車が動き出すのを防止するための補助的な固定手段です。

- ▶ プレートを両方とも引き起こします ①。
- ▶ 裏面のプレートを引き出します ②。
- ▶ 裏面のプレートの突起部分を、ベースプレートの開口部に差し込みます ③。



水平な場所で輪止めをする場合

- ▶ **水平な場所**：交換する車輪の対角にある車輪の前後に輪止めまたは類似の物を置きます。



緩い下り坂勾配で輪止めをする場合

- ▶ **下り勾配**：前輪および後輪の前側に輪止めまたは類似の物を置きます。

車両を上げる

⚠ 警告

車両の適切なジャッキポイントにジャッキを正しく合わせないと、車両を上げたときにジャッキが倒れるおそれがあります。けがの危険があります。

車両の適切なジャッキポイントにのみジャッキを合わせてください。ジャッキは車両のジャッキポイントの真下にくるようにしてください。

車両を上げるときは、以下の点に注意してください。

- 車両を上げるときは、メルセデス・ベンツによりテストされ承認された、車両専用のジャッキのみを使用してください。不適切なジャッキを使用すると、車両を上げたときにジャッキが倒れるおそれがあります。
- ジャッキは、車輪を交換するとき短時間車両を上げたままにするために設計されています。車両の下での整備作業には適していません。

- 上り坂や下り坂での車輪交換は避けてください。
- 車両を上げる前に、パーキングブレーキを効かせ、また輪止めをして、車両を固定してください。車両を上げているときは、決してパーキングブレーキを解除しないでください。
- ジャッキは、かたく、平坦で滑りにくい路面に置いてください。不整地などでは、大型の耐荷重マットを使用してください。滑りやすい路面では、ラバーマットなどの滑りにくい敷物を使用してください。
- ジャッキの敷物として、木製のブロックなどを使用しないでください。さもないと、高さが制限されることによりジャッキの耐荷重を得られないおそれがあります。
- タイヤ底面と地面との間の距離が3cmを超えないようにしてください。
- 上げた車両の下には決して手や足を入れないでください。
- 上げた車両の下には決して横たわらないでください。
- 車両を上げているときは、決してエンジンを始動しないでください。
- 車両を上げているときは、決してドアやテールゲートを開閉しないでください。
- 車両を上げているときは、車両に人が乗っていないことを確認してください。



ホイールカバーを装着したスチールホイール

- ▶ **スチールホイール装備車**：注意してホイールカバーの2ヶ所の開口部に手を入れ、ホイールカバーを取り外します。



- ▶ ホイールレンチ①を使用して、交換する車輪のボルトを約1回転ほど緩めます。ボルトを完全に緩めないでください。

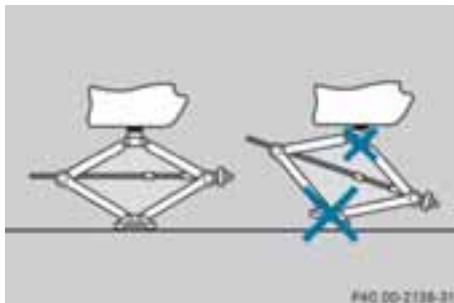


ジャッキポイントは、フロントホイールアーチのすぐ後方、リアホイールアーチのすぐ前方（矢印の位置）にあります。

- ▶ タイヤ交換工具からラチェットレンチを取り出し、**AUF**の文字が見えるようにジャッキの六角ナットに合わせます。



- ▶ ジャッキポイント②にジャッキ③を合わせます。



- ▶ ジャッキの底部がジャッキポイントの真下にあることを確認します。
- ▶ ジャッキ③がジャッキポイント②に完全にはまり、ジャッキの底部が均一に地面に接するまで、ラチェットレンチ④をまわします。
- ▶ タイヤが地面から最大で約3cm離れるまで、ラチェットレンチ④をまわします。

車輪を取り外す

- ❗ ホイールボルトを砂や汚れのあるところに置かないでください。さもないと、ボルトを締めるときにホイールボルトのネジ山やホイールハブを損傷するおそれがあります。
- ▶ ホイールボルトを緩めます。
- ▶ 車輪を取り外します。

車輪を取り付ける

⚠ 警告

オイルまたはグリースが付着したホイールボルト、または損傷したホイールボルト / ハブのネジ山はホイールボルトが緩む原因になるおそれがあります。結果として、走行しているときに車輪が外れるおそれがあります。事故の危険があります。

ホイールボルトにオイルやグリースを付着させないでください。ネジ山が損傷している場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。損傷したホイールボルトまたはハブのネジ山を交換 / 再生してください。走行を続けしないでください。

⚠ 警告

車両が上がっているときにホイールボルトまたはホイールナットを締めると、ジャッキが倒れるおそれがあります。けがの危険があります。

車両が地面の上にあるときのみ、ホイールボルトまたはホイールナットを締めてください。

"車輪の交換"の指示や注意事項にも常に注意を払ってください(▷339ページ)。

必ずホイールおよび車両のために設計されたホイールボルトのみを使用してください。安全上の理由により、メルセデス・ベンツ車および対応するホイールのために承認されたホイールボルトのみを使用することをお勧めします。



- ▶ ホイールとホイールハブの接合面を清掃します。
- ▶ 新しい車輪をホイールハブに合わせて押します。
- ▶ ホイールボルトを手で締めます。

車両を下げる



- ▶ **AB**の文字が見えるようにラチェットレンチをジャッキの六角ナットに合わせます。

- ▶ 車両が再度地面に確実に着くまで、ラチェットレンチをまわします。
- ▶ ジャッキを脇に置きます。

⚠ 警告

ホイールナットおよびボルトが規定の締め付けトルクで締められていないときは、ホイールが緩むおそれがあります。事故の危険があります。

車輪を交換した後は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で締め付けトルクを点検してください。

- ▶ 図のように対角の順番(①～⑤)で、ホイールボルトを均一に締め付けます。規定の締め付けトルクは130 Nmです。
- ▶ ジャッキを元の位置にまわして戻します。
- ▶ ジャッキと他の車載工具を再度車内に収納します。
- ▶ 新しく装着した車輪のタイヤ空気圧を点検し、必要であれば調整します。推奨タイヤ空気圧に従ってください(▷336ページ)。

ホイールとタイヤの組み合わせ

全体的な注意事項

! 安全上の理由により、車両のためにメルセデス・ベンツにより特別に承認されたタイヤとホイールのみを使用することをお勧めします。

それらは、ABS や ESP® などの制御システムに特別に適合しており、以下のマークが付いています。

- MO =メルセデス・ベンツ純正タイヤ
- MOE =メルセデス・ベンツ純正ランフラットタイヤ (ランフラット特性を持つタイヤ)
- MO1 =メルセデス・ベンツ純正タイヤ (特定の AMG タイヤのみ)

メルセデス・ベンツ純正ランフラットタイヤは、メルセデス・ベンツにより特別に承認されたホイールでのみ使用することができます。

メルセデス・ベンツによりテストされ、承認されたタイヤ、ホイールおよびアクセサリーのみを使用してください。さもないと、ハンドリングなどの特定の特性、車両排出騒音および燃料消費に悪影響を与えます。さらに、荷物を積んで走行しているとき、タイヤサイズの種類によっては、タイヤが車体やアクスル構成部品と接触するおそれがあります。これにより、タイヤまたは車両の損傷につながるおそれがあります。

テストおよび承認されていないタイヤ、ホイールおよびアクセサリーの使用に起因する損傷については、メルセデス・ベンツは責任を負いません。

ホイール、タイヤおよび承認された組み合わせについての詳しい情報には、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! 大径ホイールは、特定のホイールサイズでは外周部分が低くなり、悪路での乗り心地も悪くなります。ロール時の快適性やサスペンションの快適性が損なわれ、結果として障害物を乗り越えたときのホイールやタイヤへの損傷の危険性も高まります。

i 車両の燃料給油フラップの裏側に、タイヤ空気圧ラベルがあります。タイヤ空気圧に関するさらなる情報は (▷336 ページ) をご覧ください。

タイヤが冷えているときにのみ、定期的にタイヤ空気圧を点検してください。

i タイヤとホイールは、以下の点を確認して正しく装着してください。

- 左右には必ず同サイズのタイヤを装着してください。
- サマータイヤ、ウィンタータイヤ、ランフラットタイヤ (MOExtended) など、異なる種類のタイヤを同時に装着しないでください。

i MOExtended タイヤ装備車は、工場出荷時はタイヤフィットは装備されていません。ウィンタータイヤなど、ランフラット特性を持たないタイヤを装着するときは、タイヤフィットを追加で車両に装備することを推奨します。タイヤフィットはメルセデス・ベンツ指定サービス工場です。

標準タイヤ

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
B 180	205/55R16 MOExtended ¹	6.5J × 16	49mm
B 180 Sport	225/45R17 MOExtended ^{1,2}	7.5J × 17	52.5mm
B 180 Sport ナイトパッケージ	225/40R18 MOExtended ^{1,2,3}	7.5J × 18	52mm

オプションまたは仕様により、以下のタイヤ / ホイールが装着される場合があります。

	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
前後の車輪	195/65R15 91 T ⁴	6.5J × 15 H2	47mm
前後の車輪	205/55R16 91 H	6.5J × 16 H2	49mm
前後の車輪	205/55R16 91 V MOExtended ¹	6.5J × 16 H2	49mm
前後の車輪	225/45R17 91 V ²	7.5J × 17 H2	52.5mm
前後の車輪	225/45R17 91 W MOExtended ^{1,2}	7.5J × 17 H2	52.5mm
前後の車輪	225/40R18 91 W XL MOExtended ^{1,2,3}	7.5J × 18 H2	52mm

- 1: MOExtended タイヤ (ランフラット特性を持つタイヤ) では、タイヤ空気圧警告システムを作動させてください。
- 2: スノーチェーンの装着は許可されていません。"スノーチェーン"の注意事項に従ってください。
- 3: "ホイールとタイヤの組み合わせ"の"大径ホイール"の注意事項に従ってください。
- 4: スポーツパッケージ コード 952 との同時装着はできません。

- i** 一部のホイール / タイヤの組み合わせは、国によっては装着できない場合があります。
- i** 上記の内容は本国仕様のもので、日本においては購入や装着ができない場合があります。適切なホイール / タイヤの組み合わせについては、購入前に必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ウィンタータイヤ

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
全車	195/65R15 91 T M+S ⁴	6.5J × 15	47mm
	205/55R16 91 H M+S	6.5J × 16	49mm
	205/55R16 91 H M+S MOExtended ¹	6.5J × 16	49mm
	205/50R17 93 H XL M+S	6.5J × 17	49mm
	205/50R17 93 H XL M+S MOExtended ¹	6.5J × 17	49mm

1: MOExtended タイヤ（ランフラット特性を持つタイヤ）では、タイヤ空気圧警告システムを作動させてください。

4: スポーツパッケージ コード 952 との同時装着はできません。

- i** 一部のホイール / タイヤの組み合わせは、国によっては装着できない場合があります。
- i** 上記の内容は本国仕様のもので、日本においては購入や装着ができない場合があります。適切なホイール / タイヤの組み合わせについては、購入前に必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

応急用スペアタイヤ

重要な安全上の注意

⚠ 警告

スペアタイヤ / 応急用スペアタイヤのホイール / タイヤサイズおよびタイヤの種類は、交換されるタイヤと異なることがあります。スペアタイヤ / 応急用スペアタイヤの装着により、走行特性が著しく損なわれるおそれがあります。事故の危険があります。

以下により、危険な状況を避けてください。

- 適時に運転スタイルを合わせ、慎重に運転してください。
- 交換される車輪とサイズが異なる場合は、1つ以上のスペアタイヤ / 応急用スペアタイヤを取り付けないでください。
- 交換される車輪とサイズが異なる場合は、スペアタイヤ / 応急用スペアタイヤは短時間のみ使用してください。
- ESP[®] を解除しないでください。
- 該当するスペアタイヤ / 応急用スペアタイヤは、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。ホイール / タイヤサイズとタイヤの種類が適切であることを確認してください。

応急用スペアタイヤ、または異なるサイズのスペアタイヤを使用しているときは、最高速度が 80km/h を超えないようにしてください。

応急用スペアタイヤには、スノーチェーンを装着しないでください。

注意点

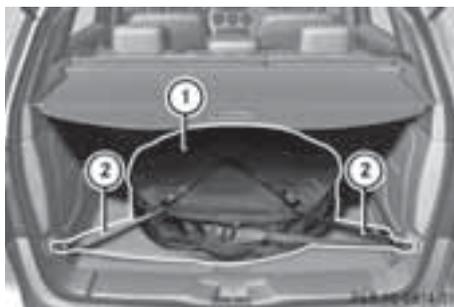
定期的に、特に長距離走行の前には、応急用スペアタイヤのタイヤ空気圧を点検し、必要であれば空気圧を調整してください (▷336 ページ)。空気圧は車輪にある数値、または "ホイールとタイヤの組み合わせ" の項目 (▷345 ページ) にあるものが有効です。

i 応急用スペアタイヤを装着して走行する場合は、タイヤ空気圧警告システムは正常に作動しません。パンクしたタイヤを新品と交換してから、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

応急用スペアタイヤは回転方向とは逆に装着することもできます。応急用スペアタイヤに規定された速度制限に従ってください。

少なくとも 6 年後にはタイヤを交換してください。これは、応急用スペアタイヤにも当てはまります。

応急用スペアタイヤを取り出す



- ▶ テールゲートを開きます。
- ▶ 応急用スペアタイヤバッグ①の固定ストラップ②を緩めます。

- ▶ 応急用スペアタイヤが収納されている応急用スペアタイヤバッグ①を取り出します。

タイヤ交換工具の情報は、" 車載品の収納場所 " をご覧ください(▷309 ページ)。

サービスデータ

応急用スペアタイヤ	
タイヤ	スチールホイール
T125/80R17	3.5B × 17
タイヤ空気圧： 420kPa (4.2bar/ 61psi)	オフセット 19.5mm

役に立つ情報	352
テクニカルデータに関する注意事項	352
メルセデス・ベンツ純正部品	352
車両の電子機器	353
ビークルプレート	353
サービスプロダクトと容量	354
車両データ	359
テールゲートの開口部寸法	360

役に立つ情報

- i** この取扱説明書では、本書の発行時点で車両に装着可能な、すべての標準およびオプション装備について記載しています。ただし、国により仕様が異なるため、本書に記載されているすべての機能が、お客様の車両に当てはまらない場合があることにご留意ください。このことは、安全に関する装備や機能にも当てはまります。

テクニカルデータに関する注意事項

- i** テクニカルデータは EC 指令に準拠して決定されています。すべてのデータは車両の標準装備に該当します。そのため、オプション装備を装備した車両では異なることがあります。

メルセデス・ベンツ純正部品

 警告

承認されていない部品、タイヤやホイール、または安全に関するアクセサリを使用すると、走行安全性が損なわれるおそれがあります。

これらはブレーキシステムなどの安全性に関連したシステムの故障につながる可能性があります。車両のコントロールを失う原因になり、事故の原因になるおそれがあります。

この理由により、メルセデス・ベンツ純正部品、または同品質の部品を使用することをお勧めします。お客様の車両のために特別に承認されたタイヤ、ホイールおよびアクセサリのみを使用してください

 環境

Daimler AG は、新品と同じ品質の再生アセンブリーおよび部品を供給しています。これらには、新品と同様の保証が適用されます。

! 車両の以下の範囲には、エアバッグやシートベルトテンショナー、およびそれらの保護システムのコントロールユニットやセンサーが取り付けられていることがあります。

- ドア
- ドアピラー
- ドアシル
- シート
- ダッシュボード
- メーターパネル
- センターコンソール

これらの範囲には、オーディオシステムのようなアクセサリを取り付けしないでください。修理や钣金作業を実施しないでください。保護システムの十分な作動を損なうおそれがあります。

アクセサリはメルセデス・ベンツ指定サービス工場に取り付けることをお勧めします。

メルセデス・ベンツでは、お客様の車両に対して特別に承認された純正部品や交換部品、アクセサリに対して、それらの信頼性、安全性および適合性をテストしています。継続的な市場調査にもかかわらず、メルセデス・ベンツは他の部品を評価することはできません。したがって、個別にまたは公式に承認された部品であっても、これらの使用に対しては、メルセデス・ベンツは責任を負いません。

メルセデス・ベンツ純正部品を注文するときは、常に車台番号 (▷354 ページ) およびエンジン番号 (▷354 ページ) を特定してください。

車両の電子機器

電子制御部品の改造

! 警告

エンジン電子機器および関連する構成部品に関わる作業は、常にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行ってください。さもないと、車両の安全性に影響を与えるおそれがあります。

! エンジン電子機器およびそれに関連するコントロールユニット、センサー配線類のような部品に関わる作業は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でのみ実施してください。さもないと、車両の構成部品がより早く摩耗することがあったり、車両の使用に関する保証が無効になることがあります。

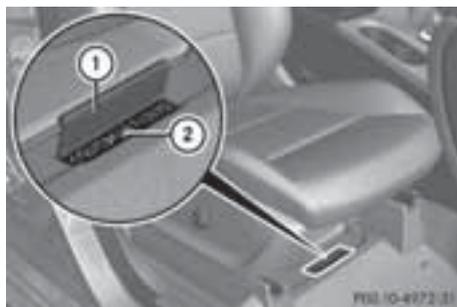
ビークルプレート

車台番号やカラーコードが記載されたビークルプレート



- ▶ 右側フロントドアを開きます。
ビークルプレート ① があります。

車台番号



▶ 右側フロントシートを最も後方の位置にスライドします。

▶ 右側フロントシート前方のフロアカバー ① を開きます。

車体に刻印された車台番号 ② があります。

車台番号はビークルプレートにもあります (▷353 ページ)。

エンジン番号

エンジン番号はクランクケースに刻印されています。

詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

サービスプロダクトと容量

重要な安全上の注意

⚠ 警告

お客様自身や他の方を危険にさらすおそれがあるため、サービスプロダクトの取り扱い、保管、廃棄については、関連する規定に従ってください。

サービスプロダクトは子供の手の届かない場所に保管してください。

お客様の健康を守るために、サービスプロダクトが目や傷に触れないようにしてください。誤ってサービスプロダクトを飲み込んだときは、ただちに医師の診断を受けてください。

♻ 環境

サービスプロダクトは、環境に配慮した方法で廃棄してください。

サービスプロダクトには以下が含まれます。

- 燃料
- 油脂(エンジンオイル、トランスミッションオイルなど)
- 冷却水
- ブレーキ液
- ウォッシャー液
- エアコンディショナーの冷媒

車両の構成部品とそれぞれの油脂は適合していかなくてはなりません。メルセデス・ベンツによりテストされ、特別に承認された製品を使用することをお勧めします。これらの製品は本書の関連する章に挙げられています。

メルセデス・ベンツにより承認されたサービスプロダクトは、以下の容器の記載により識別できます。

- MB-Freigabe (MB-Freigabe 229.51 など)
- MB-Approval (MB-Approval 229.51 など)

MB シート番号 (MB 229.5 のようなもの) に準拠した品質レベルまたは仕様に関連する他の記号や推奨は、メルセデス・ベンツによる推奨を必要としません。

詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

燃料

重要な安全上の注意

警告

燃料は高い可燃性です。そのため、燃料を取り扱うときは、火、裸火および喫煙は禁止されています。

補給の前にエンジンを停止してください。

警告

燃料への接触を避けてください。

皮膚が直接燃料に触れたり、気化した燃料を吸い込むと、健康に危険を及ぼします。

燃料タンク容量

燃料タンク容量	約 50.0 ℓ
警告灯点灯時の残量	約 6.0 ℓ

ガソリン

! ガソリンエンジン車に軽油を補給しないでください。少量の軽油でも、燃料噴射システムを損傷します。

! 無鉛プレミアムガソリンのみを補給してください。

! 以下は使用しないでください。

- 金属添加剤入りガソリン
- 軽油

これらの燃料をガソリンに混合しないでください。また、いかなる添加剤も使用しないでください。エンジンの損傷につながる可能性があります。生成残留物の除去および防止のための添加剤は、これには含まれません。ガソリンには、メルセデス・ベンツにより推奨された添加剤のみを混合してください。推奨されている添加剤の詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービスにおたずねください。

添加剤

! 低いグレードのガソリンを補給したり、メルセデス・ベンツによりテストおよび承認されていない添加剤を使用しないでください。さもないと、燃料システムが故障したり、損傷するおそれがあります。

低いグレードの燃料による主なトラブルのひとつに、燃料が燃焼する過程でのカーボン堆積物の生成があります。メルセデス・ベンツは、添加剤を含有する種類の燃料の使用をお勧めします。

これらの添加剤を含まない燃料を長期間使用した場合は、カーボン堆積物が生成されることがあります。これらは特に、吸気バルブや燃焼室に発生します。

これにより、エンジン作動の以下の問題につながるおそれがあります。

- エンジン暖気時間の長期化
- 不安定なアイドリング
- エンジン騒音
- ミスファイア
- 出力の低下

燃料に他の燃料の添加剤を混合しないでください。これにより、不要な出費につながり、エンジンを損傷するおそれがあります。

燃料消費に関する注意事項

🌱 環境

お客様の車両のCO₂排出は燃料消費に直接関係し、そのため以下により左右されます。

- エンジンによる燃料の効率的な使用
- 運転スタイル
- 環境的な影響や道路状況のような、技術的ではない他の要因

慎重に運転し、定期的に点検整備を行なうことにより、車両のCO₂排出量を最小限にできます。

以下の状況では、車両は通常より多くの燃料を使用します。

- 外気温度が非常に低いとき
- 市街地を走行するとき
- 山道や坂道を走行するとき

エンジンオイル

覚えておいていただきたい項目

エンジンオイルの品質は、エンジンの機能や使用寿命を決定します。多くのテストの後で、メルセデス・ベンツは現在の技術基準に対応するエンジンオイルを承認しています。

そのため、メルセデス・ベンツが承認したエンジンオイルのみを使用してください。

テストされ、承認されたエンジンオイルに関する詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。オイル交換はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行うことをお勧めします。メルセデス・ベンツによる承認は、オイル容器の "MB Approval" の記載により、または MB Approval 229.51 などの対応する記号により示されています。

表はお客様の車両に承認されているエンジンオイルを示しています。

車種	MB Approval
B 180 BlueEFFICIENCY	229.3、229.5、 229.51

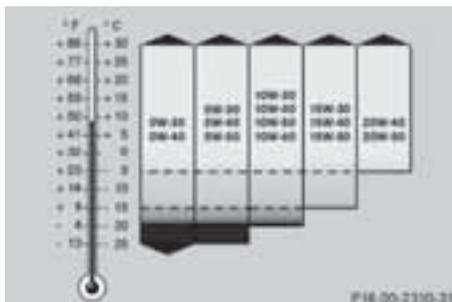
容量

車種	交換量
B 180 BlueEFFICIENCY	約 5.8 ℓ

添加剤

エンジンオイルに添加剤を使用しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

エンジンオイルの粘度



粘度は液体の流動性を示します。エンジンオイルが高い粘度値を持つ場合は、ゆっくり流れます。粘度が低いほど、速く流れます。

エンジンオイルの選択は、対応する外気温度および SAE 等級 (粘度) に基づきます。表は使用する SAE 等級を示しています。劣化または煤煙および燃料付着等の原因により、低い温度でのエンジンオイルの特性は著しく損なわれます。そのため、適切な SAE 等級での、承認されたエンジンオイルを使用した定期的なオイル交換に従うことを強くお勧めします。

ブレーキ液

⚠ 警告

時間の経過とともに、ブレーキ液は空気から湿気を吸収します。これにより、沸点が下がります。

ブレーキ液の沸点が非常に低い場合は、ブレーキを過酷に効かせたとき (下り坂での走行など) にブレーキシステムに気泡が形成されることがあります。これによりブレーキ効果が損なわれます。

定期的な間隔でブレーキ液を交換しなければなりません。ブレーキ液交換の間隔は整備手帳にあります。

メルセデス・ベンツにより承認されたブレーキ液のみを使用してください。承認されたブレーキ液の情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

i ブレーキ液は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場での定期的な点検してください。

冷却水

重要な安全上の注意

警告

不凍液は高い可燃性です。不凍液を扱うときは、火、裸火および喫煙は禁止されています。

熱くなったエンジン部品に不凍液が触れると、発火して、お客様自身が火傷をするおそれがあります。熱くなったエンジン部品の上に不凍液をこぼさないでください。

! あらかじめ希望の濃度に混合した冷却水のみを加えてください。

冷却水に関する詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! 適切な冷却水混合液を使用してください。

さもないと、エンジン冷却システムが腐食から十分に保護されず、オーバーヒートします。

冷却水は水と防錆不凍液の混合液です。以下の役割を果たします。

- 防錆保護
- 凍結防止
- 沸点の上昇

適切な濃度の防錆不凍液では、作動時の冷却水の沸点は約 130℃になります。エンジン冷却システム内の防錆不凍液の濃度は以下でなければなりません。

- 少なくとも約 50% 以上にしてください。約 -37℃までエンジン冷却システムの凍結を防止します。

- 約 55% を超えないようにしてください。(約 -45℃までの凍結防止)。さもないと、熱が効果的に発散しません。

車両の冷却水が不足している場合は、水と防錆不凍液の混合液を補充してください。メルセデス・ベンツは、サービスプロダクト 310.1 に関する MB 仕様に準拠した防錆不凍液をお勧めします。

車両の納車時には、弊社指定の防錆不凍液を適正な濃度で混合した冷却水がリザーブタンクに充填されています。

ウォッシャー液

警告

ウォッシャー液 / 不凍液は高い可燃性です。発火したり、燃えるおそれがあるため、熱くなったエンジン構成部品の上にウォッシャー液 / 不凍液をこぼさないでください。重度の火傷を負うおそれがあります。

! MB SummerFit または MB WinterFit などのプラスチック製ライトレンズに適したウォッシャー液のみを使用してください。適していないウォッシャー液は、ヘッドライトのプラスチックレンズを損傷するおそれがあります。

! ウォッシャー液に蒸留水や脱イオン水を使用しないでください。さもないと、液量のセンサーを損傷するおそれがあります。

! MB SummerFit や MB WinterFit は混ぜてのみ使用してください。さもないと、スプレーノズルが詰まるおそれがあります。

気温が氷点より高いときは、以下のようになしてください。

- ▶ 水と MB SummerFit などのウォッシャー液の混合液をリザーブタンクに補充します。
- ▶ 水の量 100 に対して MB SummerFit の量 1 を混合します。

気温が氷点以下のときは、以下のようになしてください。

- ▶ 水と MB WinterFit などのウォッシャー液の混合液をリザーブタンクに補充します。混合比を外気温度に合わせます。
- ▶ -10℃までは、水の量 2 に対して MB WinterFit の量 1 を混合します。
- ▶ -20℃までは、水の量 1 に対して MB WinterFit の量 1 を混合します。
- ▶ -29℃までは、水の量 1 に対して MB WinterFit の量 2 を混合します。

i 1 年を通して、MB SummerFit または MB WinterFit などの濃縮ウォッシャー液をウォッシャー液に加えてください。

車両データ

規定されている車両データについては、以下に注意してください。

- 記載の車高は、以下に応じて異なることがあります。
 - タイヤ
 - 荷物
 - サスペンションの状態
 - オプション装備
- オプション装備品により空車重量が増加し、最大荷重が減少します。空車重量は、EC 指令に基づいて規定されており、以下が含まれます。
 - 運転者 (68kg)
 - 荷物 (約 7kg)
 - すべての液類 (約 90%に満たされた燃料タンク)

B 180 BlueEFFICIENCY

全長 (ECE)	4359mm
ドアミラーを含む全幅	2010mm
ドアミラーを含まない全幅	1786mm
全高	1557mm
ホイールベース	2699mm
空車重量	1425mm
最大ルーフ荷重	75kg
最大荷室荷重	100kg

上記の数値は本国仕様のもので、日本仕様とは異なる場合があります。

テールゲートの開口部寸法



B 180 BlueEFFICIENCY

① 最大頭上高	② 開口部高さ
1873mm	1980mm

上記の数値は本国仕様のもので、日本仕様とは異なる場合があります。

対象モデル

B 180 BlueEFFICIENCY

B 180 BlueEFFICIENCY Sports

"ESP®" は Daimler AG の登録商標です。

※この取扱説明書の内容は、2012年2月現在のものです。

総輸入元

メルセデス・ベンツ日本株式会社

〒106-8506 東京都港区六本木一丁目9番9号 六本木ファーストビル

環境保護のため、この取扱説明書は再生紙を使用致しました。

MBJCSD 32810-021204500 A

6515 1716 20 NA2011-11d, 02/12